

JIN-AI UNIVERSITY  
2013 SYLLABUS

平成25年度  
人間学部  
シラバス



## シラバスの利用方法

「シラバス(授業計画)」は、今年度の開講されるすべての授業科目について、授業の計画を述べたものです。受講する学生諸君は、単に科目名だけを見て受講するのではなく、このシラバスをよく読み、それぞれの科目の教授内容や特色をつかんだうえで授業を受けるようにしてください。そうすることにより、大学生活における学修がよりいっそう充実したものになることが、このシラバスを発行する願いです。

[1]サブテーマ…科目名だけでは授業内容がわかりにくい場合があるため、受講する学生諸君が理解しやすいようにサブテーマをつけています。

[2]授業の到達目標…授業のねらい・到達目標などが述べられています。

[3]身につけることを目指す社会的・職業的能力…

授業の到達目標とは別に、その授業に内在する「社会的および職業的自立を図るために必要な能力の育成」について、人間学部では、以下の8つのキーワード(要素)に分類し示しています。

### 【キーワード】

- ①自他の理解能力…自己理解を深め、他者の多様な個性を理解し、互いに認め合うことを大切にして行動していく能力。
- ②コミュニケーション能力…多様な集団・組織の中で、コミュニケーションや豊かな人間関係を築きながら、自己の成長を果たしていく能力。
- ③情報収集・探索能力…様々な情報を収集・探索するとともに、必要な情報を選択・活用する能力。
- ④社会・職業理解能力…大学で学ぶことと社会・職業生活との関連や、今しなければならぬことなどを理解していく能力。
- ⑤役割把握・認識能力…多様な役割や意識及びその関連等を理解し、自己の果たすべき役割等についての認識を深めていく能力。
- ⑥計画実行能力…目標を実現するための計画を立て、実際の選択行動等で実行していく能力。
- ⑦選択能力…様々な選択肢について比較検討したり、葛藤を克服したりして、自主的に判断し、自らにふさわしい選択・決定を行なっていく能力。
- ⑧課題解決能力…意思決定に伴う責任を受け入れ、選択結果に適応するとともに、与えられた課題だけではなく自ら課題を設定してその解決に取り組む能力。

[4]授業の概要(形態)…授業の概要または授業の形態について述べられています。

[5]授業の計画…展開される授業の内容について、15回にわたって1回ごとの授業計画の概要が説明されています。

[6]授業の予習復習のアドバイス・参考図書…

授業の予習および復習についてアドバイスが記されています。また、授業の進行にあわせて読んでおく必要のある書物が紹介されていますので自習の参考としてください。

[7]評価方法…担当教員がどのような方法で受講者の学習到達度を確認し、成績の評価をするのかが記され、その授業に対する受講のポイントが明らかにされています。

[8]テキスト…授業で使用するテキスト名が記されています。ここに記された教材は、指示にしたがって全員が購入しなければなりません。

[9]その他(受講上の注意)…上記の[1]~[8]以外のことで、担当教員があらかじめ受講者に知らせておきたいメッセージなどが記されています。

# 目 次

## I. 1年生

### <学部共通科目>

仏教の人間観	都路 恵子	1
生命の倫理	都路 恵子	2
人間の教育	高野 秀晴	3
芸術の世界	市橋優美子	4
人間と環境A	鳴瀬みどり	5
人間と環境C	八木 秀夫	6
スポーツと健康	野田 政弘	7
スポーツA	山村 恵子	8
スポーツB	山村 恵子	9
英語 I a	加藤・山田・ハウカ・澤崎・バトラー・山口	10
英語 I b	加藤・山田・ハウカ・澤崎・バトラー・山口	11
フランス語 I a	大竹口麻里	12
フランス語 I b	大竹口麻里	13
ドイツ語 I a	橋本 武志	14
ドイツ語 I b	橋本 武志	15
中国語 I a	前川 幸雄	16
中国語 I b	前川 幸雄	17
情報リテラシー a	宮川祐一・森本文人・佐々木裕子	18
情報リテラシー b	宮川祐一・森本文人・佐々木裕子	19
情報活用 a	宮川 祐一・佐々木裕子	20
情報活用 b	宮川 祐一	21
基礎演習	大森・杉島・森・山本・片畑・鎌田・久保・水上	22
基礎演習	大河・島岡・橋本・山田・山中・都路・船山	23
日本語文章表現	大河晴美・柚谷英紀	24
フィールドワーク演習 (ボランティア)	金田 明彦	25
フィールドワーク演習 (国際交流)	モーリス ルイス スプリチャル・加藤優子	26

### <心理学科専門科目>

心理学概論 I	大森 慈子	27
心理学概論 II	大森 慈子	28
心理学研究法 I	吉田 和典	29
心理学研究法 II	西村 則昭	30
心理統計 I	杉島一郎・森本文人	31

心理統計Ⅱ	杉島一郎・水田敏郎	32
性格心理学	森 俊之	33
精神分析論	西村 則昭	34
学習心理学	杉島 一郎	35

### <コミュニケーション学科専門科目>

人間関係論 a	橋本 武志	36
コミュニケーション概論 a	山中 千恵	37
コミュニケーション概論 b	山中 千恵	38
企画開発基礎演習	富永 良史	39
現代社会論 a	島岡 哉	40
現代社会論 b	島岡 哉	41
異文化理解	加藤 優子	42
言語学概論	矢橋 知枝	43
社会言語学	加藤 和夫	44
日本語概論	天野 義廣	45
日本語表現 (スピーキング)	植月 百枝	46
オーラル・コミュニケーション I a	モーリス ルイス スプリチャル	47
オーラル・コミュニケーション I b	モーリス ルイス スプリチャル	48
英文法 a	澤崎 敏文	49
英文法 b	澤崎 敏文	50

## Ⅱ. 2年生

### <学部共通科目>

人間と宗教	都路 恵子	51
仏教の思想	藤元 雅文	52
哲学の世界観	橋本 武志	53
文学の世界	柚谷 英紀	54
歴史と地域文化	久保 智康	55
人権と法	矢留 文麿	56
日本国憲法	山下 秋子	57
人間と環境B	大西 新吾	58
スポーツC	野田 政弘	59
英語Ⅱ a	紺渡・スプリチャル・加藤・ハウカ・バトラー・山口	60
英語Ⅱ b	紺渡・スプリチャル・ハウカ・バトラー・山口	61
フランス語Ⅱa	大竹口麻里	62
フランス語Ⅱ b	大竹口麻里	63

ドイツ語Ⅱ a	橋本 武志	64
ドイツ語Ⅱ b	橋本 武志	65
中国語Ⅱ a	前川 幸雄	66
中国語Ⅱ b	前川 幸雄	67
海外語学研修	モーリス ルイス スプリチャル	68
情報活用 a	宮川祐一・佐々木裕子	69
情報活用 b	宮川 祐一	70
情報処理演習 a	宮川 祐一	71
情報処理演習 b	宮川 祐一	72
フィールドワーク演習 (ボランティア)	金田 明彦	73
フィールドワーク演習 (国際交流)	モーリス ルイス スプリチャル・加藤優子	74

### <心理学科専門科目>

心理学基礎実験Ⅰ	山本雅代・水上喜美子・青井利哉・長谷川千秋 他	75
心理学基礎実験Ⅱ	大森慈子・水田敏郎・青井利哉 他	76
心理検査法Ⅰ	荒川正吉・森俊之・青井利哉	77
心理調査法	早川 清一	78
心理面接法	水上喜美子・片畑真由美・久保陽子	79
臨床心理学Ⅰ	片畑真由美	80
臨床心理学Ⅱ	片畑真由美	81
生涯発達心理学Ⅰ	赤澤 淳子	82
生涯発達心理学Ⅱ	赤澤 淳子	83
認知心理学	杉島 一郎	84
生理心理学	水田 敏郎	85
産業・組織心理学Ⅰ	早川 清一	86
産業・組織心理学Ⅱ	早川 清一	87
社会心理学Ⅰ	山本 雅代	88
社会心理学Ⅱ	山本 雅代	89
心理学特別講義	複数で担当	90

### <コミュニケーション学科専門科目>

言語コミュニケーション論	矢橋 知枝	91
非言語コミュニケーション論	山本 雅代	92
パーソナル・コミュニケーション論 a	谷 雅徳	93
プレゼンテーション技法 a	北神 慎司	94
プレゼンテーション技法 b	本多 幸子	95
地域経済論	小林 大祐	96

地域社会論	島岡 哉	97
デザイン文化論	佐野 寛	98
時事問題研究 a	四戸 友也	99
時事問題研究 b	四戸 友也	100
日本語文法論	笹原 幸子	101
英文講読 a	紺渡 弘幸	102
英文講読 b	紺渡 弘幸	103
LL演習 a	加藤 優子	104
LL演習 b	加藤 優子	105
企画開発論	金田 明彦	106
企画開発演習	金田 明彦	107
コミュニケーション技法 I a	四戸 友也	108
コミュニケーション技法 I b	小林 逸雄	109
マス・コミュニケーション論 a	小林 逸雄	110
マス・コミュニケーション論 b	四戸 友也	111
ビジュアル・コミュニケーション論 a	船山 俊克	112
ビジュアル・コミュニケーション論 b	船山 俊克	113
デジタル・デザイン a	金田 明彦	114
デジタル・デザイン b	金田 明彦	115
英語音声学	山田 晴美	116
英作文演習 a	山田 晴美	117
英作文演習 b	山田 晴美	118
オーラル・コミュニケーション II a	マシュー エリオット ハウカ	119
オーラル・コミュニケーション II b	マシュー エリオット ハウカ	120
英米文化論	モーリス ルイス スプリチャル	121
家族の人間関係	青木 加奈子	122
社会の人間関係	山本 雅代	123
社会学概論 a	八木 秀夫	124
社会学概論 b	小林 大祐	125
社会調査法 I	小林 大祐	126
社会調査法 II	小林 大祐	127
現代社会研究 I	島岡 哉	128
社会調査方法論	小林 大祐	129
社会統計学	杉島 一郎	130
データ解析法 a	山中 千恵	131
日本の言語文化 a	大河 晴美	132
日本の言語文化 b	大河 晴美	133

### Ⅲ. 3年生

#### <学部共通科目>

英語Ⅲ a	マシュー エリオット ハウカ	135
英語Ⅲ b	マシュー エリオット ハウカ	136
海外語学研修	モーリス ルイス スプリチャル	137
情報処理演習 a	宮川 祐一	138
情報処理演習 b	宮川 祐一	139
フィールドワーク演習 (インターンシップ)	荒川正吉・船山俊克	140
フィールドワーク演習 (ボランティア)	金田 明彦	141
フィールドワーク演習 (国際交流)	モーリス ルイス スプリチャル・加藤優子	142

#### <心理学科専門科目>

心理検査法Ⅱ	荒川正吉・水上喜美子・青井利哉	143
精神医学Ⅰ	三脇 康生	144
精神医学Ⅱ	三脇 康生	145
教育心理学	杉島 一郎	146
家族心理学	赤澤 淳子	147
スポーツ心理学	野田 政弘	148
心理療法論Ⅰ	森 俊之	149
心理療法論Ⅱ	鎌田 道彦	150
アイデンティティ心理学	西村 則昭	151
犯罪心理学	廣井 亮一	152
臨床心理演習	森俊之・片畑真由美・久保陽子	153
比較心理学	吉田 和典	154
神経心理学	森本 文人	155
心理学特殊実験Ⅰ	大森慈子・水田敏郎	156
心理学特殊実験Ⅱ	吉田和典・森本文人	157
高齢者心理学	水上喜美子	158
消費者心理学	山本 雅代	159
対人心理学	大森 慈子	160
多変量解析演習	早川 清一	161
産業カウンセリングⅠ	久保 陽子	162
産業カウンセリングⅡ	久保 陽子	163
心理学特別演習Ⅰ	複数で担当	164

#### <コミュニケーション学科専門科目>

ビジネスコミュニケーション研究	富永 良史	165
-----------------	-------	-----

日本文化論	大河 晴美	166
企画開発研究 a	谷 雅徳	167
企画開発研究 b	金田 明彦	168
コミュニケーション技法Ⅱ a	杉谷 英紀	169
コミュニケーション技法Ⅱ b	谷 雅徳	170
地域メディア論	金田 明彦	171
メディア・コミュニケーション論	升田 法継	172
メディア制作 a	船山 俊克	173
メディア制作 b	船山 俊克	174
ビジュアル・コミュニケーション演習 a	船山 俊克	175
ビジュアル・コミュニケーション演習 b	船山 俊克	176
ビジネス能力論	吉田 史朗	177
ビジネス能力研究	吉田 史朗	178
英語学研究Ⅱ (談話分析)	矢橋 知枝	179
英語文章表現法 a	紺渡 弘幸	180
英語文章表現法 b	紺渡 弘幸	181
メディア英語研究 a	矢橋 知枝	182
メディア英語研究 b	矢橋 知枝	183
英米文学研究 a	矢橋 知枝	184
英語コミュニケーション a	モーリス ルイス スプリチャル	185
英語コミュニケーション b	モーリス ルイス スプリチャル	186
英語聴解技法 a	矢橋 知枝	187
英語聴解技法 b	矢橋 知枝	188
ビジネス英語研究 a	澤崎 敏文	189
英語プレゼンテーション技法 a	山田 晴美	190
英語プレゼンテーション技法 b	山田 晴美	191
現代社会研究Ⅱ	島岡 哉	192
臨床社会学	宝月 誠	193
データ解析法 b	小林 大祐	194
社会調査演習 a	小林大祐・島岡哉・山中千恵	195
社会調査演習 b	小林大祐・島岡哉・山中千恵	196
現代文化研究	山中 千恵	197
比較文化研究	山中 千恵	198
言語心理学	杉島 一郎	199
コミュニケーション特別演習Ⅰ a	複数で担当	200
コミュニケーション特別演習Ⅰ b	複数で担当	201



#### IV. 4年生

##### <学部共通科目>

海外語学研修	モーリス ルイス スプリチャル	203
フィールドワーク演習 (ボランティア)	金田 明彦	204
フィールドワーク演習 (国際交流)	モーリス ルイス スプリチャル・加藤優子	205

##### <心理学科専門科目>

学校臨床心理学	廣澤 愛子	206
障害者心理学	水田 敏郎	207
社会福祉概論	元村 妙子	208
心理学特別演習Ⅱ	複数で担当	209
卒業研究	複数で担当	210

##### <コミュニケーション学科専門科目>

デザイン運用論	二口誠一郎	211
英語学研究Ⅱ (談話分析)	矢橋 知枝	212
英米文学研究 b	原口 治	213
ビジネス英語研究 b	澤崎 敏文	214
現代社会特論Ⅰ	八木 秀夫	215
現代社会特論Ⅱ	島岡 哉	216
コミュニケーション特別演習Ⅱ a	複数で担当	217
コミュニケーション特別演習Ⅱ b	複数で担当	218
卒業研究	複数で担当	219

#### V. 特設科目

##### <教職に関する専門科目>

教職論	高野 秀晴	221
教育原理	高野 秀晴	222
教育心理学	大野木裕明	223
教育経営論	奥谷 崇	224
教育課程・特別活動論	高野 秀晴	225
英語科教育法Ⅰ	山田 晴美	226
英語科教育法Ⅱ	山田 晴美	227
英語科教育法Ⅲ	紺渡 弘幸	228
英語科教育法Ⅳ	紺渡 弘幸	229
道德教育の理論と方法	高野 秀晴	230
教育の方法と技術	宮川 祐一	231

教育相談	佐々木雅代	232
教職実践演習	紺渡弘幸・山田晴美・奥谷崇	233
事前・事後指導	紺渡弘幸・山田晴美	234
教育実習Ⅰ	紺渡弘幸・山田晴美	235
教育実習Ⅱ	紺渡弘幸・山田晴美	236

<日本語教員養成に関する専門科目>

日本語教授法 a	大河 晴美	237
日本語教授法 b	大河 晴美	238
日本語教育課程論	笹原 幸子	239
日本語指導技法 a	笹原 幸子	240
日本語指導技法 b	笹原 幸子	241

# I. 1年生

<学部共通科目>

<心理学科専門科目>

<コミュニケーション学科専門科目>

仏教の人間観		担当教員	とろけいこ 都路恵子
単位	配当年次	開講形態	選択区分
2単位	1年前期	講義	必修
〈科目区分〉 人間学部学部共通科目 全学共通科目			

<b>サブテーマ</b>	
自分自身の「心のしくみ」を知る。仏教的「いのちのつながり」を知る。	
<b>授業の到達目標</b>	
人類発生の当初から、宗教は人間が人間らしく生きることに不可欠なものとしてあり続けてきたが、現代はその宗教の質が多様化し、人間らしさを奪うような教えが宗教の名のもとに横行している。本講ではそのような現代の問題を背景に、人間らしく生きるために不可欠な宗教としての「真実の仏教」を学んでいく。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
自他の理解能力、コミュニケーション能力、社会・職業理解能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
イントロでの発表と、まとめでの発表。 発言の質の深まり、コミュニケーション能力の成長を、自他ともに認識できること。 講義形式と、学生参加型(スピーチ、発表等)のスタイルで展開。	
<b>授業の計画</b>	
第1回: イントロ (1) 第2回: イントロ (2) 第3回: ブッダ (1) 第4回: ブッダ (2) 第5回: ブッダ (3) 第6回: ブッダ (4) 第7回: ブッダ (5) 第8回: 聖徳太子 (1) 第9回: 聖徳太子 (2) 第10回: 親鸞 (1) 第11回: 親鸞 (2) 第12回: 生き方としての仏教 (1) 第13回: 生き方としての仏教 (2) 第14回: まとめ (1) 第15回: まとめ (2)	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
授業時に指示する。	
<b>評価方法</b>	
授業中の意欲および発表内容(55%)、レポート(45%)	
<b>テキスト</b>	
和、礼讃抄、プリントを使用。	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・人と人とのつながりの中で、自信を持って自分の考えを話し、他人の考えをよく聞く。</li> <li>・積極的に授業に参加する中で、自分自身を理解し、あるがままを表現する。そのような実践的コミュニケーション能力を飛躍的にアップさせて下さい。</li> <li>・本授業は、心理学科(2クラス)とコミュニケーション学科(1クラス)に分けて開講する。</li> <li>・担当者による15回の授業以外に福井仁愛学園の理念及び本学の開設の趣旨を理解し、仁愛大学生としての自覚を深めることを目的として禿了混学園長講演(2回)を実施する。</li> </ul>	

生命の倫理		担当教員	とろけいこ 都路恵子
単位	配当年次	開講形態	選択区分
2単位	1年後期	講義	選択
＜科目区分＞ 人間学部学部共通科目 人間学関連科目			

<b>サブテーマ</b>	
生命について深く考え、自分自身・世界を見る視野を広げる。	
<b>授業の到達目標</b>	
<p>イントロでの発表と、まとめでの発表。          発言の質の深まり、コミュニケーション能力の成長を、自他ともに認識できること。          又自分の問いに、自分で考えて、自分にとっての答えを出す思考力を身につけること。</p>	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
自他の理解能力、コミュニケーション能力、課題解決能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
講義形式と、学生参加型(ディスカッション、発表等)で展開。	
<b>授業の計画</b>	
第1回: イントロ (1) 第2回: イントロ (2) 第3回: 生の誕生 (1) 第4回: 生の誕生 (2) 第5回: 生きることの意味 (1) 第6回: 生きることの意味 (2) 第7回: 死の受容・ホスピス (1) 第8回: 死の受容・ホスピス (2) 第9回: 命の受け渡し (1) 第10回: 命の受け渡し (2) 第11回: QOL(quality of life)とは? (1) 第12回: QOL(quality of life)とは? (2) 第13回: まとめ (1) 第14回: まとめ (2) 第15回: まとめ (3)	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
授業時に指示する。	
<b>評価方法</b>	
授業中の意欲および発表内容(55%)、レポート(45%)	
<b>テキスト</b>	
池田晶子「14歳からの哲学―考えるための教科書」(トランスビュー)、及びプリントを使用。	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・生命(いのち)について考え、自分自身の考えの深まりを他者と共有できる力。コミュニケーション能力・考える力のアップを目指します。自分自身の能力向上を体感できるよう、積極的に授業に参加して下さい。</li> <li>・15回無遅刻・無欠席の方に皆勤賞を差し上げます。(原則として全出席を求め、遅刻・早退は認めません。)</li> <li>・初回のガイダンスには、必ず出席のこと。</li> </ul>	

人間の教育		担当教員	たかのひではる 高野秀晴
単位	配当年次	開講形態	選択区分
2単位	1年後期	講義	選択
＜科目区分＞ 人間学部学部共通科目 人間学関連科目			

<b>サブテーマ</b>	
人はどうして学ぶのか？ 教育とは何か？	
<b>授業の到達目標</b>	
ヒトが人になるためには教育が必要だと言われる。こうして私たちが教育を受けてきたわけだが、私たちがこれまで学んできたことは、そもそも一体何だったのだろうか？ そして、今、大学で学んでいることには一体何の意味があるのか？ これからの人生にいかにかに寄与するのか？ しないのか？ この授業では、有史以来の人間の教育の様々なあり方を通観することにより、「教育によって形成されてきた／されつつある自己」の成り立ちと行末について理解を深めることを目標とする。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
自他の理解能力、社会・職業理解能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
講義形式を主とするが、意見を書いてもらう機会をできる限り設ける。	
<b>授業の計画</b>	
第1回： オリエンテーション 第2回： 生きることと教育 第3回： 食ることと教育 第4回： よく生きることと教育 第5回： 人は何のために成長するのか 第6回： 老いと死と教育 第7回： 価値の伝達・贈与と教育 第8回： 生涯教育について 第9回： 「できない」ということ 第10回： はたらくことと教育 第11回： 日本型企業中心社会と教育 第12回： キャリア教育について 第13回： 子どもの面倒は誰が見るのか 第14回： 家族の歴史的変遷と教育 第15回： 愛について 第16回： 定期試験	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
問題提起型の授業になる予定です。授業時に提起された問題をどのように受け止め、考察していくかは受講生のみなさんに委ねられています。考察の参考になりそうな文献を随時紹介しますので、最低1冊は読破するつもりで臨んでいただければと思います。	
<b>評価方法</b>	
定期試験 70% 授業時の課題 30%	
<b>テキスト</b>	
必要に応じて、プリントを配布する。	
<b>その他(受講上の注意)</b>	

芸術の世界		担当教員	いち はし ゆ み こ 市橋優美子
単位	配当年次	開講形態	選択区分
2単位	1年前期	講義	選択
<科目区分> 人間学部学部共通科目 人間学関連科目			

<b>サブテマ</b>	
一は多に通ず。	
<b>授業の到達目標</b>	
主として西洋音楽史を概説する。クラシック音楽の名曲やその歴史背景を知ること、音楽の鑑賞力を高める。また美術や文芸など他ジャンルの芸術とも関連させ、芸術一般に対する批判精神を養いたい。授業では、折に触れて授業内容に関する400字の小論文を作成させる。それにより、文章作成能力、思考力のスキルアップを行いたい。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
自他の理解能力、情報収集・探索能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
講義と作品鑑賞(80分)、小論文(400字)の作成(10分)	
<b>授業の計画</b>	
第1回：西洋音楽史の流れ 第2回：古代～「music」という概念～ 第3回：中世～教会音楽～ 第4回：中世～世俗音楽～ 第5回：ルネッサンス 第6回：ルネッサンス 第7回：バロック音楽 第8回：バロック音楽 第9回：古典派 第10回：古典派 第11回：ロマン派 第12回：ロマン派 第13回：現代 第14回：日本音楽史 第15回：日本音楽史 第16回：定期試験	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
予習復習については授業時に指示する。 参考図書： (1) 鞍掛昭二、小桜秀爾、他著『音楽の基礎 音楽理解はじめの一步』音楽之友社 1997年 (2) 西村修監修『CD付 もう一度学びたいクラシック』西東社 2007年	
<b>評価方法</b>	
1. 受講レポート 1/3 2. 期末試験 1/3 3. 出席および授業態度 1/3 1～3の合計点で評価する。遅刻や授業中の迷惑行為は大きな減点対象となる。	
<b>テキスト</b>	
真篠将編著『音楽史 文部省指導要領準拠』全音楽譜出版 上記以外はこちらで適宜用意する。	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
授業開始後10分以上遅れる場合は、事前に担当者に申請すること。申請者以外は入室できない。鑑賞教材が多いため、私語は厳禁であることを自覚し授業に臨むこと。	

人間と環境 A		担当教員	なるせ 鳴瀬みどり
単位	配当年次	開講形態	選択区分
2単位	1年前期	講義	選択
〈科目区分〉 人間学部学部共通科目 環境・健康科目			

<b>サブテーマ</b>	
(環境と健康) 食を取り巻く環境から健康について一緒に考えてみましょう。	
<b>授業の到達目標</b>	
ヒトの健康の保持・増進における食・栄養の重要性を理解し、私たちを取り巻く生活環境や様々な情報、そして食生活の変化が、人体の持つ特性(恒常性)を妨げ、私たちの健康維持にどのような影響を与えているかについて学習する。これらのことを通して、食品、サプリメント、薬等、普段私の身近にあるものに関して、その必要性や効果を正しく理解し、情報に惑わされることなく自らの判断で必要な情報や商品を選択・活用し、個々が健康な生活を営むために役立てることができる。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
情報収集・探索能力、選択能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
講義を中心に行う。	
<b>授業の計画</b>	
第1回: はじめに:私たちを取り巻く食物および環境 第2回: 食の歴史 第3回: 健康に関する社会制度 第4回: 世界と日本の食 第5回: 栄養面からみた食生活①(炭水化物と食物繊維) 第6回: 栄養面からみた食生活②(タンパク質とアミノ酸) 第7回: 栄養面からみた食生活③(脂質の種類と役割) 第8回: 栄養面からみた食生活④(ビタミン・ミネラルの役割と機能) 第9回: 栄養と運動 第10回: 安全面から見た食生活①(食品の安全性と健康被害) 第11回: 安全面から見た食生活②(食品添加物) 第12回: 安全面から見た食生活③(食品の品質) 第13回: 安全面から見た食生活④(サプリメント～情報に惑わされないために～) 第14回: 食品と医薬品との相互作用(飲み合わせ) 第15回: 大麻・麻薬・覚せい剤の基礎知識と乱用防止、まとめ 第16回: 定期試験	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
予習は特に要求しない。復習に関しては、授業の関連課題について、各自が書籍や新聞などから積極的に情報を入手し、自己学習すること。 授業中の不明な点は、教員に授業の前後に質問するなどして理解を深めましょう。 なお、必要な参考図書や資料は、授業時に指示する。	
<b>評価方法</b>	
定期試験、授業中の小試験および課題学習 80%、出席(遅刻は減点)20%を基準にして、総合的に評価する。	
<b>テキスト</b>	
吉田勉監修 『私たちの食と健康－食生活の諸相－』 三共出版 2011年 必要に応じて、講義用資料を出席者に配布する。	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業中の私語や携帯電話など、他の学習の妨げとなる場合は退室させるので留意すること。</li> <li>・課題レポートなどは、提出期限を必ず守ること。提出期限後は受領しない。</li> </ul>	



人間と環境 C		担当教員	やぎ ひで お 八木 秀夫
単位	配当年次	開講形態	選択区分
2単位	1年後期	講義	選択
＜科目区分＞ 人間学部学部共通科目 環境・健康科目			

<b>サブテーマ</b>	
(環境と社会) 家族:社会的環境としての家族システムの所与性と変革可能性	
<b>授業の到達目標</b>	
<p>私たち人間は様々な社会的・自然的システムに取り囲まれて生きているが、その中で最も身近で重要なシステムは家族システムである。人間は家族の中に生まれ、家族成員との相互作用の中で、自らを形成すると同時に、他の家族成員や家族システムに影響を与えている。しかしその家族は、学校、職場、国家といった家族を取り巻く社会システムと無関係に存在することはできない。この授業の目的は、家族システムの中で、人間がいかんして個として成長していくのか、そして成長の過程で、いかんして他の家族成員や家族システムを変容させていくのか、人間は環境によって作られるとともに環境を変革させていく過程を明らかにすることである。またそのために必要な客観的な自己認識と他者認識を高め、総体としての社会を理解する能力を養成することである。</p>	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
自他の理解能力、社会・職業理解能力、役割把握・認識能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
講義形式で行うが、途中講義の理解度をチェックするために小試験やレポートを課す場合がある。	
<b>授業の計画</b>	
第1回: 家族の時代 第2回: 家族の意義(米国の大統領演説の検討) 第3回: 家族主義の復権(米国における展開) 第4回: 家族の集団的特徴(1) 第5回: 家族の集団的特徴(2) 第6回: 家族とコミュニティ 第7回: 家族の基本的機能(1) 個人のシステム境界の形成 第8回: 家族の基本的機能(1) 個別性と共同性の育成 第9回: 機能的家族と機能不全家族 第10回: 家族機能測定法 ビーバーズ理論 第11回: 家族機能測定法 マクマスター理論 第12回: 機能不全家族とアダルトチルドレン(1) 第13回: 機能不全家族とアダルトチルドレン(2) 第14回: 家族と個人の回復力 レジリエンス理論 第15回: おわりに 第16回: 定期試験	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
授業中に配布するプリントをよく読んで講義に臨むこと。参考図書は講義の中で指示する。	
<b>評価方法</b>	
最終試験と授業中に実施する小試験の総合点で判断する。	
<b>テキスト</b>	
使用しない。配布プリントが教科書代わりである。	
<b>その他(受講上の注意)</b>	

スポーツと健康		担当教員	の だ ま さ ひ ろ 野 田 政 弘
単 位	配当年次	開講形態	選択区分
2 単位	1 年後期	講義	選択
＜科目区分＞ 人間学部学部共通科目 環境・健康科目			

<b>サブ テ ー マ</b>	
健康・スポーツ科学の理解	
<b>授業の到達目標</b>	
<p>ヒトの身体は本来、動くものとして造られている。現代社会においてはスポーツや運動の重要性が強調され、身体活動の必要性が高まっている。そこで、スポーツ活動に関連する身体運動現象を科学的に探求し理解を深めるために、運動生理学やスポーツ心理学を中心とした関連領域の知識の獲得を目指し、受講者自身の身体および身体とスポーツの関わりを見つめなおす機会としたい。</p>	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
自他の理解能力、情報収集・探索能力、計画実行能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
講義はテキストを中心とするが、必要に応じて視聴覚教材を用いる	
<b>授業の計画</b>	
<p>第 1 回： 健康の捉え方と獲得するためのポイント  第 2 回： 生活習慣病と関連する要因  第 3 回： 体力とは何か  第 4 回： 体力とは何か  第 5 回： 運動のしくみ(骨格筋)  第 6 回： 運動のしくみ(神経系)  第 7 回： 運動のしくみ(呼吸循環器系)  第 8 回： 運動のしくみ(有酸素運動と無酸素運動)  第 9 回： トレーニングの理論と方法  第 10 回： トレーニングの理論と方法  第 11 回： 運動と水分補給、熱中症  第 12 回： 運動と水分補給、熱中症  第 13 回： スポーツと栄養・薬物  第 14 回： スポーツと心理のかかわり  第 15 回： 社会におけるスポーツの役割  第 16 回： 定期試験</p>	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
予習として、テキストの各回に関連する頁を読み、あらかじめ疑問点などを整理しておくこと。	
<b>評価方法</b>	
定期試験、レポート、出席の総合評価。	
<b>テキスト</b>	
『健康・スポーツ科学講義』第2版 出村慎一編著 杏林書院 2011年	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
講義で学んだ知識を日常の生活や身体運動に活かせるように。	

スポーツ A ( テニス )		担当教員	やま むら けい こ 山村 恵子
単位	配当年次	開講形態	選択区分
1 単位	1 年前期	実技	選択
〈科目区分〉 人間学部学部共通科目 環境・健康科目			

<b>サブ テーマ</b>	
仲間とのコミュニケーションを深め、テニス競技の展開を学ぶ。	
<b>授業の到達目標</b>	
余暇時間にスポーツ・レクリエーションで自立し生きる喜びを感じ、充実した人生を送ることの出来る「生きがいづくり」として「生涯スポーツ」「レクリエーション」を題材に学習する。健康で文化的な生活を送るために個人の全生涯にわたって「スポーツ(テニス)」を楽しむことを目指している。スポーツを楽しめる知識・技能・態度を身につけて、より豊かな学生生活を送るとともに、健康維持増進・体力の向上をねらいとする。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
自他の理解能力、コミュニケーション能力、社会・職業理解能力、計画実行能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
ウォーミング・アップ、実技、クーリング・ダウン	
<b>授業の計画</b>	
第 1 回: ガイダンス、テニス競技の歴史と変遷・個人基本技	
第 2 回: 個人技の修得(グリップング、素振り、フットワーク)	
第 3 回: 個人技の修得(グリップング、素振り、フットワーク)	
第 4 回: } 基本技 (毎週実施) シングルゲーム	
第 5 回: } 攻撃、防御の動きについてメンバーの特質を理解する。	
第 6 回: } ゲーム管理・運営を学習する。	
第 7 回: 基本技のスキルテスト	
第 8 回: } 基本技 (毎週実施) ダブルスゲーム	
第 9 回: } 体力・技術等メンバー構成に特質性を考慮する。	
第 10 回: } 作戦・戦略について・審判法を学習する。	
第 11 回: } 基本技 (毎週実施) ダブルスゲーム	
第 12 回: } 団体リーグ戦	
第 13 回: } 体力・技術等メンバー構成に特質性を考慮する。	
第 14 回: } 作戦・戦略について学習する。	
第 15 回: まとめ	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
授業時に指示する	
<b>評価方法</b>	
出席状況、受講態度、技能の習熟程度による総合評価。	
<b>テキスト</b>	
必要に応じて紹介する。	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
原則として全出席を求め、遅刻、早退は認めない	

ス ポ ー ツ B (バスケットボール)		担当教員	やま むら けい こ 山村 恵子
単 位	配当年次	開講形態	選択区分
1 単位	1 年後期	実技	選択
〈科目区分〉 人間学部学部共通科目 環境・健康科目			

<b>サブ テーマ</b>	
仲間とのコミュニケーションを深め、バスケット競技の展開を学ぶ。	
<b>授業の到達目標</b>	
余暇時間にスポーツ・レクリエーションで自立し生きる喜びを感じ、充実した人生を送ることの出来る「生きがいづくり」として「生涯スポーツ」「レクリエーション」を題材に学習する。健康で文化的な生活を送るために個人の全生涯にわたって「スポーツ(バスケット)」を楽しむことを目指している。スポーツを楽しめる知識・技能・態度を身につけて、より豊かな学生生活を送るとともに、健康維持増進・体力の向上をねらいとする。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
自他の理解能力、コミュニケーション能力、社会・職業理解能力、計画実行能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
ウォーミング・アップ、実技、クーリング・ダウン	
<b>授業の計画</b>	
第 1 回: ガイダンス、バスケットボールの歴史と変遷・個人基本技	
第 2 回: } ボディコントロール・・・フットワーク	
第 3 回: } ボールコントロール・・・パス・ドリブル・シュート	
第 4 回: } 個人技の修得・・・1 対 1・2 対 2	
第 5 回: } 基本技 (毎週実施)	
第 6 回: } オフェンス コンビネーションプレー (パス&ゴー・スクリーンプレー)	
第 7 回: } 3 対 3 基本的フォーメーション (タイミング・スペーシング)	
第 8 回: } 個人技能評価・ゴール下ジャンプシュート・ジグザグドリブル	
第 9 回: } 体力・技術等メンバー構成に特質性を考慮する。(5 分間ゲーム)	
第 10 回: 基本技のスキルテスト	
第 11 回: } 基本技 (毎週実施)	
第 12 回: } 5 対 5 防衛フォーメーション	
第 13 回: } 全面での攻防 (5 分間ゲーム)	
第 14 回: } 作戦・戦略・審判法について学習する。	
第 15 回: まとめ	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
授業時に指示する	
<b>評価方法</b>	
出席状況、受講態度、技能の習熟程度による総合評価。	
<b>テキスト</b>	
必要に応じて紹介する	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
原則として全出席を求め、遅刻、早退は認めない。	

英 語 I a		担当教員	加藤優子・山田晴美・マシューエリ オットハウカ・澤崎敏文・ポールハトラ ー田中・山口和代	
単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
1 単位	1 年前期	演習	必修	
<科目区分> 人間学部学部共通科目 外国語科目				

<b>サブテーマ</b>	
総合英語	
<b>授業の到達目標</b>	
<p>これまでに習得した英語の力をさらに伸ばすために、四技能の総合的な学習を進め、典型的な日常やビジネス場面での会話がスムーズにできるようにする。また、自分や身の回りのことについて英語で話したり、身近な問題について自分の考えを表現できるようにする。</p>	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
<p>自他の理解能力、コミュニケーション能力</p>	
<b>授業の概要(形態)</b>	
<p>ペア、グループなど多様な学習形態を取り入れて、英語を使う学生主体の活動を中心に行う。</p>	
<b>授業の計画</b>	
<p>第 1 回： Pre-Intermediate Level (1)  第 2 回： Pre-Intermediate Level (2)  第 3 回： Pre-Intermediate Level (3)  第 4 回： Pre-Intermediate Level (4)  第 5 回： Pre-Intermediate Level (5)  第 6 回： Pre-Intermediate Level (6)  第 7 回： Pre-Intermediate Level (7)  第 8 回： Pre-Intermediate Level (8)  第 9 回： Pre-Intermediate Level (9)  第 10 回： Pre-Intermediate Level (10)  第 11 回： Pre-Intermediate Level (11)  第 12 回： Pre-Intermediate Level (12)  第 13 回： Pre-Intermediate Level (13)  第 14 回： Pre-Intermediate Level (14)  第 15 回： Pre-Intermediate Level (15)  第 16 回： 定期試験</p>	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
<p>リスニング、リーディングスキルの向上と TOEIC 受験を目的とし、NetAcademy2 の学習を導入する。各自必ず授業外で学習を行うこと。</p>	
<b>評価方法</b>	
<p>それぞれのクラスの授業担当者によって異なる。</p>	
<b>テキスト</b>	
<p>それぞれのクラスの授業担当者によって異なる。</p>	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・初回の授業時に、それぞれの教科書に即したシラバスを配布する予定。</li> <li>・ローテーションにより CALL 演習室にて授業を行う。</li> <li>・CALL 演習室での初回授業時に、英語教育センターのオリエンテーションを行う。</li> </ul>	

英語 I b		担当教員	加藤優子・山田晴美・マシューエリ オットハウカ・澤崎敏文・ポールハトラ ー田中・山口和代	
単位	配当年次	開講形態	選択区分	
1 単位	1 年後期	演習	必修	
＜科目区分＞ 人間学部学部共通科目 外国語科目				

<b>サブテーマ</b>	
総合英語	
<b>授業の到達目標</b>	
これまでに習得した英語の力をさらに伸ばすために、四技能の総合的な学習を進め、典型的な日常やビジネス場面での会話がスムーズにできるようにする。また、自分や身の回りのことについて英語で話したり、身近な問題について自分の考えを表現できるようにする。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
自他の理解能力、コミュニケーション能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
ペア、グループなど多様な学習形態を取り入れて、英語を使う学生主体の活動を中心に行う。	
<b>授業の計画</b>	
第 1 回： Intermediate Level (1) 第 2 回： Intermediate Level (2) 第 3 回： Intermediate Level (3) 第 4 回： Intermediate Level (4) 第 5 回： Intermediate Level (5) 第 6 回： Intermediate Level (6) 第 7 回： Intermediate Level (7) 第 8 回： Intermediate Level (8) 第 9 回： Intermediate Level (9) 第 10 回： Intermediate Level (10) 第 11 回： Intermediate Level (11) 第 12 回： Intermediate Level (12) 第 13 回： Intermediate Level (13) 第 14 回： Intermediate Level (14) 第 15 回： Intermediate Level (15) 第 16 回： 定期試験	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
リスニング、リーディングスキルの向上と TOEIC 受験を目的とし、NetAcademy2 の学習を導入する。各自必ず授業外で学習を行うこと。	
<b>評価方法</b>	
それぞれのクラスの授業担当者によって異なる。	
<b>テキスト</b>	
それぞれのクラスの授業担当者によって異なる。	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・初回の授業時に、それぞれの教科書に即したシラバスを配布する予定。</li> <li>・ローテーションにより CALL 演習室にて授業を行う。</li> </ul>	

フランス語 I a		担当教員	おお たけ ぐち ま り 大竹口麻里
単位	配当年次	開講形態	選択区分
1 単位	1 年前期	演習	選択
〈科目区分〉 人間学部学部共通科目 外国語科目			

<b>サブテーマ</b>	
フランスは欧州連合『EU』の加盟国です。ヨーロッパは連携を深めこれまで以上に日本にとって重要な存在になってくるでしょう。ヨーロッパの言語を学ぶことで、ヨーロッパを理解する扉をひらきましょう。この授業では、初級フランス語を学びながらフランス文化へ親しむことをサブテーマとします。	
<b>授業の到達目標</b>	
到達目標として、綴り字と発音の関係、初級文法を学びます。そして簡単な会話、読み書きができることです。この授業をフランス語は音の響きが美しい言語です。たくさん声にだしながら一緒に楽しく学びましょう。英語以外にフランス語をもうひとつ学んでおくとフランス語圏のみならず、ヨーロッパでもコミュニケーションをとる際にとっても手助けになります。1年後期終了次にはフランス語検定 5 級の実力をつけます。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
自他の理解能力、コミュニケーション能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
まず最初に各課の文法を説明したあと、演習形式で発音練習や文法演習をおこなう。	
<b>授業の計画</b>	
第 1 回： フランス語について、ABC の発音、あいさつ 第 2 回： 1 課 単母音字の発音 国籍、職業を言う 第 3 回： 2 課 複母音字の発音 ホテルのフロントで自分の名前を言う 第 4 回： 2 課 複母音字の発音 ホテルのフロントで自分の名前を言う 第 5 回： 3 課 鼻母音字の発音 人を紹介する 第 6 回： 3 課 鼻母音字の発音 人を紹介する 第 7 回： 4 課 子音字の発音 人物について描写する 第 8 回： 4 課 子音字の発音 人物について描写する 第 9 回： 1 課から 4 課までのまとめと質問 第 10 回： フランス映画鑑賞 I 第 11 回： 5 課 電話をかけて～へ行こうと誘う 第 12 回： 5 課 電話をかけて～へ行こうと誘う 第 13 回： 6 課 道を尋ねる 第 14 回： 6 課 道を尋ねる 第 15 回： まとめと質問 第 16 回： 定期試験	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
予習・復習については、授業時に指示する。 参考書：清岡智比古 『フラ語入門、わかりやすいにもホトがある！』 白水社 2009 年 辞書：『プチ・ロワイヤル仏和辞典』 旺文社 すでに書籍版の辞書を持っている人はそれでもよいですが、薄い辞書は避けて学習辞典にすること。	
<b>評価方法</b>	
定期試験 50%、授業中の意欲及び発表内容・レポート 50%	
<b>テキスト</b>	
藤田裕二 『新・彼女は食いしん坊！1』 朝日出版社	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
仏和辞書を使い予習すること。テキストと辞書は毎回必ず持ってくること。	

フランス語 I b		担当教員	おお たけ ぐち ま り 大竹口麻里
単位	配当年次	開講形態	選択区分
1 単位	1 年後期	演習	選択
〈科目区分〉 人間学部学部共通科目 外国語科目			

<b>サブ テーマ</b>	
フランスは欧州連合『EU』の加盟国です。ヨーロッパは連携を深めこれまで以上に日本にとって重要な存在になってくるでしょう。ヨーロッパの言語を学ぶことで、ヨーロッパを理解する扉をひらきましょう。この授業で、初級フランス語を学びながらフランス文化へ親しむことをサブテーマとします。	
<b>授業の到達目標</b>	
到達目標として、綴り字と発音の関係、初級文法を学びます。そして簡単な会話、読み書きができることです。この授業をフランス語は音の響きが美しい言語です。たくさん声にだしながら一緒に楽しく学びましょう。英語以外にフランス語をもうひとつ学んでおくとフランス語圏のみならず、ヨーロッパでもコミュニケーションをとる際にとっても手助けになります。Ib 終了次にはフランス語検定 5 級の実力をつけます。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
自他の理解能力、コミュニケーション能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
まず最初に各課の文法を説明したあと、演習形式で発音練習や文法演習をおこなう。	
<b>授業の計画</b>	
第 1 回： 7 課 市場で買い物をする 第 2 回： 7 課 市場で買い物をする 第 3 回： 8 課 サッカーを観戦に行く 第 4 回： 8 課 サッカーを観戦に行く 第 5 回： 9 課 デパートで買い物をする 第 6 回： 9 課 デパートで買い物をする 第 7 回： 7 課～9 課のまとめと質問 第 8 回： フランス映画鑑賞 II 第 9 回： 10 課 紹介する 第 10 回： 10 課 紹介する 第 11 回： 11 課 旅の話をする(過去形の学習) 第 12 回： 11 課 旅の話をする(過去形の学習) 第 13 回： 12 課 別れを言う(未来形の学習) 第 14 回： 12 課 別れを言う(未来形の学習) 第 15 回： まとめと質問 第 16 回： 定期試験	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
予習・復習については、授業時に指示する。 参考書：清岡智比古 『フラ語入門、わかりやすいにもホドがある！』白水社 2009 年 辞書：『プチ・ロワイヤル仏和辞典』旺文社 すでに書籍版の辞書を持っている人はそれでもよいですが、薄い辞書は避けて学習辞典にすること	
<b>評価方法</b>	
定期試験 50%、授業中の意欲および発表内容・レポート 50%	
<b>テキスト</b>	
太原孝英 『Ken et Julie(ケンとジュリー)』駿河台出版社 2010 年	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
仏和辞書を使い予習すること。テキストと辞書は毎回必ず持ってくること。	



ドイツ語 I a		担当教員	はし もと たけ し 橋本武志
単位	配当年次	開講形態	選択区分
1 単位	1 年前期	演習	選択
<科目区分> 人間学部学部共通科目 外国語科目			

<b>サブ テーマ</b>	
ドイツ語の発音と単語、文の成り立ちを学ぶ。	
<b>授業の到達目標</b>	
日本語や英語と、ドイツ語との違いを知って、簡単なドイツ語の単語に慣れ親しみ、ドイツ語コミュニケーションの土台をつくる。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
コミュニケーション能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
基本的にはテキストにそって、演習形式で発音練習や文法演習を行う。語学は自分で発音して、自分で問題を解かないと身につかないので、宿題を毎回出します。	
<b>授業の計画</b>	
第 1 回： ドイツ語という言葉の説明・アルファベット 第 2 回： いろいろな単語を発音してみよう。 第 3 回： 単語と簡単なあいさつをしてみよう。 第 4 回： 小テスト 1 第 5 回： Lektion1 エリ、アナと知り合う 1(動詞の人称変化・定動詞第 2 位の法則) 第 6 回： Lektion1 エリ、アナと知り合う 2(動詞の不規則な人称変化) 第 7 回： Lektion2 エリ、レストランへ行く 1(名詞の格変化) 第 8 回： Lektion2 エリ、レストランへ行く 2(定冠詞と不定冠詞) 第 9 回： 小テスト 2 第 10 回： Lektion3 エリ、パーティに招待される 1(語幹が変わる動詞) 第 11 回： Lektion3 エリ、パーティに招待される 2(命令文) 第 12 回： Lektion4 エリ、アナと料理をつくる～パート I の 1(冠詞のそっくりさんたち) 第 13 回： Lektion4 エリ、アナと料理をつくる～パート I の 2(冠詞のそっくりさんたち) 第 14 回： 小テスト 3 第 15 回： これまでのまとめ 第 16 回： 定期試験	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
毎回宿題(練習問題)を出すので、必ずやって来ること。毎回の授業のはじめは、宿題の答えあわせから始めます。参考書については、初回の授業で指示します。	
<b>評価方法</b>	
出欠状況、授業への取り組み(30 パーセント)、期末テスト(70%)によって評価。	
<b>テキスト</b>	
(1)春日正男 松澤淳 『レッカー！レッカー！レッカー！—おいしく学ぶドイツ語—』 郁文堂 2007 年 (2)在間進 『新キャンパス独和辞典』 郁文堂 初学者には電子辞書は不向きなので、書籍版を購入すること。すでに書籍版の辞書を持っている人は、自分の持っている辞書でもよい。辞書の種類や使い方については初回の授業で説明します。	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
語学の授業は出席しないことには、身につけません。毎回出席すること。	

ドイツ語 I b		担当教員	はし もと たけ し 橋本武志
単位	配当年次	開講形態	選択区分
1 単位	1 年後期	演習	選択
<科目区分> 人間学部学部共通科目 外国語科目			

<b>サブ テーマ</b>	
短いドイツ語の文章や会話に慣れ親しむ。	
<b>授業の到達目標</b>	
本格的にドイツ語を学んで、簡単な文を読んだり話したりするコミュニケーション力をやしなう。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
コミュニケーション能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
基本的にはテキストにそって、演習形式で発音練習や文法演習を行う。語学は自分で発音して、自分で問題を解かないと身につかないので、宿題を毎回出します。	
<b>授業の計画</b>	
第 1 回： ドイツ語 I a の復習 第 2 回： Lektion5 エリ、アナと料理をつくる～パートⅡの 1 (人称代名詞) 第 3 回： Lektion5 エリ、アナと料理をつくる～パートⅡの 2 (前置詞 1) 第 4 回： Lektion5 エリ、アナと料理をつくる～パートⅡの 3 (前置詞 2) 第 5 回： 小テスト 1 第 6 回： Lektion6 エリ、道をたずねる 1 (助動詞とワク構造) 第 7 回： Lektion8 エリ、風邪をひく 1 (動詞の 3 基本形) 第 8 回： Lektion8 エリ、風邪をひく 2 (過去をあらわす文) 第 9 回： Lektion8 エリ、風邪をひく 3 (過去をあらわす文～不規則動詞の場合) 第 10 回： 小テスト 2 第 11 回： Lektion9 エリ、映画を見に行く 1 (完了形とワク構造) 第 12 回： Lektion9 エリ、映画を見に行く 2 (完了形の意味) 第 13 回： Lektion7 エリ、ハイキングに誘われる (分離動詞とワク構造) 第 14 回： 小テスト 3 第 15 回： これまでのまとめ 第 16 回： 定期試験	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
毎回宿題(練習問題)を出すので、必ずやって来ること。毎回の授業のはじめは、宿題の答えあわせから始めます。参考書については、初回の授業で指示します。	
<b>評価方法</b>	
出欠状況、授業への取り組み(30 パーセント)、期末テスト(70%)によって評価。	
<b>テキスト</b>	
(1)春日正男 松澤淳 『レッカー！レッカー！レッカー！—おいしく学ぶドイツ語—』 郁文堂 2007 年 (2)在間進 『新キャンパス独和辞典』 郁文堂 初学者には電子辞書は不向きなので、書籍版を購入すること。すでに書籍版の辞書を持っている人は、自分の持っている辞書でもよい。辞書の種類や使い方については初回の授業で説明します。	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
語学の授業は出席しないことには、身につけません。毎回出席すること。	

中国語 I a		担当教員	まえ がわ ゆき お 前川幸雄
単位	配当年次	開講形態	選択区分
1 単位	1 年前期	演習	選択
〈科目区分〉 人間学部学部共通科目 外国語科目			

<b>サブ テーマ</b>	
初級中国語の習得	
<b>授業の到達目標</b>	
初級中国語を学習する。まず、発音と文法の基礎を学習する。次に、聴く、話す、ことに重点をおいて学習する。「基本的な事項の確認や自分の意志を伝えられるレベル」を学習の到達目標とする。 予習と復習をして学習効果を高めて下さい。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
コミュニケーション能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
10 分・前回の「課題」の解答と質疑応答、70 分・演習と解説、10 分・まとめと質疑応答。	
<b>授業の計画</b>	
第 1 回:	中国の国土、民族など。
第 2 回:	
第 3 回:	
第 4 回:	
第 5 回:	
第 6 回:	
第 7 回:	第 1 回～第 6 回の復習。
第 8 回:	誘い方。的の用法。名前の聞き方・答え方。
第 9 回:	
第 10 回:	
第 11 回:	
第 12 回:	
第 13 回:	有の用法。量詞。両。的の用法。
第 14 回:	動詞の重ね型。在の用法。方位詞。など。
第 15 回:	第 8 回～第 13 回の復習と確認。
第 16 回:	第 1 回～第 14 回の復習とまとめ。
第 16 回:	定期試験
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
参考図書：相原茂編著『中国語学習ハンドブック 改訂版』大修館書店 1996 年 辞書：『中日辞典』小学館 2002 年・『日中辞典』小学館 2001 年 相原茂編著『はじめての中国語学習辞典』朝日出版社 2002 年	
<b>評価方法</b>	
中間と期末の試験と毎時間出す「課題」の解答の提出率(=出席率) 定期試験 70%、授業中の意欲および発表内容・出席 30%	
<b>テキスト</b>	
相原 茂，陳 淑梅，飯田敦子 共著 『恋する莎莎』朝日出版社	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
毎時間終了前に B5 用紙 1 枚の程度の「課題」を出す。提出した者を出席とする。 辞書を持ってくること。テキスト、辞書を持たない人の出席は認めない。	

中国語 I b		担当教員	まえ がわ ゆき お 前川幸雄
単位	配当年次	開講形態	選択区分
1 単位	1 年後期	演習	選択
〈科目区分〉 人間学部学部共通科目 外国語科目			

<b>サブ テーマ</b>	
初級中国語の習得	
<b>授業の到達目標</b>	
初級中国語を学習する。まず、発音と文法の基礎を学習する。次に、聴く、話す、ことに重点をおいて学習する。「基本的な事項の確認や自分の意志を伝えられるレベル」を学習の到達目標とする。 予習と復習をして学習効果を高めて下さい。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
コミュニケーション能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
10 分・前回「課題」の解答と質疑応答、70 分・演習と解説、10 分・まとめと質疑応答。	
<b>授業の計画</b>	
第 1 回: 中国語 I a の重要事項の確認、復習。 第 2 回: } 年齢の聞き方。多+形容詞。 第 3 回: } 助動詞の会・能・想の用法。 第 4 回: } 曜日、時刻の言い方。時間詞。要と不要。 第 5 回: } 離と到。来。比較の言い方など。 第 6 回: 第 1 回～第 5 回の復習。 第 7 回: } 第 8 回: } 年月日、お金の言い方。時点と時間量。 第 9 回: } 動量詞。前置詞の給・用の用法。 第 10 回: } 了の様々な形態と用法。進行を表す在。方向動詞。方向補語など。 第 11 回: } 別～了。把。是～的、使役。受身。など。 第 12 回: } 第 13 回: 第 7 回～第 12 回の復習。 第 14 回: } 学習成果の確認。 第 15 回: } 第 1 回～第 14 回の復習とまとめ。 第 16 回: 定期試験	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
参考図書: 相原茂編著『中国語学習ハンドブック 改訂版』大修館書店 1996 年 辞書: 『中日辞典』小学館 2002 年・『日中辞典』小学館 2001 年 『はじめての中国語学習辞典』相原茂編著 朝日出版社 2002 年	
<b>評価方法</b>	
中間と期末の試験と毎時間出す「課題」の解答の提出率(=出席率) 定期試験 70%、授業中の意欲および発表内容・出席 30%	
<b>テキスト</b>	
相原 茂, 陳 淑梅, 飯田敦子 共著 『恋する莎莎』朝日出版社	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
毎時間終了前に B5 用紙 2 枚の程度の「課題」を出す。提出した者を出席とする。 辞書を持ってくること。テキスト、辞書を持たない人の出席は認めない。	

情報リテラシー a		担当教員	みやがわ もりもと ささき 宮川・森本・佐々木
単位	配当年次	開講形態	選択区分
2 単位	1 年前期	演習	選択
＜科目区分＞ 人間学部学部共通科目 情報科目			

<b>サブ テーマ</b>	
オフィスソフト(Office 2010)とインターネットの活用(その 1)	
<b>授業の到達目標</b>	
コンピュータを文書作成・情報検索等のツールとして利用するための基礎的学習を目標とする。基本操作やタッチタイピングに習熟し、ワープロソフト Word による文書処理の基礎について学ぶ。さらに、インターネット関係では、学内ネットワークの利用方法や電子メールの取り扱い・WWWの基本的使用法を習得する。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
情報収集・探索能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
各自 1 台の Windows パソコンを操作して、演習主体で行う。	
<b>授業の計画</b>	
第 1 回: 学内ネットワーク利用 Windows 入門 タッチタイピング 1 テキスト p.1~37	
第 2 回: 各種設定、タッチタイピング 2 テキスト p.38~51	
第 3 回: メール設定、タッチタイピング 3 テキスト p.52~73	
第 4 回: Word 1(文書の入力 基本操作)、タッチタイピング 4 テキスト p.74~97	
第 5 回: Word 2(文書の編集) テキスト p.98~113	
第 6 回: Word 3(表の作成と編集) テキスト p.114~129	
第 7 回: Word 4(文書のイラスト) テキスト p.130~139 、文章入力問題	
第 8 回: Word 5(文書の図形や画像) テキスト p.140~155	
第 9 回: Word 6(図表、段組、はがき作成) テキスト p.156~179	
第 10 回: Word 7(差込印刷、グラフ) テキスト p.180~197	
第 11 回: Word 8(DTP) テキスト p.198~232	
第 12 回: プレゼンテーションソフトについて	
第 13 回: Word 活用 1(ビジネス文書作成 1)	
第 14 回: Word 活用 2(ビジネス文書作成 2)	
第 15 回: Word 活用 3(ビジネス文書作成 3)・まとめ	
第 16 回: 定期試験	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
パソコン操作の基本となる「タッチタイピング」の修得に努めること。(習得に要する練習時間は、およそ 15~30 時間) ◎受講にあたっては、必ず教材を購入し、大学および自宅で練習する必要がある。○授業中に指示した課題については、次回までに必ず完成させておくこと。(授業欠席の場合も同様)	
<b>評価方法</b>	
単位認定を受けるには、次の 3 条件を満たす必要がある。 ①10 分間で 300 文字以上の標準的な日本語文章を入力できる ②欠席数が 1/3 以内である。(①については、その試験日は別途指示する) ③評価点は、期末試験に 90 点配点、指定課題について 10 点とする。欠席は 1 回につき-4 点とする。さらに、受講態度に問題(私語が多いなど)がある場合には 1 回につき-2 点とする。)また、受講期間中に関連する日商 PC 検定試験(文書作成)などの試験に合格した者については、期末試験得点を 90 点として加味する。	
<b>テキスト</b>	
『30 時間でマスター Word2010』実教出版 2010 教材:『Type Quick Professional USB 版』日本データパシフィック (およそ 2600 円)	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
正当な理由のない連続欠席 3 回以上の者は受講を放棄したものとみなす。この授業は、Word 初心者を対象とした内容であるので、経験を有する者は情報活用 a を受講すること。	

情報リテラシー b		担当教員	みやがわ もりもと ささき 宮川・森本・佐々木
単位	配当年次	開講形態	選択区分
2 単位	1 年後期	演習	選択
＜科目区分＞ 人間学部学部共通科目 情報科目			

<b>サブ テーマ</b>	
オフィスソフト(Office 2010)とインターネットの活用(その2)	
<b>授業の到達目標</b>	
コンピュータを文書作成・情報検索等のツールとして利用するための基礎的学習を目標とする。基本操作やタッチタイピングに習熟し、表計算ソフト Excel による集計処理やワープロソフト Word との連携処理による文書処理について学ぶ。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
情報収集・探索能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
各自 1 台のパソコンを操作して、演習主体で行う。	
<b>授業の計画</b>	
第 1 回： 文章入力問題、Excel 1(データ入力、集計、印刷) テキスト p.6～33 第 2 回： Excel 2(グラフ作成、表の編集) p.34～55 第 3 回： Excel 3(平均、表示形式) p.56～66 第 4 回： Excel 4(罫線、ワークシートの活用) p.67～79 第 5 回： Excel 5(ワークシートの活用 2、いろいろな関数) p.80～97 第 6 回： Excel 6(条件判定、グラフ) p.98～112 第 7 回： Excel 7(グラフ 2) p.113～139 第 8 回： Excel 8(データベース機能) p.140～160 第 9 回： Excel 9(データの集計、関数の活用 1) p.160～179 第 10 回： Excel 10(関数の活用 2) p.180～199 第 11 回： Excel 11(関数の活用 3) p.200～213 第 12 回： Excel 12(3D 集計、Word と Excel の連携) p.214～227 第 13 回： Excel Word 総合問題 1,2 第 14 回： Excel Word 応用問題 第 15 回： Excel Word 総合問題 3 第 16 回： 定期試験	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
パソコン操作の基本となるタッチタイピングの修得に努めること。◎受講にあたっては、必ず教材を購入し、大学および自宅で練習する必要がある。○授業中に指示した課題については、次回までに必ず完成させておくこと。(授業欠席の場合も同様)	
<b>評価方法</b>	
単位認定を受けるには、次の 3 条件を満たす必要がある。 ①10 分間で 350 文字以上の標準的な日本語文章を入力できること ②欠席数が 1/3 以内である。(①については、その試験日は別途指示する) ③評価は、試験と出席状況を加味して総合的に評価する。 欠席の場合は 1 回につき 4 点とする。さらに、受講態度に問題(私語が多いなど)がある場合には 1 回につき 2 点とする。)また、受講期間中に関連する日商 PC 検定試験(データ活用)などの試験に合格した者については、A 評価相当以上として加味する。	
<b>テキスト</b>	
『30 時間でマスター Excel 2010』 実教出版 2010 年 教材：『Type Quick Professional USB 版』 日本データパシフィック	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
正当な理由のない連続欠席 3 回以上の者は受講を放棄したものとみなす。この授業は、Excel 初心者を対象とした内容であるので、経験を有する者は情報活用 b を受講すること。	

情報活用 a		担当教員	みやがわゆういち ささきひろこ 宮川祐一・佐々木裕子
単位	配当年次	開講形態	選択区分
2単位	1年前期・2年前期	演習	選択
〈科目区分〉 人間学部学部共通科目 情報科目			

<b>サブ テーマ</b>	
オフィスソフト(Office 2010)の活用	
<b>授業の到達目標</b>	
<p>情報リテラシーaでは、Windows およびオフィスソフト(Windows Office 2010)の基礎的な学習であったが、この授業においては Word の機能をより深く理解し、特にビジネス面での幅広い情報活用能力を獲得することを目指す。マイクロソフト社の Office Specialist 試験(Word 2010)や、日本商工会議所の日商PC検定試験 2級(文書作成)に合格できるレベルを目標としている。</p>	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
情報収集・探索能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
各自 1 台のパソコン(Windows OS)を使用して、演習主体で行う。	
<b>授業の計画</b>	
<p>第 1 回： 文書処理に関する資格や検定試験概要、授業の進め方、練習問題  第 2 回： 文書の表示、保護、管理 p.1～33  第 3 回： 文章の共有、保存、メール設定 p.34～58  第 4 回： 書式設定 p.59～87  第 5 回： 書式設定(2) p.88～120  第 6 回： レイアウト、コンテンツ p.121～155  第 7 回： 背景、ヘッダーフッター、図 p.156～190  第 8 回： 図形、画像、テキストボックス p.191～217  第 9 回： 文書の校正、ハイパーリンク、脚注 p.218～253  第 10 回： 目次・差込印刷 p.254～274  第 11 回： 総合課題 1  第 12 回： 総合課題 2  第 13 回： 総合課題 3  第 14 回： 総合課題 4  第 15 回： 総合課題 5  第 16 回： 定期試験</p>	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
<p>規定の時間内に適切な処理を施すという技能が求められるので、授業時間外においても十分な取り組みが必要である。</p> <p>参考図書：  (1)『日商 PC 検定試験文書作成 2 級 完全マスター 合格のコツがわかる問題集 2010 対応』 FOM 出版  (2)『MOS Microsoft Word 2010 対策テキスト&amp; 問題集』FOM 出版</p>	
<b>評価方法</b>	
<p>主に期末試験の成績による評価とする。そのほか出欠状況、および授業への取組意欲を加味する。  (関連する検定・資格試験の合格者については、期末試験の評価点を A 評価以上として加味する)</p>	
<b>テキスト</b>	
『MOS 攻略問題集 Microsoft Office Word 2010』 日経 BP ソフトプレス 2011 年	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
<p>特別な理由のない 3 回以上の連続欠席、あるいは 4 回以上の欠席については、受講を放棄したものとみなす。また、遅刻回数 3 回を欠席回数 1 回としてカウントし、減点評価(遅刻 1 回につき -2 点、欠席 1 回 -6 点)をします。</p>	

情報活用 b		担当教員	みやがわ ゆういち 宮川 祐一
単位	配当年次	開講形態	選択区分
2 単位	1 年後期・2 年後期	演習	選択
〈科目区分〉 人間学部学部共通科目 情報科目			

<b>サブ テーマ</b>	
オフィスソフト(Office 2010)の活用	
<b>授業の到達目標</b>	
<p>情報リテラシーb では、Windows およびオフィスソフト(Windows Office 2010)の基礎的な学習であったが、この授業においては Excel の機能をより深く理解し、特にビジネス面での幅広い情報活用能力を獲得することを目指す。マイクロソフト社の Office Specialist 試験(Excel 2010)や、日本商工会議所の日商PC検定試験 2 級(データ活用)に合格できるレベルを目標としている。</p>	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
情報収集・探索能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
各自 1 台のパソコン(Windows OS)を使用して、演習主体で行う。(テキストの進度は、各回約 40～50 ページ)	
<b>授業の計画</b>	
<p>第 1 回： 実力診断問題(日商 PC 検定試験問題)  第 2 回： 環境の管理と操作 p.1～36  第 3 回： セルデータの作成 p.37～79  第 4 回： セルやシートの書式設定 p.80～124  第 5 回： シートやブックの管理 p.125～155  第 6 回： 数式や関数の適用 p.156～188  第 7 回： 視覚的なデータの表示 p.189～237  第 8 回： データの共有 p.238～274  第 9 回： 総合課題 1(表計算ソフトの活用演習 1)  第 10 回： 総合課題 2(表計算ソフトの活用演習 1)  第 11 回： 総合課題 3(表計算ソフトの活用演習 1)  第 12 回： 総合課題 4(表計算ソフトの活用演習 2)  第 13 回： 総合課題 5(表計算ソフトの活用演習 3)  第 14 回： 総合復習課題  第 15 回： 総合復習課題  第 16 回： 定期試験</p>	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
<p>規定の時間内に適切な処理を施すという技能が求められるので、授業時間外においても十分な取り組みが必要である。  参考図書：  (1)『MOS Microsoft Excel 2010 対策テキスト&amp; 問題集』 FOM 出版  (2)『日商 PC 検定試験 データ活用 2 級完全マスター 合格のコツがわかる問題集 2010 対応』 FOM 出版  (3)『IC3 対策テキスト 2005』 FOM 出版 2006 年</p>	
<b>評価方法</b>	
<p>主に期末試験の成績によって評価する。出欠状況や授業への取組意欲に関する評価を加味する。  (関連する検定・資格試験の合格者については、期末試験の評価分を A 評価以上として加味する)</p>	
<b>テキスト</b>	
『MOS 攻略問題集 Microsoft Office Excel 2010』 日経 BP ソフトプレス 2011 年	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
<p>特別な理由のない 3 回以上の連続欠席、あるいは 4 回以上の欠席については、受講を放棄したものとみなす。また、遅刻回数 3 回を欠席回数 1 回としてカウントし、減点評価(遅刻 1 回につき-2 点、欠席 1 回-6 点)をします。</p>	



基礎演習		担当教員	大森慈子・杉島一郎・ 水上喜美子・森俊之・ 山本雅代・片畑真由美・ 鎌田道彦・久保陽子	
単位	配当年次	開講形態	選択区分	
2単位	1年	演習	必修	
＜科目区分＞ 人間学部学部共通科目 修学基礎・フィールドワーク科目				

<b>サブテーマ</b>	
仁愛大学での修学や将来のための基礎づくり。学生と担当教員、学生相互間の人間関係づくり。	
<b>授業の到達目標</b>	
大学生としての最初の1年は、4年間にわたる学修をスムーズに開始できるための重要な期間として位置づけられる。このため、まず学科の教育目標および教育課程を理解するとともに、主体的な学びを軸とする大学での修学や将来のための基盤づくりに重点を置き、授業を展開する。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
自他の理解能力、コミュニケーション能力、情報収集・探索能力、社会・職業理解能力、役割把握・認識能力、計画実行能力、選択能力、課題解決能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
○学生 15 名程度を 1 グループとして 1 名の担当教員を置く。 (この担当教員は、2 年間の指導教員として、本授業終了後も引き続き指導や助言を行う。) ○授業は、原則としてグループ単位で行う。	
<b>授業の計画</b>	
以下の教育内容と目的に沿って授業を展開する。 (各授業の詳細については、ガイダンスにおいて説明する。) ・本授業の内容や達成すべき目標について理解する。 ・学科の教育課程や教育制度、授業形態について説明を受け理解する。 ・履修に関する担当教員の助言・指導を受け、自己の学習計画・履修計画を作成できるようにする。 ・大学での学び方を知るための講座、専門分野の基礎的な事柄についての演習を通して、自主学習を中心とした学習スタイルを確立し、学習に対する積極的な態度を身につける。 ・附属図書館において図書館利用に関するセミナーを受講し、文献の検索方法等を理解し、学習や研究に必要な図書館利用法を身につける。 ・修学・学生生活について担当教員による個人面談を行い、学習状況等を確認する。	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
授業時において適宜指示する。	
<b>評価方法</b>	
出席状況、授業への参加態度、課題への取り組み姿勢などを総合的に判断して評価する。	
<b>テキスト</b>	
テキストは使用しない。	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
この授業は前期 8 回、後期 8 回程度を予定している(詳細については学科より指示する)。	

基礎演習		担当教員	大河晴美・島岡哉・橋本武志・ 山田晴美・山中千恵・ 都路恵子・舩山俊克	
単位	配当年次	開講形態	選択区分	
2単位	1年	演習	必修	
<科目区分> 人間学部学部共通科目 修学基礎・フィールドワーク科目				

<b>サブテーマ</b>	
仁愛大学での修学や将来のための基礎づくり。学生と担当教員、学生相互間の人間関係づくり。	
<b>授業の到達目標</b>	
大学生としての最初の1年は、4年間にわたる学修をスムーズに開始できるための重要な期間として位置づけられる。このため、まず学科の教育目標および教育課程を理解するとともに、主体的な学びを軸とする大学での修学や将来のための基盤づくりに重点を置き、授業を展開する。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
自他の理解能力、コミュニケーション能力、情報収集・探索能力、社会・職業理解能力、役割把握・認識能力、計画実行能力、選択能力、課題解決能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
○学生 15名程度を1グループとして1名の担当教員を置く。 (この担当教員は、2年間の指導教員として、本授業終了後も引き続き指導や助言を行う。) ○授業は、原則としてグループ単位で行う。	
<b>授業の計画</b>	
以下の教育内容と目的に沿って授業を展開する。 (各授業の詳細については、ガイダンスにおいて説明する。) ・本授業の内容や達成すべき目標について理解する。 ・学科の教育課程や教育制度、授業形態について説明を受け理解する。 ・履修に関する担当教員の助言・指導を受け、自己の学習計画・履修計画を作成できるようにする。 ・大学での学び方を知るための講座、専門分野の基礎的な事柄についての演習を通して、自主学習を中心とした学習スタイルを確立し、学習に対する積極的な態度を身につける。 ・附属図書館において図書館利用に関するセミナーを受講し、文献の検索方法等を理解し、学習や研究に必要な図書館利用法を身につける。 ・修学・学生生活について担当教員による個人面談を行い、学習状況等を確認する。	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
授業時において適宜指示する。	
<b>評価方法</b>	
出席状況、授業への参加態度、課題への取り組み姿勢などを総合的に判断して評価する。	
<b>テキスト</b>	
テキストは使用しない。	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
この授業は前期8回、後期8回程度を予定している(詳細については学科より指示する)。	

日本語文章表現		担当教員	おおかわはるみ そまたにひでのり 大河晴美・柚谷英紀	
単位	配当年次	開講形態	選択区分	
1単位	1年前期・後期	演習	必修	
＜科目区分＞ 人間学部学部共通科目 修学基礎・フィールドワーク科目				

<b>サブテーマ</b>	
文章表現の基礎、日常生活の中の表現、小論文	
<b>授業の到達目標</b>	
<p>高等学校までの日本語に関する教育は、(教科書を)「読む」や(教師の授業を)「聴く」という受身であることがほとんどであった。この授業では、それまで疎かにされてきた「書く」ことを通して、発信する側に立つための基礎を学ぶ。まず、日常生活で使用する基本的な文章形態の形式や用法に習熟する。さらに、さまざまな社会・文化的事象について的小論文・エッセイを作成し、「書く」という行為に慣れ親しむ。</p>	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
自他の理解能力、社会・職業理解能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
<p>毎回、なんらかの文書を書くことを実践する。  具体的には、文章作成の基本的ルール、文章構成、誤用文と推敲の方法、手紙などの形式、時事や日本文化について的小論文など。また、随筆の課題として、「風花随筆文学賞」への応募を考えている。</p>	
<b>授業の計画</b>	
<p>第1回： オリエンテーション  第2回： 書くことの意義と書くための準備  第3回： 文章の構成とアウトライン(1)  第4回： 文章の構成とアウトライン(2)  第5回： ノートの取り方  第6回： 意見文を書く(1)  第7回： 意見文を書く(2)  第8回： 誤用文と推敲  第9回： 修辞法と慣用句  第10回： 手紙の書き方  第11回： さまざまな文章(ビジネス文書など)  第12回： 小論文を書く(1)  第13回： 小論文を書く(2)  第14回： 小論文を書く(3)  第15回： まとめ</p>	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
返却した原稿をきちんと見直すこと。 参考図書は授業中、適宜紹介する。	
<b>評価方法</b>	
レポート、授業中に作成した文章、小テスト、出席状況などで総合的に評価する。	
<b>テキスト</b>	
『新版 日本語表現法 -「書く」「話す」「伝える」ための技法-』西尾宣明編著 樹村房 2013年	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
文章表現は、実際に書くことによるのみ上達する。 出席しても何も書かなければ上達はないことを、肝に銘じておくように。	

フィールドワーク演習(ボランティア)		担当教員	きん だ あき ひこ 金 田 明 彦
単 位	配当年次	開講形態	選択区分
2 単位	1 年～4 年	演習	選択
＜科目区分＞ 人間学部学部共通科目 修学基礎・フィールドワーク科目			

<b>サブ テーマ</b>	
学外でのフィールドワークを体験し、自己認識、自己啓発の機会とする	
<b>授業の到達目標</b>	
学外における自主的な活動や体験をとおして、通常の講義や演習で得られない視点や考察点を体得する。 本科目では、「ボランティア」、「イベント」、「コンペティション」の3分野への参画体験演習を行い、以後の学修・研究のための動機付けを得ること、また優れた社会人となるための自己認識、自己啓発の機会とすることを目的とする。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
自他の理解能力、コミュニケーション能力、情報収集・探索能力、社会・職業理解能力、役割把握・認識能力、計画実行能力、選択能力、課題解決能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
〔授業の形態・授業の計画〕 本プログラムには、学内外でのボランティア活動体験、社会的イベント・コンペティションなどへの参画体験が含まれる。教室や研究室で学習や研究をするのではなく、実際に社会での直接的体験を通して、優れた社会人となるための自己認識、自己啓発の機会とすることを目的とする。受講希望者は、担当教員に問い合わせること。 ※受講希望者には、「実施計画書」の提出および面談を行い、計画を認めたらうえで実施する。	
<b>授業の計画</b>	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
<b>評価方法</b>	
計画への取り組み、事後のプレゼンテーションや報告書などを総合評価する。	
<b>テキスト</b>	
使用しない。	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
本科目の履修登録については、それぞれの担当教員がガイダンスなどを実施し、各プログラムの参加者をもって受講者とするため、通常の実績登録手続きを要しない。	

フィールドワーク演習(国際交流)		<b>担当教員</b>	モーリス ルイス スプリチャル・ 加藤優子
<b>単 位</b>	<b>配当年次</b>	<b>開講形態</b>	<b>選択区分</b>
2 単位	1 年～4 年	演習	選択
<科目区分> 人間学部学部共通科目 修学基礎・フィールドワーク科目			

<b>サブ テーマ</b>	
学外でのフィールドワークを体験し、自己認識、自己啓発の機会とする	
<b>授業の到達目標</b>	
学外における自主的な活動や体験をとおして、通常の講義や演習で得られない視点や考察点を体得する。 本科目では、原則として、カリフォルニア州立大学フラトン校における「仁愛大学海外短期研修(2 週間プログラム)」への参画体験演習を行い、以後の学修・研究のための動機付けを得ること、また優れた社会人となるための自己認識、自己啓発の機会とすることを目的とする。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
自他の理解能力、コミュニケーション能力、計画実行能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
〔授業の形態・授業の計画〕 本プログラムは、原則として、カリフォルニア州立大学フラトン校における「仁愛大学海外短期研修(2 週間プログラム)」の参加者を受講者として実施する。受講者への事前授業を 10 回程度行い、夏期休暇中に 2 週間の短期留学を実施する。フラトン校見学、フラトン校語学学校 American Language Program(ALP)における語学研修、現地学生との交流、観光などの企画実施を含み、以後の学修・研究のための動機付けを得ることを目指す。 なお、個人参加の海外留学および国内における外国人との国際交流などの企画体験等も対象とする場合があるので、受講希望者は、担当教員に問い合わせること。	
<b>授業の計画</b>	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
<b>評価方法</b>	
事前ガイダンスへの取り組み、現地評価、事後のプレゼンテーションや課題レポートなどを総合評価する。	
<b>テキスト</b>	
ALP より指示がある。	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
仁愛大学海外短期研修の最小催行人数は 6 名とする。よって受講生が少ない場合、非開講とすることがある。本科目の履修登録については、それぞれの担当教員がガイダンスなどを実施し、各プログラムの参加者をもって受講者とするため、通常の実務登録手続きを要しない。	

心理学概論 I		担当教員	おおもり やすこ 大森 慈子
単位	配当年次	開講形態	選択区分
2単位	1年前期	講義	必修
＜科目区分＞ 人間学部心理学科専門科目 基幹科目 心理学基礎			

<b>サブテーマ</b>	
「心」への科学的アプローチ	
<b>授業の到達目標</b>	
心とは何か、心はどこにあるのか、という疑問からはじめ、人がどのように感じ、何を考え、どのように行動するのかを捉えることで、心の働きやシステムについて学ぶ。心理学の歴史を紹介し、心理学における主要なテーマといえる知覚や学習といった基礎的分野の問題を理解する。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
自他の理解能力、コミュニケーション能力、社会・職業理解能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
講義形式。必要に応じて視聴覚教材を使用する。	
<b>授業の計画</b>	
第1回： 心理学とは 第2回： 心理学の領域 第3回： 心理学の歴史 第4回： 感覚と知覚(1) 第5回： 感覚と知覚(2) 第6回： 生得的行動 第7回： 初期経験 第8回： 学習(1) 第9回： 学習(2) 第10回： 学習(3) 第11回： 学習理論と行動療法 第12回： パーソナリティ(1) 第13回： パーソナリティ(2) 第14回： パーソナリティ(3) 第15回： まとめ 第16回： 定期試験	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
参考図書： 『ダイアグラム心理学』 石田潤・岡直樹他共著 北大路書房	
<b>評価方法</b>	
定期試験による評価	
<b>テキスト</b>	
『心理学の基礎』 今田寛・宮田洋・賀集寛共編 培風館	
<b>その他(受講上の注意)</b>	

心理学概論Ⅱ		担当教員	おおもり やすこ 大森 慈子
単位	配当年次	開講形態	選択区分
2単位	1年後期	講義	必修
〈科目区分〉 人間学部心理学科専門科目 基幹科目 心理学基礎			

<b>サブテマ</b>	
「心」への科学的アプローチ	
<b>授業の到達目標</b>	
心とは何か、心はどこにあるのか、という疑問からはじめ、人がどのように感じ、何を考え、どのように行動するのかを捉えることで、心の働きやシステムについて学ぶ。記憶や動機づけなど、心理学における主要なテーマに加え、ストレスや感情、さらに脳の働きを理解する。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
自他の理解能力、コミュニケーション能力、社会・職業理解能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
講義形式。必要に応じて視聴覚教材を使用する。	
<b>授業の計画</b>	
第1回： 記憶と忘却(1) 第2回： 記憶と忘却(2) 第3回： 記憶と忘却(3) 第4回： 動機づけ 第5回： 欲求不満とストレス(1) 第6回： 欲求不満とストレス(2) 第7回： 欲求不満とストレス(3) 第8回： 感情と情動(1) 第9回： 感情と情動(2) 第10回： 脳と心(1) 第11回： 脳と心(2) 第12回： 睡眠と覚醒(1) 第13回： 睡眠と覚醒(2) 第14回： 睡眠と覚醒(3) 第15回： まとめ 第16回： 定期試験	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
参考図書： 『ダイアグラム心理学』 石田潤・岡直樹他共著 北大路書房 『脳のはたらきと行動のしくみ』 八田武志著 医師薬出版	
<b>評価方法</b>	
定期試験による評価	
<b>テキスト</b>	
『心理学の基礎』 今田寛・宮田洋・賀集寛共編 培風館	
<b>その他(受講上の注意)</b>	

心理学研究法 I		担当教員	よし だ かず のり 吉 田 和 典
単 位	配当年次	開講形態	選択区分
2 単位	1 年前期	講義	必修
〈科目区分〉 人間学部心理学科専門科目 基幹科目 心理学基礎			

<b>サブ テーマ</b>	
心をどうやって研究するか	
<b>授業の到達目標</b>	
様々な主観的で直観的な心理現象を量的データとして客観的に分析する心理学研究法の基礎的側面を概説し、その理解を深めることを目標とする。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
情報収集・探索能力、計画実行能力、課題解決能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
講義中心だが、授業中に簡単な検査法や実験なども実施する。	
<b>授業の計画</b>	
第 1 回～2 回： 心理学の研究とは 第 3 回～4 回： 心理学研究の歴史 第 5 回～6 回： 量的データとは 第 7 回～8 回： 質問紙による研究 第 9 回～10 回： データの信頼性と妥当性 第 11 回～13 回： 実験法 I 第 14 回～15 回： 実験法 II	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
参考図書： (1)『心理学研究法～データ収集・分析から論文作成まで～』 大山正・岩脇三良・宮埜壽夫著 サイエンス社 (2)『心理学研究法』 高野陽太郎・岡隆編 有斐閣 (3)『心理学研究法入門』 南風原朝和・市川伸一・下山晴彦編 東京大学出版会	
<b>評価方法</b>	
授業中に行う実験等のレポートと出席状況による総合評価	
<b>テキスト</b>	
テキストは使用しない。その都度資料等を配布する。	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
特になし	



心理学研究法Ⅱ		担当教員	にしむらのりあき 西村則昭
単位	配当年次	開講形態	選択区分
2単位	1年後期	講義	必修
〈科目区分〉 人間学部心理学科専門科目 基幹科目 心理学基礎			

<b>サブテーマ</b>	
臨床心理学の研究法	
<b>授業の到達目標</b>	
<p>心理学の研究法には、実験や調査のデータの数量化に基づき、普遍的な法則を見出していこうとする、いわば「科学的」なアプローチと、子どもの行動観察やカウンセリングの事例研究などのように、数量化できない個別性の記述をおこない、そこに見出される論理を探究していくアプローチがある。後者は、前者と異なり、研究者の主観を研究対象との関わりに積極的に取り込み、そうして生じる現象全体を見ていくところに特徴がある。この授業では、こうしたアプローチでおこなわれるさまざまな研究を概説する。また、哲学的観点から、心理学を近代の主体の営為と捉え、その限界について考え、近代の主体の前提から解放された新たな心理学、哲学的精神とイマジネーションに基づく心理学の探求をおこないたい。そうして、現代の複雑な人間心理を理解し、より円滑で建設的な人間関係を築く能力を身につけることを目指す。</p>	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
自他の理解能力、情報収集・探索能力、計画実行能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
講義中心だが、ビデオ提示や簡単な実習をおこなうこともある。	
<b>授業の計画</b>	
<p>第1回： オリエンテーション  第2回： 行動観察(幼児及び児童)  第3回： 行動観察(思春期)  第4回： 箱庭療法の実験的研究  第5回： 箱庭療法の事例研究  第6回： 描画テスト(星と波テスト)の研究  第7回： 描画テスト(風景構成法)の研究  第8回： 芸術療法の事例研究  第9回： 病跡学1  第10回： 病跡学2  第11回： パラサイコロジー  第12回： 心の哲学的研究(デカルトの近代的主体)  第13回： 心の哲学的研究(ニーチェの超人)  第14回： 自我体験の研究  第15回： まとめ</p>	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
<p>授業中に紹介する文献をできるだけ読むことを期待する。  また質問があれば、直接にでもメールでも、積極的にこなしてほしい。</p>	
<b>評価方法</b>	
レポートと出席率	
<b>テキスト</b>	
テキストは特に使用しない。	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
特になし。	

心理統計 I		担当教員	すぎしまいちろう もりもとふみひと 杉島一郎・森本文人
単位	配当年次	開講形態	選択区分
2単位	1年前期	演習	必修
〈科目区分〉 人間学部心理学科専門科目 基幹科目 心理学基礎			

<b>サブテーマ</b>	
心理統計法における記述統計	
<b>授業の到達目標</b>	
心理学の実験や調査研究において必要となる統計的な基礎知識の習得を目指す。おもに、尺度の水準と、データの整理や記述のしかたを中心とした記述統計の方法について学習する。授業中にできるだけ練習問題を取り入れて理解を深める。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
情報収集・探索能力、計画実行能力、選択能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
講義形式の授業とデータ処理の演習を行う。	
<b>授業の計画</b>	
第1回～2回： 概説(心理学における統計の意味) 第3回～4回： 統計学の基礎(変数の概念、色々な測定尺度) 第5回～6回： データ整理の方法(度数分布とその図示法) 第7回～8回： 代表値と散布度 第9回～10回： 正規分布 第11回～12回： 測定値の変換(得点の標準化) 第13回～14回： 相関関係 第15回： まとめ 第16回： 定期試験	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
参考図書： 『統計学のはなし』 蓑谷千風彦著 東京図書 『心理学のためのデータ解析テクニカルブック』 森敏昭・吉田寿夫編著 北大路書房	
<b>評価方法</b>	
定期試験	
<b>テキスト</b>	
『心理・教育のための統計法(第3版)』 山内光哉著 サイエンス社	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
1年次後期に開講される「心理統計Ⅱ」と、2年次の開講科目である「心理学基礎実験Ⅰ・Ⅱ」は、本演習で得られる基礎的知識が前提となる。	

心理統計Ⅱ		担当教員	すぎしまいちろう みずたとしろう 杉島一郎・水田敏郎
単位	配当年次	開講形態	選択区分
2単位	1年後期	演習	選択
〈科目区分〉 人間学部心理学科専門科目 基幹科目 心理学基礎			

<b>サブテーマ</b>	
心理統計法における推測統計	
<b>授業の到達目標</b>	
心理学の実験や調査研究において必要となるデータ解析のための統計的知識の習得を目指す。「心理統計Ⅰ」で得た記述統計の基礎知識を前提として、統計的仮説検定の概念およびその具体的方法といった推測統計について講義する。また、コンピュータを用いた統計処理も行う。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
情報収集・探索能力、計画実行能力、選択能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
講義形式の授業とデータ処理の演習を行う。	
<b>授業の計画</b>	
第1回～2回： 母集団と標本(標本抽出、標準誤差)	
第3回～4回： 統計的仮説検定の考え方	
第5回～7回： 2つの平均値の差の検定(t検定)	
第8回～11回： 分散分析(1要因、2要因)	
第12回～14回： SPSSを用いたデータ分析	
第15回： まとめ	
第16回： 定期試験	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
参考図書： 『心理学のためのデータ解析テクニカルブック』 森敏昭・吉田寿夫編著 北大路書房 『統計学のはなし』 蓑谷千風彦著 東京図書 『SPSSにおける分散分析の手順』 遠藤健治著 北樹出版	
<b>評価方法</b>	
定期試験	
<b>テキスト</b>	
『心理・教育のための統計法(第3版)』 山内光哉著 サイエンス社	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
原則として、「心理統計Ⅰ」の単位を修得していることが必要である。 2年次に開講される「心理学基礎実験Ⅰ・Ⅱ」は、本演習で得られる基礎的知識が前提となる。	

性 格 心 理 学		担当教員	もり とし ゆき 森 俊 之
単 位	配当年次	開講形態	選択区分
2 単位	1 年後期	講義	選択
〈科目区分〉 人間学部心理学科専門科目 基幹科目 心理学専門			

<b>サブ テーマ</b>	
個人差を理解する	
<b>授業の到達目標</b>	
性格に関する諸理論を概観し、さまざまな個人差を理解するための枠組みについて学ぶ。その上で、自己や他者の性格をどのように理解し、対人関係の問題にどのように対処したらよいかを考える。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
自他の理解能力、コミュニケーション能力、情報収集・探索能力、役割把握・認識能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
講義を中心とする。必要に応じて、体験や討論を交える。	
<b>授業の計画</b>	
第 1 回： 性格とは 第 2 回： 性格の類型論① 第 3 回： 性格の類型論② 第 4 回： 性格の特性論① 第 5 回： 性格の特性論② 第 6 回： 脳と性格 第 7 回： 性格の遺伝 第 8 回： ライフサイクルと性格 第 9 回： 家族関係と性格 第 10 回： 対人関係と性格 第 11 回： 文化と性格 第 12 回： 健康と性格 第 13 回： 性格の病気：人格障害 第 14 回： 性格の測定 第 15 回： まとめ 第 16 回： 期末試験	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
前回の授業の終わりに、次の授業までにしてほしいことを指示する。 授業内容に関する質問等がある場合は積極的に研究室に来て質問すること。	
<b>評価方法</b>	
学期末に実施する試験(60%)と、授業中に指示する課題等(40%)の成績をもとに、( )内の割合に基づいて総合的に評価する。	
<b>テキスト</b>	
教科書は指定しない。適宜、補助資料を配付する。 参考書は授業中、随時、紹介する。	
<b>その他(受講上の注意)</b>	

精神分析論		担当教員	にし むら のり あき 西村 則昭
単 位	配当年次	開講形態	選択区分
2 単位	1 年前期	講義	選択
〈科目区分〉 人間学部心理学科専門科目 基幹科目 心理学専門			

<b>サブ テーマ</b>	
精神分析の考え方について	
<b>授業の到達目標</b>	
<p>精神分析は、人間の心の無意識の探索を行う営為であり、世紀末ウィーンでフロイトによって創始された。精神分析は、心理療法だけではなく、社会や文化の理解のためにも大いに適用され、また芸術の創造にも影響を与えてきた。この授業では、フロイトと、フロイト理論から独自の心理学を発展させたユングの基本的な考え方に触れ、精神分析の考え方がどのようなものであるか概観したい。そして、より円滑で建設的で豊かな人間関係を実現するために、人間の心理について畏敬の念をもちつつ、深く理解する能力を身につけることを目指す。</p>	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
自他の理解能力、コミュニケーション能力、役割把握・認識能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
講義を中心とする。簡単な心理テストを体験的に学習してもらうこともある。	
<b>授業の計画</b>	
第 1 回： オリエンテーション 第 2 回： フロイト 第 3 回： ユング 第 4 回： 夢分析1 第 5 回： 夢分析2 第 6 回： エディプス・コンプレックス 第 7 回： 母娘コンプレックス 第 8 回： 心の影 第 9 回： 内なる異性 第 10 回： 同性愛 第 11 回： 自己愛 第 12 回： 死の欲動 第 13 回： 心の病理の精神分析的な理解1 第 14 回： 心の病理の精神分析的な理解2 第 15 回： まとめ	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
予習・復習については、授業時に指示する。主に関連する文献・図書を指定するので読んでおくこと。質問・相談はメール(nisimura@jindai.ac.jp)にて受け付ける。	
<b>評価方法</b>	
授業が全部終わった後提出してもらったレポートで評価する。欠席多数の者には、当該授業の範囲内でのレポートを別途に課すこともある。	
<b>テキスト</b>	
テキストは使用しない。	
<b>その他(受講上の注意)</b>	

学 習 心 理 学		担当教員	すぎ しま いち ろう 杉 島 一 郎
単 位	配当年次	開講形態	選択区分
2 単位	1 年後期	講義	選択
〈科目区分〉 人間学部心理学科専門科目 基幹科目 心理学専門			

<b>サブ テーマ</b>	
行動変容の法則について学ぶ	
<b>授業の到達目標</b>	
学習とは経験により行動が変容する過程のことである。学校における勉強だけではなく、生活のあらゆる場面で私たちは学習し、自分の行動を変容させている。こうした行動変容は、環境に存在する刺激との関係で法則化することができる。これまでに明らかにされている様々な学習の法則について学ぶことを通して、日常生活上にみられるいろいろな行動についての理解を深め、社会において心理学が果たすべき意味を考えていく。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
自他の理解能力、情報収集・探索能力、社会・職業理解能力、選択能力、課題解決能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
講義を中心とする。必要に応じて、体験や討論を交える。	
<b>授業の計画</b>	
第 1 回： 学習とは 第 2 回： こころの概念と学習 第 3 回： 生得的行動と学習された行動 第 4 回： ワトソンの行動主義と学習理論 第 5 回： 古典的条件づけの基本 第 6 回： 古典的条件づけで学習されること 第 7 回： 新行動主義 第 8 回： オペラント条件づけの基本 第 9 回： 強化スケジュール 第 10 回： 強化子の役割と本質 第 11 回： 行動変容と行動療法 第 12 回： 回避(逃避)学習 第 13 回： 学習理論の日常生活への応用 第 14 回： Learned Helplessness(あきらめの学習) 第 15 回： 現代社会の諸問題と学習理論 第 16 回： 定期試験	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
前回の授業の終わりに、次の授業までにしてほしいことを指示する。 授業内容に関する質問等がある場合は積極的に研究室に来て質問すること。	
<b>評価方法</b>	
学期末に実施する試験(80%)と、授業中に何度か指示する課題(20%)の成績をもとに、( )内の割合に基づいて総合的に評価する。	
<b>テキスト</b>	
教科書は指定しない。適宜、補助資料を配付する。 参考書は授業中、随時、紹介する。	
<b>その他(受講上の注意)</b>	

人間関係論 a		担当教員	はしもと たけし 橋本武志
単位	配当年次	開講形態	選択区分
2単位	1年前期	講義	必修
〈科目区分〉 人間学部コミュニケーション学科専門科目 基幹科目 人間関係・コミュニケーション系			

<b>サブ テーマ</b>	
人間関係を構成する諸要素について考察する	
<b>授業の到達目標</b>	
人間関係とは、自分と他人が関わることである。だが「自分」「他人」「関わり」という言葉は、簡単なようで実は難解である。本講義では、まず「人間とはどのような存在か」という古今の一般的な定義をはじめとして、自己、他者、対話、ルール、気遣いなど人間関係を成立させる諸要素について、主として西洋の思想にもとづいて考察する。また、この授業を通して自他の理解を深め、個人的あるいは社会的・職業的能力の基礎形成をめざす。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
自他の理解能力、コミュニケーション能力、情報収集・探索能力、社会・職業理解能力、役割把握・認識能力、計画実行能力、選択能力、課題解決能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
毎回、その回のテーマに関する10分～15分程度のレポートを授業内で書いてもらったのち、そのテーマについて講義する。	
<b>授業の計画</b>	
第1回： オリエンテーション 第2回： 人間の定義①～一般的な人間の定義の諸説 第3回： 人間の定義②～「あいだ」を生きるものとしての人間～ 第4回： 自分とはいったい何者なのだろうか 第5回： 自己の多面性～ペルソナ・仮面 第6回： 他人との距離感①～世間、世間体、人目 第7回： 他人との距離感②～アクセサリや髪型が気になる理由 第8回： 他人にどこまで口出しできるのか～広い意味での異文化 第9回： 自分だけが得をしてはどうしていけないのか～エゴイズム 第10回： 葛藤と対立の調停①～性悪説にもとづくルール 第11回： 葛藤と対立の調停②～性善説にもとづくルール 第12回： 葛藤と対立の調停③～人間本性の克服にもとづくルール 第13回： 他者への気遣い～ケア 第14回： 他者への気遣いの制度化～労働と感情労働 第15回： まとめ	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
授業中にその都度参考文献、参考映画等を示すので、受講前に予習しておくこと。また、口頭での講義内容、板書、プリントなどを整理しなおして自分なりにまとめ直し復習すること。参考図書は講義中に指示する。	
<b>評価方法</b>	
レポート 70 パーセント 出席および授業中レポートへの取り組み 30 パーセント	
<b>テキスト</b>	
テキストは使用しない。	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
授業中の私語については厳しく注意する。重ねて注意しても他の受講者の妨げになるようであればその回は欠席として扱うので、心得られたい。	

コミュニケーション概論 a		担当教員	やま なか ち え 山中千恵
単位	配当年次	開講形態	選択区分
2単位	1年前期	講義	必修
〈科目区分〉 人間学部コミュニケーション学科専門科目 基幹科目 人間関係・コミュニケーション系			

<b>サブテーマ</b>	
コミュニケーションの諸相を考える	
<b>授業の到達目標</b>	
<p>私たちは、日常の中で、漠然とコミュニケーションという言葉を使っている。本講義では、コミュニケーションを、対人コミュニケーションからマスコミュニケーションまでいくつかのレベルにわけて考えていく。これによって、日常生活を、これまでとは異なる角度からとらえる感性を養うことをめざす。</p>	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
自他の理解能力、コミュニケーション能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
講義。不定期にグループワークや小レポート制作の時間を設ける。	
<b>授業の計画</b>	
第1回： コミュニケーションを学ぶとは？ 第2回： 動物のコミュニケーション 第3回： 動物のコミュニケーション 第4回： 言語の獲得と発達過程 第5回： 言語の獲得と発達過程 第6回： ノン・バーバルコミュニケーション 第7回： 自己と他者 第8回： 役割 第9回： 「私」を演じる・表現する 第10回： 恋愛のコミュニケーション 第11回： ジェンダーとコミュニケーション 第12回： 家族のコミュニケーション 第13回： 差別と排除 第14回： 異文化コミュニケーション 第15回： 総括	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
授業中に出て来た専門用語は毎回授業終了後に図書館で調べ、とりあげられた文献にもあたってみること。	
<b>評価方法</b>	
小テストおよびミニレポート(不定期)による。	
<b>テキスト</b>	
授業中に適宜紹介する。	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
私語等、講義を妨害する学生には退出してもらう。単位を与えない場合もある。受講生の理解度等によって、授業計画に変更を加える可能性があるので注意すること。	



コミュニケーション概論b		担当教員	やま なか ち え 山中千恵
単 位	配当年次	開講形態	選択区分
2 単位	1 年後期	講義	選択
＜科目区分＞ 人間学部コミュニケーション学科専門科目 基幹科目 人間関係・コミュニケーション系			

<b>サブ テーマ</b>	
コミュニケーションの諸相を考える	
<b>授業の到達目標</b>	
コミュニケーション概論 a に引き続き、本講義では、コミュニケーションを、対人コミュニケーションからマスメディアコミュニケーションまでいくつかのレベルにわけて考えていく。これによって、日常生活を、これまでとは異なる角度からとらえる感性を養うことをめざす。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
自他の理解能力、コミュニケーション能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
講義。不定期にグループワークや小レポート制作の時間を設ける。	
<b>授業の計画</b>	
第 1 回：	前期の復習
第 2 回～3 回：	「メディア」とはなにか
第 4 回～6 回：	マス・コミュニケーションの理論
第 7 回～8 回：	メディア・リテラシーを考える
第 9 回～11 回：	メディアがつくる記憶
第 12 回～14 回：	グローバル化するメディア産業
第 15 回：	まとめと達成度の確認
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
授業中に出て来た専門用語は毎回授業終了後に図書館で調べ、とりあげられた文献にもあたってみること。	
<b>評価方法</b>	
レポート(課題提出)、(筆記試験に変更のこともある)および授業中におこなうワークショップ及びミニレポート(不定期)による。	
<b>テキスト</b>	
授業中に適宜紹介する。	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
私語等、講義を妨害する学生には退出してもらおう。単位を与えない場合もある。受講生の理解度等によって、授業計画に変更を加える可能性があるので注意すること。	

企画開発基礎演習		担当教員	とみ なが よし ふみ 富 永 良 史
単 位	配当年次	開講形態	選択区分
2 単位	1 年後期	演習	選択
〈科目区分〉 人間学部コミュニケーション学科専門科目 基幹科目 人間関係・コミュニケーション系			

<b>サブ テーマ</b>	
あなたの今、これからを企画開発する	
<b>授業の到達目標</b>	
狭い常識を打ち破る。視野を広げる。とらわれず柔軟に考える。異なる経験や価値観を持つ他者とのコミュニケーションを通じて、新しい考えを生み出す作法を発見的に学ぶ。ひとりでも多くの他者とコミュニケーションして、価値観が異なることを面白がれる感覚を身につける。この授業での対話をきっかけに、自分の学生生活、さらには生き方を企画開発してってもらいたい。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
自他の理解能力、コミュニケーション能力、情報収集・探索能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
普通の淡々とした授業は一切ない。語り、動き、作り、成長の芽を見つける。他者とのコミュニケーション(演習)が9割。補足説明としてのミニ講義が1割。	
<b>授業の計画</b>	
第1回： 学ぶ意味を企画開発しなければならない 第2回： 自分の手でジタバタと表現する 第3回： すべての力を抜いて、今、ここにいる 第4回： 決まりきった感じ方をやめる、広げる 第5回： 無縁なものを無限に組みあわせる 第6回： あれもこれもできないから、それができる 第7回： 砂時計のように進む日常をふりかえる 第8回： 仕事を選ぶのではなく、創り出す 第9回： 考える前に、その場所に行き感じ取る 第10回： 誰かの目線に重ねあわせ、発展させる 第11回： やって見なければわからないことは、やってみる 第12回： 得たものと手放したものをふりかえる 第13回： 新年にあたり、何を信念するのか 第14回： すべてから切り離された自由 第15回： あなたを企画開発する	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
リラックスして教室に入り、集中して他者とコミュニケーションし、自分なりの発見を持って教室を出て、その発見を日常で実践して欲しい。	
<b>評価方法</b>	
試験は課さない。毎回の課題への取組状況とレポート、出席状況をすべて加味して評価とする。前向きに参加(行動)する学生を一番評価する。座っているだけでは、出席とならない。	
<b>テキスト</b>	
必要に応じてレジュメを配布する。	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
この授業に、正解と不正解の区別はない。どんな発言、発想にも可能性がある。あらゆる常識ハズレを歓迎する。この授業の究極のルールはただひとつ「バカバカしさを否定しない、面白い、そこから発展させる」。	

現代社会論 a		担当教員	しま おか はじめ 島 岡 哉
単 位	配当年次	開講形態	選択区分
2 単位	1 年前期	講義	必修
〈科目区分〉 人間学部コミュニケーション学科専門科目 基幹科目 社会・文化系			

<b>サブ テーマ</b>	
越前学概論	
<b>授業の到達目標</b>	
<p>本学が立地し、みなさんが大学生活を送るのが越前市という地域である。古くからの歴史を有した地域でもある越前の社会や文化の特性を、現代的視点から読み解き、理解することを目的とする。それぞれの時代に生きた人々の生業の多様さを知る。さらに、越前という地域の具体的事例を通して、人文・社会科学のさまざまな学問に触れるアカデミック・ガイダンスを行う。この講義を通して、人文・社会科学の幅広さに触れ、興味を持ってもらいたい。なお、本講義は 2 年次以降に履修する講義、演習などへの導入科目としての意味を持つ。</p>	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
<p>自他の理解能力、社会・職業理解能力、役割把握・認識能力</p>	
<b>授業の概要(形態)</b>	
<p>講義を主とする。各回の講義内容の理解度をはかるため、および双方向の講義を目指すために、リアクション・ペーパーを書いてもらう。</p>	
<b>授業の計画</b>	
<p>第 1 回： ガイダンス——地域研究の意義・実体論から認識論へ  第 2 回： 越前国の時代——歴史学①  第 3 回： 明治国家と越前地域のダイナミズム——歴史学②  第 4 回： 「越前」エリアの変動・合併による認知マップの変化——人文地理学  第 5 回： 人々の暮らし——民俗学①  第 6 回： 伝統産業の盛衰——民俗学②  第 7 回： 近代都市としての武生——都市社会学  第 8 回： 戦時下の生活から復興の時代へ——社会史①  第 9 回： 高度成長期の暮らしと人々——社会史②  第 10 回： 地域づくり・地域おこしの時代へ——地域社会学①  第 11 回： 中心市街地の形成と衰退——地域社会学②  第 12 回： 伝統文化と観光——観光社会学  第 13 回： 越前の表象と観光——観光人類学  第 14 回： 越前地域の家族と労働——家族社会学  第 15 回： まとめと再考察——観光と環境の社会理論にむけて  第 16 回： 定期試験</p>	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
<p>毎回の講義中に、重要項目を明示する。本講義では、復習が重要である。各回の講義において取り扱う、多分初めて知ることになるであろう各学問の「ものの考え方」を、自分のものにできるまで、講義レジュメを読み込み理解する努力を怠らないことが肝要である。</p>	
<b>評価方法</b>	
<p>リアクション・ペーパー記載の内容(出欠も兼ねる)が 30 パーセント、定期試験 70 パーセントの総合評価</p>	
<b>テキスト</b>	
<p>カバー範囲が広いため、テキストの指定はしない。そのかわり、講義中に、参考文献および論文を明示する。</p>	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
<p>真摯に学ぼうとする受講生に迷惑をかける者には、単位を与えない。</p>	

現代社会論 b		担当教員	しま おか はじめ 島 岡 哉
単 位	配当年次	開講形態	選択区分
2 単位	1 年後期	講義	選択
〈科目区分〉 人間学部コミュニケーション学科専門科目 基幹科目 社会・文化系			

<b>サブ テーマ</b>	
社会学入門	
<b>授業の到達目標</b>	
<p>社会学的思考(sociological thinking)の能力は、4年間の学びの根幹の1つを成す。本講義を通して、基礎的な思考方法を習得する。社会学は、高等学校までの社会科とは異なる。ミクロからマクロまで、社会学の理論を幅広く、しかもわかりやすく読み解きながら、現代社会の具体的な事例に当てはめてみる演繹法的アプローチをとる。現代社会分析には不可欠な「ロジカル・シンキング」のちからを身につける第1ステージに位置づけられる科目である。社会学入門である本講義を通して、基礎的な社会学的思考力を身につけてもらいたい。</p>	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
情報収集・探索能力、計画実行能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
講義を主とする。各回の講義内容の理解度をはかるため、および双方向の講義を目指すために、リアクション・ペーパーを書いてもらう。	
<b>授業の計画</b>	
第1回： 人文・社会科学の基礎的思考——実体論と認識論 第2回： 演技する人々①——「身体」を書き換える・「印象操作」 第3回： 演技する人々②——シンボリック相互作用論 第4回： 社会化と逸脱①——規範(norm)とサンクション(sanction) 第5回： 社会化と逸脱②——学校文化と逸脱行動、統制 第6回： 行為と役割とは①——レッテルを貼られる、自発的に服従する 第7回： 行為と役割とは②——聖性を付与される、烙印(スティグマ)を押される 第8回： 言語と意味の世界——「物語」としての人生 第9回： 「主婦」の誕生——近代家族の社会学 第10回： 「家族」関係の変容——現代家族の社会学 第11回： ナチズムの映画技法と現代のメディア——現代文化の社会学① 第12回： 音楽と、固定化された私たちの「耳」——現代文化の社会学② 第13回： 西洋近代の社会編成をめぐって——文化人類学 第14回： 隠れたカリキュラム——教育社会学 第15回： 「訴えてやる!」?——犯罪と法の社会学 第16回： 定期試験	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
予習の際には、「ナチズム」や「デカルト」などの基本用語がわからなければ調べておくこと。むしろ重要なのは復習である。講義中に紹介した事例以外をひとつあげ、分析をする力を復習によって身につけること。	
<b>評価方法</b>	
リアクション・ペーパー記載の内容(出欠も兼ねる)が30パーセント、定期試験70パーセントの総合評価	
<b>テキスト</b>	
カバー範囲が広いので、テキストの指定はしない。そのかわり、講義中に、参考文献および論文を明示する。	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
真摯に学ぼうとする受講生に迷惑をかける者には、単位を与えない。	

異文化理解		担当教員	かとう ゆうこ 加藤 優子
単位	配当年次	開講形態	選択区分
2単位	1年前期	講義	選択
〈科目区分〉 人間学部コミュニケーション学科専門科目 基幹科目 社会・文化系			

<b>サブテマ</b>	
異文化理解とコミュニケーションについて	
<b>授業の到達目標</b>	
文化とは何か、異文化理解とは何かについて、異文化コミュニケーション学の領域から考えてゆく。この授業を通して、越前という身近な地域から、日本、そして世界へと視野を広げ、多様な文化を客観的にとらえる世界観を養うことを目指す。具体的には、自他の理解能力、異なる文化的背景を持つ人とコミュニケーションをとる能力、地域と世界の文化についての情報収集能力を身につける。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
自他の理解能力、コミュニケーション能力、情報収集・探索能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
講義	
<b>授業の計画</b>	
第1回： 異文化理解コミュニケーションの世界 第2回： 文化とは？ 第3回： なぜ人間はコミュニケーションをとるのか？ 第4回： グループ・トレーニング① 第5回： 主なコミュニケーションモデル 第6回： 非言語的コミュニケーション 第7回： 異文化コミュニケーション 第8回： グループ・トレーニング② 第9回： コミュニケーションスタイルズ 第10回： ホフステードの文化次元 第11回： 翻訳と通訳・異文化コミュニケーションと教育 第12回： グループ・トレーニング③ 第13回： 異文化コミュニケーション能力と改善 第14回： グループ・トレーニング④ 第15回： まとめ 第16回： 定期試験	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
授業中に出てきた参考文献や専門用語は図書館で調べること。	
<b>評価方法</b>	
定期試験 50%、課題 30%、授業への積極的参加 20%	
<b>テキスト</b>	
テキストは使用しない。	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
遅刻 3回で欠席 1回とみなす。	

言語学概論		担当教員	やはしちえ 矢橋知枝
単位	配当年次	開講形態	選択区分
2単位	1年後期	講義	選択
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 基幹科目 言語系			

<b>サブテマ</b>	
言語学入門	
<b>授業の到達目標</b>	
一般言語学の基礎学習を通し、人間の言葉を研究対象とする言語学の一端に触れる。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
自他の理解能力、コミュニケーション能力、情報収集・探索能力、役割把握・認識能力、選択能力、課題解決能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
講義および演習	
<b>授業の計画</b>	
第1回： 言語学とは 第2回： ことばの起源① 第3回： ことばの起源② 第4回： 動物のことば① 第5回： 動物のことば② 第6回： 人間のことば① 第7回： 人間のことば② 第8回： 世界の言語① 第9回： 世界の言語② 第10回： 言語の変化① 第11回： 言語の変化② 第12回： 文字の発明① 第13回： 文字の発明② 第14回： 言語学の諸分野 第15回： まとめ 第16回： 定期試験	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
参考図書： 『よくわかる言語学入門』 町田他 バベル・プレス 1995年	
<b>評価方法</b>	
定期試験 50%、授業レポート 30%、授業貢献・受講態度 20%	
<b>テキスト</b>	
テキストは使用せず、適宜ハンドアウトを配布する。	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
出席・授業への貢献とともに、授業外での予習・復習も重視する。また、遅刻3回で欠席1回分とみなす。	

社会言語学		担当教員	かとうかずお 加藤和夫
単位	配当年次	開講形態	選択区分
2単位	1年前期	講義	選択
〈科目区分〉 人間学部コミュニケーション学科専門科目 基幹科目 言語系			

## サブテーマ

ことばと社会の関係を考える

### 授業の到達目標

社会言語学とは、社会の中で生きる人間、ないしはその集団との関わりにおいて各言語現象、あるいは言語運用を捉えようとする学問である。この分野は近年わが国の言語学、日本語学分野での一大潮流となりつつある。授業では、近年、日本語教育分野でも重要視されつつある社会言語学の内容について、現代日本語(受講生の多くの出身地である福井県の方言や全国諸方言を含む)のさまざまな事象を対象として具体的に考察していく。この授業を通して、日本語に存在する様々なバリエーションの背景にある社会的要因に気づくとともに、社会的存在としての言語を広い視野で客観的に観察し、豊かな人間関係を築くためのコミュニケーションストラテジーとしての言語機能をよく知り、使いこなすための知識を身に付けることをめざす。

### 身につけることを目指す社会的・職業的能力

自他の理解能力、コミュニケーション能力、役割把握・認識能力、選択能力

### 授業の概要(形態)

集中講義ということで、講義を中心に進めるが、授業内容と関わる身近な日本語について問いかけをしたり、発言を求める。

### 授業の計画

- 第1回: 社会言語学とは、社会言語学の歴史、社会言語学の領域
- 第2回: 福井県方言の概要(1)
- 第3回: 福井県方言の概要(2)
- 第4回: 属性とことば(1) 年齢差、性差
- 第5回: 属性とことば(2) 集団語、若者ことば
- 第6回: 属性とことば(3) 地域差
- 第7回: 場面と言語変種
- 第8回: 言語接触(1) 言語接触の構造的側面
- 第9回: 言語接触(2) 言語接触の地理的側面
- 第10回: 言語接触(3) 言語接触の社会的側面
- 第11回: 言語変化(1) 言語変化の要因
- 第12回: 言語変化(2) 共通語の諸相
- 第13回: 言語変化(3) 非共通語化の諸相
- 第14回: 言語意識(1) 言語意識の諸側面
- 第15回: 言語意識(2) 言語意識と日本語の将来
- 第16回: 試験

### 授業の予習復習のアドバイス・参考図書

集中講義であり、期間中の予習・復習の時間が限られるので、受講前にできる限りテキストの内容に目を通しておくこと。参考図書等は講義中に適宜紹介する。

### 評価方法

講義への積極的参加度(20%)と試験(80%)による総合評価。

### テキスト

真田信治・渋谷勝己・陣内正敬・杉戸清樹著 『社会言語学』 おうふう 1992年

### その他(受講上の注意)

集中講義であるので4日間通して出席できる者のみが受講できる。

日本語概論		担当教員	あまのよしひろ 天野義廣
単位	配当年次	開講形態	選択区分
2単位	1年前期	講義	選択
＜科目区分＞ 人間学部コミュニケーション学科専門科目 基幹科目 言語系			

<b>サブテマ</b>	
日本語に潜むさまざまな規則性・体系性・傾向等についての発見と考察	
<b>授業の到達目標</b>	
私たちは日本語で世界をとらえ、「話す・聞く・読む・書く」という言語生活を営んでいる。この授業では、この日本語が持つ特質をさまざまな側面からとらえることにより、自分のコミュニケーションのあり方を向上させる姿勢と能力を養うことをめざす。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
自他の理解能力、コミュニケーション能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
85分の講義。その後配付するカード(授業メモ)に小課題への回答、授業の感想・疑問点等を記して提出する。	
<b>授業の計画</b>	
第1回： 授業のねらい・進め方等についてのオリエンテーション 第2回： 世界の中の日本語 第3回： 発音から見た日本語 その1 第4回： 発音から見た日本語 その2 第5回： 語彙から見た日本語 その1 第6回： 語彙から見た日本語 その2 第7回： 語彙から見た日本語 その3 第8回： 表記法から見た日本語 その1 第9回： 表記法から見た日本語 その2 第10回： 文法から見た日本語 その1 第11回： 文法から見た日本語 その2 第12回： 文法から見た日本語 その3 第13回： 地域方言と社会方言 第14回： 日本人の言語表現 第15回： 日本語はどうなるか 第16回： 定期試験	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
・次回の授業で取り上げるテキストの範囲を予告するので、事前に読み、内容の理解に努めておくこと。 (重要と思われる部分や内容が把握しにくい部分について傍線等でマークしておくことよ。) ・参考図書は授業中に適宜紹介する。	
<b>評価方法</b>	
期末試験の成績を中心とし、「授業メモ」の内容・出席状況・受講態度等を加味して評価する。	
<b>テキスト</b>	
金田一春彦著『日本語』上・下(岩波書店 1988年) なお、上記のテキスト以外に、適宜参考資料をプリントにして配付する。	
<b>その他(受講上の注意)</b>	



日本語表現(スピーキング)		担当教員	うえ つき もも え 植 月 百 枝
単 位	配当年次	開講形態	選択区分
1 単位	1 年前期・後期	演習	必修
〈科目区分〉 人間学部コミュニケーション学科専門科目 基幹科目 言語系			

<b>サブ テーマ</b>	
心を伝える話し方、きき方 実践！	
<b>授業の到達目標</b>	
<p>パソコンやメールなど、どんなに情報交換のツールが多様化しても、人と人とのコミュニケーションの基本は、直接「話す」こと「きく」ことである。</p> <p>授業では、日本語表現の基礎「話す」こと「きく」ことの基本を身につけ、演習を通して相手に自分の思いを的確に伝え、「コミュニケーション能力」、「会話力」を高めることを目標とする。この授業を通して、多様な集団・組織の中で豊かな人間関係を築きながらコミュニケーション能力や自己成長を果たしていく能力を身につけることを目指す。</p>	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
<p>自他の理解能力、コミュニケーション能力、情報収集・探索能力、社会・職業理解能力</p>	
<b>授業の概要(形態)</b>	
<p>講義と演習を反復しながら、表現力、コミュニケーション力を高める。</p>	
<b>授業の計画</b>	
<p>第1回： 「話す」ということ  第2回： 演習①  第3回： 「きく」ということ(聞く、聴く、訊く)  第4回： 演習②  第5回： 話の材料の集め方・まとめ方  第6回： 演習③  第7回： 心をつかむ話し方  第8回： 演習④  第9回： 話す力をみがく(表現技術)  第10回： 演習⑤  第11回： 公の場での話し合い・会議  第12回： 演習⑥  第13回： スピーチについて(卓話、報告、説明、発表)  第14回： 「会話力」をみがく  第15回： 演習⑦  第16回： 定期試験</p>	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
<p>演習の課題発表の際には、講義内容を復習し、スピーキングの内容をあらかじめまとめておくこと  参考図書： 言語表現研究会編 『コミュニケーションのためのことば学』 ミネルバ書房 1993年</p>	
<b>評価方法</b>	
<p>スピーキング試験 60%、演習の課題への取り組み姿勢と内容、出席状況 40%とし、総合的に評価する。</p>	
<b>テキスト</b>	
<p>テキストは使用しない。(プリント資料配布)</p>	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
<p>積極的に授業に参加すること。</p>	

オーラル・コミュニケーション I a		担当教員	モーリス ルイス スプリチャル	
単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
1 単位	1 年前期	演習	選択	
＜科目区分＞ 人間学部コミュニケーション学科専門科目 基幹科目 言語系				

<b>サブ テーマ</b>	
Exercises in Becoming a Better Speaker of English	
<b>授業の到達目標</b>	
This course is offered to promote confidence in students to express themselves naturally in English through a series of core exercises that create successful learner interaction. Fluency is emphasized more than accuracy.	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
自他の理解能力、コミュニケーション能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
Students will be presented with a variety of interesting activities that will give them an opportunity to engage in everyday English conversation and to practice expressing their ideas and opinions. Students will be provided with sample language structure	
<b>授業の計画</b>	
第 1 回:	Introductions
第 2 回 & 第 3 回:	Entertainment
第 4 回 & 第 5 回:	Hobbies
第 6 回 & 第 7 回:	Families
第 8 回 & 第 9 回:	Personality
第 10 回 & 第 11 回:	Past Experiences
第 12 回 & 第 13 回:	Health
第 14 回 & 第 15 回:	Review
第 16 回:	Final Examination
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
Appropriate advice for active participation in and successful completion of this course will be given in class.	
<b>評価方法</b>	
Active Participation & Attendance - 50%	
Final Examination - 50%.	
<b>テキスト</b>	
Impact Conversation 1	
Kristen Sullivan and Todd Beuckens	
Pearson Longman、2009	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
Mandatory attendance and active participation are important elements in evaluation.	

オーラル・コミュニケーション I b		担当教員	モーリス ルイス スプリチャル
単 位	配当年次	開講形態	選択区分
1 単位	1 年後期	演習	選択
〈科目区分〉 人間学部コミュニケーション学科専門科目 基幹科目 言語系			

<b>サブ テーマ</b>	
Exercises in Becoming a Better Speaker of English	
<b>授業の到達目標</b>	
This course is offered to promote confidence in students to express themselves naturally in English through a series of core exercises that create successful learner interaction. Fluency is emphasized more than accuracy.	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
自他の理解能力、コミュニケーション能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
Students will be presented with a variety of interesting activities that will give them an opportunity to engage in everyday English conversation and to practice expressing their ideas and opinions. Students will be provided with sample language structure	
<b>授業の計画</b>	
第 1 回 & 第 2 回: Relationships 第 3 回 & 第 4 回: Shopping 第 5 回 & 第 6 回: Travel 第 7 回 & 第 8 回: Lifestyle 第 9 回 & 第 10 回: Culture 第 11 回 & 第 12 回: Food 第 13 回 & 第 14 回: Future 第 15 回: Review 第 16 回: Final Examination	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
Appropriate advice for active participation in and successful completion of this course will be given in class.	
<b>評価方法</b>	
Active Participation & Attendance - 50% Final Examination - 50%	
<b>テキスト</b>	
Impact Conversation 1 Kristen Sullivan and Todd Beuckens Pearson Longman、2009	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
Mandatory attendance and active participation are important elements in evaluation.	

英 文 法 a		担当教員	さわ ざき とし ふみ 澤 崎 敏 文
単 位	配当年次	開講形態	選択区分
2 単位	1 年前期	講義	選択
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 英語コミュニケーション系			

<b>サブ テーマ</b>	
英語力の基礎固め	
<b>授業の到達目標</b>	
英文法をじっくり学び、英文を読み、かつ正確にコミュニケーションするための英語力を伸ばす。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
コミュニケーション能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
前回の復習、文法解説と練習問題、リーディング演習	
<b>授業の計画</b>	
第 1 回： オリエンテーション 第 2 回： Unit1 名詞 第 3 回： Unit2 冠詞 第 4 回： Unit3 代名詞(1) 第 5 回： Unit4 代名詞(2) 第 6 回： Unit5 時制(1) 第 7 回： Unit6 時制(2) 第 8 回： Unit1～6 の復習 第 9 回： Unit7 時制(3) 第 10 回： Unit8 助動詞(1) 第 11 回： Unit9 助動詞(2) 第 12 回： Unit10 態(1) 第 13 回： Unit11 態(2) 第 14 回： Unit12 不定詞(1) 第 15 回： まとめ 第 16 回： 定期試験	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
予習：練習問題を解き、疑問点を考えておきましょう。わからない単語も調べておきましょう。 復習：再度練習問題を解きましょう。	
<b>評価方法</b>	
定期試験 50%、課題・授業貢献等 60%	
<b>テキスト</b>	
『Mastering Basic English Grammar』 Kitayama, Nagaki et al. 成美堂	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
遅刻 3 回で欠席 1 回とみなす。 辞書を必ず持参すること。	

英 文 法 b		担当教員	さわ ざき とし ふみ 澤 崎 敏 文
単 位	配当年次	開講形態	選択区分
2 単位	1 年後期	講義	選択
＜科目区分＞ 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 英語コミュニケーション系			

<b>サブ テーマ</b>	
英語力の基礎固め	
<b>授業の到達目標</b>	
英文法をじっくり学び、英文を読むための英語力を伸ばす。英文を読む自信を身に付ける。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
コミュニケーション能力、社会・職業理解能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
前回の復習(小テスト等 10 分)、文法解説と練習問題(40 分)、リーディング演習(40 分)	
<b>授業の計画</b>	
第 1 回: オリエンテーション(小テスト) 第 2 回: UNIT13 不定詞(2) 第 3 回: UNIT14 分詞(1) 第 4 回: UNIT15 分詞(2) 第 5 回: UNIT16 動名詞(1) 第 6 回: UNIT17 動名詞(2) 第 7 回: UNIT18 形容詞・副詞 第 8 回: UNIT13~18の復習 第 9 回: UNIT19 比較(1) 第 10 回: UNIT20 比較(2) 第 11 回: UNIT21 関係詞(1) 第 12 回: UNIT22 関係詞(2) 第 13 回: UNIT23 仮定法(1) 第 14 回: UNIT24 仮定法(2) 第 15 回: まとめ 第 16 回: 定期試験	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
予習として、教科書の各回に関連する頁を読み、練習問題に取り組み、あらかじめ疑問点等を考えておくこと。また分からない単語や語句があれば辞書を引いて調べておくこと。復習としては、授業時の板書やプリント、ノート等に基づいて、前回の内容を確認しておくこと。	
<b>評価方法</b>	
授業での発表および積極参加 20%、定期試験 40%、小テスト 40%	
<b>テキスト</b>	
Kitayama, Nagaki et al. Mastering Basic English Grammar 成美堂 その他適宜プリントを使用する。	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
遅刻 3 回で欠席 1 回とみなす。辞書を必ず持参すること。	

## Ⅱ． 2 年生

<学部共通科目>

<心理学科専門科目>

<コミュニケーション学科専門科目>

人間と宗教		担当教員	とろけいこ 都路恵子
単位	配当年次	開講形態	選択区分
2単位	2年後期	講義	選択
＜科目区分＞ 人間学部学部共通科目 全学共通科目			

<b>サブテーマ</b>	
人間の生き方となる宗教・仏教を知る。	
<b>授業の到達目標</b>	
現代において、総じて宗教はいかなる状況にあるのか。現代人は宗教にいかに関わり、宗教をどのように受け取っているのか。宗教が人間にとってどのような意味をもち、人間の生き方にどう結びつくのかを、仏教の教え、とりわけブッダと日本における親鸞の思想を通じて考えていきたい。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
自他の理解能力、コミュニケーション能力、社会・職業理解能力、計画実行能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
講義形式と、学生参加型(ディスカッション、スピーチ、発表等)のスタイルで展開。	
<b>授業の計画</b>	
第1回: イントロ (1) 第2回: イントロ (2) 第3回: ブッダ (1) 第4回: ブッダ (2) 第5回: ブッダ (3) 第6回: ブッダ (4) 第7回: ブッダ (5) 第8回: ブッダ (6) 第9回: 親鸞『教行信証』の世界 (1) 第10回: 親鸞『教行信証』の世界 (2) 第11回: 生き方としての仏教 (1) 第12回: 生き方としての仏教 (2) 第13回: まとめ (1) 第14回: まとめ (2) 第15回: まとめ (3)	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
授業中に指示する。	
<b>評価方法</b>	
授業中の意欲および発表内容(55%)、レポート(45%)	
<b>テキスト</b>	
和、礼讃抄、プリントを使用。	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
・「仏教の人間観」を受講して、本格的に仏教・宗教について学びたい方、又自分自身の生き方について深く考えたい方は受講して下さい。 ・15回無遅刻・無欠席の方に皆勤賞を差し上げます。(原則として全出席を求め、遅刻・早退は認めません。) ・初回のガイダンスには、必ず出席のこと。	

仏教の思想		担当教員	ふじもとまさふみ 藤元雅文
単位	配当年次	開講形態	選択区分
2単位	2年前期	講義	選択
〈科目区分〉 人間学部学部共通科目 全学共通科目			

<b>サブテーマ</b>	
「仏教の思想」が伝えてくれるものを様々な角度から学び考える。	
<b>授業の到達目標</b>	
2500年ほど前に開かれた仏教は、時代や社会、文化をこえて、現在にまで伝えられている。それは、社会や文化の限定性をこえて人間のあり方を普遍的に明らかにしているという内容を持っているからである。この授業では、仏教の思想を通して人間とは何かという問いを見つめ考えることによって自己への理解と、自他の相互理解を養い、豊かな人間関係を築く基礎的な力を身につけることを目指す。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
自他の理解能力、コミュニケーション能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
講義形式。時にはビデオ等を使用する。	
<b>授業の計画</b>	
第1回： 授業の概要 第2回： 現代において、なぜ仏教を学ぶのか (1)人生の問いを見つめる 第3回： 現代において、なぜ仏教を学ぶのか (2)自己とは何か 第4回： 仏教の思想にふれる (1)人間の知覚とこころ 第5回： 仏教の思想にふれる (2)いのちについて考える 第6回： 仏教の思想にふれる (3)生のよりどころを尋ねに 第7回： 仏教の思想にふれる (4)何を大切に生きていくのか 第8回： アジャセの物語 (1)王舎城の出来事 第9回： アジャセの物語 (2)アジャセの苦悩 第10回： アジャセの物語 (3)親鸞とアジャセ 第11回： アジャセの物語 (4)「悪人」の救済 第12回： 現代における問題と仏教の思想(1) 第13回： 現代における問題と仏教の思想(2) 第14回： 現代における問題と仏教の思想(3) 第15回： まとめ 第16回： 定期試験	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
予習としては、あらかじめ仏教についての疑問点を整理しておくこと。復習は、授業時のプリントなどに基づいて、授業内容をまとめておくこと。参考図書は、授業中に指示する。	
<b>評価方法</b>	
授業中におこなう小レポート(40点)と定期試験(60点)	
<b>テキスト</b>	
授業時にプリントを配布する。	
<b>その他(受講上の注意)</b>	



哲学の世界観		担当教員	はしもと たけし 橋本武志
単位	配当年次	開講形態	選択区分
2単位	2年後期	講義	選択
＜科目区分＞ 人間学部学部共通科目 人間学関連科目			

<b>サブテーマ</b>	
哲学的な思考に慣れ親しむ	
<b>授業の到達目標</b>	
西古代からの西洋の哲学・思想が生み出してきたさまざまな世界観を知り、また、そのような世界観が現代にどのように影響を及ぼしているのか、さらには宗教や科学とどのようなつながりを持つのか、これらの問題について省察することを目的とする。西洋哲学史・西洋思想史の観点から講義する。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
自他の理解能力、情報収集・探索能力、役割把握・認識能力、課題解決能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
基本的には講義形態で授業を行なうが、授業中に小レポートを頻繁に書いてもらう。レポートやレポート解答を題材にして授業を進める回もあるので了解されたい。	
<b>授業の計画</b>	
第1回: オリエンテーションと「世界観」概念の説明 第2回: 神話的世界観ではなぜ不十分なのか？(ミュートスからロゴスへ) 第3回: 哲学的思考の発祥(プレソクラテス1) 第4回: 哲学的思考の展開(プレソクラテス2) 第5回: 対話という方法の発明(ソクラテスのディアレクティケー1) 第6回: 「知る」とはどういう営みか？(ソクラテスのディアレクティケー2) 第7回: 何を知れば、物事を本当に知ったと言えるのか？(プラトンのイデア論1) 第8回: 何を知れば、物事を本当に知ったと言えるのか？(プラトンのイデア論2) 第9回: 「机がわりの箱」は、机なのか、それとも箱なのか？(アリストテレスの目的論) 第10回: 「机がわりの箱」は、机なのか、それとも箱なのか？(アリストテレスの存在論) 第11回: 因果関係から脱出する自由は人間にあるのか？(決定論・機械論と自由意志) 第12回: 何と何が「合っている」ことが真理なのか？(真理の合致説) 第13回: 身体は一種の機械なのか？(デカルトの心身二元論) 第14回: 知識の源泉としての自我？(デカルトの自我論・知識論) 第15回: まとめ 第16回: 定期試験	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
予習については特に要求しないが、できるかぎり授業中に紹介する参考文献を読み進めることを推奨する。 参考書については一覧プリントを配布するが、適宜授業中にも指示する。 安価かつ容易に入手できるものとして、次のもののみを、今は挙げておく。 伊藤邦武『物語 哲学の歴史』中公新書 2012 岩田靖夫『ヨーロッパ思想入門』岩波ジュニア新書 2003 熊野純彦『西洋哲学史 古代から中世へ』岩波新書 2006 熊野純彦『西洋哲学史 近代から現代へ』岩波新書 2006	
<b>評価方法</b>	
期末テスト・および授業中の小レポートを総合して判断する。	
<b>テキスト</b>	
テキストは特に使用せず、適宜プリントを配布する。	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
私語は、他の受講生の迷惑となるので厳禁。私語が目立つ者はその場で注意するが、過度の私語は当日欠席扱いとするので注意されたい。	

文学の世界		担当教員	そま たに ひで のり 杣 谷 英 紀
単 位	配当年次	開講形態	選択区分
2 単位	2 年後期	講義	選択
〈科目区分〉 人間学部学部共通科目 人間学関連科目			

<b>サブ テーマ</b>	
文学作品を〈他者〉として読む	
<b>授業の到達目標</b>	
我々が生きていく上で避けて通れないのが〈他者〉である。〈他者〉のいない人生はありえないし、〈他者〉がいなければ、〈自己〉さえありえない。〈他者〉はただそこにいるだけではなく、我々の〈自己〉そのものに関わってくる。文学は、生きて行く上で大切な〈他者〉を捉えることにおいて、我々に示唆するものが大きい。文学作品を読むことを通して、〈他者〉に触れてみよう。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
自他の理解能力、情報収集・探索能力、課題解決能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
最初に〈他者〉の概念について考察し、以降、テキストおよび配布プリントに従って、小説を読み進める講義が中心となる。作品ごとに〈他者〉の意義を考察し、特に現実との関係について留意する。	
<b>授業の計画</b>	
第 1 回： オリエンテーション 菊地寛『形』 第 2 回： 制度と自己 志賀直哉『清兵衛と瓢箪』 第 3 回： 他者としての家族 横光利一『笑われた子』 第 4 回： 他者の隠喩 横光利一『蠅』 第 5 回： 物語と他者 太宰治『魚服記』 第 6 回： 異界と他者 佐藤春夫『西班牙犬の家』 第 7 回： 異人としての他者 芥川龍之介『奉教人の死』 第 8 回： 病と他者 横光利一『春は馬車に乗って』 第 9 回： 誘惑論 夢野久作 『瓶詰の地獄』 第 10 回： 自己の中の他者 川端康成『水月』 第 11 回： 未来の他者 堀晃『笑う闇』 第 12 回： アンドロイドと他者 乙一『陽だまりの死』 第 13 回： フィクションとしての他者 藤崎慎吾『星窪』 第 14 回： 他者と分身 村上春樹 第 15 回： 予備・まとめ	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
参考書は授業中、適宜紹介する。	
<b>評価方法</b>	
最終レポート、授業中に作成した文章、出席状況などで総合的に評価する。	
<b>テキスト</b>	
講義の際にプリントして適宜配布する。	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
授業は講義形式。作品ごとにテーマを設けて考察する。テキスト以外に参考図書としてプリントを用いる。考え、発見したことを記録する意味で、簡単な小レポートをほぼ毎回提出してもらう。	

歴史と地域文化		担当教員	くぼともやす 久保智康
単位	配当年次	開講形態	選択区分
2単位	2年後期	講義	選択
＜科目区分＞ 人間学部学部共通科目 人間学関連科目			

<b>サブテーマ</b>	
福井の歴史と文化を周辺と比較して、「地域」とは何かを考える。	
<b>授業の到達目標</b>	
地域の歴史・文化は、そこに住む人がかたち作っていくものである。と同時に、それは時代の経過とともにより豊かなものになり、次の世代へと受け継がれていくのが望ましい。しかし現実には、社会・経済・宗教などの多様な価値観の中で、時に利害が対立し、方向性が見出せないことや、不幸にして失われるものも少なくない。すでに過去から蓄積された福井の地域文化を歴史の中にとざね、それを受け継ぎ発展させる具体的方策を考える。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
自他の理解能力、コミュニケーション能力、情報収集・探索能力、選択能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
講義形式。テーマによって意見を求めることがあるので、積極的に発言されたい。1回以上のレポート提出を求める。1回程度、臨地講義を予定。	
<b>授業の計画</b>	
第1回： 「地域文化」とは何か 第2回： 越前・若狭という地域の成り立ち 第3回： 行政的地域としての越前・若狭 第4回： いつから地域産業は始まったか 第5回： 「仏教王国ふくい」の原像を求めて 第6回： 山寺と霊山 第7回： 道元と蓮如 第8回： 「念仏王国」、越前 第9回： 元祖地域ブランド、越前焼 第10回： 道がつなぐ越前・若狭 第11回： 一乗谷文化 第12回： 天領と藩領、そして福井県へ 第13回： 近世・近代の地域ブランド、赤瓦と笏谷石 第14回： 琉球、沖縄と越前 第15回： 地域に住むこと、離れること 第16回： 定期試験	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
画像を使用するが、漫然と見ているだけでなく、要点を極力ノートすること。高校での日本史履修は問わないうが、中学で学んだ程度の歴史は復習しておくことを勧める。福井新聞など地元紙を常時目を通し、講義に関係しそうな記事をチェックしておくこと。	
<b>評価方法</b>	
定期試験、レポート、出席率による総合評価	
<b>テキスト</b>	
テキストは使用せず、必要に応じてプリントを配布。	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
できる限り前列の席で受講すること。私語など、周囲の受講生に迷惑を及ぼす学生には退席を求めることがある。	

人 権 と 法		担当教員	や とめ ふみ まろ 矢 留 文 麿
単 位	配当年次	開講形態	選択区分
2 単位	2 年前期	講義	選択
<科目区分> 人間学部学部共通科目 人間学関連科目			

<b>サブ テーマ</b>	
国民の基本的人権のあり方	
<b>授業の到達目標</b>	
現代における様々な社会問題を取り上げ、権利擁護の立場から考え、いかなる方法で法的に問題解決をはかれるかの基礎的知識を習得することを目標とする。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
自他の理解能力、コミュニケーション能力、役割把握・認識能力、選択能力、課題解決能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
講義形式で行う。	
<b>授業の計画</b>	
第 1 回： 基本的人権の法的性格 第 2 回： 日本国憲法における基本的人権の構造 第 3 回： 自然人の権利能力と行為能力 第 4 回： 意思表示の取消と無効 第 5 回： 人間らしく生きる権利(生存権)と人間らしく死ぬ権利(尊厳死) 第 6 回： 法の下での平等と尊属殺規定 第 7 回： 無権代理と表見代理 第 8 回： 取得時効と消滅時効 第 9 回： 不法行為成立の要件と効果 第 10 回： 消費者の権利(消費者契約法、割賦販売法、訪問販売など) 第 11 回： 労働者の権利(労働三法) 第 12 回： 契約履行における危険負担と瑕疵担保責任 第 13 回： 在日外国人に対する参政権の付与 第 14 回： 不当又は違法な行政処分からの救済 第 15 回： 講義のまとめ 第 16 回： 定期試験	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
毎回の授業のテーマに関連したニュース、新聞、書物などに目を通して頂くことが望ましい。授業後は必ずノートを整理して読み返してください。	
<b>評価方法</b>	
筆記試験(自筆ノート、ポケット六法持込可)のみで行う。	
<b>テキスト</b>	
「ポケット六法 平成 25 年度版」 西田典之・高橋宏志・能見善久 有斐閣 2012 年	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
講義には必ず出席してノートをとってください。	

日本国憲法		担当教員	やま した あき こ 山下 秋子
単位	配当年次	開講形態	選択区分
2単位	2年前期	講義	選択
〈科目区分〉 人間学部学部共通科目 人間学関連科目			

<b>サブテーマ</b>	
現代社会と日本国憲法	
<b>授業の到達目標</b>	
<p>周知のごとく、日本は、第二次世界大戦終結のためにポツダム宣言を受諾し、今後の近代国家のあり方を憲法に示した。国民主権・平和主義・基本的人権の尊重を3本柱とする憲法の内容を理解し、国民の権利を尊重するとは具体的にどのようなことか等、事例の整理を通して理解し、各自が自分の言葉で権利義務、平和維持、国づくりのあり方を考え、他者に伝えることができるようにしたい。</p>	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
自他の理解能力、コミュニケーション能力、情報収集・探索能力、課題解決能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
<p>憲法の歴史を踏まえながら各種判例を通して整理する。法の下での平等や表現の自由等、身近な問題に照らし合わせながら整理する。平和維持に関する問題では、湾岸戦争以来の国際社会の動きを軸にして自衛隊問題や国際協力について整理する。講義形式ではあるが、各自の考える姿勢を求める。必要に応じてプリント配布、DVDやパワーポイントを使用する。</p>	
<b>授業の計画</b>	
<p>第1回： 憲法の意義  第2回： 国家とは 個人の尊重、国民主権、平和主義  第3回： 人権総論1 人権とは何か 新しい人権 (プライバシーの権利)  第4回： 人権総論2 自己決定権 (尊厳死法の必要性について考える)  第5回： 法の下での平等(女性の再婚禁止期間)  第6回： 司法権(刑罰・死刑制度・国民裁判員制度)  第7回： 違憲審査制度  第8回： 表現の自由(報道の自由とプライバシー保護のバランスを考える)  第9回： 信教の自由 (靖国神社公式参拝問題を考える)  第10回： 平和主義1 戦争放棄 (歴史的視点から考える)  第11回： 平和主義2 自衛隊 (政府憲法解釈の推移・イラク自衛隊派遣違憲訴訟)  第12回： 天皇 象徴天皇制 (国事行為と女性天皇の可能性を考える)  第13回： 生存権 (朝日訴訟と社会保障制度)  第14回： 民主主義の政治制度 地方自治と条例の制定  第15回： 憲法改正 改憲の可能性・問題点  第16回： 定期試験</p>	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
<p>講義で扱う内容は新聞やニュースで日々報道されている内容と深く関係しています。いつ、どんな出来事が起こってどのような問題が生じたのか、それについて自分は何を感じたのか、と日々問題意識を持つことが、興味をもって憲法に取り組むきっかけになります。</p>	
<b>評価方法</b>	
最終試験のみを評価の対象とする。	
<b>テキスト</b>	
初宿正典他『目で見える憲法』(第4版)有斐閣 1680円	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
積極的に取り組む姿勢を求める。ただ、「受講」(受け止める)でなく、共に考える場にしていこう。	

人間と環境 B		担当教員	おおにし しんご 大西新吾
単位	配当年次	開講形態	選択区分
2単位	2年前期	講義	選択
＜科目区分＞ 人間学部学部共通科目 環境・健康科目			

<b>サブテーマ</b>	
(社会と経済) 社会(環境)と個人(人間)の関係の場としての会社を考える	
<b>授業の到達目標</b>	
ビジネス社会における会社をいくつかの視点から考察することで、人間と環境の結節点としての会社(およびビジネス社会)の基本を理解することを目標とする。具体的な到達目標としてはビジネスの常識を習得することで新聞の経済欄を難なく読めるようにすることである。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
社会・職業理解能力、役割把握・認識能力、選択能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
講義を主体とする。	
<b>授業の計画</b>	
第1回： 激動する世界経済とビジネス社会－オリエンテーション 第2回： 「会社」とは何か一定義・種類・組織 第3回： 会社の資金調達(ファイナンス)－間接金融 第4回： 会社の資金調達(ファイナンス)－直接金融 第5回： 会社の戦略(マーケティング)－ビジネスとコミュニケーション 第6回： 会社の戦略(マーケティング)－ビジネスと心理 第7回： 会社の成果測定(アカウンティング)－「利益」とは 第8回： 会社の成果測定(アカウンティング)－財務諸表を読む 第9回： 会社の成果測定(アカウンティング)－経営分析 第10回： 会社と法(ビジネスロー)－会社法 第11回： 会社と法(ビジネスロー)－民法 第12回： 会社と法(ビジネスロー)－税法 第13回： ビジネス文書(ドキュメンテーション)－その1 第14回： ビジネス文書(ドキュメンテーション)－その2 第15回： まとめ 第16回： 定期試験	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
予習・復習については授業時に指示する。毎日、新聞の経済欄に目を通しておくことが望ましい。	
<b>評価方法</b>	
期末試験 80%、レポート提出および授業への取り組み態度等 20%(授業時の不適切な態度や欠席は減点の対象とする)。	
<b>テキスト</b>	
使用しない。	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
毎回、授業終了時にレポートの提出を求める。	

ス ポ ー ツ C		担当教員	の だ ま さ ひろ 野 田 政 弘 他
単 位	配当年次	開講形態	選択区分
1 単位	2 年後期	実技	選択
〈科目区分〉 人間学部学部共通科目 環境・健康科目			

<b>サブ テ ー マ</b>	
野外実習	
<b>授業の到達目標</b>	
<p>本科目ではスポーツ A、B と異なる環境における身体運動を体験・実施する。野外の自然に囲まれた環境に身を置くことによって、自然に親しみ多様で変化に富んだ魅力を知るとともに、基礎理論及び実技を通じて自然を理解し、安全かつ効果的に知識や技術を習得する。また、それぞれの環境において身体運動を行なう際の安全法についても学ぶことを目的とする。</p>	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
自他の理解能力、コミュニケーション能力、役割把握・認識能力、課題解決能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
宿泊集中形式	
<b>授業の計画</b>	
<p>&lt;スキーの事例&gt;  第1日： 事前指導 実習の概要説明(用具と服装、スキー場の説明など)  第2日： 午前 スキー場へ移動 午後 班別実習(班分け、課題設定) 夜(ミーティング)  第3日： 午前 班別実習 午後 班別実習 夜(ミーティング)  第4日： 午前 班別実習 午後 班別実習 夜(ミーティング)  第5日： 午前 班別実習 午後 大学へ移動  期 日： 2月下旬を予定する  実習先： 長野県梅池高原スキー場</p>	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
授業時に指示する	
<b>評価方法</b>	
実技、受講態度、レポートの総合評価。	
<b>テキスト</b>	
必要に応じて紹介する	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
授業内容は天候によって変更することがある。受講者数が少ない場合非開講とすることがある。	

英 語 II a		担当教員	紺渡弘幸・モーリス ルイス スプリチャル・加藤優子・マシュー エリオット ハウカ・ポール ハトラー田中・山口和代	
単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
1 単位	2 年前期	演習	必修	
＜科目区分＞ 人間学部学部共通科目 外国語科目				

<b>サブ テーマ</b>	
実践的中級英語	
<b>授業の到達目標</b>	
これまでに習得した英語の四技能を生かしながら、英語で高度な内容を扱う力を養う。また、TOEIC 受験に対応した力の育成も視野に入れる。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
自他の理解能力、コミュニケーション能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
十分な予習・復習を前提にしながら、多様な形態を取り入れて、学生の主体的な活動を中心に行う。	
<b>授業の計画</b>	
第 1 回: Intermediate Level (1) 第 2 回: Intermediate Level (2) 第 3 回: Intermediate Level (3) 第 4 回: Intermediate Level (4) 第 5 回: Intermediate Level (5) 第 6 回: Intermediate Level (6) 第 7 回: Intermediate Level (7) 第 8 回: Intermediate Level (8) 第 9 回: Intermediate Level (9) 第 10 回: Intermediate Level (10) 第 11 回: Intermediate Level (11) 第 12 回: Intermediate Level (12) 第 13 回: Intermediate Level (13) 第 14 回: Intermediate Level (14) 第 15 回: Intermediate Level (15) 第 16 回: 定期試験	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
授業で扱う予定の部分に関しては、事前にその内容を十分に把握し、授業時での活動を円滑に行えるよう、準備すること。NetAcademy2 を活用し、自主学習すること。	
<b>評価方法</b>	
それぞれのクラスの授業担当者によって異なる。	
<b>テキスト</b>	
それぞれのクラスの授業担当者によって異なる。	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・初回の授業時に、それぞれの教科書に即したシラバスを配布する予定。</li> <li>・早い時期に、少なくとも 1 回 E-Lounge にて授業を行う。</li> </ul>	



英 語 II b		担当教員	紺渡弘幸・モーリス ルイス スプリチャル・マシュー エリオット ハウカ・ポール ハトラー田中・山口和代	
単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
1 単位	2 年後期	演習	必修	
<科目区分> 人間学部学部共通科目 外国語科目				

<b>サブテマ</b>	
実践的上級英語	
<b>授業の到達目標</b>	
これまでに習得した英語の四技能を生かしながら、英語で高度な内容を扱う力を養う。また、TOEIC 受験に対応した力の育成も視野に入れる。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
自他の理解能力、コミュニケーション能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
十分な予習・復習を前提にしなが、多様な形態を取り入れて、学生の主体的な活動を中心に行う。	
<b>授業の計画</b>	
第 1 回: High Intermediate Level (1) 第 2 回: High Intermediate Level (2) 第 3 回: High Intermediate Level (3) 第 4 回: High Intermediate Level (4) 第 5 回: High Intermediate Level (5) 第 6 回: High Intermediate Level (6) 第 7 回: High Intermediate Level (7) 第 8 回: High Intermediate Level (8) 第 9 回: High Intermediate Level (9) 第 10 回: High Intermediate Level (10) 第 11 回: High Intermediate Level (11) 第 12 回: High Intermediate Level (12) 第 13 回: High Intermediate Level (13) 第 14 回: High Intermediate Level (14) 第 15 回: High Intermediate Level (15) 第 16 回: 定期試験	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
授業で扱う予定の部分に関しては、事前にその内容を十分に把握し、授業時での活動を円滑に行えるよう、準備すること。NetAcademy2 を活用し、自主学習すること。	
<b>評価方法</b>	
それぞれのクラスの授業担当者によって異なる。	
<b>テキスト</b>	
それぞれのクラスの授業担当者によって異なる。	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・初回の授業時に、それぞれの教科書に即したシラバスを配布する予定。</li> <li>・早い時期に、少なくとも 1 回 E-Lounge にて授業を行う。</li> </ul>	

フランス語 II a		担当教員	おお たけ ぐち ま り 大竹口麻里
単位	配当年次	開講形態	選択区分
1 単位	2 年前期	演習	選択
〈科目区分〉 人間学部学部共通科目 外国語科目			

<b>サブ テーマ</b>	
フランス語でコミュニケーションをとる。	
<b>授業の到達目標</b>	
1 年次に習得した基礎文法をベースにして、語彙や表現を学びながら日常の会話や自分自身について話せるようになる。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
自他の理解能力、コミュニケーション能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
演習形式	
<b>授業の計画</b>	
第 1 回： 1 課 自己紹介をする 第 2 回： 1 課 自己紹介をする 第 3 回： 2 課 今すんでいるところや出身地について話す 第 4 回： 2 課 今すんでいるところや出身地について話す 第 5 回： 3 課 交通手段について話す 第 6 回： 3 課 交通手段について話す 第 7 回： 4 課 アルバイトについて話す 第 8 回： 4 課 アルバイトについて話す 第 9 回： フランス映画鑑賞 I 第 10 回： 5 課 ペットなどについて話す 第 11 回： 5 課 ペットなどについて話す 第 12 回： 6 課 科目、先生について話す 第 13 回： 6 課 科目、先生について話す 第 14 回： 7 課 食べ物について話す 第 15 回： 7 課 食べ物について話す 第 16 回： 定期試験	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
予習として、必ず自分で辞書で単語を調べ、自分なりにテキストを訳してくること。 CD を何度も聴いて繰り返し暗唱すること 参考図書：清岡智比古『フラ語入門、わかりやすいにもホドがある』白水社2009年	
<b>評価方法</b>	
定期試験は実施するが、毎講義での積極的参加態度を大事にする。テキストに沿った会話ができるかの確認と作文などの提出物に重点を置く。1年時に関心を持ち、フランス語をより深く学びたいと思ったモチベーションを大切にすることからである。 定期試験 20% 平常点と提出物 80%	
<b>テキスト</b>	
『Moi, je… コミュニケーション』株式会社アルマ出版	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
テキストと辞書を毎回持ってくる。フランス語 I で用いたテキストも持ってくる。	

フランス語 II b		担当教員	おお たけ ぐち ま り 大竹口麻里
単位	配当年次	開講形態	選択区分
1 単位	2 年後期	演習	選択
〈科目区分〉 人間学部学部共通科目 外国語科目			

<b>サブ テーマ</b>	
フランス語でコミュニケーションをとる	
<b>授業の到達目標</b>	
前期に引き続いて、自分自身のことを語れる語彙と表現を学んで、実際にコミュニケーションをとったり、簡単な作文ができるようになる。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
自他の理解能力、コミュニケーション能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
演習形式	
<b>授業の計画</b>	
第 1 回： 8 課 家事について話す 第 2 回： 8 課 家事について話す 第 3 回： 9 課 家族について話す 第 4 回： 9 課 家族について話す 第 5 回： 10 課 クラブ活動について話す 第 6 回： 10 課 クラブ活動について話す 第 7 回： 11 課 習慣について話す 第 8 回： フランス映画鑑賞 II 第 9 回： 12 課 週末の過ごし方について話す 第 10 回： 12 課 週末の過ごし方について話す 第 11 回： 13 課 時間について話す 第 12 回： 13 課 時間について話す 第 13 回： 14 課 休憩中の活動について話す 第 14 回： 14 課 休憩中の活動について話す 第 15 回： activite2 レストランで注文する 第 16 回： 定期試験	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
予習として、必ず自分で辞書で単語を調べ、自分なりにテキストを訳してくること。 CD を何度も聴いて繰り返し暗唱すること 参考図書：清岡智比古『フラ語入門、わかりやすいにもホトがある』白水社 2009年	
<b>評価方法</b>	
定期試験は実施するが、毎講義での積極的参加態度を大事にする。テキストに沿った会話ができるかの確認と作文などの提出物に重点を置く。1年時に関心を持ち、フランス語をより深く学びたいと思ったモチベーションを大切にすることからである。 定期試験 20% 平常点と提出物 80%	
<b>テキスト</b>	
『Moi, je... コミュニケーション』株式会社アルマ出版	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
テキストと辞書を毎回持ってくる。フランス語 I で用いたテキストも持ってくる	

ドイツ語 II a		担当教員	はしもと たけし 橋本 武志
単位	配当年次	開講形態	選択区分
1 単位	2 年前期	演習	選択
〈科目区分〉 人間学部学部共通科目 外国語科目			

<b>サブ テーマ</b>	
1 年の復習をしながら、メルヘンの世界を楽しむ。	
<b>授業の到達目標</b>	
ドイツ語 I の文法事項の復習をかねて、簡単なドイツ語で書き直されたグリム童話を読みながら中級の読解力を身につける。また、ドイツ語 I では触れられなかった文法事項についても学び、ドイツ語でのコミュニケーション力の向上をめざす。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
コミュニケーション能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
講義および演習形式	
<b>授業の計画</b>	
第 1 回： オリエンテーションと 1 年次のドイツ語の復習 第 2 回： 現在完了形 第 3 回： 分離動詞 第 4 回： zu 不定詞 第 5 回： 再帰代名詞と再帰動詞 第 6 回： ブレーメンの音楽隊 1-1 第 7 回： ブレーメンの音楽隊 1-2 第 8 回： ブレーメンの音楽隊 2-1 第 9 回： ブレーメンの音楽隊 2-2 第 10 回： ブレーメンの音楽隊 3-1 第 11 回： ブレーメンの音楽隊 3-2 第 12 回： ブレーメンの音楽隊 3-3 第 13 回： ブレーメンの音楽隊 4 第 14 回： ブレーメンの音楽隊 5 第 15 回： これまでのまとめ 第 16 回： 定期試験	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
毎回宿題を出すので、必ずやってくること。各回の授業は宿題の答えあわせから始める。参考書については授業中に適宜指示する。	
<b>評価方法</b>	
毎回の予習状況(平常点)と期末テストで評価する。	
<b>テキスト</b>	
Stefan Wundt 本橋右京 『グリム童話で学ぶドイツ語 partII』 郁文堂 2007 年	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
独和辞典およびドイツ語 I で用いたテキストを必ず持参すること。	

ドイツ語Ⅱb		担当教員	はしもと たけし 橋本 武志
単位	配当年次	開講形態	選択区分
1単位	2年後期	演習	選択
＜科目区分＞ 人間学部学部共通科目 外国語科目			

<b>サブテーマ</b>	
メルヘンの世界を楽しみながら、中級文法をも学ぶ。	
<b>授業の到達目標</b>	
ドイツ語Ⅱaにひきつづいて、形容詞の格変化を学習しながら、簡単なドイツ語で書き直されたグリム童話を読んで、さらに高度な読解力を身につけ、ドイツ語でのコミュニケーション力の向上をめざす。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
コミュニケーション能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
講読および演習形式	
<b>授業の計画</b>	
第1回： ドイツ語Ⅱaの復習 第2回： 代名詞、現在完了、分離動詞の復習 第3回： 形容詞の格変化 第4回： 盗賊の花嫁 1-1 第5回： 盗賊の花嫁 1-2 第6回： 盗賊の花嫁 2-1 第7回： 盗賊の花嫁 2-2 第8回： 盗賊の花嫁 3-1 第9回： 盗賊の花嫁 3-2 第10回： 盗賊の花嫁 4-1 第11回： 盗賊の花嫁 4-2 第12回： 盗賊の花嫁 5-1 第13回： 盗賊の花嫁 5-2 第14回： 盗賊の花嫁 6 第15回： これまでのまとめ 第16回： 定期試験	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
毎回宿題を出すので、必ずやってくること。各回の授業は宿題の答えあわせから始める。参考書については授業中に適宜指示する。	
<b>評価方法</b>	
毎回の宿題、予習状況(平常点)と期末テストで評価する。	
<b>テキスト</b>	
Stefan Wundt 本橋右京 『グリム童話で学ぶドイツ語 partⅡ』 郁文堂 2007年	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
独和辞典およびドイツ語Ⅰで用いたテキストを必ず持参すること。	

中国語Ⅱa		担当教員	まえ がわ ゆき お 前川幸雄
単位	配当年次	開講形態	選択区分
1単位	2年前期	演習	選択
〈科目区分〉 人間学部学部共通科目 外国語科目			

<b>サブテマ</b>	
初級と中級中国語の習得	
<b>授業の到達目標</b>	
初級と中級の中国語を学習する。まず、発音と文法の基礎を復習する。次に、聴く、話す、ことに重点をおきつつ、簡単な作文を出来るようにする。「簡単な依頼や買い物、旅行など、特定の場面、限定的な範囲でのコミュニケーションが出来るレベル」を学習の到達目標とする。 予習と復習をして学習効果を高めて下さい。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
コミュニケーション能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
10分・前回「課題」の解答と質疑応答、70分・演習と解説、10分・まとめと質疑応答。	
<b>授業の計画</b>	
第1回： 初級中国語の復習。 第2回： 第3回： } 了の様々な形態と用法。 第4回： } 連動文。進行を表す在。更と最。 第5回： } 可能、仮定、経験、推定の表し方。 第6回： } 第7回： 第1回～第6回の復習。 第8回： 第9回： } 存現文。同一と類似を表す表現。 第10回： } 強調を表す是。逆説。着の用法。 第11回： } 結果補語。再の用法。 第12回： } 数量補語。程度補語。 第13回： } 第14回： 第8回～第13回の復習。 第15回： 第1回～第14回の復習とまとめ。 第16回： 定期試験	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
参考図書：相原茂編著『中国語学習ハンドブック 改訂版』大修館書店 1996年 辞書：『中日辞典』小学館 2002年・『日中辞典』小学館 2001年 相原茂編著『はじめての中国語学習辞典』朝日出版社 2002年	
<b>評価方法</b>	
中間と期末の試験と毎時間出す「課題」の解答の提出率(=出席率) 定期試験 70%、授業中の意欲および発表内容・出席 30%	
<b>テキスト</b>	
楊凱榮、張麗群 共著『旅して学ぶ中国語』朝日出版社	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
毎時間終了前にB5用紙1枚の程度の「課題」を出す。提出した者を出席とする。 辞書を持ってくること	

中国語Ⅱb		担当教員	まえ がわ ゆき お 前川幸雄
単位	配当年次	開講形態	選択区分
1単位	2年後期	演習	選択
〈科目区分〉 人間学部学部共通科目 外国語科目			

<b>サブテーマ</b>	
初級と中級中国語の習得	
<b>授業の到達目標</b>	
初級と中級の中国語を学習する。まず、発音と文法の基礎を復習する。次に、聴く、話す、ことに重点をおきつつ、簡単な作文を出来るようにする。「簡単な依頼や買い物、旅行など、特定の場面、限定的な範囲でのコミュニケーションが出来るレベル」を学習の到達目標とする。 予習と復習をして学習効果を高めて下さい。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
コミュニケーション能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
10分・前回「課題」の解答と質疑応答、70分・演習と解説、10分・まとめと質疑応答。	
<b>授業の計画</b>	
第1回： 中国語Ⅱaの復習。 第2回： 第3回： } 方向動詞。方向補語など。 第4回： } 別～了。把。是～的、など。 第5回： } 可能補語。祝～の用法など。 第6回： } 第7回： 第1回～第6回の復習。 第8回： 第9回： } 使役。受身。後置修飾語。 第10回： } 応該、打算、讓、疑問詞の用法。 第11回： } 様態補語。 第12回： } 該～了、辺～辺～、～多了。 第13回： } 第14回： 第8回～第13回の復習。 第15回： 第1回～第14回の復習。中国語Ⅱabの学習成果の確認とまとめ。 第16回： 定期試験	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
参考図書： 相原茂編著『中国語学習ハンドブック 改訂版』大修館書店 1996年 辞書：『中日辞典』小学館 2002年・『日中辞典』小学館 2001年 相原茂編著『はじめての中国語学習辞典』朝日出版社 2002年	
<b>評価方法</b>	
中間と期末の試験と毎時間出す「課題」の解答の提出率(=出席率) 定期試験 70%、授業中の意欲および発表内容・出席 30%	
<b>テキスト</b>	
楊凱榮、張麗群 共著『旅して学ぶ中国語』朝日出版社	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
毎時間終了前にB5用紙1枚の程度の「課題」を出す。提出した者を出席とする。 辞書を持ってくること	

海外語学研修		担当教員	モーリス ルイス スプリチャル
単位	配当年次	開講形態	選択区分
4単位	2年～4年	演習	選択
＜科目区分＞ 人間学部学部共通科目 外国語科目			

<b>サブテマ</b>	
Eight-Week English Study Program at California State University, Fullerton	
<b>授業の到達目標</b>	
This course is designed to give participants a complete hands-on experience in all phases of planning and participating in an approximate eight-week English study program in the USA. Participants will be personally responsible for all procedures in securing the proper visa in order to study in the USA and for arranging their own transportation to the USA. Furthermore, they will arrange their own home-stay accommodations through the American Language Program (ALP) of California State University, Fullerton and be responsible for applying for admission to the intensive English study program of the ALP.	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
自他の理解能力、コミュニケーション能力、情報収集・探索能力、社会・職業理解能力、計画実行能力、選択能力、課題解決能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
This program is scheduled to take place from early August through late September with the planning stages taking place from April through July. After returning from the USA, participants must submit records of attendance and grades for their studies at the	
<b>授業の計画</b>	
第1回： } 第2回： } 第3回： } Introduction to Goals of the Program 第4回： } Report on Previous Program 第5回： } Eligibility Interviews 第6回： } Meetings to Prepare Documents 第7回： } (Jin-ai University) 第8回： } 第9回： } 第10回： } 第11回： } 第12回： } Participation in the Program 第13回： } (ALP、CSUF) 第14回： } 第15回： } 第16回： }	第17回： } 第18回： } 第19回： } 第20回： } 第21回： } 第22回： } Participation in the Program 第23回： } (ALP、CSUF) 第24回： } 第25回： } 第26回： } 第27回： } 第28回： } 第29回： Submission of ALP Attendance & Grade Reports (Jin-ai University) 第30回： Submission of Documents Requesting Credits (Jin-ai University)
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
Mandatory attendance at all meetings prior to departure to and after returning from the USA is required in order to successfully participate in the program.	
<b>評価方法</b>	
A grade will be assigned mainly based on evaluation by the American Language Program of California State University, Fullerton. Participation in the planning stages and post-study activities at Jin-ai University will also be taken into consideration.	
<b>テキスト</b>	
To be selected by the American Language Program of California State University, Fullerton.	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
All applicants will be required to undergo a personal interview, and records of attendance in classes at Jin-ai University will also be examined to determine eligibility. All costs for the program are the sole responsibility of the participants. Approxima	



情報活用 a		担当教員	みやがわゆういち ささきひろこ 宮川祐一・佐々木裕子
単位	配当年次	開講形態	選択区分
2 単位	1 年前期・2 年前期	演習	選択
<科目区分> 人間学部学部共通科目 情報科目			

<b>サブ テーマ</b>	
オフィスソフト(Office 2010)の活用	
<b>授業の到達目標</b>	
<p>情報リテラシーa では、Windows およびオフィスソフト(Windows Office 2010)の基礎的な学習であったが、この授業においては Word の機能をより深く理解し、特にビジネス面での幅広い情報活用能力を獲得することを目指す。マイクロソフト社の Office Specialist 試験(Word 2010)や、日本商工会議所の日商PC検定試験 2 級(文書作成)に合格できるレベルを目標としている。</p>	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
情報収集・探索能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
各自 1 台のパソコン(Windows OS)を使用して、演習主体で行う。	
<b>授業の計画</b>	
<p>第 1 回: 文書処理に関する資格や検定試験概要、授業の進め方、練習問題  第 2 回: 文書の表示、保護、管理 p.1~33  第 3 回: 文章の共有、保存、メール設定 p.34~58  第 4 回: 書式設定 p.59~87  第 5 回: 書式設定(2) p.88~120  第 6 回: レイアウト、コンテンツ p.121~155  第 7 回: 背景、ヘッダーフッター、図 p.156~190  第 8 回: 図形、画像、テキストボックス p.191~217  第 9 回: 文書の校正、ハイパーリンク、脚注 p.218~253  第 10 回: 目次・差込印刷 p.254~274  第 11 回: 総合課題 1  第 12 回: 総合課題 2  第 13 回: 総合課題 3  第 14 回: 総合課題 4  第 15 回: 総合課題 5  第 16 回: 定期試験</p>	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
<p>規定の時間内に適切な処理を施すという技能が求められるので、授業時間外においても十分な取り組みが必要である。  参考図書:  (1)『日商 PC 検定試験文書作成 2 級 完全マスター 合格のコツがわかる問題集 2010 対応』 FOM 出版  (2)『MOS Microsoft Word 2010 対策テキスト&amp; 問題集』FOM 出版</p>	
<b>評価方法</b>	
<p>主に期末試験の成績による評価とする。そのほか出欠状況、および授業への取組意欲を加味する。  (関連する検定・資格試験の合格者については、期末試験の評価点を A 評価以上として加味する)</p>	
<b>テキスト</b>	
『MOS 攻略問題集 Microsoft Office Word 2010』 日経 BP ソフトプレス 2011 年	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
<p>特別な理由のない 3 回以上の連続欠席、あるいは 4 回以上の欠席については、受講を放棄したものとみなす。また、遅刻回数 3 回を欠席回数 1 回としてカウントし、減点評価(遅刻 1 回につき-2 点、欠席 1 回-6 点)をします。</p>	

情報活用 b		担当教員	みや がわ ゆう いち 宮川 祐一
単位	配当年次	開講形態	選択区分
2 単位	1 年後期・2 年後期	演習	選択
<科目区分> 人間学部学部共通科目 情報科目			

<b>サブ テーマ</b>	
オフィスソフト(Office 2010)の活用	
<b>授業の到達目標</b>	
<p>情報リテラシーb では、Windows およびオフィスソフト(Windows Office 2010)の基礎的な学習であったが、この授業においては Excel の機能をより深く理解し、特にビジネス面での幅広い情報活用能力を獲得することを目指す。マイクロソフト社の Office Specialist 試験(Excel 2010)や、日本商工会議所の日商PC検定試験 2 級(データ活用)に合格できるレベルを目標としている。</p>	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
情報収集・探索能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
各自 1 台のパソコン(Windows OS)を使用して、演習主体で行う。(テキストの進度は、各回約 40～50 ページ)	
<b>授業の計画</b>	
<p>第 1 回： 実力診断問題(日商 PC 検定試験問題)  第 2 回： 環境の管理と操作 p.1～36  第 3 回： セルデータの作成 p.37～79  第 4 回： セルやシートの書式設定 p.80～124  第 5 回： シートやブックの管理 p.125～155  第 6 回： 数式や関数の適用 p.156～188  第 7 回： 視覚的なデータの表示 p.189～237  第 8 回： データの共有 p.238～274  第 9 回： 総合課題 1(表計算ソフトの活用演習 1)  第 10 回： 総合課題 2(表計算ソフトの活用演習 1)  第 11 回： 総合課題 3(表計算ソフトの活用演習 1)  第 12 回： 総合課題 4(表計算ソフトの活用演習 2)  第 13 回： 総合課題 5(表計算ソフトの活用演習 3)  第 14 回： 総合復習課題  第 15 回： 総合復習課題  第 16 回： 定期試験</p>	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
<p>規定の時間内に適切な処理を施すという技能が求められるので、授業時間外においても十分な取り組みが必要である。  参考図書：  (1)『MOS Microsoft Excel 2010 対策テキスト&amp; 問題集』 FOM 出版  (2)『日商 PC 検定試験 データ活用 2 級完全マスター 合格のコツがわかる問題集 2010 対応』 FOM 出版  (3)『IC3 対策テキスト 2005』 FOM 出版 2006 年</p>	
<b>評価方法</b>	
<p>主に期末試験の成績によって評価する。出欠状況や授業への取組意欲に関する評価を加味する。  (関連する検定・資格試験の合格者については、期末試験の評価分を A 評価以上として加味する)</p>	
<b>テキスト</b>	
『MOS 攻略問題集 Microsoft Office Excel 2010』 日経 BP ソフトプレス 2011 年	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
<p>特別な理由のない 3 回以上の連続欠席、あるいは 4 回以上の欠席については、受講を放棄したものとみなす。また、遅刻回数 3 回を欠席回数 1 回としてカウントし、減点評価(遅刻 1 回につき-2 点、欠席 1 回-6 点)をします。</p>	

情報処理演習 a		担当教員	みや がわ ゆう いち 宮 川 祐 一
単 位	配当年次	開講形態	選択区分
2 単位	2 年前期・3 年前期	演習	選択
<科目区分> 人間学部学部共通科目 情報科目			

<b>サブ テ ー マ</b>	
情報技術に関する知識と技能の習得(1)	
<b>授業の到達目標</b>	
この授業では、一般企業などにおける情報システムの利用者側としての必要な知識技能を主に習得し、業務の情報化を推進できる幅広い活用能力の獲得を目指す。 経済産業省が実施している「情報処理技術者試験」の一つである「IT パスポート試験」に合格できるレベルの知識と技能を得ることを目標としている。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
情報収集・探索能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
毎回授業の前半はテキストに従って各テーマに基づいた講義、後半は理解を深めるため演習形式で行う。場合によっては、コンピュータ室で演習を行うこともある。	
<b>授業の計画</b>	
第 1 回： 第 1 章 企業と法務 第 2 回： 第 2 章 経営戦略 第 3 回： 第 3 章 システム戦略 第 4 回： 第 4 章 開発技術 第 5 回： 第 5 章 プロジェクトマネジメント 第 6 回： 第 6 章 サービスマネジメント 第 7 回： 第 7 章 基礎理論(1) 第 8 回： 第 7 章 基礎理論(2) 第 9 回： 第 8 章 コンピュータシステム(1) 第 10 回： 第 8 章 コンピュータシステム(2) 第 11 回： 第 9 章 技術要素(1) 第 12 回： 第 9 章 技術要素(2) 第 13 回： 演習問題(1) 第 14 回： 演習問題(2) 第 15 回： 演習問題(3) 第 16 回： 定期試験	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
参考図書： (1)『平成 25 年度 ITパスポート合格教本 CBT 対応』岡嶋裕史 技術評論社 2012 年 (2)『IT パスポート試験 書いて覚える学習ドリル』FOM 出版 2011 年	
<b>評価方法</b>	
期末試験等に約 80%、課題レポートとその発表および小テスト等に約 20%の配点とした評価をする。(関連する検定・資格試験の合格者については、A 評価相当以上として加味する)	
<b>テキスト</b>	
『IT パスポート試験 対策テキスト CBT 試験対応 平成 24-25 年版』FOM 出版 2012	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
小テストは数回行います。特別な理由のない 3 回以上の連続欠席、あるいは 4 回以上の欠席については、受講を放棄したものとみなす。減点評価(遅刻 1 回につき-2 点、欠席 1 回-4 点)をします。	

情報処理演習 b		担当教員	みやがわ ゆういち 宮川 祐一
単位	配当年次	開講形態	選択区分
2 単位	2 年後期・3 年後期	演習	選択
<科目区分> 人間学部学部共通科目 情報科目			

<b>サブ テーマ</b>	
情報技術に関する知識と技能の習得(2)	
<b>授業の到達目標</b>	
<p>前期に開講している情報処理演習 a と同様に、この授業では、一般企業などにおける情報システムの利用者側としての必要な知識技能を主に習得し、業務の情報化を推進できる幅広い活用能力の獲得を目指す。</p> <p>「IT パスポート試験」に合格できるレベルの知識と技能を得ること、さらには IT スキルを世界水準で証明する資格、「CompTIA 認定資格」のうち、コンピューター技術者への登龍門と言われる「A+」を取得するための知識と技能の獲得を目指す。</p>	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
情報収集・探索能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
<p>全 15 回のうち、前半は IT パスポート試験関係、後半は CompTIA 関係の内容とします。</p> <p>毎回授業の前半 1/2 は講義、後半 1/2 は理解を深めるための演習問題を解く演習や実際にパソコンを用いた操作演習に重きをおく形式で行う。</p>	
<b>授業の計画</b>	
<p>第 1 回: ストラテジ系の問題</p> <p>第 2 回: マネジメント系の問題</p> <p>第 3 回: テクノロジ系の問題 1</p> <p>第 4 回: テクノロジ系の問題 2</p> <p>第 5 回: データベースに関する問題</p> <p>第 6 回: 総合演習問題とその対策 1</p> <p>第 7 回: 総合演習問題とその対策 2</p> <p>第 8 回: 総合演習問題とその対策 3</p> <p>第 9 回: コンピュータの歴史と基本機能、コンピュータの基礎知識</p> <p>第 10 回: ハードウェアに関するトラブルシューティングと問題解決</p> <p>第 11 回: オペレーティングシステム、使用の基本原理</p> <p>第 12 回: オペレーティングシステムのインストールおよびアップグレード</p> <p>第 13 回: オペレーティングシステムに関するトラブルシューティングと問題解決</p> <p>第 14 回: プリンタとスキャナ、ネットワーク</p> <p>第 15 回: セキュリティ、コミュニケーションと職業意識</p> <p>第 16 回: 定期試験</p>	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
<p>参考図書: (1)『CompTIA 認定資格受験ライブラリーA+ COMPLETE テキスト IT Technician Designation 編』(株)ウチダ人材開発センタ ダイエックス出版 2008 年</p> <p>(2)『CompTIA 認定資格受験ライブラリーA+ COMPLETE テキスト Essentials 編』(株)ウチダ人材開発センタ ダイエックス出版 2008 年</p> <p>(3)『A+ エッセンシャルテキスト -220-701 対応 CompTIA 学習書シリーズ』TAC 株式会社 TAC 2010 年</p> <p>(4)『A+ IT テクニシャンテキスト -220-702 対応 CompTIA 学習書シリーズ』TAC 株式会社 TAC 2010 年</p>	
<b>評価方法</b>	
<p>期末試験等に約 60%、課題レポートとその発表および小テストに約 40%の配点とした評価をする。(関連する検定・資格試験の合格者については、A 評価相当以上として加味する)</p>	
<b>テキスト</b>	
『IT パスポート試験 対策テキスト CBT 試験対応 平成 24-25 年版』FOM 出版 2012	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
<p>CompTIA(コンプティア)とは、米国の CompTIA(The Computing Technology Industry Association)によって主催される、IT 基礎スキル及び、PC の環境構築能力を証明する国際的に評価の高い試験です。</p> <p>CompTIA A+(エープラス)は、PC や周辺機器、クライアント側のネットワーク設定などを、実務で運用・管理するスキルを問う資格試験です。実務に即した PC 活用スキルを問う資格なので、ヘルプデスク、テクニカルサポート、フィールドエンジニア、インストラクター</p>	

フィールドワーク演習(ボランティア)		担当教員	きん だ あき ひこ 金 田 明 彦
単 位	配当年次	開講形態	選択区分
2 単位	1 年～4 年	演習	選択
＜科目区分＞ 人間学部学部共通科目 修学基礎・フィールドワーク科目			

<b>サブ テーマ</b>	
学外でのフィールドワークを体験し、自己認識、自己啓発の機会とする	
<b>授業の到達目標</b>	
学外における自主的な活動や体験をとおして、通常の講義や演習で得られない視点や考察点を体得する。 本科目では、「ボランティア」、「イベント」、「コンペティション」の3分野への参画体験演習を行い、以後の学修・研究のための動機付けを得ること、また優れた社会人となるための自己認識、自己啓発の機会とすることを目的とする。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
自他の理解能力、コミュニケーション能力、情報収集・探索能力、社会・職業理解能力、役割把握・認識能力、計画実行能力、選択能力、課題解決能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
〔授業の形態・授業の計画〕 本プログラムには、学内外でのボランティア活動体験、社会的イベント・コンペティションなどへの参画体験が含まれる。教室や研究室で学習や研究をするのではなく、実際に社会での直接的体験を通して、優れた社会人となるための自己認識、自己啓発の機会とすることを目的とする。受講希望者は、担当教員に問い合わせること。 ※受講希望者には、「実施計画書」の提出および面談を行い、計画を認めたらうえで実施する。	
<b>授業の計画</b>	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
<b>評価方法</b>	
計画への取り組み、事後のプレゼンテーションや報告書などを総合評価する。	
<b>テキスト</b>	
使用しない。	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
本科目の履修登録については、それぞれの担当教員がガイダンスなどを実施し、各プログラムの参加者をもって受講者とするため、通常の実績登録手続きを要しない。	

フィールドワーク演習(国際交流)		担当教員	モーリス ルイス スプリチャル・ 加藤優子
単 位	配当年次	開講形態	選択区分
2 単位	1 年～4 年	演習	選択
<科目区分> 人間学部学部共通科目 修学基礎・フィールドワーク科目			

<b>サブ テーマ</b>	
学外でのフィールドワークを体験し、自己認識、自己啓発の機会とする	
<b>授業の到達目標</b>	
学外における自主的な活動や体験をとおして、通常の講義や演習で得られない視点や考察点を体得する。 本科目では、原則として、カリフォルニア州立大学フラトン校における「仁愛大学海外短期研修(2 週間プログラム)」への参画体験演習を行い、以後の学修・研究のための動機付けを得ること、また優れた社会人となるための自己認識、自己啓発の機会とすることを目的とする。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
自他の理解能力、コミュニケーション能力、計画実行能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
〔授業の形態・授業の計画〕 本プログラムは、原則として、カリフォルニア州立大学フラトン校における「仁愛大学海外短期研修(2 週間プログラム)」の参加者を受講者として実施する。受講者への事前授業を 10 回程度行い、夏期休暇中に 2 週間の短期留学を実施する。フラトン校見学、フラトン校語学学校 American Language Program(ALP)における語学研修、現地学生との交流、観光などの企画実施を含み、以後の学修・研究のための動機付けを得ることを目指す。 なお、個人参加の海外留学および国内における外国人との国際交流などの企画体験等も対象とする場合があるので、受講希望者は、担当教員に問い合わせること。	
<b>授業の計画</b>	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
<b>評価方法</b>	
事前ガイダンスへの取り組み、現地評価、事後のプレゼンテーションや課題レポートなどを総合評価する。	
<b>テキスト</b>	
ALP より指示がある。	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
仁愛大学海外短期研修の最小催行人数は 6 名とする。よって受講生が少ない場合、非開講とすることがある。本科目の履修登録については、それぞれの担当教員がガイダンスなどを実施し、各プログラムの参加者をもって受講者とするため、通常の実務登録手続きを要しない。	

心理学基礎実験 I		担当教員	やまもとまさよ みずかみきみこ かみじょうまきこ 山本雅代・水上喜美子・上條慎子・ あおいとしや はせがわちあき 青井利哉・長谷川千秋	
単位	配当年次	開講形態	選択区分	
2単位	2年前期	実験	必修	
〈科目区分〉 人間学部心理学科専門科目 基幹科目 心理学基礎				

<b>サブテーマ</b>	
心理学実験の基礎を学ぶ	
<b>授業の到達目標</b>	
心理学が科学であることを理解し、心理的問題をどのように研究していくのか、といった心理学研究の基本的な方法について学ぶ。受講者はグループごとにさまざまなテーマにあたる。先行研究などの情報収集を行い、各自で目的に従いデータを取り、収集したデータや情報の整理・分析・考察する方法を学ぶ。またレポートを提出することにより卒業論文を書く上で重要な形式などを習得することを目指す。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
情報収集・探索能力、計画実行能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
実習形式。グループごとに1課題ずつ実施。課題ごとにレポートを提出する。	
<b>授業の計画</b>	
第1回: オリエンテーション 第2回: 課題1(全5課題:ミューラリヤー・両側性転移・認知的葛藤・記憶・対人魅力) 第3回: 課題1(全5課題:ミューラリヤー・両側性転移・認知的葛藤・記憶・対人魅力) 第4回: 課題1(全5課題:ミューラリヤー・両側性転移・認知的葛藤・記憶・対人魅力) 第5回: 課題1(全5課題:ミューラリヤー・両側性転移・認知的葛藤・記憶・対人魅力) 第6回: 課題1(全5課題:ミューラリヤー・両側性転移・認知的葛藤・記憶・対人魅力) 第7回: 課題2 第8回: 課題2 第9回: 課題3 第10回: 課題3 第11回: 課題4 第12回: 課題4 第13回: 課題5 第14回: 課題5 第15回: まとめ	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
参考図書は授業時提示する	
<b>評価方法</b>	
実習態度、レポート、出席状況などによる総合評価	
<b>テキスト</b>	
(1)『心理学論文の書き方』松井豊 河出書房新社 2010年 (2)『実験とテスト＝心理学の基礎(実習編)』心理学実験市道研究会 培風館 1985年 その他、授業時プリント配布	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
実験の基礎について学ぶだけでなく論文の書き方の指導を行う重要な科目である。1年次に「心理統計」を受講しておくことが望ましい。 原則として、遅刻、欠席、レポート提出の遅延は認めない。	

心理学基礎実験Ⅱ		担当教員	おおもり やすこ みずた としろう 大森慈子・水田敏郎・ あおい としや みのうら ゆきひさ 青井利哉・箕浦有希久	
単位	配当年次	開講形態	選択区分	
2単位	2年後期	実験	選択	
＜科目区分＞ 人間学部心理学科専門科目 基幹科目 心理学基礎				

<b>サブテーマ</b>	
心理学実験の基礎	
<b>授業の到達目標</b>	
心理学の基礎的技術を習得する。心理学における実験の意義を学習すると同時に、少人数グループで基本的な心理学実験をすることによって、実験に含まれる様々な問題にふれる。また、実験によって得られたデータに対する結果の分析方法やその考察のしかたも理解する。レポートの作成を繰り返すことによって、実験結果を科学的事実として報告するための実験論文の書き方を習得する。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
自他の理解能力、コミュニケーション能力、情報収集・探索能力、社会・職業理解能力、役割把握・認識能力、計画実行能力、選択能力、課題解決能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
実習形式。4～6週間で1課題を実施し、課題ごとにレポートを提出する。	
<b>授業の計画</b>	
第1回： オリエンテーション	
第2回： 課題1(認知的葛藤、または、両側性転移)	
第3回： 課題1(認知的葛藤、または、両側性転移)	
第4回： 課題1(認知的葛藤、または、両側性転移)	
第5回： 課題1(認知的葛藤、または、両側性転移)	
第6回： 課題2(概念識別、心的回転、触二点閾、または、係留効果)	
第7回： 課題2(概念識別、心的回転、触二点閾、または、係留効果)	
第8回： 課題2(概念識別、心的回転、触二点閾、または、係留効果)	
第9回： 課題2(概念識別、心的回転、触二点閾、または、係留効果)	
第10回： 課題3(虚偽検出・ラットの学習・短期記憶・尺度構成法の中から1つ選択)	
第11回： 課題3(虚偽検出・ラットの学習・短期記憶・尺度構成法の中から1つ選択)	
第12回： 課題3(虚偽検出・ラットの学習・短期記憶・尺度構成法の中から1つ選択)	
第13回： 課題3(虚偽検出・ラットの学習・短期記憶・尺度構成法の中から1つ選択)	
第14回： 課題3(虚偽検出・ラットの学習・短期記憶・尺度構成法の中から1つ選択)	
第15回： 課題3(虚偽検出・ラットの学習・短期記憶・尺度構成法の中から1つ選択)	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
参考図書：心理学実験指導研究会編『実験とテスト 一解説編一』（培風館） 若島孔文他編『心理学実験マニュアルーSPSS の使い方からレポートへの記述まで』（北樹出版） 利島保・生和秀敏編著『心理学のための実験マニュアル』（北大路書房）	
<b>評価方法</b>	
レポートと出席状況による総合評価	
<b>テキスト</b>	
テキスト 心理学実験指導研究会編「実験とテスト 一実習編一」(培風館)	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
「心理統計Ⅰ・Ⅱ」「心理学基礎実験Ⅰ」の単位を修得していること。 原則として、遅刻、欠席およびレポート提出の遅延は認めない。	



心理検査法 I		担当教員	あらかわまさよし もりとしゆき あおいとしや 荒川正吉・森俊之・青井利哉
単位	配当年次	開講形態	選択区分
2 単位	2 年後期	演習	必修
〈科目区分〉 人間学部心理学科専門科目 基幹科目 心理学基礎			

<b>サブ テーマ</b>	
心をどのようにとらえ測定するか	
<b>授業の到達目標</b>	
精神科学としての心理学は、心のあり方やその機能を質的・量的に可能な限り客観的にとらえようとするために、さまざまな検査法を開発して来た。検査の使用にあたっては、その効用と限界を認識し、技法を習熟し、倫理性をわきまえた態度が求められる。この授業では、幾つかの検査を実際に体験することを通して、各検査技法の基本にある理論、検査の構成、一定の決められた実施法、解釈の仕方などを習得することを目的とする。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
自他の理解能力、コミュニケーション能力、情報収集・探索能力、役割把握・認識能力、選択能力、課題解決能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
3 グループに分かれ、3 人の教員のもとで 3 タイプの検査を交互に実習する。各検査とも、講義、実習、討議、レポート提出が課せられる。	
<b>授業の計画</b>	
第 1 回： オリエンテーション 第 2 回： 検査実施にあたっての共通的な注意 第 3 回： 質問紙法検査① 第 4 回： 質問紙法検査② 第 5 回： 質問紙法検査③ 第 6 回： 質問紙法検査④ 第 7 回： 投影法検査① 第 8 回： 投影法検査② 第 9 回： 投影法検査③ 第 10 回： 投影法検査④ 第 11 回： 描画法検査① 第 12 回： 描画法検査② 第 13 回： 描画法検査③ 第 14 回： 描画法検査④ 第 15 回： まとめ 第 16 回： 期末試験	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
担当教員の指示に基づいて、事前実施方法についてマニュアル等を読み、十分に理解しておくこと。 参考図書：『第 4 版心理テスト法入門』（日本文化科学社）	
<b>評価方法</b>	
検査毎に作成するレポート(20%×3)と、学期末に実施する期末試験(40%)により、総合的に評価する。実習を伴うため、出席状況や受講態度が悪い場合は、厳しく減点する。	
<b>テキスト</b>	
各検査毎に資料を配付する。 必要に応じて参考図書を指示する。	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
実習を含むので出席と熱心な実習態度を期待する。 実習にあたって同グループの友人等に対して自己開示が必要な場合がある。 検査の知識を安易に使用しないこと。	

心理調査法		担当教員	はやかわ せいいち 早川 清一
単位	配当年次	開講形態	選択区分
2単位	2年後期	演習	選択
〈科目区分〉 人間学部心理学科専門科目 基幹科目 心理学基礎			

<b>サブテーマ</b>	
質問紙調査法を修得する	
<b>授業の到達目標</b>	
質問紙調査法について理解し、調査票の作成および統計解析ソフト(SPSS)で分析ができるようになることを目標とする	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
情報収集・探索能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
講義形式の授業とデータ処理の演習を行う。	
<b>授業の計画</b>	
第1回: オリエンテーション 第2回: 質問紙調査法について 第3回: SPSS データ入力法 第4回: SPSS の利用法1 第5回: SPSS の利用法2 第6回: 実際のデータ(大学生活に関する調査)を用いて分析を行う 第7回: 自分たちで調査を行う(調査内容の決定) 第8回: 自分たちで調査を行う(調査票の作成) 第9回: 自分たちで調査を行う(調査票の作成) 第10回: 調査票の回答 第11回: データ入力 第12回: データ解析 第13回: 報告書の作成1 第14回: 報告書の作成2 第15回: 報告書の提出	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
参考図書: (1)『質問紙調査の手順』小塩真司・西口利文編著 ナカニシヤ出版 2007年 (2)『心理学マニュアル 質問紙法』鎌原雅彦編著 北大路書房 1998年 (3)『心理学のためのデータ解析テクニカルブック』森敏昭・吉田寿夫編著 北大路書房 1990年	
<b>評価方法</b>	
確認テスト(2回)、レポート(2回)による評価	
<b>テキスト</b>	
必要に応じて資料を提示する。	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
原則として、1年次の「心理統計Ⅰ・Ⅱ」および「情報リテラシーa,b」の単位を取得していることが必要です。2単位以上の内容になりますので、単位めあてでは、割に合いません。確認テストを2回実施します。真に、実力をつけたい学生のみ受講してください。3年前期の「多変量解析演習」を受講する予定のものは必ず、この心理調査法を受講し単位を取得しておくこと。また、3年次に早川ゼミを希望する人は必ず受講すること。	

心理面接法		担当教員	みずかみ きみこ かたはた まゆみ くぼ ようこ 水上喜美子・片畑真由美・久保陽子
単位	配当年次	開講形態	選択区分
2単位	2年後期	演習	選択
〈科目区分〉 人間学部心理学科専門科目 基幹科目 心理学基礎			

<b>サブテーマ</b>	
心理面接法に関する基礎文献や最新文献を講読し、意見交換を行うことで体験的に心理面接について理解する演習。	
<b>授業の到達目標</b>	
①研究論文を読む力を身につけること。②文献の内容を的確にまとめる力をつけること。③心理面接法について基礎的かつ実践的な知識を身につけること。④人の意見をきちんと聞き、自分の意見を言えること。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
自他の理解能力、情報収集・探索能力、役割把握・認識能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
テーマ別にグループに分かれて、講読およびディスカッションなど学生主体の演習を行う。	
<b>授業の計画</b>	
第1回： オリエンテーション 第2回： 文献のまとめ方について 第3回： 班活動による文献発表(1順目) 第4回： 班活動による文献発表(1順目) 第5回： 班活動による文献発表(1順目) 第6回： 班活動による文献発表(1順目) 第7回： 班活動による文献発表(1順目) 第8回： 班活動による文献発表(1順目) 第9回： 班活動による文献発表(2順目) 第10回： 班活動による文献発表(2順目) 第11回： 班活動による文献発表(2順目) 第12回： 班活動による文献発表(2順目) 第13回： 班活動による文献発表(2順目) 第14回： 班活動による文献発表(2順目) 第15回： まとめ	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
発表者：発表の準備をほかのメンバーを協力して行う。不明な用語などは自主的に調べて、質問に答えられるようにしておく。またディスカッションに向けての話題提供を行う。 参加者：批判的に文献を検討し、発表者の話題提供に対して班で話し合っ意見を出す。	
<b>評価方法</b>	
授業への参加度(出席・積極的発言)50%、発表内容 50%によって総合的に評価する。また演習形式の授業であるため、授業への欠席や遅刻などは厳重に減点を行う。	
<b>テキスト</b>	
テキストは、オリエンテーション時に示す。	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
初回のオリエンテーションで班分けをするので、受講者は必ず出席のこと。	

臨床心理学 I		担当教員	かた はた ま ゆ み 片 畑 真 由 美
単 位	配当年次	開講形態	選択区分
2 単位	2 年前期	講義	選択
〈科目区分〉 人間学部心理学科専門科目 基幹科目 心理学専門			

<b>サブ テ ー マ</b>
臨床心理学概論その①。臨床心理学の基礎知識や特有の考え方について学ぶ。
<b>授 業 の 到 達 目 標</b>
臨床心理学の基礎的理論および心の病を理解し、自分でその内容について説明できるようになること。
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>
自他の理解能力、社会・職業理解能力
<b>授 業 の 概 要 ( 形 態 )</b>
講義中心。必要に応じて視聴覚教材を用いる。また授業時間内にミニレポートを課すこともある。
<b>授 業 の 計 画</b>
第 1 回： オリエンテーション 第 2 回： 臨床心理学の歴史と成り立ちについて 第 3 回： 臨床心理学の理論①(意識・無意識について) 第 4 回： 臨床心理学の理論②(フロイトとユング) 第 5 回： 臨床心理学の理論③(分析心理学について) 第 6 回： 臨床心理学の理論④(心の考え方について) 第 7 回： 身体と心 第 8 回： 悩みと心の病① 第 9 回： 悩みと心の病② 第 10 回： 事例検討① 第 11 回： 事例検討② 第 12 回： 悩みと心の病③ 第 13 回： 障害に対する援助① 第 14 回： 障害に対する援助② 第 15 回： 心理臨床の研究について 第 16 回： 定期試験
<b>授 業 の 予 習 復 習 の ア ド バ イ ス ・ 参 考 図 書</b>
講義内容が分かりにくい場合は積極的に質問をしてください。重要な用語などは、配布した資料を基に自分で調べるなどして各自理解を深めてください。 参考図書は授業中に提示します。
<b>評 価 方 法</b>
テスト…80%、出席および参加態度…20% で総合的に評価する。 私語などで授業の妨害をする者および参加意欲のない者は減点する。
<b>テ キ ス ト</b>
レジュメや資料を配布する。
<b>そ の 他 ( 受 講 上 の 注 意 )</b>

臨床心理学Ⅱ		担当教員	かた はた ま ゆ み 片 畑 真 由 美
単 位	配当年次	開講形態	選択区分
2 単位	2 年後期	講義	選択
＜科目区分＞ 人間学部心理学科専門科目 基幹科目 心理学専門			

<b>サブ テーマ</b>	
臨床心理学概論その②。臨床心理学の基礎知識や特有の考え方について学ぶ。	
<b>授業の到達目標</b>	
心理療法の基礎的理論および心的発達を理解し、自分でその内容について説明できるようになること。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
自他の理解能力、社会・職業理解能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
講義中心。必要に応じて視聴覚教材を用いる。また授業時間内にミニレポートを課すこともある。	
<b>授業の計画</b>	
第 1 回： オリエンテーション 第 2 回： 人の一生 第 3 回： 臨床心理学と心的発達① 第 4 回： 臨床心理学と心的発達② 第 5 回： 臨床心理学と心的発達③ 第 6 回： 事例検討① 第 7 回： 事例検討② 第 8 回： 心理療法とは 第 9 回： さまざまな心理療法① 第 10 回： さまざまな心理療法② 第 11 回： さまざまな心理療法③ 第 12 回： 臨床心理士の仕事① 第 13 回： 臨床心理士の仕事② 第 14 回： 臨床心理士の仕事③ 第 15 回： 心理臨床の専門性 第 16 回： 定期試験	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
講義内容が分かりにくい場合は積極的に質問をしてください。重要な用語などは、配布した資料を基に自分で調べるなどして理解を深めてください。 参考図書は授業中に提示します。	
<b>評価方法</b>	
テスト…80%、出席および参加態度…20% で総合的に評価する。 私語などで授業の妨害をする者および参加意欲のない者は減点する。	
<b>テキスト</b>	
レジュメや資料を配布する。	
<b>その他(受講上の注意)</b>	

生涯発達心理学 I		担当教員	あか ざわ じゅん こ 赤 澤 淳 子
単 位	配当年次	開講形態	選択区分
2 単位	2 年前期	講義	選択
＜科目区分＞ 人間学部心理学科専門科目 基幹科目 心理学専門			

<b>サブ テーマ</b>	
人間の生涯を通して展開される発達	
<b>授業の到達目標</b>	
本講義では、受胎から死に至るライフコースを通じての、人間の行動の恒常性と変化を検討する。「発達」といえば、これまではとかく幼児期等の人生途上の特定の時期に焦点を当て検討されてきた。この授業では「発達」という概念を、とらえなおすことにより、人間の生涯を通して展開される発達についての理解を深めることを目的とする。また、その過程において、過去の自己の発達をみつめ直し、自身や他者への理解を深めることを目指す。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
自他の理解能力、役割把握・認識能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
講義を中心として進めるが、必要に応じ視聴覚教材やディスカッションを導入する。	
<b>授業の計画</b>	
第 1 回： 生涯発達心理学とは 第 2 回： 発達の概念 第 3 回： 発達段階理論 第 4 回： 発達段階理論 第 5 回： 発達を規定する要因 第 6 回： 発達を規定する要因 第 7 回： 人間の発達の特徴 第 8 回： 人間の発達の特徴 第 9 回： 出生前の発達 第 10 回： 新生児期の発達 第 11 回： 身体と運動の発達 第 13 回： 認知の発達 第 14 回： 認知の発達 第 15 回： まとめ	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
参考文献： 『講座 生涯発達心理学』第 1 巻～第 5 巻 無藤隆・やまだようこ編 金子書房 1995 年	
<b>評価方法</b>	
授業内の小テスト 60%、出席率および授業態度 20%、レポートおよび講義時間中の応答 20%	
<b>テキスト</b>	
テキストは使用しない。プリント資料を適宜配布する。	
<b>その他(受講上の注意)</b>	

生涯発達心理学Ⅱ		担当教員	あか ざわ じゅん こ 赤 澤 淳 子
単 位	配当年次	開講形態	選択区分
2 単位	2 年後期	講義	選択
〈科目区分〉 人間学部心理学科専門科目 基幹科目 心理学専門			

<b>サブ テーマ</b>	
各発達段階における発達の特徴を理解する	
<b>授業の到達目標</b>	
本講義では、「生涯発達心理学Ⅰ」で学んだ内容をふまえ、各発達段階の発達の特徴を理解することを目的とする。その際、各発達段階で生じる可能性が高い不適応状態についても取り上げ、その原因と対応について理解する。また、本講義を通して、自分自身の生涯発達について考察する。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
自他の理解能力、役割把握・認識能力、コミュニケーション能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
講義を中心として進めるが、必要に応じ視聴覚教材やディスカッションを導入する。	
<b>授業の計画</b>	
第1回： 言語の発達 第2回： 言語の発達 第3回： 情緒の発達 第4回： 情緒の発達 第5回： 自己の発達 第6回： 自己の発達 第7回： 児童期の発達 第8回： 児童期の発達 第9回： 青年期の発達 第10回： 青年期の発達 第11回： 中年期の発達 第12回： 中年期の発達 第13回： 老年期の発達 第14回： 老年期の発達 第15回： まとめ	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
参考文献：無藤隆・やまだようこ編『講座 生涯発達心理学』第1巻～第5巻（金子書房）	
<b>評価方法</b>	
授業内の小テスト60%、出席率および授業態度 20%、レポートおよび講義時間中の応答 20%	
<b>テキスト</b>	
大野木裕明・千野美和子・赤澤淳子・後藤智子・廣澤愛子著「昔話ケース・カンファレンス」ナカニシヤ出版	
<b>その他(受講上の注意)</b>	

認知心理学		担当教員	すぎしま いちろう 杉島 一郎
単位	配当年次	開講形態	選択区分
2単位	2年前期	講義	選択
〈科目区分〉 人間学部心理学科専門科目 基幹科目 心理学専門			

<b>サブテマ</b>	
人間の認知を考える	
<b>授業の到達目標</b>	
「知覚・記憶・言語・思考」など、人間の認知に関するトピックを紹介する。認知心理学とは、言うなれば、環境との対応と環境に対する働きかけ、あるいは他者とのコミュニケーションといった生活していくうえでその根幹となる機能について考えていく領域である。現象としてではなく、認知に関する理論や研究法について考察することで、問題解決能力を身につけることをめざす。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
自他の理解能力、コミュニケーション能力、情報収集・探索能力、課題解決能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
講義を中心に進めるが、毎時間講義内容についてのブリーフレポートを提出させる。	
<b>授業の計画</b>	
第1回： 認知心理学とは 第2回： 知覚[1] 第3回： 知覚[2] 第4回： 注意 第5回： 記憶[1]記憶の基本過程 第6回： 記憶[2]短期記憶とワーキングメモリー 第7回： 記憶[3]長期記憶(意味記憶、エピソード記憶、手続記憶) 第8回： 知識と記憶 第9回： スキーマとメタ記憶 第10回： 言語の学習[1]言語習得のメカニズム 第11回： 言語の学習[2]言語と思考 第12回： 言語の理解 第13回： 概念と推理 第14回： 思考と問題解決 第15回： まとめ 第16回： 定期試験	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
授業の終わりに、次の授業までにしてほしいことを指示する。 授業内容に関する質問等がある場合は積極的に研究室に来て質問すること。 参考図書は授業において適宜紹介する。	
<b>評価方法</b>	
毎回行うブリーフレポート(20%)と定期試験(80%)による総合評価 また、出席に応じて加減点する	
<b>テキスト</b>	
テキストは使用せず適宜プリントを配布する。	
<b>その他(受講上の注意)</b>	



生理心理学		担当教員	みず た とし ろう 水 田 敏 郎
単 位	配当年次	開講形態	選択区分
2 単位	2 年前期	講義	選択
〈科目区分〉 人間学部心理学科専門科目 基幹科目 心理学専門			

<b>サブ テーマ</b>	
脳と心の科学	
<b>授業の到達目標</b>	
ヒトを含めた動物全般の心的活動には、脳が大きく関わっています。本講義では、様々な心理機能の背景となる(脳を中心とした)生理学的メカニズムを理解することを目標とします。そのために、講義においては、大脳生理学に関する知識や、様々な心理学的研究法に関する知識が必要になります。これらのことについて15週にわたり解説していきます。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
自他の理解能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
講義形式。授業全体を通じて身体(脳)と心の関係性について論じます。前半は、脳の基本構造と働き、ならびに心的活動との関連性について講義します。後半では、ヒトの心的活動との関わりが深い生理的反応について紹介し、その基礎と応用について解説します。	
<b>授業の計画</b>	
第1回： オリエンテーション(授業の進め方と概要) 第2回： 脳・神経系と心的活動 第3回： 脳・神経系の基本構造 第4回： 脳の構造 第5回： 脳・神経系のはたらき 第6回： 生理心理学とは 第7回： 生理心理学で用いられる生体反応① 第8回： 生理心理学で用いられる生体反応② 第9回： 脳波－脳波の記録と分析－ 第10回： 事象関連電位 第11回： その他の脳機能の測定① 第12回： その他の脳機能の測定② 第13回： 生理心理学の応用①－虚偽検出－ 第14回： 生理心理学の応用②－障害児教育への応用－ 第15回： まとめ 第16回： 定期試験	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
授業に用いる資料は取得方法をその都度指示します。資料の解説・補足という形で授業を進めますので、授業用資料(ノート)を読み返すことで理解を深めてください。	
参考図書： (1)「脳と心」 宮田洋編集 倍風館 (2)「新生理心理学」全3巻 宮田洋監修 北大路書房	
<b>評価方法</b>	
出席と期末テストによる総合評価。	
<b>テキスト</b>	
テキストは使用しない。資料の取得方法については、その都度指示します。	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
実験心理学的方法で卒業研究をしてみたいという人には受講することを勧めます。	

産業・組織心理学 I		担当教員	はやかわ せい いち 早川 清一
単位	配当年次	開講形態	選択区分
2単位	2年前期	講義	選択
〈科目区分〉 人間学部心理学科専門科目 基幹科目 心理学専門			

<b>サブテーマ</b>	
人々が、やりがいを持って仕事をするための要因は何か	
<b>授業の到達目標</b>	
産業組織の中で働く人々の心理・行動について概説する。具体的には、職場適応、職業適性、リーダーシップ等について解説する予定である。さらに日本的に人間関係についても理解を深める。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
社会・職業理解能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
前回の復習 10 分、講義 70 分、まとめ 10 分。講義はパワーポイントを用いて行う。	
<b>授業の計画</b>	
第 1 回： オリエンテーション 第 2 回： 産業心理学の出発 第 3 回： モダンタイムス 第 4 回： 生産方式の変化 第 5 回： リーダーシップ 1 第 6 回： リーダーシップ 2/モラール 第 7 回： リーダーシップ 3 第 8 回： 職場適応・職業適性 第 9 回： 動作分析/職務分析 第 10 回： 日本人論 第 11 回： 日本的人間関係 1 第 12 回： 日本的人間関係 2 第 13 回： 日本的人間関係 3 第 14 回： 日本的人間関係 4 第 15 回： 労働観と宗教	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
公開してある印刷資料を各自印刷し、授業に臨むこと。 講義で使用したパワーポイントのファイルも公開してあるので、復習に利用すること。 参考図書は随時紹介する。	
<b>評価方法</b>	
成績評価は、レポートで行う。	
<b>テキスト</b>	
テキストは使用しない。	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
定期試験の受験資格の要件「欠席数が、実施授業時間数の 3 分の 1 を超えていないこと」を確認するため、出欠は毎時間とります。授業中の私語は厳禁。3 年次に早川ゼミを希望する人は必ず受講すること。	

産業・組織心理学Ⅱ		担当教員	はやかわ せい いち 早川 清一
単位	配当年次	開講形態	選択区分
2単位	2年後期	講義	選択
〈科目区分〉 人間学部心理学科専門科目 基幹科目 心理学専門			

<b>サブテーマ</b>	
人々が、やりがいを持って仕事をするための要因は何か	
<b>授業の到達目標</b>	
産業組織の中で働く人々の心理・行動について概説する。具体的には、ストレス、ワークモチベーション、生きがい等について解説する予定である。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
社会・職業理解能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
前回の復習 10 分、講義 70 分、まとめ 10 分。講義はパワーポイントを用いて行う。	
<b>授業の計画</b>	
第 1 回： オリエンテーション 第 2 回： ストレス1 第 3 回： ストレス2 第 4 回： ストレス3 第 5 回： ストレス4 第 6 回： ワークモチベーション 1 第 7 回： ワークモチベーション 2 第 8 回： ワークモチベーション 3 第 9 回： 教育訓練 第 10 回： ワーキング・プア 1 第 11 回： ワーキング・プア 2 第 12 回： 日本人の勤労観 第 13 回： 賃金管理 第 14 回： 就業条件管理 第 15 回： 生きがい	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
公開してある印刷資料を各自印刷し、授業に臨むこと。 講義で使用したパワーポイントのファイルも公開してあるので、復習に利用すること。 参考図書は随時紹介する。	
<b>評価方法</b>	
成績評価は、レポートで行う。	
<b>テキスト</b>	
テキストは使用しない。	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
定期試験の受験資格の要件「欠席数が、実施授業時間数の 3 分の 1 を超えていないこと」を確認するため、出欠は毎時間とります。授業中の私語は厳禁。3 年次に早川ゼミを希望する人は必ず受講すること。	

社会心理学 I		担当教員	やま もと まさ よ 山本雅代
単位	配当年次	開講形態	選択区分
2単位	2年前期	講義	選択
〈科目区分〉 人間学部心理学科専門科目 基幹科目 心理学専門			

<b>サブテマ</b>	
社会心理学とは何か	
<b>授業の到達目標</b>	
<p>人間の社会的行動について心理学の立場から解説する。</p> <p>社会心理学 I では、社会の中の個人に注目し、自己意識、自己概念がどのように形成され、また個人が他者をどのように認知、理解し、自己の行動を決定・表現するのか、といった問題に注目する。授業では、さまざまな日常場面での行動を織り交ぜながら概説する。また、授業の一部にゲーミングを取り入れ、実際の社会集団、組織、社会状況に近い体験を通して心理的理解を深め自己成長を目的として授業を行う。</p>	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
自他の理解能力、コミュニケーション能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
講義形式。必要に応じてゲーミング、ビデオ講義を行う。	
<b>授業の計画</b>	
<p>第1回： 社会心理学について</p> <p>第2回： 自己意識</p> <p>第3回： 自己概念</p> <p>第4回： 自己呈示</p> <p>第5回： 対人認知</p> <p>第6回： 対人魅力</p> <p>第7回： 対人魅力</p> <p>第8回： 対人魅力</p> <p>第9回： 社会的態度</p> <p>第10回： 態度形成と変容</p> <p>第11回： 社会的動機</p> <p>第12回： 対人葛藤とストレス</p> <p>第13回： 異文化交流ゲーム</p> <p>第14回： 異文化交流ゲーム</p> <p>第15回： まとめ</p>	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
授業の中でそのつど指示する。	
<b>評価方法</b>	
ゲームへの参加、レポートの提出、小テスト、授業態度、出席状況によって総合的に評価する。	
<b>テキスト</b>	
授業中にプリントを配布	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
ゲームには出席することが望ましい。ゲームは数時間を要する場合があります、実施日については授業の状況をみてその都度調節変更する場合があります。	

社会心理学Ⅱ		担当教員	やまもとまさよ 山本雅代
単位	配当年次	開講形態	選択区分
2単位	2年後期	講義	選択
〈科目区分〉 人間学部心理学科専門科目 基幹科目 心理学専門			

<b>サブテーマ</b>	
社会心理学とは何か	
<b>授業の到達目標</b>	
人間の社会的行動について心理学の立場から解説する。社会心理学Ⅱでは、社会の中の個人、集団の中の個人に注目して授業を行う。主なテーマは、社会的動機、コミュニケーション、社会的態度、集団や集合行動を扱い、心理的諸問題を基本に、社会、日常場面で起こる様々な人間行動を織り交ぜながら概説する。また、授業の一部では大掛かりなゲーミングに参加してもらう。これにより大学生活ではあまり遭遇しない社会、集団の概念を理解し、また心理的葛藤、集団葛藤、問題解決など、社会生活に近い体験を通して心理的理解をより深め、社会や社会の中の一部である自己をみつけ自己成長することを目的として授業を行う。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
自他の理解能力、社会・職業理解能力、選択能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
講義形式。必要に応じてビデオ等を使用する。また特別講義としてゲーミング(模擬社会ゲーム)を実施する予定。	
<b>授業の計画</b>	
第1回： 状況の力 第2回： 同調について 第3回： 服従について 第4回： 攻撃行動 第5回： 攻撃行動 第6回： 攻撃行動 第7回： うわさの心理 第8回： 集団について 第9回： 集団と人間関係 第10回： リーダーシップ 第11回： 援助行動 第12回： 援助行動 第13回： パニックについて 第14回： ゲーム理論 第15回： まとめ	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
授業時に指示する	
<b>評価方法</b>	
シミュレーションゲームへの出席、レポートの提出、小テスト、出席態度によって総合的に評価を行う。	
<b>テキスト</b>	
授業中にプリントを配布	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
ゲームには出席することが望ましい。ゲームは数時間を要する場合があります。実施日については授業の状況をみてその都度調節変更する場合があります。土曜日に実施する場合がありますので予定に気をつけること。	

心理学特別講義		担当教員	あかざわ あらかわ おおもり すぎしま にしむら 赤澤・荒川・大森・杉島・西村・ はやかわ みずた みわき よしだ みずかみ 早川・水田・三脇・吉田・水上・ もり やまもと かたはた かまた くぼ 森・山本・片畑・鎌田・久保
単位	配当年次	開講形態	選択区分
2単位	2年前期	講義	必修
＜科目区分＞ 人間学部心理学科専門科目 基幹科目 心理学専門			

<b>サブテーマ</b>	
心理学の専門的なトピック	
<b>授業の到達目標</b>	
心理学におけるさまざまな専門領域のトピックに触れる。最新の研究や応用的分野の内容を知ること、自らの関心を高め、ゼミや卒業研究のテーマ選びの一助とする。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
社会・職業理解能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
心理学科全教員がそれぞれ1回の講義を担当するオムニバス形式。	
<b>授業の計画</b>	
第1回：オリエンテーション	各教員が専門とする内容
第2回：	
第3回：	
第4回：	
第5回：	
第6回：	
第7回：	
第8回：	
第9回：	
第10回：	
第11回：	
第12回：	
第13回：	
第14回：	
第15回：	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
授業時に随時紹介される。	
<b>評価方法</b>	
毎授業時に提出する小レポートと出席状況による総合評価	
<b>テキスト</b>	
使用しない	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
3年生から始まるゼミ(心理学特別演習Ⅰ・Ⅱ)の担当教員や4年生の卒業研究の内容を決めるために、聴講することが前提となる重要な授業である。週ごとに担当教員が変わるので、欠席をせず毎回出席することが望まれる。	

言語コミュニケーション論		担当教員	やはしちえ 矢橋知枝
単位	配当年次	開講形態	選択区分
2単位	2年前期	講義	選択
〈科目区分〉 人間学部コミュニケーション学科専門科目 基幹科目 人間関係・コミュニケーション系			

<b>サブテーマ</b>	
コミュニケーションにおける言語の役割	
<b>授業の到達目標</b>	
人間関係を維持する上で必要な言語的要素を理解するため、コミュニケーションにおいて中心的な位置を占める言語の役割を、社会・文化的観点から考察する	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
自他の理解能力、コミュニケーション能力、情報収集・探索能力、選択能力、課題解決能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
講義および演習	
<b>授業の計画</b>	
第1回： オリエンテーション	
第2回： コミュニケーションにおける言語の機能	
第3回： 人の発達と社会(1)	
第4回： 人の発達と社会(2)	
第5回： 言語獲得時のコミュニケーション(1)	
第6回： 言語獲得時のコミュニケーション(2)	
第7回： 社会とコミュニケーション(1)	
第8回： 社会とコミュニケーション(2)	
第9回： 社会とコミュニケーション(3)	
第10回： 社会とコミュニケーション(4)	
第11回： 文化とコミュニケーション(1)	
第12回： 文化とコミュニケーション(2)	
第13回： 文化とコミュニケーション(3)	
第14回： 文化とコミュニケーション(4)	
第15回： まとめ	
第16回： 定期試験	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
授業時に指示する	
<b>評価方法</b>	
定期試験 60%、授業レポート・授業貢献 40%	
<b>テキスト</b>	
テキストは使用せず、適宜プリントを配布する	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
遅刻3回で欠席1回分とみなす 必ず辞書(電子辞書可)を持参すること	

非言語コミュニケーション論		担当教員	やま もと まさ よ 山本雅代
単 位	配当年次	開講形態	選択区分
2 単位	2 年後期	講義	選択
＜科目区分＞ 人間学部コミュニケーション学科専門科目 基幹科目 人間関係・コミュニケーション系			

<b>サブ テーマ</b>	
非言語コミュニケーションによる情報伝達	
<b>授業の到達目標</b>	
対人コミュニケーションにおいて私たちは言語以外にもさまざまなチャンネルを使用しコミュニケーションしている。そのチャンネルをいかに多く使用し、どのように使用すべきか、どのような状況でどのような効果があるのか論じる。また、国際交流が深まる中、言語が使えない状況での非言語コミュニケーションは重要な役割を果たすと思われる。しかしながら理解不足から上手にコミュニケーションがとれないといった状況も頻繁に遭遇する。異文化コミュニケーションの状況、非言語体験、異文化接触の際の心理状態、問題解決についてゲームを通じて自己理解、他者・集団理解していくことを目的として授業を行う。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
自他の理解能力、コミュニケーション能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
基本的に講義形式だが、より理解を深めるために、VTR、シミュレーションゲームや簡単な実験を行う。	
<b>授業の計画</b>	
第1回： 非言語コミュニケーションとは 第2回： 言語的コミュニケーションと非言語コミュニケーションの違いⅠ 第3回： 言語的コミュニケーションと非言語コミュニケーションの違いⅡ 第4回： 対人認知と印象形成Ⅰ 第5回： 対人認知と印象形成Ⅱ 第6回： 表情 第7回： ジェスチャーと表情 第8回： 視線Ⅰ 第9回： 視線Ⅱ 第10回： プレゼンテーションと非言語コミュニケーション 第11回： 空間把握 第12回： 異文化コミュニケーションと非言語 第13回： 異文化コミュニケーションゲームⅠ 第14回： 異文化コミュニケーションゲームⅡ 第15回： まとめ	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
授業時に指示する。	
<b>評価方法</b>	
シミュレーションゲームへの出席、授業態度、小テストによる総合評価。	
<b>テキスト</b>	
テキストは使用しない。授業中にプリント配布	
<b>その他(受講上の注意)</b>	



パーソナル・コミュニケーション論a		担当教員	たに まさ のり 谷 雅 徳
単 位	配当年次	開講形態	選択区分
2 単位	2 年前期	講義	選択
〈科目区分〉 人間学部コミュニケーション学科専門科目 基幹科目 人間関係・コミュニケーション系			

<b>サブ テーマ</b>	
CREATIVE MESS IS BETTER THAN TIDY IDLENESS	
<b>授業の到達目標</b>	
<p>他者とのコミュニケーションがしっかり取れないと作業がはかどりません。あるいはただ、他人まかせになってしまうやっかいな課題です。うまくコミュニケーションが取れるようになると意識が個人を超えて、1人では考えつかないような様々な発想が生まれ、最初に誰も考えつかなかったような装置が出来上がります。作る前に考え込むのではなく、実際に手を動かし、作りながら考えて下さい。グループワークとしては最初は他人同士でどこちなかった感覚が、最後には一つの事を成し遂げる達成感に変わる瞬間を味わって欲しい。</p>	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
コミュニケーション能力、役割把握・認識能力、課題解決能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
3日間連続の夏期集中講義としてワークショップ形式を取り入れ、ピタゴラススイッチならぬ「スタコラススイッチ」装置を創ります。	
<b>授業の計画</b>	
初日	第1回: DVD鑑賞。 第2回: グルーピング。GWトレーニング1 第3回: GWトレーニング2。 第4回: まず平面でなんとなく考えてみる。 第5回: 平面で考えた事を立体で考える(2次元から3次元)
2日目	第6回: 考えてから作るのではなく、実際に手を動かして作りながら考える。 第7回: 誰かにただ従うのではなく、自分の考えと組み合わせまったく違うものを作り出す。 第8回: 自分の意見を殺さずに、相手も活かす方法を。 第9回: どうすればみんなとうまくコミュニケーションが取れるのか? 第10回: 他人と協力しながら一つのものを作り上げる。
3日目	第11回: そうならなかった事を悩むのではなく、そうなってしまった事を利用する。 第12回: 柔軟な思考。こだわりは良いが囚われて(固執)はいけない。 第13回: グループ全員で一つになる。 第14回: 最終調整。 第15回: 本番
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
計画した事を実行するのではなく、計画せずに行き当たりばったりを楽しむ事で創発力を鍛えます。あまり深く考え込まず、その場まかせでやって見て下さい。その方が以外に面白い装置が出来ます。	
<b>評価方法</b>	
毎回提出してもらおうブリーフレポート、及び課題に取り組む姿勢及び発表内容等の総合評価	
<b>テキスト</b>	
現場で配布します。	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
受講生の人数は最大40名に制限します。受講希望者が定員を上回る場合は申し込み順とします。	

プレゼンテーション技法a		担当教員	きた がみ しん じ 北 神 慎 司
単 位	配当年次	開講形態	選択区分
2 単位	2 年前期	演習	選択
〈科目区分〉 人間学部コミュニケーション学科専門科目 基幹科目 人間関係・コミュニケーション系			

<b>サブ テーマ</b>	
マルチメディアを活用したプレゼンテーション技法の研究	
<b>授業の到達目標</b>	
<p>プレゼンテーションについて概説するとともに、多様な実例をもとにその技法を研究する。このため、対象、利用媒体など異なる環境におけるプレゼンテーションの映像的記録をもとに、それに伴う身体表現・音響などの特徴、効果について分析する。また、その結果についてのプレゼンテーションを学生自身で行い、相互に評価・検討を行う。</p> <p>上記各段階において情報の視覚化・マルチメディア化を行い、パソコンを直接操作するデジタルプレゼンテーションの演習を通して多様な情報の取扱いと情報表現能力を身につけることを目標とする。</p>	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
コミュニケーション能力、情報収集・探索能力、計画実行能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
Power Point を用いてデジタルプレゼンテーションのための技法を習得する演習を行う。各段階のまとめとして、グループごとにプレゼンテーションと相互評価を実施する。	
<b>授業の計画</b>	
<p>第 1 回： イントロダクション(プレゼンテーションとは?)</p> <p>第 2 回： ビジュアル・コミュニケーションって何?</p> <p>第 3 回： ビジュアル・コミュニケーションの概説(1)</p> <p>第 4 回： ビジュアル・コミュニケーションの概説(2)</p> <p>第 5 回： ビジュアライゼーション(視覚化)の演習(1)</p> <p>第 6 回： ビジュアライゼーション(視覚化)の演習(2)</p> <p>第 7 回： ビジュアル・デザインの演習(1)</p> <p>第 8 回： ビジュアル・デザインの演習(2)</p> <p>第 9 回： プレゼンテーションの企画とスライドの作成(1)</p> <p>第 10 回： プレゼンテーションの企画とスライドの作成(2)</p> <p>第 11 回： プレゼンテーションの企画とスライドの作成(3)</p> <p>第 12 回： プレゼンテーション演習と評価(1)</p> <p>第 13 回： プレゼンテーション演習と評価(2)</p> <p>第 14 回： プレゼンテーション演習と評価(3)</p> <p>第 15 回： プレゼンテーション演習と評価(4)</p>	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
予習として、テキストを用いる授業の前には、必ず当該箇所をあらかじめ読み、疑問や質問等を考えておくこと。また、復習としては、授業時のプリントや説明に基づいて、各自、授業内容をノートにまとめておくこと。	
<b>評価方法</b>	
課題等の提出物を 30%、授業における発表を 40%、授業中の意欲を 30%として評価する。欠席・遅刻は減点の対象とする。	
<b>テキスト</b>	
ワイルマン、R.E.・井上智義・北神慎司・藤田哲也 『ビジュアル・コミュニケーション』 北大路書房 2002 年	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
<p>各回の授業は、相互に関連性を持っているため、できるだけ欠席はしないようにすること(やむを得ず欠席する場合は、出席した受講者に授業内容を確認しておくこと)。</p> <p>受講生の人数は最大 50 名に制限する。</p>	

プレゼンテーション技法b		担当教員	ほん だ さち こ 本 多 幸 子
単 位	配当年次	開講形態	選択区分
2 単位	2 年後期	演習	選択
〈科目区分〉 人間学部コミュニケーション学科専門科目 基幹科目 人間関係・コミュニケーション系			

<b>サブ テーマ</b>	
マルチメディアを活用したプレゼンテーション技法の研究	
<b>授業の到達目標</b>	
<p>プレゼンテーションについて概説するとともに、多様な実例をもとにその技法を研究する。このため、対象、利用媒体など異なる環境におけるプレゼンテーションの映像的記録をもとに、それに伴う身体表現・音響などの特徴、効果について分析する。また、その結果についてのプレゼンテーションを学生自身で行い、相互に評価・検討を行う。この授業を通して、コミュニケーション能力や情報収集・探索能力を高めることを目指す。</p> <p>上記各段階において情報の視覚化・マルチメディア化を行い、パソコンを直接操作するデジタルプレゼンテーションの演習を通して多様な情報の取扱いと情報表現能力を身につけることを目標とする。</p>	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
コミュニケーション能力、情報収集・探索能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
Power Point を用いてデジタルプレゼンテーションのための技法を習得する演習を行う。各段階のまとめとしてグループごとにプレゼンテーションと相互評価を実施する。	
<b>授業の計画</b>	
第 1 回： わかりやすいプレゼンテーションのために 第 2 回： 視覚情報の種類と選択 第 3 回： 言語情報と視覚情報のバランス 第 4 回： Word を活用した資料作成の方法(1) 第 5 回： Word を活用した資料作成の方法(2) 第 6 回： Word を活用して資料作成 第 7 回： Excel を活用した資料作成の方法(1) 第 8 回： Excel を活用した資料作成の方法(2) 第 9 回： Excel を活用した資料作成 第 10 回： Power Point を活用した資料作成の方法(1) 第 11 回： Power Point を活用した資料作成の方法(2) 第 12 回： Power Point を活用した資料作成 第 13 回： プレゼンテーションの準備 第 14 回： プレゼンテーション 第 15 回： まとめ	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
授業で習得した情報表現能力を他の場面でも活用できることを目指して、復習に励んで下さい。 参考図書：ワイルマン、R.E.・井上智義・北神慎司・藤田哲也 『ビジュアル・コミュニケーション』 北大路書房 2002 年	
<b>評価方法</b>	
課題等の提出物及び授業における発表を 40%、授業態度及び出席を 60%として評価する。	
<b>テキスト</b>	
なし	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
Power Point の基本的な操作は修得しているものとして演習を行う。また、個人発表の際には資料作成等の期限を必ず守ること。 受講生の人数は最大 50 名に制限する。	

地域経済論		担当教員	こばやし だい すけ 小林 大 祐
単 位	配当年次	開講形態	選択区分
2 単位	2 年後期	講義	選択
＜科目区分＞ 人間学部コミュニケーション学科専門科目 基幹科目 社会・文化系			

<b>サブ テ ー マ</b>	
経済社会の変動と地域生活の変容	
<b>授業の到達目標</b>	
この講義では、産業化・都市化をテーマとして、地域社会における生活変容のプロセスを考察する。とりわけ経済という視点から福井(越前地域)をはじめとする地域社会の問題点を学ぶ。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
社会・職業理解能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
説明のため、適宜レジュメを配布する。また授業中にアンケートなどの小課題の提出を求めることがある(不定期)。	
<b>授業の計画</b>	
第 1 回: ガイダンス	
第 2 回: 経済発展と地域社会①	
第 3 回: 経済発展と地域社会②	
第 4 回: 経済発展と地域社会③	
第 5 回: 人口集中と都市問題:都市社会学的視点①	
第 6 回: 人口集中と都市問題:都市社会学的視点②	
第 7 回: スプロール化としての「郊外」化現象	
第 8 回: 「郊外」の社会経済的特徴	
第 9 回: 公共事業の功罪①	
第 10 回: 公共事業の功罪②	
第 11 回: 福井を取り巻く社会環境①	
第 12 回: 福井を取り巻く社会環境②	
第 13 回: 福井を取り巻く社会環境③	
第 14 回: 福井を取り巻く社会環境④	
第 15 回: まとめ	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
参考文献: 『都市の社会学—社会がかたちをあらわすとき』 町村敬志・西沢晃彦 有斐閣 2000 年	
<b>評価方法</b>	
講義中の小課題の提出状況および最終課題レポートによって成績評価を行う。 全体の配分は小課題提出 40%、最終課題レポート 60%とする。	
<b>テキスト</b>	
一定のテキストは使用しない。	
<b>その他(受講上の注意)</b>	

地域社会論		担当教員	しま おか はじめ 島 岡 哉
単位	配当年次	開講形態	選択区分
2 単位	2 年後期	講義	選択
〈科目区分〉 人間学部コミュニケーション学科専門科目 基幹科目 社会・文化系			

<b>サブ テーマ</b>	
地域環境学概論	
<b>授業の到達目標</b>	
本講義は、「地域」「環境」を大きなキーワードとし、社会変動の中でどのように地域社会が変容を遂げたのかについて学ぶ。取り扱うテーマは、民俗文化から近年のまちおこし、「共生社会」を目指したボランティアの実践まで多岐にわたる。自らが暮らし、生きてゆく地域を対象化してとらえるために、他の地域の事例と分析を主に扱う。それらを通して、地域特性を析出する力と、応用可能性を身につける。なお、本講義は、1 年次必修「現代社会論 a(越前学概論)」で扱ったそれぞれの学問領域の考え方を、もう一段階レベルアップした形で、また、領域横断的な形で、地域社会の分析に適用・考察した内容となる。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
自他の理解能力、役割把握・認識能力、計画実行能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
講義を主とする。各回の講義内容の理解度をはかるため、および双方向の講義を目指すために、リアクション・ペーパーを書いてもらう。	
<b>授業の計画</b>	
第 1 回: ガイダンス—日常生活世界から地域文化を捉える 第 2 回: 地域の多様性と社会構造—大都市と過疎高齢化地域の二極化 第 3 回: 地域の伝統文化の変貌—京都・祇園祭の事例から 第 4 回: 移住とむらおこし—「田舎暮らし」の事例から 第 5 回: レジャーとむらおこし—「バス釣り」の事例から 第 6 回: 住環境とエコロジー—リサイクル社会をめぐる 第 7 回: 地域の伝統的景観の「保存」と環境の変容—木屋町とミナミ 第 8 回: 地域の遺産を観光に—ツーリズム・観光・表象の現在 第 9 回: 地域社会の危機と再生①—阪神・淡路大震災(1995) 第 10 回: 地域社会の危機と再生②—日本海重油災害(1997) 第 11 回: 地域社会の危機と再生③—三重県東紀州水害と山津波、私の水害復興経験から(2004) 第 12 回: 地域社会の危機と再生④—東日本大震災(2011)、紀伊半島大水害(2011) 第 13 回: 地域社会の危機と再生⑤—長期的かつ多角的な復興支援を目指して 第 14 回: 地域「共生」社会を目指して—ボランティアの多様な形、ユニバーサル・デザイン 第 15 回: 地域環境学をさらに深めるために—3 年次への展開を目指して 第 16 回: 定期試験	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
予習の際には、まず自分が住んでいる地域、あるいは出身地域のイメージを持っておくとともに、対象化してみる。これは、自らが暮らす地域についてのミニ・レポートを書いてもらう際にも必要な作業となる。復習の際には、実践例として提示した事項を、自分と、自分の住む地域にひきつけて、応用可能性とその限界を考えてほしい。	
<b>評価方法</b>	
リアクション・ペーパー記載の内容(出欠も兼ねる)が 20 パーセント、地域調査報告ミニレポートが 20 パーセント、定期試験 60 パーセントの総合評価。	
<b>テキスト</b>	
カバー範囲が広いので、テキストの指定はしない。そのかわり、講義中に、参考文献および論文を明示する。	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
真摯に学ぼうとする受講生に迷惑をかける者には、単位を与えない。	

デザイン文化論		担当教員	さ の ひろし 佐野寛
単位	配当年次	開講形態	選択区分
2単位	2年前期	講義	選択
＜科目区分＞ 人間学部コミュニケーション学科専門科目 基幹科目 社会・文化系			

<b>サブテーマ</b>	
東北大震災を契機に社会が激変を始めた今、デザインの視点から生活文化のこれからを考える	
<b>授業の到達目標</b>	
グローバル金融資本主義システムが行き詰まり、貧富の格差が世界中で深刻化し、異常気象による災害が頻発して人間生活を脅かすようになっている。この講義は、そうした社会状況とデザインおよび文化の相関について、地域の文化的、経済的再生こそが、明るい未来を拓くという視点から、歴史を振り返り、リーマンショック以降の経済社会の激変と生活文化の関係を総括し、IT 端末、特にモバイルメディアが変える未来を透視しながら、これからの生活環境と生活文化のありようを考えていく。都市も町も家々も、生活空間を構成する家具什器、テレビ、テレビ画像、さらにはクルマや商品パッケージ、ファッションなど、すべてデザインされたもの、デザイン表現されたものであり、デザインこそが我々の生活環境を造り、生活文化を造っているからである。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
コミュニケーション能力、情報収集・探索能力、社会・職業理解能力、計画実行能力、課題解決能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
ビデオを多用して、視聴覚に訴えながら講義する。	
<b>授業の計画</b>	
第1回： 始めにグローバルな格差問題と、地域再生の緊急性について言う。 第2回： デザイン-文化-人間 (1)デザインの中に生まれ育ち生きる人間 第3回： デザイン-文化-人間 (2)デザインが造る生活環境 第4回： デザイン-文化-人間 (3)デザインのメッセージ 第5回： デザインと文化の流れ(1)発明発見の19世紀から複製技術時代としての20世紀へ 第6回： デザインと文化の流れ(2)テレビのコミュニケーション革命 第7回： 広告の発展 (1)大量生産大量消費ビジネスの人間改造と地域文化の衰退 第8回： 広告の発展 (2)3C メディアのライフスタイル革命／団塊世代の大都市志向／地域の過疎化高齢化 第9回： 広告の発展 (3)広告の手法(気にしない力/満足仮説/AIDMA/消費者ニーズ/視聴率と多数決原理) 第10回： 広告の発展(4)広告のメッセージと生活環境, 生活文化 第11回： デザインと文化のこれから(1)IT 革命と広告文明の崩壊1 大量生産大量消費の終焉 第12回： デザインと文化のこれから(2)IT 革命と広告文明の崩壊2 スマホ文化とマスメディア衰退 第13回： デザインと文化のこれから(3)世界の問題と日本の問題1 地域環境/人口/水/食糧問題 第14回： デザインと文化のこれから(4)世界の問題と日本の問題2 地産地消の真の意味 第15回： デザインと文化のこれから(5)世界の問題と日本の問題3 デザインの新しい使命と地域文化の復興	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
(1) ハワード・ラインゴールド『スマートモブス』NTT 出版 (2) 佐野寛『メディア写真論』パロル舎 2000 (3) 佐野寛『21世紀的生活』三五館 1996 (4) 佐野山寛太『現代広告の読み方』文春新書 (5) 佐野山寛太『追悼 広告の時代』洋泉社 Y 新書	
<b>評価方法</b>	
レポートと出席率による総合評価	
<b>テキスト</b>	
(1) 佐野寛「コミュニケーション」論(コピー夏期休暇前に配付)授業当日までに読んでおく。 (2) 世界人口図(当日配布)	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
3日間の集中講義なので3日間の出席率が単位取得の条件になる。	

時事問題研究 a		担当教員	しのへともや 四戸友也
単位	配当年次	開講形態	選択区分
2単位	2年前期	講義	選択
〈科目区分〉 人間学部コミュニケーション学科専門科目 基幹科目 社会・文化系			

<b>サブテマ</b>	
毎日流れるニュースをテーマに取り上げ、なぜそのようなことが起きたのか考える。同時に背景にある原理、原則に迫る。また、解決方法を探る。	
<b>授業の到達目標</b>	
若い世代が新聞や本を読まず、考える力を衰えさせているといわれる。教材に新聞、雑誌を使い、学生に読んでもらいながら解説していく。一つのテーマから多くのことが学べることを知るとともに、学びながら時事問題に強くなり、社会人としての素養を高める。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
コミュニケーション能力、情報収集・探索能力、課題解決能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
毎回、ニュースとして流れていることから、いくつかの問題を絞り解説する。下記予定通りにはならないけれど、基本的には掲げたテーマを話題に取り上げるようにしたい。基本的には毎回レジメを配る。	
<b>授業の計画</b>	
第1回： オリエンテーション、時事問題理解への意義 第2回： 国の予算と決定までの課程 第3回： 選挙制度の変遷と定数是正 第4回： 国際情勢と国の安全保障 第5回： エネルギー問題を考える 第6回： 原発立地の歴史と課題 第7回： 国際貿易とTPP 第8回： 福井の経済構造と課題 第9回： 日本経済の変遷と課題① 第10回： 日本経済の変遷と課題② 第11回： 地域を変える交通体系 第12回： 観光について考える 第13回： 地域の魅力発見と発信 第14回： 各自発表(最新のニュースを交代で解説) 第15回： 各自発表(最新のニュースを交代で解説) 第16回： 試験	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
毎日のニュースを見る。関心のあるニュースを継続的に読むことで何が問題なのかを探る。日ごろから新聞を読み、関心を深めると同時に新書などでさらに専門家の書いたものを読む。	
<b>評価方法</b>	
試験と授業態度(発表回数)、出席などを総合評価。試験ではレジメの持込は可とし自分の考えを述べてもらう。	
<b>テキスト</b>	
特別なテキストは用意しないが、テーマごとに参考図書を提示する。	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
テキストは提示しないのでノートを取るようにすること。積極的な質問を望みます。	

時事問題研究 b		担当教員	しのへともや 四戸友也
単位	配当年次	開講形態	選択区分
2単位	2年後期	講義	選択
〈科目区分〉 人間学部コミュニケーション学科専門科目 基幹科目 社会・文化系			

<b>サブテーマ</b>	
前期は大きな問題を取り上げるが、後期ではより身近なニュースを解説。生活や仕事にどのような影響を与えるかを考える。	
<b>授業の到達目標</b>	
身近な問題を考えることで、将来の生き方や就職活動への参考になるような内容にしたい。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
コミュニケーション能力、情報収集・探索能力、課題解決能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
東日本震災後、リスク分散の観点からも中央一極集中が問題になっている。ニュースを通じ、これからの地方のあり方、分権について展開する。毎回の授業は時のニュースを取り上げ、背景を探りながら全体として下記のテーマを網羅していく。	
<b>授業の計画</b>	
第1回： オリエンテーション、後期授業の方向性 第2回： 地方と国の役割 第3回： 東京一極集中の歴史と功罪 第4回： ふるさと納税はなぜ生まれたか 第5回： 少子高齢化と年金制度 第6回： 地方分権とは、自治体と地方議会 第7回： 福井の産業とルーツ(繊維と眼鏡) 第8回： 発展する企業の経営方針 第9回： 不況はなぜ起きる 第10回： 住みやすさとは何か(福井県民は幸せか) 第11回： 新幹線と地域交通。世界は変わるか。 第12回： 道州制について考える 第13回： 地方の国際化 第14回： 各自発表(最新のローカルニュースを交代で解説) 第15回： 各自発表(最新のローカルニュースを交代で解説) 第16回： 試験	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
新聞のローカルニュースに目を通す。地域の問題と生活について考える。自ら問題を発見、解決方法を提案してみる。テーマはタイムリーな話題を取り上げるので計画通りとは限らない。	
<b>評価方法</b>	
試験(レポート方式)と授業での発表。	
<b>テキスト</b>	
レジメを用意する。	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
身近な問題が起きている要因を探り、それが日本や世界に、どう広がっているかを考えるようにする。	



日本語文法論		担当教員	さき はら さち こ 笹原幸子
単位	配当年次	開講形態	選択区分
2単位	2年前期	講義	選択
〈科目区分〉 人間学部コミュニケーション学科専門科目 基幹科目 言語系			

<b>サブテーマ</b>	
我々が日々使っている日本語を観察し、そこに潜む文法的ルールを考察する。	
<b>授業の到達目標</b>	
今や世界における日本語学習者は二百万人を突破している。外国人学習者はどのように日本語文法を捉えているのだろう。ここでは「学校文法」とは違う日本語教育という視点から日本語をながめ、ひとつの外国語として日本語の文法を客観的に観察する。日本語学習者の誤用の原因を探るために、日常的に使われている日本語を拾い集め分析することが求められる。分析のために必要な情報を収集し、それを活用することで課題解決能力を身につけることも目指す。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
情報収集・探索能力、課題解決能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
主に講義形式をとるが、課題に取り組むときはグループ活動の形式をとる場合もある。	
<b>授業の計画</b>	
第1回：日本語教育の文法 外国語としての日本語文法 第2回：品詞1 第3回：品詞2 第4回：品詞3 第5回：格助詞1 第6回：格助詞2 第7回：「は」と「が」 第8回：動詞の分類と活用 第9回：動詞の「て」形 第10回：ヴォイス1 第11回：ヴォイス2 第12回：アスペクト1 第13回：アスペクト2 第14回：テンス 第15回：まとめ 第16回：定期試験	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
予習としては、教科書の各回の関連頁を読み、あらかじめ問題意識を持つようにしておくこと。復習としては参考図書などを読んで、文法の知識を深めておくこと。参考図書は授業中に適宜紹介する。	
<b>評価方法</b>	
試験(70%)、その他(30%)として授業への参加度、出席率、課題への取り組みを総合的にみる。	
<b>テキスト</b>	
野田尚史 『はじめての人の日本語文法』 くろしお出版 1991年	
<b>その他(受講上の注意)</b>	

英文講読 a		担当教員	こんどひろゆき 紺渡弘幸
単位	配当年次	開講形態	選択区分
1 単位	2 年前期	演習	選択
〈科目区分〉 人間学部コミュニケーション学科専門科目 基幹科目 言語系			

<b>サブ テーマ</b>	
多様な素材を用いた読解力の養成	
<b>授業の到達目標</b>	
小説、エッセイ、評論文、英字新聞や雑誌の記事、マニュアルなど多様な素材を用いて、英米文学や日常生活に必要な情報から文化論、環境問題、社会問題、教育問題など幅広いトピックをとりあげながら、読解力を養成する。従来の逐語訳による読み方から脱却し、メッセージの読み取りを中心に行う。併せて、extensive reading、skimming、scanning、previewing や読みに入る際のスキーマの活性化などといった多様なリーディング・スキルやストラテジーも訓練する。また、オンライン学習プログラム NetAcademy を活用し、速読力を高めるとともに、TOEIC のリーディングに対応する。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
コミュニケーション能力、情報収集・探索能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
テキストの読解を中心にした活動、復習及び小テスト。	
<b>授業の計画</b>	
第 1 回: Orientation 第 2 回: Reading for Pleasure 第 3 回: Reading for Pleasure 第 4 回: Previewing, Scanning 第 5 回: Previewing, Scanning 第 6 回: Skimming 第 7 回: Skimming 第 8 回: Review 第 9 回: Using Vocabulary Knowledge for Effective Reading, Storytelling 第 10 回: Using Vocabulary Knowledge for Effective Reading, Storytelling 第 11 回: Finding Topics, Thinking in English 第 12 回: Finding Topics, Thinking in English 第 13 回: Discovering Topics of Paragraphs, Understanding Main Ideas 第 14 回: Discovering Topics of Paragraphs, Understanding Main Ideas 第 15 回: Consolidation 第 16 回: 定期試験	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
授業時に指示する	
<b>評価方法</b>	
授業への積極的参加(25%)、課題および試験(75%)を総合して評価する。	
<b>テキスト</b>	
『MORE READING POWER』 Mikulecky、 B.S.、 and L. Jeffries. Addison-Wesley Publishing Company. 他に随時プリント、NetAcademy を使う。	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
出欠および授業への積極的な参加を重要視する。主体的な学習を期待する。	

英文講読 b		担当教員	こんどひろゆき 紺渡弘幸
単位	配当年次	開講形態	選択区分
1 単位	2 年後期	演習	選択
〈科目区分〉 人間学部コミュニケーション学科専門科目 基幹科目 言語系			

<b>サブ テーマ</b>	
多様な素材を用いた読解力の養成。	
<b>授業の到達目標</b>	
小説、エッセイ、評論文、英字新聞や雑誌の記事、マニュアルなど多様な素材を用いて、英米文学や日常生活に必要な情報から文化論、環境問題、社会問題、教育問題など幅広いトピックをとりあげながら、読解力を養成する。従来の逐語訳による読み方から脱却し、メッセージの読み取りを中心に行う。併せて、fast reading、 making inferences、 intensive reading や critical reading などといった多様なリーディング・スキルやストラテジーも訓練する。また、オンライン学習プログラム NetAcademy を活用し、速読力を高めるとともに、TOEIC のリーディングに対応する。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
コミュニケーション能力、情報収集・探索能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
テキストの読解を中心にした活動、復習及び小テスト。	
<b>授業の計画</b>	
第 1 回: Orientation 第 2 回: Making Inferences, News Reporting 第 3 回: Making Inferences, News Reporting 第 4 回: Reading Faster 第 5 回: Reading Faster 第 6 回: Identifying Patterns of Organization 第 7 回: Identifying Patterns of Organization 第 8 回: Review 第 9 回: Intensive Reading 第 10 回: Intensive Reading 第 11 回: Intensive Reading 第 12 回: Intensive Reading 第 13 回: Summarizing 第 14 回: Summarizing 第 15 回: Consolidation 第 16 回: 定期試験	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
授業時に指示する。	
<b>評価方法</b>	
授業への積極的参加(25%)、課題および試験(75%)を総合して評価する。	
<b>テキスト</b>	
『MORE READING POWER』 Mikulecky、 B.S.、 and L. Jeffries. Addison-Wesley Publishing Company. 他に随時プリント、NetAcademy を使う。	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
出欠および授業への意欲的な参加を重視する。自主的学習に積極的に取り組むことを期待する。	

L L 演習 a		担当教員	かとうゆうこ 加藤優子
単位	配当年次	開講形態	選択区分
1 単位	2 年前期	演習	選択
＜科目区分＞ 人間学部コミュニケーション学科専門科目 基幹科目 言語系			

<b>サブテーマ</b>	
リスニングに関する基礎的な学習	
<b>授業の到達目標</b>	
平易な内容の英語文を正確に聞き取る力を鍛え、英語によるコミュニケーション能力を身につけることを目指す。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
コミュニケーション能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
ディクテーションの訓練。	
<b>授業の計画</b>	
第 1 回: オリエンテーション	
第 2 回: Unit 1 音声の知識 1 Flowers	
第 3 回: Unit 2 音声の知識 2 Dolphins	
第 4 回: Unit 3 音声の知識 3 The Learning Tower of Pisa	
第 5 回: Unit 4 音声の知識 4 Cosmetics	
第 6 回: Unit 5 音声の知識 5 Sakhalin Dogs Stranded at the South Pole	
第 7 回: Unit 6 音声の知識 6 A Train Journey	
第 8 回: Unit 7 音声の知識 7 Charley the Paleontologist	
第 9 回: Unit 8 音声の知識 8 Crows	
第 10 回: Unit 9 音声の知識 9 Near Miss	
第 11 回: Unit 10 音声の知識 10 Husband, John and Wife, Barbara	
第 12 回: Unit 11 音声の知識 11 Anna and the London Taxi Driver	
第 13 回: 復習問題 1 Mysterious Stones 1	
第 14 回: 復習問題 2 Mysterious Stones 2	
第 15 回: まとめ	
第 16 回: 定期試験	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
テレビ、ラジオ、テキスト付属の CD などで模範的な発音のデータを大量に聞くこと。	
<b>評価方法</b>	
定期試験 40%、課題 40%、授業への積極的参加 20%	
<b>テキスト</b>	
都築正善著『英語のイーजीリスニングとディクテーション』（朝日出版社） その他適宜プリントを使用する。	
<b>その他（受講上の注意）</b>	
遅刻 3 回で欠席 1 回とみなす。辞書を必ず持ってくること。	

L L 演習 b		担当教員	かとう ゆうこ 加藤 優子
単位	配当年次	開講形態	選択区分
1 単位	2 年後期	演習	選択
＜科目区分＞ 人間学部コミュニケーション学科専門科目 基幹科目 言語系			

<b>サブ テーマ</b>	
リスニングに関する基礎的な知識について	
<b>授業の到達目標</b>	
平易な内容の英語文を正確に聞き取る力を鍛え、英語によるコミュニケーション能力を身につけることを目指す。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
コミュニケーション能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
ディクテーションの訓練。	
<b>授業の計画</b>	
第 1 回: オリエンテーション	
第 2 回: Listening and Dictation Training 1 Disaster	
第 3 回: Listening and Dictation Training 2 Accident	
第 4 回: Listening and Dictation Training 3 Crime	
第 5 回: Listening and Dictation Training 4 Society	
第 6 回: Listening and Dictation Training 5 Health	
第 7 回: Listening and Dictation Training 6 Sports	
第 8 回: Listening and Dictation Training 7 International Issues	
第 9 回: Listening and Dictation Training 8 Politics	
第 10 回: Listening and Dictation Training 9 Economy	
第 11 回: Listening and Dictation Training 10 Environment	
第 12 回: Listening and Dictation Training 11 Science	
第 13 回: 復習問題 1 Weather 1	
第 14 回: 復習問題 2 Weather 2	
第 15 回: まとめ	
第 16 回: 定期試験	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
テレビ、ラジオ、テキスト付属の CD などで模範的な発音のデータを大量に聞くこと。	
<b>評価方法</b>	
定期試験 40%、課題 40%、授業への積極的参加 20%	
<b>テキスト</b>	
授業中に適宜紹介する。	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
遅刻 3 回で欠席 1 回とみなす。辞書を必ず持ってくること。	

企画開発論		担当教員	きん だ あき ひこ 金 田 明 彦
単 位	配当年次	開講形態	選択区分
2 単位	2 年前期	講義	選択
＜科目区分＞ 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 企画・表現系			

<b>サブ テーマ</b>	
発想力を育て、企画をかたちにするための思考プロセスを実際にやりながら研究しよう	
<b>授業の到達目標</b>	
様々な発想法を実際に試し、そこから生まれる相乗効果や新たな人的能力を発見し、「人間にしかできないこと」の確認をしたい。課題の抽出からその解決に向けてのポジティブな考察力と展開力を身につけたい。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
自他の理解能力、コミュニケーション能力、情報収集・探索能力、社会・職業理解能力、選択能力、課題解決能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
90分講義。解説と実践をもとに進行する。グループ・ディスカッションを多く取り入れる。	
<b>授業の計画</b>	
第1回： オリエンテーション(授業の概要、授業の方針、授業のルールなどについて)	
第2回： 企画とは？その思考プロセスについて	
第3回： 生活に取り入れる発想力トレーニングについて「ひらめき」を生み出すための考察法	
第4回： アイデアの展開・発散・収束手法「ブレイン・ストーミング」	
第5回： アイデアの展開・発散・収束手法「ブレイン・ストーミング」からの観点チェック	
第6回： アイデアの展開・発散・収束手法「KJ法」	
第7回： アイデアの展開・発散・収束手法「刺激語発想法」	
第8回： アイデアの展開・発散・収束手法「属性列挙法」	
第9回： アイデアの展開・発散・収束手法「焦点法」	
第10回： アイデアの展開・発散・収束手法「逆設定法」	
第11回： アイデアの展開・発散・収束手法「一対連関法」	
第12回： アイデアを視覚化する「ブレイン・マッピング」	
第13回： アイデアを視覚化する「関係図」	
第14回： 企画をまとめる「企画書」	
第15回： まとめ	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
参考図書等は随時紹介	
<b>評価方法</b>	
毎回の課題への取組状況とレポート、出席状況をすべて加味して評価とする。前向きに参加(行動)する学生を一番評価する。	
<b>テキスト</b>	
テキストは使用しない。	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
出欠は毎時間の成果を元にする(出席しているだけでは何も得られない)。各課題の進行スケジュールを厳守すること。	

企画開発演習		担当教員	きん だ あき ひこ 金 田 明 彦
単 位	配当年次	開講形態	選択区分
2 単位	2 年後期	演習	選択
＜科目区分＞ 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 企画・表現系			

<b>サブ テーマ</b>	
企画をカタチにするために、知恵の結集方法取得と実践力をつけよう。	
<b>授業の到達目標</b>	
互いの知恵を結集し、問題解決のために前向きに対応する姿勢と行動力により、新たな自分たちの能力を発見したい。グループ・ディカッションからプレゼンテーションまでの一貫した流れの中で、コミュニケーション能力の育成をはかりたい。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
自他の理解能力、コミュニケーション能力、情報収集・探索能力、役割把握・認識能力、計画実行能力、選択能力、課題解決能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
90分演習。毎回解説と実践をもとに進行する。グループ・ディスカッションを多く取り入れる。	
<b>授業の計画</b>	
第1回： オリエンテーション(授業の概要、授業の方針、授業のルールなどについて)	
第2回： サンプル・イベントのケーススタディ	
第3回： イベント企画のためのミーティングとプレゼンテーション、実施案の選択	
第4回： イベント企画の実施と相互評価(1)	
第5回： イベント企画の実施と相互評価(2)	
第6回： イベント企画の実施と相互評価(3)	
第7回： イベント企画の実施と相互評価(4)	
第8回： イベント企画の実施と相互評価(5)、中間レポート	
第9回： テーマの設定と新規企画方針(仁愛大学を対象とする)	
第10回： 企画方針ごとのグルーピングと、プロジェクト・マネジメント	
第11回： グループ・ディスカッション(1)	
第12回： グループ・ディスカッション(2)	
第13回： グループ・ディスカッション(3)	
第14回： 企画のまとめ	
第15回： プレゼンテーションとまとめ	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
参考図書等は随時紹介	
<b>評価方法</b>	
毎回の課題への取組状況とレポート、出席状況をすべて加味して評価とする。前向きに参加(行動)する学生を一番評価する。	
<b>テキスト</b>	
テキストは使用しない。	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
出欠は毎時間の成果を元にする(出席しているだけでは何も得られない)。各課題の進行スケジュールを厳守すること。「企画開発論」の受講を奨励する。	

コミュニケーション技法 I a		担当教員	しのへともや 四戸友也
単位	配当年次	開講形態	選択区分
2単位	2年前期	演習	選択
＜科目区分＞ 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 企画・表現系			

<b>サブテーマ</b>	
文章と言葉による自己表現力、コミュニケーション能力をみがく	
<b>授業の到達目標</b>	
コミュニケーションの原点は、相手の気持ちを察しながら自分の考えを伝えること。それを紡ぐのが「言葉」であり、「文章」である。講義では、報告、説明、プレゼンテーションなどの演習を通し、言葉による自己表現力、コミュニケーション能力の向上をめざす。合わせて、考えて話す、聴いて理解する、分かりやすくて確かな文章表現を磨き、伝える力を向上させる。この授業を通して他者の多様な個性を理解し、互いに認め合うことを大切にして行動する能力及び、豊かな人間関係を築くためのコミュニケーション能力を身につけることを目指す。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
自他の理解能力、コミュニケーション能力、社会・職業理解能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
講義と演習を中心とする。適宜、視聴覚教材を利用する。インタビューの方法や、編集の仕方についても学ぶ。	
<b>授業の計画</b>	
第1回：言葉とコミュニケーション 第2回：話し言葉による表現 第3回：演習① 第4回：挨拶と言葉遣い 第5回：演習② 第6回：「自己紹介」をする 第7回：演習③ 第8回：新聞記事の書き方と随筆的な文章 第9回：演習④ 第10回：分かりやすく「報告」する 第11回：演習⑤ 第12回：話を聴く、まとめる、発表する 第13回：演習⑥ 第14回：演習⑦ 第15回：演習⑧	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
演習の課題発表の際には、講義内容を復習し、発表内容をあらかじめまとめておくこと。 参考図書：加瀬次男 『コミュニケーションのための日本語・音声表現』学文社 2001年	
<b>評価方法</b>	
演習 70%、授業における意欲と態度・出席状況 30%とし、総合的に評価する。	
<b>テキスト</b>	
使用しない。(適宜プリント資料を配布する)	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・受講生上限 50 名まで。受講希望者が上限を超えた場合、「企画・表現系」履修者を優先する。</li> <li>・欠席が 5 回を越えると、意欲なきものとして単位取得は難しくなる。</li> </ul>	



コミュニケーション技法 I b		担当教員	こば やし いつ お 小林 逸雄
単位	配当年次	開講形態	選択区分
2単位	2年後期	演習	選択
＜科目区分＞ 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 企画・表現系			

<b>サブ テーマ</b>	
トーク、スピーチ、アナウンス、人前での発表や質疑応答といった音声による伝達の実践を学び、それぞれの専門能力の習得を目指す。	
<b>授業の到達目標</b>	
社会生活をいとなむ上で、得手・不得手に関係なく、人前でトークやスピーチ、時と場合によってはアナウンスやレポートも必要となる。しかも専門職業を目指すとき、能力の要求度はさらに高まる。借りものでない、自分の言葉やフレーズがモノを言う。それぞれの演習を通して、理論と実践を重ね、豊かな表現法を学ぶ。メディア、特に放送におけるリーダーを目指す人にとっては唯一格好の授業。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
コミュニケーション能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
講義と演習を中心とする。用意された設備と機材を有効に使い、議論や討議を通して、アナウンス業の実践を学び、能力の習得をはかる。	
<b>授業の計画</b>	
第1回： ビジネス・コミュニケーションとは・・・① 第2回： ビジネス・コミュニケーションとは・・・② 第3回： ことばのもたらす心理的な働き・・・① 第4回： ことばのもたらす心理的な働き・・・② 第5回： 敬語の働き(ビデオ使用) 第6回： ビジネス・シーンにおける話の聞き方、「聞く」か「聴く」か 第7回： ビジネス・シーンにおける感じのよい話し方(ことばは人生なり) 第8回： 就職面接における自己表現 第9回： エントリー・シートを書いてみよう(演習) 第10回： エントリー・シートに「自分」をどう表現するか 第11回： 読んで伝える(音読と朗読の講義と演習)① 第12回： 読んで伝える(音読と朗読の講義と演習)② 第13回： インタビューとインタビュアー 第14回： スピーチについて(自己紹介を含む) 第15回： 前期講義まとめと課題提出 第16回： 定期試験	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
参考図書： NHK 編 『発音アクセント辞典』 日本放送出版協会	
<b>評価方法</b>	
授業における意欲と態度、レポート、期末の課題(試験)で総合的に評価。	
<b>テキスト</b>	
加瀬次男 『コミュニケーションのための日本語・音声表現』 学文社 2001年	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
・受講生上限 50 名まで ・欠席が 5 回を越えると、意欲なきものとして単位取得は難しくなる。	

マス・コミュニケーション論a		担当教員	こば やし いてつ お 小林 逸雄
単位	配当年次	開講形態	選択区分
2単位	2年前期	講義	選択
〈科目区分〉 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 企画・表現系			

<b>サブテーマ</b>	
放送(ラジオ・テレビ)がマスコミュニケーションとして社会生活にどんな役割を果たしてきたのか	
<b>授業の到達目標</b>	
放送の歴史は戦後日本の経済発展とともに進展したと言える。昭和26年(1951)に始まったラジオ放送に、映像を加えた今日のテレビジョン放送まで、放送の歴史と現状をおさえながら、放送がマスコミュニケーションとして生活文化や教育、世論形成など多分野に果たした役割と今後の方向性、また急激に進展するネット化社会における放送メディア(デジタル化など放送と通信を含む)について考察する。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
社会・職業理解能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
あくまで講義を中心とする。質問歓迎。	
<b>授業の計画</b>	
第1回: 序章(放送の概観) 第2回: 放送前史 第3回: 公共放送と民間放送の誕生(ラジオ) 第4回: 民間放送開局時の新聞メディア 第5回: テレビ開局と街頭テレビ 第6回: 福井におけるテレビ開局 第7回: 多局化と経営戦略 第8回: 国際化と報道の強化 第9回: 放送と暮らし(情報と暮らしの関係) 第10回: マスメディアとパーソナルメディア 第11回: 高度情報化社会と人間関係 第12回: 放送ジャーナリズムの自立 第13回: アナログからデジタルへ(リアルタイムの大量情報の伝達と消費) 第14回: 放送とネット社会の未来 第15回: おさらいとまとめ(課題提出) 第16回: 定期試験	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
授業時に指示する。	
<b>評価方法</b>	
講義5回ごとに、講義内容についてレポートを(計3回)。 レポート30%、試験50%、出席20%	
<b>テキスト</b>	
毎回配布する資料による。	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
①前期15回のうち4回まで欠席を認めるが、5回を越えると単位取得は難しくなる。 ②遅刻しないように。 ③ノートをしっかり取ること。	

マス・コミュニケーション論b		担当教員	しのへともや 四戸友也
単位	配当年次	開講形態	選択区分
2単位	2年後期	講義	選択
〈科目区分〉 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 企画・表現系			

<b>サブテマ</b>	
高度情報化社会の中で、人間はどれだけ進歩しているのだろうか。マス・コミュニケーション多様化の中でその歴史と基本的な役割を学ぶ。	
<b>授業の到達目標</b>	
マス・コミュニケーションを通じて得られる情報を読み解くための基本を身につける。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
情報収集・探索能力、選択能力、課題解決能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
ジャーナリズムとは何かを学びながら、多様化するメディアと影響力について考えていく。同時に異なるツールによる理解力を高めるための工夫、リテラシーを高めていく。	
<b>授業の計画</b>	
第1回： オリエンテーション、メディアとは何か 第2回： ニュースとは何か 第3回： 取材活動と法・倫理 第4回： 瓦版からインターネットへ、伝達手段の進化 第5回： 大震災と新聞 第6回： 戦後のメディアの発展 第7回： 権力の監視機能とジャーナリズム 第8回： 技術革新と新聞 第9回： 広告の役割と発展 第10回： 通信メディアの登場と発展 第11回： メディア社会とリテラシー 第12回： リスクコミュニケーション 第13回： 日本のメディアの実情と将来 第14回： メディアから何を学ぶか 第15回： まとめ 第16回： 試験	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
新聞・テレビなどメディアに接する。インターネットとの違いについて考える。 参考図書：「ジャーナリズムを学ぶ人のために」 世界思想社	
<b>評価方法</b>	
レポート方式の試験、授業態度など総合評価。	
<b>テキスト</b>	
レジメを用意する。	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
ニュースに関心を持つ。	

ビジュアル・コミュニケーション論 a		担当教員	ふな やま とし かつ 船 山 俊 克
単 位	配当年次	開講形態	選択区分
2 単位	2 年前期	講義	選択
〈科目区分〉 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 企画・表現系			

<b>サブ テーマ</b>	
デザイン教育(知識獲得)を行います。	
<b>授業の到達目標</b>	
デザインの基本的知識を獲得し、デザインを判断できる能力を習得してもらいます。 課題の演習を通して、知識の定着を計ります。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
自他の理解能力、コミュニケーション能力、計画実行能力、課題解決能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
約 30 分:レクチャー+約 30 分:実習(チェックを含む)+約 30 分:トピックス(内容に応じて流動的)	
<b>授業の計画</b>	
第 1 回: ガイダンス(講義内容説明) 第 2 回: 基礎:「デザイン」の意味 第 3 回: 基礎:デザインとアートの差異 第 4 回: 基礎:プレゼンテーション・講評 第 5 回: 色彩:基礎 第 6 回: 色彩:表示・調和 第 7 回: 色彩:心理 第 8 回: 色彩:プレゼンテーション・講評 第 9 回: 文字:歴史 第 10 回: 文字:種類と意味 第 11 回: 文字:プレゼンテーション・講評 第 12 回: レイアウト:基礎 第 13 回: レイアウト:応用 第 14 回: レイアウト:プレゼンテーション・講評 第 15 回: まとめ	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
参考図書は必要に応じて授業内で挙げます。	
<b>評価方法</b>	
「出席」・「課題提出」・「課題内容」・「プレゼンテーション」から算出します。 絵が上手い・下手といった主観的な内容よりも、授業への積極的な参加を評価します。	
<b>テキスト</b>	
必要に応じて授業内で配布します。	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
「デジタル・デザイン a」を受講していることが望ましいです。 授業内容は進行速度に応じて前後することがあります。	

ビジュアル・コミュニケーション論b		担当教員	ふな やま とし かつ 船 山 俊 克
単 位	配当年次	開講形態	選択区分
2 単位	2 年後期	講義	選択
〈科目区分〉 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 企画・表現系			

<b>サブ テーマ</b>	
デザイン教育(知識獲得)を行います。	
<b>授業の到達目標</b>	
デザインの基本的知識を獲得し、デザインを判断できる能力を習得してもらいます。 課題の演習を通して、知識の定着を計ります。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
自他の理解能力、コミュニケーション能力、計画実行能力、課題解決能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
約 30 分:レクチャー+約 30 分:実習(チェックを含む)+約 30 分:トピックス(内容に応じて流動的)	
<b>授業の計画</b>	
第 1 回: 前期のお復習・後期に向けて 第 2 回: レイアウト:黄金比について 第 3 回: レイアウト:バランスについて 第 4 回: 情報デザイン:インフォグラフィック 第 5 回: 情報デザイン:図解 第 6 回: 情報デザイン:ピクトグラム 第 7 回: 情報デザイン:グリッドシステム 第 8 回: 歴史:産業革命～ 第 9 回: 歴史:アールヌーボー～ 第 10 回: 歴史:ロシアアヴァンギャルド～ 第 11 回: 歴史:バウハウス～ 第 12 回: ユニバーサルデザインについて 第 13 回: Bottom of Pyramid について 第 14 回: プレゼンテーション・講評 第 15 回: まとめ	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
参考図書は必要に応じて授業内で挙げます。	
<b>評価方法</b>	
「出席」・「課題提出」・「課題内容」・「プレゼンテーション」から算出します。 絵が上手い・下手といった主観的な内容よりも、授業への積極的な参加を評価します。	
<b>テキスト</b>	
必要に応じて授業内で配布します。	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
「デジタル・デザイン a」および「ビジュアル・コミュニケーション論 a」を受講していることが望ましいです。 授業内容は進行速度に応じて前後することがあります。	

デジタル・デザイン a		担当教員	きん だ あき ひこ 金 田 明 彦
単 位	配当年次	開講形態	選択区分
2 単位	2 年前期	演習	選択
〈科目区分〉 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 企画・表現系			

<b>サブ テーマ</b>	
コンピュータ・グラフィックスの入門・基礎を通じ、様々な用途に展開できることを認識しよう	
<b>授業の到達目標</b>	
ビジュアル・コミュニケーションのための表現ツールとしてパーソナル・コンピュータ(マッキントッシュ)を駆使したデザイン手法の研究を行う。 デジタルの特性を把握し、アプリケーションの操作入力法、加工・デザイン手法、出力法に関する基礎教育を通じ、表現能力の拡大と応用性を身につける。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
コミュニケーション能力、社会・職業理解能力、計画実行能力、選択能力、課題解決能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
90 分演習。毎回前半は主として解説を行い、その後各自のトレーニングを行う。	
<b>授業の計画</b>	
第 1 回： オリエンテーションと機器解説 第 2 回： Illustrator の基本操作(基本ツール) 第 3 回： Illustrator の基本操作(図形) 第 4 回： Illustrator の基本操作(文字) 第 5 回： Illustrator の基本操作(カラーリング) 第 6 回： Photoshop の基本操作(基本ツール) 第 7 回： Photoshop の基本操作(画像解像度とサイズ) 第 8 回： Photoshop の基本操作(スキャニング・デジタルカメラと画像調整) 第 9 回： Illustrator と Photoshop の併用の基本と印刷 第 10 回： テーマに基づくビジュアルツールの制作 第 11 回： テーマに基づくビジュアルツールの制作(仮提出) 第 12 回： テーマに基づくビジュアルツールの制作 第 13 回： テーマに基づくビジュアルツールの制作 第 14 回： テーマに基づくビジュアルツールの制作(最終提出) 第 15 回： データ整理と保存 (進行状況により変更の場合あり)	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
参考図書等は随時紹介	
<b>評価方法</b>	
各課題の進捗状況、最終的な課題の評価(技術・表現・作業性)、出席率	
<b>テキスト</b>	
テキストは使用しない。	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
1 クラス 35 名定員にて 2 クラス実施。出欠を毎時間とる。2 回以上の連続欠席は、理解不能となる一番の原因となる。課題の進行スケジュールを厳守する。授業時以外にかなりの時間がトレーニングのために必要となる。	

デジタル・デザイン b		担当教員	きん だ あき ひこ 金 田 明 彦
単 位	配当年次	開講形態	選択区分
2 単位	2 年後期	演習	選択
〈科目区分〉 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 企画・表現系			

<b>サブ テーマ</b>	
コンピュータ利用の作業精度や能力を活かし、様々な用途にクリエイティブに展開できる能力を高めよう。	
<b>授業の到達目標</b>	
ビジュアル・コミュニケーションのための表現ツールとしてパーソナル・コンピュータを駆使したデザイン手法やデジタル・コンテンツ制作のためのスキル向上をねらう。 「デジタル・デザイン a」で取得した技術や感覚にさらに磨きをかけ、作業精度の向上をはかり、表現能力の拡大と応用性を身につける。後半は、モーショングラフィックスへの展開をはかり、デジタルムービーの制作能力を身につける。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
コミュニケーション能力、情報収集・探索能力、社会・職業理解能力、計画実行能力、選択能力、課題解決能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
90 分演習。毎回前半は主として解説を行い、その後各自のトレーニングを行う。	
<b>授業の計画</b>	
第 1 回： オリエンテーションと課題テーマ説明および課題導入 第 2 回： Illustrator の発展トレーニング(シンボルマーク作図)および作業能力チェック 第 3 回： Illustrator の発展トレーニング(シンボルマーク作図)および作業能力チェック 第 4 回： Illustrator の発展トレーニング(シンボルマーク作図)および作業能力チェック 第 5 回： Illustrator の発展トレーニング(シンボルマーク作図)および作業能力チェック 第 6 回： Illustrator の発展トレーニング(シンボルマーク作図)および作業能力チェック 第 7 回： Illustrator の発展トレーニング(シンボルマーク作図)および作業能力チェック 第 8 回： Keynote 利用によるスライド作成およびムービーへの展開、アウトプット 第 9 回： Keynote 利用によるスライド作成およびムービーへの展開、アウトプット 第 10 回： Keynote 利用によるスライド作成およびムービーへの展開、アウトプット 第 11 回： Keynote 利用によるスライド作成およびムービーへの展開、アウトプット 第 12 回： Keynote 利用によるスライド作成およびムービーへの展開、アウトプット 第 13 回： Keynote 利用によるスライド作成およびムービーへの展開、アウトプット 第 14 回： Keynote 利用によるスライド作成およびムービーへの展開、アウトプット 第 15 回： Keynote 利用によるスライド作成およびムービーへの展開、アウトプット	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
参考図書等は必要に応じて随時紹介。	
<b>評価方法</b>	
各課題の進捗状況、最終的な課題の評価(技術・表現・作業性)、出席率	
<b>テキスト</b>	
使用しない。	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
「デジタル・デザイン a」履修者に限る。毎週 1 コマのみ開講。人数制限あり(最大 40 名)。人数オーバーの場合は、「デジタル・デザイン a」の成績上位者を優先する。	

英語音声学		担当教員	やま だ はる み 山 田 晴 美
単 位	配当年次	開講形態	選択区分
2 単位	2 年前期	講義	選択
＜科目区分＞ 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 英語コミュニケーション系			

<b>サブ テーマ</b>	
English Phonetics	
<b>授業の到達目標</b>	
1. To understand the mechanism of how English sounds are made. 2. To learn how to read phonetic alphabets(発音記号) so as to be able to check pronunciation by oneself. 3. To improve the language performance and communication abilities by understanding English phonetics. 4. To improve the abilities to collect and research information and to carry out tasks through class activities.	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
コミュニケーション能力、情報収集・探索能力、課題解決能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
After lecture, students will practice pronunciation by listening to and pronouncing English sounds.	
<b>授業の計画</b>	
第 1 回: I. Introduction、 II. Vocal Organs 第 2 回: III. Vowels (1) 第 3 回: III. Vowels (1) 第 4 回: III. Vowels (1) 第 5 回: IV. Consonants 第 6 回: IV. Consonants 第 7 回: IV. Consonants 第 8 回: V. Sound Sequences 第 9 回: V. Sound Sequences 第 10 回: VI. Accent 第 11 回: VI. Accent 第 12 回: VII. Intonation 第 13 回: VII. Intonation 第 14 回: VIII Phonemes、 IX. Spellings & Pronunciation 第 15 回: Review 第 16 回: 定期試験	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
1. Reading the textbook beforehand will help you understand the lecture better. 2. Review the sounds by listening to the CD and repeating after the CD many times.	
<b>評価方法</b>	
1. Classroom activities and short tests: 25% 2. Assignments: 25% 3. Examination: 50%	
<b>テキスト</b>	
『英語音声学入門 (新装版)』 竹林滋・斎藤弘子 大修館書店 2008 年	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
1. Attendance and active participation are very important. 2. You have to bring your textbooks, your favourite dictionaries, and writing materials to class.	



英作文演習 a		担当教員	やま だ はる み 山 田 晴 美
単 位	配当年次	開講形態	選択区分
1 単位	2 年前期	演習	選択
＜科目区分＞ 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 英語コミュニケーション系			

<b>サブ テーマ</b>	
English Writing Skills	
<b>授業の到達目標</b>	
1. To improve fluency and accuracy in short paragraph writing. 2. To develop the ability to express one's intended messages in English. 3. To improve the abilities to collect information, carry out writing tasks and communicate through writing and commenting on other people's messages.	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
コミュニケーション能力、情報収集・探索能力、課題解決能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
1. You will study how to write paragraphs in English, which will include discussions in pairs and in groups. 2. You are expected to join E-learning forums every week, where you will post your opinions about given topics in English. This is an activity you	
<b>授業の計画</b>	
第 1 回: Introduction 第 2 回: 1 The Topic Sentence (1) 第 3 回: 1 The Topic Sentence (2) 第 4 回: 2 Supporting Sentences (1) 第 5 回: 2 Supporting Sentences (2) 第 6 回: 3 The Concluding Sentence (1) 第 7 回: 3 The Concluding Sentence (2) 第 8 回: 4 Descriptive Paragraphs (1) 第 9 回: 4 Descriptive Paragraphs (2) 第 10 回: 5 Narrative Paragraphs (1) 第 11 回: 5 Narrative Paragraphs (2) 第 12 回: 6 Expository Paragraphs (1) 第 13 回: 6 Expository Paragraphs (2) 第 14 回: Review 1 第 15 回: Review 2 第 16 回: 定期試験	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
You will get writing assignments to review lessons and practice writing. File your class work as it will help you see your progress in English writing. You will also review English grammar to be able to communicate your thoughts more accurately. Bring J	
<b>評価方法</b>	
1. Classroom activities: 15% 2. Assignments: 35% 3. Examination: 50%	
<b>テキスト</b>	
"Writing to Communicate 1 -Paragraphs-" C. Boardman. Pearson/Longman. 2008. 『マーフィーのケンブリッジ英文法(中級編)』 R. Murphy. Cambridge. 2007.	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
1. Attendance and active participation are very important. 2. You have to bring your textbooks, your favourite dictionaries, and writing materials to class.	

英作文演習 b		担当教員	やま だ はる み 山 田 晴 美
単 位	配当年次	開講形態	選択区分
1 単位	2 年後期	演習	選択
＜科目区分＞ 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 英語コミュニケーション系			

<b>サブ テーマ</b>	
English Writing Skills	
<b>授業の到達目標</b>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. To improve fluency and accuracy in short paragraph writing.</li> <li>2. To develop the ability to express one's intended messages in English.</li> <li>3. To improve the abilities to collect information, carry out writing tasks and communicate through writing and commenting on other people's messages.</li> </ol>	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
コミュニケーション能力、情報収集・探索能力、課題解決能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. You will study how to write paragraphs in English, which will include discussions in pairs and in groups.</li> <li>2. You are expected to join E-learning forums every week, where you will post your opinions about given topics in English. This is an activity you</li> </ol>	
<b>授業の計画</b>	
第 1 回: Introduction 第 2 回: 7 Unity (1) 第 3 回: 7 Unity (2) 第 4 回: 8 Coherence (1) 第 5 回: 8 Coherence (2) 第 6 回: 9 Cohesion (1) 第 7 回: 9 Cohesion (2) 第 8 回: 10 Process (1) 第 9 回: 10 Process (2) 第 10 回: 11 Reasons and Results (1) 第 11 回: 11 Reasons and Results (2) 第 12 回: 12 Opinion (1) 第 13 回: 12 Opinion (2) 第 14 回: Review 1 第 15 回: Review 2 第 16 回: 定期試験	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
You will get writing assignments to review lessons and practice writing. File your lass work as it will help you see your progress in English writing. You will also review English grammar to be able to communicate your thoughts more accurately. Bring Ja	
<b>評価方法</b>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Classroom activities: 15%</li> <li>2. Assignments: 35%</li> <li>3. Examination: 50%</li> </ol>	
<b>テキスト</b>	
"Writing to Communicate 1 -Paragraphs-" C. Boardman. Pearson/Longman. 2008. 『マーフィーのケンブリッジ英文法(中級編)』 R. Murphy. Cambridge. 2007.	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Attendance and active participation are very important.</li> <li>2. You have to bring your textbooks, your favourite dictionaries, and writing materials to class.</li> </ol>	

オーラル・コミュニケーションⅡa		担当教員	マシュー エリオット ハウカ
単位	配当年次	開講形態	選択区分
1 単位	2 年前期	演習	選択
〈科目区分〉 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 英語コミュニケーション系			

<b>サブ テーマ</b>	
Expressing Yourself	
<b>授業の到達目標</b>	
The purpose of this course is to allow students to share personal opinions and ideas on a range of interesting topics. In pairs and groups, students will try out new language and build confidence in communicating their opinions and ideas. However, communication is not just a matter of expressing one's own opinions and ideas; listening to other people and reacting to what they are saying are equally important.	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
自他の理解能力、コミュニケーション能力、情報収集・探索能力、計画実行能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
The text employs a multi-syllabus approach. Each interactive, task-based unit has a focus on grammar, topic, or function. The ultimate goal of the course is to improve students' English by engaging them in enjoyable, communicative tasks.	
<b>授業の計画</b>	
第 1 回: Exchanging opinions in English: An Introduction 第 2 回: The Beauty of the Seasons / Travel in Japan 第 3 回: The Beauty of the Seasons / Travel in Japan 第 4 回: The History of the Hamburger / Fast Food and Health 第 5 回: The History of the Hamburger / Fast Food and Health 第 6 回: Liquid Candy / The Importance of English 第 7 回: Liquid Candy / The Importance of English 第 8 回: How the Internet Evolved / Shopping on the Internet 第 9 回: How the Internet Evolved / Shopping on the Internet 第 10 回: Evaluation #1 第 11 回: The Secret of Happiness / The Happiest Country in the World 第 12 回: The Secret of Happiness / The Happiest Country in the World 第 13 回: What Colors Tell About You 第 14 回: Do Aliens and UFOs Exist? / Ghosts 第 15 回: Do Aliens and UFOs Exist? / Ghosts 第 16 回: Final Evaluation	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
Appropriate advice for active participation in and successful completion of this course will be given in class.	
<b>評価方法</b>	
Attendance, Proactive Participation, & Homework Assignments - 50% Final Project - 50%	
<b>テキスト</b>	
Life Topics: A Critical Thinking Approach to English Proficiency Takashi Shimaoka and Jonathan Berman NAN'UN-DO	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
Self-motivation is extremely important for this course!	

オーラル・コミュニケーションⅡb		担当教員	マシュー エリオット ハウカ
単位	配当年次	開講形態	選択区分
1 単位	2 年後期	演習	選択
〈科目区分〉 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 英語コミュニケーション系			

<b>サブ テーマ</b>	
Expressing Yourself	
<b>授業の到達目標</b>	
The purpose of this course is to allow students to share personal opinions and ideas on a range of interesting topics. In pairs and groups, students will try out new language and build confidence in communicating their opinions and ideas. However, communication is not just a matter of expressing one's own opinions and ideas; listening to other people and reacting to what they are saying are equally important.	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
自他の理解能力、コミュニケーション能力、情報収集・探索能力、計画実行能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
The text employs a multi-syllabus approach. Each interactive, task-based unit has a focus on grammar, topic, or function. The ultimate goal of the course is to improve students' English by engaging them in enjoyable, communicative tasks.	
<b>授業の計画</b>	
第 1 回: Free Music 第 2 回: Free Music 第 3 回: The Dangers of Credit Cards 第 4 回: The Dangers of Credit Cards 第 5 回: Artificial Insemination / Gene Therapy 第 6 回: Artificial Insemination / Gene Therapy 第 7 回: Plastic Surgery 第 8 回: Evaluation #1 第 9 回: Young Men: No Girls, No Money 第 10 回: Young Men: No Girls, No Money 第 11 回: Women in College 第 12 回: Women in College 第 13 回: Old Media and New Media 第 14 回: Old Media and New Media 第 15 回: Review 第 16 回: Final Evaluation	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
Appropriate advice for active participation in and successful completion of this course will be given in class.	
<b>評価方法</b>	
Attendance, Proactive Participation, & Homework Assignments - 50% Final Project - 50%	
<b>テキスト</b>	
Life Topics: A Critical Thinking Approach to English Proficiency Takashi Shimaoka and Jonathan Berman NAN'UN-DO	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
Self-motivation is extremely important for this course!	

英 米 文 化 論		担当教員	モーリス ルイス スプリチャル
単 位	配当年次	開講形態	選択区分
2 単位	2 年後期	講義	選択
＜科目区分＞ 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 英語コミュニケーション系			

<b>サブ テーマ</b>	
Cultural Influence on Communication	
<b>授業の到達目標</b>	
When people of different cultural backgrounds interact, their encounters are influenced by their respective culturally rooted values, perceptions, and communication styles. This preparatory course will introduce various aspects of these cultural influences in order to foster an appreciation of the importance of intercultural communication in today's borderless world.	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
自他の理解能力、コミュニケーション能力、情報収集・探索能力、役割把握・認識能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
Simple exercises and activities from the text will be used to introduce the topic, followed by discussions in small groups. Supplemental examples from other sources (i.e., books, Internet, and films) will be given to promote further understanding.	
<b>授業の計画</b>	
第 1 回: Defining Culture 第 2 回: Defining Culture 第 3 回: Stereotypes 第 4 回: Stereotypes 第 5 回: Verbal Communication 第 6 回: Non-verbal Communication 第 7 回: Diversity 第 8 回: Perception 第 9 回: Perception 第 10 回: Communication Styles 第 11 回: Communication Styles 第 12 回: Beliefs & Values 第 13 回: Beliefs & Values 第 14 回: Culture Shock 第 15 回: Culture Shock 第 16 回: Final Examination	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
Participants should have taken and passed 'English I a & I b', 'English II a', 'Oral Communication I a & I b', and 'Oral Communication II a'.	
<b>評価方法</b>	
Attendance & Proactive Participation - 25%、Periodic Reports - 25%、and Examination - 50%	
<b>テキスト</b>	
Culture in Action: Classroom Activities for Cultural Awareness. Juri Abe, Reiko Nebashi, Yumi Sasaki, and Joseph Shaules. Nan'un-do Publishing Co., Ltd. 1998	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
Interest and self-motivation are most important.	

家族の人間関係		担当教員	あおきかなこ 青木加奈子
単位	配当年次	開講形態	選択区分
2単位	2年前期	講義	選択
〈科目区分〉 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 現代社会系			

<b>サブテーマ</b>	
「家族」とは何か、「家族」の人間関係とは何かを問い直す。	
<b>授業の到達目標</b>	
本授業では、私たちにとってあまりにも身近な存在である「家族」を多角的な視点から議論することによって、「家族」が普遍的なものではなく、時代や社会、個人認識によって変化しうるものであることを理解する。また、家族メンバーの相互作用によって生じるさまざまな側面や現象を、自身の家族経験を相対化しながら考えることができるようになる。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
自他の理解能力、役割把握・認識能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
授業は講義形式で行うが、適時グループディスカッションや個々の意見を発言する機会を設ける。また、授業中に各テーマに関連したミニレポートを課す。	
<b>授業の計画</b>	
第1回： イントロダクション:「家族」とは何か？ 第2回： 歴史のなかの家族 第3回： 戦後の家族 第4回： 配偶者選択:結婚する？しない？ 第5回： さまざまなパートナー関係 第6回： 子どもを持つ選択、持たない選択 第7回： 育児①:子育ての主体は誰？ 第8回： 育児②:子育てをめぐる問題 第9回： 育児③:育児の社会化へ向けて(受講者によるプレゼン) 第10回： 介護が「問題」になるとき 第11回： 「家族だから」という言葉が持つ重圧 第12回： 孤立する家族 第13回： 離婚・再婚と家族の人間関係 第14回： 外国の事例:北欧社会と家族 第15回： まとめ:「家族」のゆくえ	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
参考図書などについて適宜指示するので、できれば読んでほしい。 例えば、神原文子編 『よくわかる現代社会』 ミネルヴァ書房 2009年 落合恵美子 『21世紀家族へ』 有斐閣 2004年	
<b>評価方法</b>	
筆記試験または期末レポート(50%)、授業中のミニレポート(グループワークを含む)(40%)、受講態度(10%)によって総合的に評価する。受講中の問題行動(私語、非協力的態度、居眠り等)は平常点から減点する。注意しても改善がみられない場合は、受講を取り消す場合があるので注意すること。	
<b>テキスト</b>	
なし。	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
受講生の人数・関心に応じて、「授業の計画」に提示した内容から若干変更する可能性がある。	

社会の人間関係		担当教員	やまもとまさよ 山本雅代
単位	配当年次	開講形態	選択区分
2単位	2年前期	講義	選択
〈科目区分〉 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 現代社会系			

<b>サブテーマ</b>
人と社会のつながりについて多角的に学ぶ
<b>授業の到達目標</b>
社会心理学的視点から、個人と社会、集団との関係について理解する
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>
自他の理解能力、コミュニケーション能力、社会・職業理解能力
<b>授業の概要(形態)</b>
基本的に講義形式。必要に応じて、ビデオなどを使用する。より実践的な学習を目指すことを目的に模擬社会ゲームを実施する。
<b>授業の計画</b>
第1回： オリエンテーション 第2回： 私はどんな人間か？ 第3回： 社会的動物としての人間 第4回： 個人と社会 第5回： 社会的影響と状況の力 第6回： 人間はどんな人と仲良くなるか(1) 第7回： 人間はどんな人と仲良くなるか(2) 第8回： 見捨てられる他者助けられる他者 第9回： 集団と個人の関係 第10回： 集団の中の人間関係(1) 第11回： 集団の中の人間関係(2) 第12回： 模擬社会ゲームについて 第13回： 模擬社会ゲームの実施(1) 第14回： 模擬社会ゲームの実施(2) 第15回： まとめ
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>
授業中に資料を配布または論文等紹介する。
<b>評価方法</b>
授業態度、ゲームへの参加、小テスト、出席状況により総合的に評価する。
<b>テキスト</b>
授業中に資料を配布する
<b>その他(受講上の注意)</b>

社会学概論 a		担当教員	やぎ ひでお 八木 秀夫
単位	配当年次	開講形態	選択区分
2単位	2年前期	講義	選択
＜科目区分＞ 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 現代社会系			

<b>サブテマ</b>	
人間の成長と社会生活	
<b>授業の到達目標</b>	
社会学の基礎は社会的相互作用にある。社会的相互作用の成り立ち、その個人的発展および社会的展開を、乳幼児期、児童期、青年期、成人期、高齢期といった人間のライフサイクルにしたがって考察していく。様々な理論を検討することで、人間や社会に対する多角的な視点、現状を相対化する能力、および現実にもポジティブに参加する態度を養うことを目的にする。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
自他の理解能力、社会・職業理解能力、役割把握・認識能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
講義形式で行うが、途中講義の理解度をチェックするために小試験やレポートを課す場合がある。	
<b>授業の計画</b>	
第1回： 社会的相互作用について 第2回： 社会システムの成立 第3回： 社会学の研究対象(1) 第4回： 社会学の研究対象(2) 第5回： 社会学の学問的特徴 第6回： 乳幼児期の問題 社会的相互作用の学習過程(1) 第7回： 乳幼児期の問題 社会的相互作用の学習過程(2) 第8回： 児童期の問題 学校との出会い 第9回： 児童期の問題 学校・教育システムの問題 第10回： 青年期の問題 青年と職業 第11回： 青年期の問題 青年と結婚 第12回： 壮年期の問題 家庭生活 第13回： 壮年期の問題 子育てと介護 第14回： 高齢期の問題 高齢者の生活 第15回： おわりに	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
参考図書は授業中に紹介する。なお、授業中に配布するプリントを読んでおくこと。	
<b>評価方法</b>	
複数回のレポート(授業時間中に小試験を行うこともある)	
<b>テキスト</b>	
使用しない	
<b>その他(受講上の注意)</b>	



社会学概論 b		担当教員	こばやし だい すけ 小林 大 祐
単 位	配当年次	開講形態	選択区分
2 単位	2 年後期	講義	選択
〈科目区分〉 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 現代社会系			

<b>サブ テーマ</b>	
社会現象の不思議さ・奇妙さを理解する	
<b>授業の到達目標</b>	
この講義では、前半の回においては、一見不合理であったり奇妙であったりする社会現象を取り上げ、そのメカニズムを学ぶことで、社会的に考えるとどのようなことなのか、社会とはどのようなものなのか理解することを目的とする。また後半の回においては、社会における平等や格差の問題を掘り下げて論じることで現代社会に対する理解を深めてもらうことを目標とする。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
自他の理解能力、社会・職業理解能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
授業中に小課題の提出を求めることがある(不定期)。	
<b>授業の計画</b>	
第 1 回： ガイダンス 第 2 回： 社会学のねらいと方法 第 3 回： 意図せざる結果①: 予言の自己成就 第 4 回： 意図せざる結果②: 社会的ジレンマ 第 5 回： 相互作用としての社会①: 市場の失敗 第 6 回： 相互作用としての社会②: 公共財の供給 第 7 回： 格差とは何か 第 8 回： 結果の格差と機会の格差 第 9 回： 結果の格差を測定する 第 10 回： 機会の格差を測定する 第 11 回： 教育と機会の格差 第 12 回： 雇用における格差: 日本的経営と雇用 第 13 回： 雇用における格差: 流動化する雇用 第 14 回： 若年非正規雇用の現状 第 15 回： 若年非正規雇用問題への対策	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
授業時に指示する。 参考図書： 『考える社会学』 小林淳一／木村邦博編著 ミネルヴァ書房 1991 年	
<b>評価方法</b>	
講義中の小課題の提出状況および最終課題レポートによって成績評価を行う。 全体の配分は小課題提出 40%、最終課題レポート 60%とする。	
<b>テキスト</b>	
レジュメを配布する。	
<b>その他(受講上の注意)</b>	

社会調査法 I		担当教員	こばやし だいすけ 小林 大祐
単位	配当年次	開講形態	選択区分
2単位	2年前期	講義	選択
〈科目区分〉 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 現代社会系			

<b>サブテーマ</b>	
社会調査についての基礎を学ぶ	
<b>授業の到達目標</b>	
この講義では、社会調査とはどのようなものか、何のために行うのかを概説する。まず、社会調査の目的、社会調査の歴史、社会調査の倫理について説明し、その後で、さまざまな社会調査の種類とそれぞれの方法が持つ長所と問題点を説明する。最後に、社会調査が社会においてどのように実践されているかを実例によって説明していく。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
情報収集・探索能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
テキストは使用するが、それ以外にも説明のため、適宜レジュメを配布する。また授業中にアンケートなどの小課題の提出を求めることがある(不定期)。	
<b>授業の計画</b>	
第1回： 講義概要 第2回： 社会調査の目的と歴史 第3回： 社会調査の倫理 第4回： 社会調査の種類と特性(1) 国勢調査や官庁統計 第5回： 社会調査の種類と特性(2) 質的研究 第6回： 社会調査の種類と特性(3) 質問紙調査 第7回： 質的研究の実際例(1) インタビュー調査 第8回： 質的研究の実際例(2) 参与観察 第9回： 質的調査の意義と限界 第10回： 質問紙調査の流れ(1) 問題意識と仮説構成 第11回： 質問紙調査の流れ(2) 調査票作成 第12回： 質問紙調査の流れ(3) 実査と分析 第13回： 質問紙調査の意義と限界 第14回： 社会調査の応用例 第15回： まとめと社会調査の課題	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
参考文献： (1)『リアリティの捉え方』 今田高俊編 有斐閣 2000年 (2)『社会調査法入門』 盛山和夫 有斐閣 2004年	
<b>評価方法</b>	
複数回の小課題提出および小テストによって評価する	
<b>テキスト</b>	
『入門・社会調査法』 轟・杉野編 法律文化社 2010年	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
本科目は社会調査士資格標準カリキュラムのAに対応する科目であり、課題の提出などを厳しくチェックする。	

社会調査法Ⅱ		担当教員	こばやし だい すけ 小林 大 祐
単 位	配当年次	開講形態	選択区分
2 単位	2 年前期	講義	選択
＜科目区分＞ 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 現代社会系			

<b>サブ テーマ</b>	
量的な社会調査についての基礎を学ぶ	
<b>授業の到達目標</b>	
この講義では、アンケート調査を中心に、社会調査の設計から実施さらには収集したデータの分析までの流れについて適宜実習を交えて説明をおこなうことで受講者が、社会調査を実践的に理解することを目的としている。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
情報収集・探索能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
主に講義によっておこなうが、適宜コンピュータを用いた実習をおこなう。また授業中にアンケートなどの小課題の提出を求めることがある(不定期)。	
<b>授業の計画</b>	
第 1 回： オリエンテーション 第 2 回： 調査方法の選択 第 3 回： アンケート調査の進め方 (1) 問いを立てる、仮説を構成する 第 4 回： アンケート調査の進め方 (2) 調査の企画をする 第 5 回： アンケート調査の進め方 (3) 対象は誰か 第 6 回： 調査票作成の基礎(1) ワーディング 第 7 回： 調査票作成の基礎(2) 質問文の形式と選択肢の構成 第 8 回： サンプリング(1) ランダム・サンプリングがなぜ必要か 第 9 回： サンプリング(2) サンプリングと調査票の配布から回収まで 第 10 回： 模擬調査 第 11 回： 調査データの作成 (1) SPSS データ形式ファイルの作成 第 12 回： 調査データの作成 (2) コーディング、データ・クリーニング 第 13 回： データ分析 (1) 記述統計 第 14 回： データ分析 (2) クロス表分析 第 15 回： 報告書の作成	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
授業時に指示する	
<b>評価方法</b>	
複数回の小課題提出および小テストによって評価する	
<b>テキスト</b>	
『入門・社会調査法』 轟・杉野編 法律文化社 2010 年	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
本科目は社会調査士資格標準カリキュラムの B に対応する科目であり、課題の提出などを厳しくチェックする。	

現代社会研究 I		担当教員	しま おか はじめ 島 岡 哉
単位	配当年次	開講形態	選択区分
2 単位	2 年前期	講義	選択
〈科目区分〉 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 現代社会系			

<b>サブ テーマ</b>	
現代文化の社会学・入門——テーマと出会い、問いを深める。	
<b>授業の到達目標</b>	
邦語文献講読と位置づける。1 冊の良質なテキストを読みながら、問題点を析出する。2007 年に刊行された小川伸彦・山泰幸編著『現代文化の社会学入門』（ミネルヴァ書房、2800 円）は、最新の社会的テーマを良質な社会理論で解析した書である。卒業研究をにらみ、全 14 章からなるテキストを丁寧に読み解きながら、テーマ探しと論理的思考のトレーニングを行う。社会学の理論を実践的に応用した論文群を解読しながら、日常生活世界を読み解くための情報収集・探索能力を身につける。次に、社会学の根源的問いでもある、他者とは何か、社会とは何かについて、理論的に考える力をつける作業を通して、自他の理解能力を高めることを目指す。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
自他の理解能力、情報収集・探索能力	
<b>授業の概要（形態）</b>	
講義を主とする。各回の講義内容の理解度をはかるために、および双方向の講義を目指すために、リアクション・ペーパーを書いてもらう。ただし、登録者数が少なくゼミ形式が可能な場合は、形式を変更することもありうる。	
<b>授業の計画</b>	
第 1 回： 流動化する愛——「電車男」と告白 第 2 回： お笑い——男の世界での女性の語られ方 第 3 回： 心理ブーム——感情のコントロール 第 4 回： 田舎暮らし——「住」の選択 第 5 回： 贈り物——こめられた意味 第 6 回： 旅と観光——旅のあり方の変容 第 7 回： 習い事——バレー教室を事例に 第 8 回： 民話——猿退治伝説の再生 第 9 回： 盆踊り——賑わいの創出と対象化 第 10 回： 地域社会とメディア——ケータイ「圏外」地域と情報化 第 11 回： 子供と遊び——子供の世界における「集団」 第 12 回： 「お客様」社会——「客」と暴力 第 13 回： ラジオと高齢者——「ラジオ深夜便」 第 14 回： 文化の遺産化——彷徨える「文化財」？ 第 15 回： まとめと再考察——社会的思考のための 11 のヒント	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
予習の際には、当然、講義日までに該当する章を読んでくること。次に、講義内に解説した内容をテキスト本体に書き込んでいくこと。本はきれいにとっておくものではない。最後に、帰宅後の復習の際には、書き込みをも参照しながら、その日に行われた 1 章の内容を完全に理解するように努力すること。	
<b>評価方法</b>	
毎回配布するリアクション・ペーパーへの記載内容（出欠も兼ねる）が 60 パーセント、レポート試験 30 パーセントの総合評価	
<b>テキスト</b>	
『現代文化の社会学入門』 小川伸彦・山泰幸編著 ミネルヴァ書房 2007 年	
<b>その他（受講上の注意）</b>	
テキストを購入せずに済まそうとするものには受講を認めない。本講義は、文献購読である。次に、真摯に学ぼうとする受講生に迷惑をかける者には、単位を与えない。毎回のコメントシートの記載内容によって加点していく成績評価法を取る。	

社会調査方法論		担当教員	こばやし だい すけ 小林 大 祐
単 位	配当年次	開講形態	選択区分
2 単位	2 年後期	講義	選択
〈科目区分〉 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 現代社会系			

<b>サブ テ ー マ</b>	
統計データの読み方を学ぶ	
<b>授業の到達目標</b>	
この講義では、量的なデータを読み、正しく理解するために必要な統計学の知識について、基礎から説明していく。単純集計、度数分布、代表値、クロス集計などの記述統計データの読み方や、グラフの読み方、また、それらの計算や作成のしかた。さまざまな質的データの読み方と基本的なまとめ方を学ぶことで、官庁統計や簡単な調査報告・フィールドワーク論文が読めるようになってもらう。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
選択能力、課題解決能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
前期の社会調査法ⅠⅡに引き続き、『入門・社会調査法』（轟・杉野編 法律文化社 2010年）をテキストとして用いるが、その他にも説明のため、適宜レジュメを配布する。また理解度のチェックのために複数回の小テストがある。	
<b>授業の計画</b>	
第1回： オリエンテーション 第2回： 統計データとはなにか 第3回： 統計データの入手方法 官庁統計を利用する 第4回： 統計データの読み方(1) 単純集計・度数分布 第5回： 統計データの読み方(2) 代表値・分散・標準偏差 第6回： 小テスト 第7回： 統計データをグラフにする (1)円グラフ、棒グラフ、折れ線グラフ 第8回： 統計データをグラフにする (2)ヒストグラム、散布図 第9回： 小テスト 第10回： 関連性を探る(1) クロス集計表 第11回： 関連性を探る(2) 相関係数 第12回： 小テスト 第13回： 相関関係と因果関係 みかけの相関に騙されないために 第14回： 質的データのまとめ方 第15回： まとめ	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
授業時に指示する。 参考図書： 『社会調査へのアプローチ(第2版)』大谷信介他 ミネルヴァ書房 2005年	
<b>評価方法</b>	
複数回の小課題提出および小テストによって評価する	
<b>テキスト</b>	
『入門・社会調査法』（轟・杉野編 法律文化社 2010年）	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
本科目は社会調査士資格標準カリキュラムのCに対応する科目であり、課題の提出などを厳しくチェックする。	

社会統計学		担当教員	すぎしま いち ろう 杉島 一郎
単位	配当年次	開講形態	選択区分
2単位	2年後期	演習	選択
〈科目区分〉 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 現代社会系			

<b>サブテーマ</b>
社会調査などの調査・研究に必要な基礎的統計学
<b>授業の到達目標</b>
この講義では、社会調査の統計的データをまとめたり分析したりするために必要な基礎的な統計学的知識を学ぶ。まず推測統計の論理として確率論の基礎、基本統計量、検定・推定理論とその応用、抽出法の理論を学び、その後変数間の連関を表す統計量として、クロス表の統計量、相関係数、回帰分析についての基礎を学ぶ。
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>
情報収集・探索能力、社会・職業理解能力、計画実行能力、選択能力
<b>授業の概要(形態)</b>
例題を用いて、各種の統計について演習をおこなう。
<b>授業の計画</b>
第1回： オリエンテーション 第2回： 記述統計と推測統計との違い 第3回： 部分から全体を推測する 社会を知るための諸条件 第4回： 確率分布について(1) 二項分布・ポアソン分布 第5回： 確率分布について(2) 正規分布・t分布 第6回： 確率分布について(3) カイ二乗分布・F分布 第7回： 推定の論理(1) 中心極限定理 第8回： 推定の論理(2) 信頼区間 第9回： 推定の論理(3) 帰無仮説の考え方 第10回： 検定の論理(1) t検定 第11回： 検定の論理(2) カイ二乗検定 第12回： 相関係数 第13回： 回帰分析 第14回： 回帰係数の検定 第15回： まとめ 第16回： 定期試験
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>
必ずテキストを用いて予習・復習を行うこと。その他関連する内容についての予習・復習は授業中に指示する。
<b>評価方法</b>
期末テスト50%、小レポートと受講態度50%
<b>テキスト</b>
『これならわかる統計学』 美濃哲郎 著 ムイスリ出版 2005年
<b>その他(受講上の注意)</b>
数学に関しては、全員あまり知識をもっていないものとして授業を進める。 社会調査士資格に必要なD科目である。

データ解析法 a		担当教員	やま なか ち え 山中千恵
単 位	配当年次	開講形態	選択区分
2 単位	2 年後期	演習	選択
＜科目区分＞ 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 現代社会系			

<b>サブ テーマ</b>	
質的調査法を学ぶ。	
<b>授業の到達目標</b>	
この講義では、さまざまな質的データの収集や分析方法について解説をおこなう。聞き取り調査、参与観察法、会話分析の他、新聞記事などのテキストに関する質的データの分析法(内容分析等)などの手法について概説した後、実習としてインタビュー調査の経験をしてもらう。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
コミュニケーション能力、情報収集・探索能力、計画実行能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
講義と実習の形式によっておこなう。	
<b>授業の計画</b>	
第1回: 質的調査とはなにか 第2回: 調査の倫理 第3回: 質的調査の手法 (1) インタビュー調査 第4回: 質的調査の手法 (2) 参与観察法 第5回: 質的調査の手法 (3) 会話分析 第6回: 質的調査の手法 (4) 内容分析(活字メディア) 第7回: 質的調査の手法 (5) 内容分析(映像メディア) 第8回: 中間試験 第9回: インタビューをおこなう (1) インタビューを企画する 第10回: インタビューをおこなう (2) 対象者を決める 第11回: インタビューをおこなう (3) インタビューをおこなう 第12回: 調査結果をまとめる (1) 第13回: 調査結果をまとめる (2) 第14回: 質的データの問題点と質的調査の限界 第15回: 報告会	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
授業中に言及した論文を読むようところがける。	
<b>評価方法</b>	
中間試験と発表・レポートによる。	
<b>テキスト</b>	
特になし	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
本科目は社会調査士資格標準カリキュラムのF科目である。小テストなどを厳しくチェックする。私語など講義を妨害する学生には退出してもらう。単位をあたえないこともある。受講生の理解度等によって、授業計画に変更を加える可能性があるので注意すること。	

日本の言語文化 a		担当教員	おおかわ はるみ 大河晴美
単位	配当年次	開講形態	選択区分
2単位	2年前期	講義	選択
〈科目区分〉 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 現代社会系			

<b>サブテーマ</b>	
文学と映画で考える(日本)	
<b>授業の到達目標</b>	
日本の近代文学とそれを原作とした映画を取り上げ、文字表現による文学、映像・音声表現による映画の特性に注目しながら、表現・内容の分析と比較を行う。 各作品が発表された時代の社会・文化の状況や登場人物が抱える問題等を理解し、現代との相違を考えることで、自己の言語・文化観や他者との関係について認識を深める。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
自他の理解能力、情報収集・探索能力、課題解決能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
講義形式。映画はDVDで視聴する。 授業で使用するPowerPointの資料を配付するので、気づいたこと、考えたことをノート欄に記入すること。 各作品の終了後、復習課題を出す。	
<b>授業の計画</b>	
第1回： オリエンテーション 第2回： 森鷗外「舞姫」(1890年) 第3回： 森鷗外「舞姫」(1890年) 第4回： 森鷗外「舞姫」(1890年) 第5回： 映画「舞姫」(篠田正浩監督、1989年) 第6回： 映画「舞姫」(篠田正浩監督、1989年) 第7回： 泉鏡花「外科室」(1895年) 第8回： 泉鏡花「外科室」(1895年) 第9回： 映画「外科室」(坂東玉三郎監督、1992年) 第10回： 夏目漱石「夢十夜」(1908年) 第11回： 夏目漱石「夢十夜」(1908年) 第12回： 夏目漱石「夢十夜」(1908年) 第13回： 映画「ユメ十夜」(清水厚監督など、2007年) 第14回： 映画「ユメ十夜」(清水厚監督など、2007年) 第15回： まとめ	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
テキストの該当部分を読んで授業に臨むこと。 その作品の表現・内容と発表された時代の社会・文化の状況を考え、復習課題を行うこと。 参考図書は適宜紹介する。	
<b>評価方法</b>	
復習課題50%、期末レポート50%の割合で評価する。欠席は減点対象とする。	
<b>テキスト</b>	
『舞姫・うたかたの記 他三篇』 森鷗外 岩波文庫 1981年 『文鳥・夢十夜』 夏目漱石 新潮文庫 2002年 ※「外科室」はプリントを配付する。	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
DVD視聴の回に欠席した場合は、附属図書館等で各自視聴すること。	



日本の言語文化 b		担当教員	おおかわ はるみ 大河晴美
単位	配当年次	開講形態	選択区分
2単位	2年後期	講義	選択
＜科目区分＞ 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 現代社会系			

<b>サブテーマ</b>	
文学と映画で考える(日本)	
<b>授業の到達目標</b>	
昭和期の日本文学とその作品を原作とした映画を取り上げ、文字表現による文学、映像・音声表現による映画の特性に注目しながら、表現・内容の分析と比較を行う。 各作品が発表された時代の社会・文化の状況や登場人物が抱える問題等を理解し、現代との相違を考えることで、自己の言語・文化観や他者との関係について認識を深める。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
自他の理解能力、情報収集・探索能力、課題解決能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
講義形式。映画はDVDで視聴する。 授業で使用するPowerPointの資料を配付するので、気づいたこと、考えたことをノート欄に記入すること。 各作品の終了後、復習課題を出す。	
<b>授業の計画</b>	
第1回： オリエンテーション 第2回： 小林多喜二「蟹工船」(1929年) 第3回： 〃 第4回： 〃 第5回： 映画「蟹工船」(SUBU監督、2009年) 第6回： 〃 第7回： 宮沢賢治「銀河鉄道の夜」(1934年) 第8回： 〃 第9回： アニメーション映画「銀河鉄道の夜」(杉井ギサブロー監督、1985年) 第10回： 〃 第11回： 太宰治「ヴィヨンの妻」(1947年) 第12回： 〃 第13回： 映画「ヴィヨンの妻～桜桃とタンポポ～」(根岸吉太郎監督、2009年) 第14回： 〃 第15回： まとめ	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
テキストの該当部分を読んで授業に臨むこと。 その作品の表現・内容と発表された時代の社会・文化の状況を考え、復習課題を行うこと。 参考図書は適宜紹介する。	
<b>評価方法</b>	
復習課題50%、期末レポート50%の割合で評価する。欠席は減点対象とする。	
<b>テキスト</b>	
『蟹工船・党生活者』 小林多喜二 新潮文庫 1954年 『新編 銀河鉄道の夜』 宮沢賢治 新潮文庫 1989年 『ヴィヨンの妻』 太宰治 新潮文庫 1950年	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
DVD視聴の回に欠席した場合は、附属図書館等で各自視聴すること。	

### Ⅲ. 3年生

<学部共通科目>

<心理学科専門科目>

<コミュニケーション学科専門科目>

英 語 III a		担当教員	マシュー エリオット ハウカ
単 位	配当年次	開講形態	選択区分
1 単位	3 年前期	演習	選択
〈科目区分〉 人間学部学部共通科目 外国語科目			

<b>サブ テーマ</b>	
Read, Comprehend & Discuss	
<b>授業の到達目標</b>	
このコースの目的は英語でのリーディングとディスカッションを通して、異文化理解とクリティカル・シンキング能力を向上させることである。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
自他の理解能力、コミュニケーション能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
A pre-reading warm-up activity will be held before reading the interesting essay on the topic. Comprehension exercises, including pair-work, will follow introduction of new vocabulary. After discussing the topic in groups, a short writing exercise will be	
<b>授業の計画</b>	
第 1 回: Introductions 第 2 回: Who Is the Most Important Person from History? 第 3 回: Who Is the Most Important Person from History? 第 4 回: What Are Fattening Rooms? 第 5 回: What Are Fattening Rooms? 第 6 回: Where Can You Find a Living Goddess? 第 7 回: Where Can You Find a Living Goddess? 第 8 回: What Is a Knight? 第 9 回: What Is a Knight? 第 10 回: Who Reached the South Pole First? 第 11 回: Who Reached the South Pole First? 第 12 回: What Is the Royal Flying Doctor Service? 第 13 回: What Is the Royal Flying Doctor Service? 第 14 回: What Did the Ancient Egyptians Give Us? 第 15 回: What Did the Ancient Egyptians Give Us? 第 16 回: Final Examination	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
Students are encouraged to consult the Internet for information on topics introduced in the textbook.	
<b>評価方法</b>	
Active Participation and Homework Assignments - 50% Final Examination - 50%	
<b>テキスト</b>	
What A World Reading 2: Amazing Stories from Around the Globe Milada Broukal Pearson Longman ISBN 9780132477963	
<b>その他(受講上の注意)</b>	

英語 III b		担当教員	マシュー エリオット ハウカ
単位	配当年次	開講形態	選択区分
1 単位	3 年後期	演習	選択
〈科目区分〉 人間学部学部共通科目 外国語科目			

<b>サブ テーマ</b>	
Read, Comprehend & Discuss	
<b>授業の到達目標</b>	
このコースの目的は英語でのリーディングとディスカッションを通して、異文化理解とクリティカル・シンキング能力を向上させることである。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
自他の理解能力、コミュニケーション能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
A pre-reading warm-up activity will be held before reading the interesting essay on the topic. Comprehension exercises, including pair-work, will follow introduction of new vocabulary. After discussing the topic in groups, a short writing exercise will be	
<b>授業の計画</b>	
第 1 回: Introductions 第 2 回: What Is Happening to the World's Climate? 第 3 回: What Is Happening to the World's Climate? 第 4 回: How Do Koreans Celebrate a Wedding? 第 5 回: How Do Koreans Celebrate a Wedding? 第 6 回: What Is a Marathon? 第 7 回: What Is a Marathon? 第 8 回: What Is the Story Behind the Bed? 第 9 回: What Is the Story Behind the Bed? 第 10 回: Who were the Aztecs? 第 11 回: Who were the Aztecs? 第 12 回: Where Is Timbuktu? 第 13 回: Where Is Timbuktu? 第 14 回: Where Do the Most Vegetarians Live? 第 15 回: Where Do the Most Vegetarians Live? 第 16 回: Final Examination	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
Students are encouraged to consult the Internet for information on topics introduced in the textbook.	
<b>評価方法</b>	
Active Participation and Homework Assignments - 50% Final Project - 50%	
<b>テキスト</b>	
What A World Reading 2: Amazing Stories from Around the Globe Milada Broukal Pearson Longman ISBN 9780132477963	
<b>その他(受講上の注意)</b>	

海外語学研修		担当教員	モーリス ルイス スプリチャル
単位	配当年次	開講形態	選択区分
4単位	2年～4年	演習	選択
＜科目区分＞ 人間学部学部共通科目 外国語科目			

<b>サブテマ</b>	
Eight-Week English Study Program at California State University, Fullerton	
<b>授業の到達目標</b>	
This course is designed to give participants a complete hands-on experience in all phases of planning and participating in an approximate eight-week English study program in the USA. Participants will be personally responsible for all procedures in securing the proper visa in order to study in the USA and for arranging their own transportation to the USA. Furthermore, they will arrange their own home-stay accommodations through the American Language Program (ALP) of California State University, Fullerton and be responsible for applying for admission to the intensive English study program of the ALP.	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
自他の理解能力、コミュニケーション能力、情報収集・探索能力、社会・職業理解能力、計画実行能力、選択能力、課題解決能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
This program is scheduled to take place from early August through late September with the planning stages taking place from April through July. After returning from the USA, participants must submit records of attendance and grades for their studies at the	
<b>授業の計画</b>	
第1回： } 第2回： } 第3回： } Introduction to Goals of the Program 第4回： } Report on Previous Program 第5回： } Eligibility Interviews 第6回： } Meetings to Prepare Documents 第7回： } (Jin-ai University) 第8回： } 第9回： } 第10回： } 第11回： } 第12回： } Participation in the Program 第13回： } (ALP、CSUF) 第14回： } 第15回： } 第16回： }	第17回： } 第18回： } 第19回： } 第20回： } 第21回： } 第22回： } Participation in the Program 第23回： } (ALP、CSUF) 第24回： } 第25回： } 第26回： } 第27回： } 第28回： } 第29回： Submission of ALP Attendance & Grade Reports (Jin-ai University) 第30回： Submission of Documents Requesting Credits (Jin-ai University)
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
Mandatory attendance at all meetings prior to departure to and after returning from the USA is required in order to successfully participate in the program.	
<b>評価方法</b>	
A grade will be assigned mainly based on evaluation by the American Language Program of California State University, Fullerton. Participation in the planning stages and post-study activities at Jin-ai University will also be taken into consideration.	
<b>テキスト</b>	
To be selected by the American Language Program of California State University, Fullerton.	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
All applicants will be required to undergo a personal interview, and records of attendance in classes at Jin-ai University will also be examined to determine eligibility. All costs for the program are the sole responsibility of the participants. Approxima	

情報処理演習 a		担当教員	みや がわ ゆう いち 宮 川 祐 一
単 位	配当年次	開講形態	選択区分
2 単位	2 年前期・3 年前期	演習	選択
＜科目区分＞ 人間学部学部共通科目 情報科目			

<b>サブ テ ー マ</b>	
情報技術に関する知識と技能の習得(1)	
<b>授業の到達目標</b>	
この授業では、一般企業などにおける情報システムの利用者側としての必要な知識技能を主に習得し、業務の情報化を推進できる幅広い活用能力の獲得を目指す。 経済産業省が実施している「情報処理技術者試験」の一つである「IT パスポート試験」に合格できるレベルの知識と技能を得ることを目標としている。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
情報収集・探索能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
毎回授業の前半はテキストに従って各テーマに基づいた講義、後半は理解を深めるため演習形式で行う。場合によっては、コンピュータ室で演習を行うこともある。	
<b>授業の計画</b>	
第 1 回： 第 1 章 企業と法務 第 2 回： 第 2 章 経営戦略 第 3 回： 第 3 章 システム戦略 第 4 回： 第 4 章 開発技術 第 5 回： 第 5 章 プロジェクトマネジメント 第 6 回： 第 6 章 サービスマネジメント 第 7 回： 第 7 章 基礎理論(1) 第 8 回： 第 7 章 基礎理論(2) 第 9 回： 第 8 章 コンピュータシステム(1) 第 10 回： 第 8 章 コンピュータシステム(2) 第 11 回： 第 9 章 技術要素(1) 第 12 回： 第 9 章 技術要素(2) 第 13 回： 演習問題(1) 第 14 回： 演習問題(2) 第 15 回： 演習問題(3) 第 16 回： 定期試験	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
参考図書： (1)『平成 25 年度 ITパスポート合格教本 CBT 対応』岡嶋裕史 技術評論社 2012 年 (2)『IT パスポート試験 書いて覚える学習ドリル』FOM 出版 2011 年	
<b>評価方法</b>	
期末試験等に約 80%、課題レポートとその発表および小テスト等に約 20%の配点とした評価をする。(関連する検定・資格試験の合格者については、A 評価相当以上として加味する)	
<b>テキスト</b>	
『IT パスポート試験 対策テキスト CBT 試験対応 平成 24-25 年版』FOM 出版 2012	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
小テストは数回行います。特別な理由のない 3 回以上の連続欠席、あるいは 4 回以上の欠席については、受講を放棄したものとみなす。減点評価(遅刻 1 回につき-2 点、欠席 1 回-4 点)をします。	

情報処理演習 b		担当教員	みや がわ ゆう いち 宮川 祐一
単位	配当年次	開講形態	選択区分
2 単位	2 年後期・3 年後期	演習	選択
<科目区分> 人間学部学部共通科目 情報科目			

<b>サブ テーマ</b>	
情報技術に関する知識と技能の習得(2)	
<b>授業の到達目標</b>	
<p>前期に開講している情報処理演習 a と同様に、この授業では、一般企業などにおける情報システムの利用者側としての必要な知識技能を主に習得し、業務の情報化を推進できる幅広い活用能力の獲得を目指す。</p> <p>「IT パスポート試験」に合格できるレベルの知識と技能を得ること、さらには IT スキルを世界水準で証明する資格、「CompTIA 認定資格」のうち、コンピューター技術者への登龍門と言われる「A+」を取得するための知識と技能の獲得を目指す。</p>	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
情報収集・探索能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
<p>全 15 回のうち、前半は IT パスポート試験関係、後半は CompTIA 関係の内容とします。</p> <p>毎回授業の前半 1/2 は講義、後半 1/2 は理解を深めるための演習問題を解く演習や実際にパソコンを用いた操作演習に重きをおく形式で行う。</p>	
<b>授業の計画</b>	
<p>第 1 回: ストラテジ系の問題</p> <p>第 2 回: マネジメント系の問題</p> <p>第 3 回: テクノロジ系の問題 1</p> <p>第 4 回: テクノロジ系の問題 2</p> <p>第 5 回: データベースに関する問題</p> <p>第 6 回: 総合演習問題とその対策 1</p> <p>第 7 回: 総合演習問題とその対策 2</p> <p>第 8 回: 総合演習問題とその対策 3</p> <p>第 9 回: コンピュータの歴史と基本機能、コンピュータの基礎知識</p> <p>第 10 回: ハードウェアに関するトラブルシューティングと問題解決</p> <p>第 11 回: オペレーティングシステム、使用の基本原理</p> <p>第 12 回: オペレーティングシステムのインストールおよびアップグレード</p> <p>第 13 回: オペレーティングシステムに関するトラブルシューティングと問題解決</p> <p>第 14 回: プリンタとスキャナ、ネットワーク</p> <p>第 15 回: セキュリティ、コミュニケーションと職業意識</p> <p>第 16 回: 定期試験</p>	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
<p>参考図書: (1)『CompTIA 認定資格受験ライブラリーA+ COMPLETE テキスト IT Technician Designation 編』(株)ウチダ人材開発センター ダイエックス出版 2008 年</p> <p>(2)『CompTIA 認定資格受験ライブラリーA+ COMPLETE テキスト Essentials 編』(株)ウチダ人材開発センター ダイエックス出版 2008 年</p> <p>(3)『A+ エッセンシャルテキスト -220-701 対応 CompTIA 学習書シリーズ』TAC 株式会社 TAC 2010 年</p> <p>(4)『A+ IT テクニシャンテキスト -220-702 対応 CompTIA 学習書シリーズ』TAC 株式会社 TAC 2010 年</p>	
<b>評価方法</b>	
<p>期末試験等に約 60%、課題レポートとその発表および小テストに約 40%の配点とした評価をする。(関連する検定・資格試験の合格者については、A 評価相当以上として加味する)</p>	
<b>テキスト</b>	
『IT パスポート試験 対策テキスト CBT 試験対応 平成 24-25 年版』FOM 出版 2012	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
<p>CompTIA(コンプティア)とは、米国の CompTIA(The Computing Technology Industry Association)によって主催される、IT 基礎スキル及び、PC の環境構築能力を証明する国際的に評価の高い試験です。</p> <p>CompTIA A+(エープラス)は、PC や周辺機器、クライアント側のネットワーク設定などを、実務で運用・管理するスキルを問う資格試験です。実務に即した PC 活用スキルを問う資格なので、ヘルプデスク、テクニカルサポート、フィールドエンジニア、インストラクター</p>	

フィールドワーク演習(インターンシップ)		担当教員	あらかわまさよし ひなやまとしかつ 荒川正吉・船山俊克
単 位	配当年次	開講形態	選択区分
2 単位	3 年前期	演習	選択
＜科目区分＞ 人間学部学部共通科目 修学基礎・フィールドワーク科目			

<b>サブ テーマ</b>	
学外でのフィールドワークを体験し、自己認識、自己啓発の機会とする。	
<b>授業の到達目標</b>	
学外における自主的な活動や体験をとおして、通常の講義や演習で得られない視点や考察点を体得する。本科目では、民間企業や各種団体・自治体等で就業体験(実習)を行い、以後の学習・研究のための動機付けを得ること、また優れた社会人となるための自己認識、自己啓発の機会とすることを目的とする。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
自他の理解能力、コミュニケーション能力、情報収集・探索能力、社会・職業理解能力、役割把握・認識能力、計画実行能力、選択能力、課題解決能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
<b>授業の計画</b>	
〔授業の形態・授業の計画〕 本授業は、主として(「福井県インターンシッププログラム」3年生対象)に沿って、民間企業や各種団体、自治体等における就業体験(原則として5日間)を夏期休業中に行う。インターンシップ参加者(福井県外での参加者含む)を受講者とし、事前の本学教員および主催者によるガイダンス、事後の体験レポートの提出を行い、就業体験に基づく学生の就業意識の高揚をねらう。 ※受講希望者には、「志望動機書」の提出および面接を行い、計画を認めたくえで実施する。 ※今年度スケジュールは第1回就職ガイダンス(4/5・5限目)にて配付する。 【昨年度実施例】 ●出願・調整期間 4月上旬 インターンシップガイダンス 4月中旬 志望動機書提出 4月下旬 面接(5月上旬 結果発表) 5月中旬 インターンシップ説明会 5月下旬 エントリーシート締切 6月上旬 仁愛大学インターンシップ事前研修会 7月中旬 研修先等の決定 7月下旬 主催者による事前研修会 ●研修・就業体験期間 7月中旬～ 研修先と事前打合せ 8月上旬～9月末 企業・団体にて就業体験 ●レポート提出 10月末 テーマ:インターンシップで学んだこと	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
<b>評価方法</b>	
学内外の事前・事後ガイダンスへの出席状況、インターンシップ先の評定書、課題レポートなどを総合評価する。	
<b>テキスト</b>	
使用しない。	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
本科目の履修登録については、それぞれの担当教員がガイダンスなどを実施し、各プログラムの参加者をもって受講者とするため、通常の実習登録手続きを要しない。	



フィールドワーク演習(ボランティア)		担当教員	きん だ あき ひこ 金 田 明 彦
単 位	配当年次	開講形態	選択区分
2 単位	1 年～4 年	演習	選択
＜科目区分＞ 人間学部学部共通科目 修学基礎・フィールドワーク科目			

<b>サブ テーマ</b>
学外でのフィールドワークを体験し、自己認識、自己啓発の機会とする
<b>授業の到達目標</b>
学外における自主的な活動や体験をとおして、通常の講義や演習で得られない視点や考察点を体得する。 本科目では、「ボランティア」、「イベント」、「コンペティション」の3分野への参画体験演習を行い、以後の学修・研究のための動機付けを得ること、また優れた社会人となるための自己認識、自己啓発の機会とすることを目的とする。
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>
自他の理解能力、コミュニケーション能力、情報収集・探索能力、社会・職業理解能力、役割把握・認識能力、計画実行能力、選択能力、課題解決能力
<b>授業の概要(形態)</b>
〔授業の形態・授業の計画〕 本プログラムには、学内外でのボランティア活動体験、社会的イベント・コンペティションなどへの参画体験が含まれる。教室や研究室で学習や研究をするのではなく、実際に社会での直接的体験を通して、優れた社会人となるための自己認識、自己啓発の機会とすることを目的とする。受講希望者は、担当教員に問い合わせること。 ※受講希望者には、「実施計画書」の提出および面談を行い、計画を認めたらうえで実施する。
<b>授業の計画</b>
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>
<b>評価方法</b>
計画への取り組み、事後のプレゼンテーションや報告書などを総合評価する。
<b>テキスト</b>
使用しない。
<b>その他(受講上の注意)</b>
本科目の履修登録については、それぞれの担当教員がガイダンスなどを実施し、各プログラムの参加者をもって受講者とするため、通常の実績登録手続きを要しない。

フィールドワーク演習(国際交流)		担当教員	モーリス ルイス スプリチャル・ 加藤優子
単 位	配当年次	開講形態	選択区分
2 単位	1 年～4 年	演習	選択
＜科目区分＞ 人間学部学部共通科目 修学基礎・フィールドワーク科目			

<b>サブ テーマ</b>	
学外でのフィールドワークを体験し、自己認識、自己啓発の機会とする	
<b>授業の到達目標</b>	
学外における自主的な活動や体験をとおして、通常の講義や演習で得られない視点や考察点を体得する。 本科目では、原則として、カリフォルニア州立大学フラトン校における「仁愛大学海外短期研修(2 週間プログラム)」への参画体験演習を行い、以後の学修・研究のための動機付けを得ること、また優れた社会人となるための自己認識、自己啓発の機会とすることを目的とする。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
自他の理解能力、コミュニケーション能力、計画実行能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
〔授業の形態・授業の計画〕 本プログラムは、原則として、カリフォルニア州立大学フラトン校における「仁愛大学海外短期研修(2 週間プログラム)」の参加者を受講者として実施する。受講者への事前授業を 10 回程度行い、夏期休暇中に 2 週間の短期留学を実施する。フラトン校見学、フラトン校語学学校 American Language Program(ALP)における語学研修、現地学生との交流、観光などの企画実施を含み、以後の学修・研究のための動機付けを得ることを目指す。 なお、個人参加の海外留学および国内における外国人との国際交流などの企画体験等も対象とする場合があるので、受講希望者は、担当教員に問い合わせること。	
<b>授業の計画</b>	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
<b>評価方法</b>	
事前ガイダンスへの取り組み、現地評価、事後のプレゼンテーションや課題レポートなどを総合評価する。	
<b>テキスト</b>	
ALP より指示がある。	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
仁愛大学海外短期研修の最小催行人数は 6 名とする。よって受講生が少ない場合、非開講とすることがある。本科目の履修登録については、それぞれの担当教員がガイダンスなどを実施し、各プログラムの参加者をもって受講者とするため、通常の実務登録手続きを要しない。	

心理検査法Ⅱ		担当教員	あらかわまさよし みずかみきこ あおいとしや 荒川正吉・水上喜美子・青井利哉
単位	配当年次	開講形態	選択区分
2単位	3年前期	演習	選択
＜科目区分＞ 人間学部心理学科専門科目 基幹科目 心理学基礎			

<b>サブテーマ</b>	
心をどのようにとらえ測定するか	
<b>授業の到達目標</b>	
精神科学としての心理学は、心のあり方やその機能を質的・量的に可能な限り客観的にとらえようとするために、さまざまな検査法を開発して来た。検査の使用にあたっては、その効用と限界を認識し、技法を習熟し、倫理性をわきまえた態度が求められる。この授業では、幾つかの検査を実際に体験することを通して、各検査技法の基本にある理論、検査の構成、一定の決められた実施法、解釈の仕方などを習得することを目的とする。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
自他の理解能力 コミュニケーション能力 情報収集・探索能力 社会・職業理解能力 役割把握・認識能力 計画実行能力 選択能力 課題解決能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
3 グループに分かれ、3 人の教員のもとで 3 タイプの検査を交互に実習する。各検査とも、講義、実習、討議、レポート提出が課せられる。	
<b>授業の計画</b>	
第1回： オリエンテーション 第2回： 質問紙法検査① 第3回： 質問紙法検査② 第4回： 質問紙法検査③ 第5回： 質問紙法検査④ 第6回： 描画法検査① 第7回： 描画法検査② 第8回： 描画法検査③ 第9回： 描画法検査④ 第10回： 知能検査① 第11回： 知能検査② 第12回： 知能検査③ 第13回： 知能検査④ 第14回： まとめ① 第15回： まとめ② (実習として体験する検査の内容は、心理検査法Ⅰとは異なるものになる。)	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
担当教員の指示に基づいて、事前の実施方法についてマニュアル等を読み、十分に理解しておくこと。 参考図書:松原達哉(編)(2002) 第4版心理テスト法入門 日本文化科学社	
<b>評価方法</b>	
検査毎に作成するレポート(20%×3)と確認テスト(40%)により、総合的に評価する。実習を伴うため、出席状況や受講態度が悪い場合は、厳しく減点する。	
<b>テキスト</b>	
願興寺礼子・吉住隆弘(編)(2011)「心理検査の実施の初歩」ナカニシヤ出版	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
実習を含むので出席と熱心な実習態度を期待する。 実習にあたって同グループの友人等に対して自己開示が必要な場合がある。 検査の知識を安易に使用しないこと。	

精神医学 I		担当教員	み わき やす お 三 脇 康 生
単 位	配当年次	開講形態	選択区分
2 単位	3 年前期	講義	選択
<科目区分> 人間学部心理学科専門科目 基幹科目 心理学専門			

<b>サブ テーマ</b>	
精神医学の歴史とシステム	
<b>授業の到達目標</b>	
いかにして日本の精神医学のシステムがつけられたのか歴史的にふりかえり、その後で 2 つの代表的な病気について学ぶ。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
自他の理解能力、情報収集・探索能力、社会・職業理解能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
資料を配布する。ビデオを見ることもある。	
<b>授業の計画</b>	
第 1 回： 精神病院の様子を紹介 第 2 回： 精神病院の様子を紹介 第 3 回： 精神医学の歴史 日本 第 4 回： 精神医学の歴史 日本 第 5 回： 精神医学の歴史 ヨーロッパ 第 6 回： 精神医学の歴史 ヨーロッパ 第 7 回： 精神障害と犯罪 第 8 回： 制度を使った精神療法 第 9 回： 統合失調症 第 10 回： 統合失調症 第 11 回： 統合失調症 第 12 回： 統合失調症 第 13 回： 気分障害、現代のうつ病とは何か 第 14 回： 気分障害、現代のうつ病とは何か 第 15 回： 気分障害、現代のうつ病とは何か 第 16 回： 定期試験	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
授業時に指示する	
<b>評価方法</b>	
レポート(40 点)と筆記試験(60 点)で行う。 レポートを出さない者は試験は受けられない。教科書を買わないとレポートとテストに解答を書くことが著しく困難となる。	
<b>テキスト</b>	
「医療環境を変えるー制度を使った精神療法の実践と思想」(京都大学学術出版会) テキストの購入方法： 下記ページにアクセスをして、「買い物かごに入れる」→「配送先: JAPAN」→「購入手続きに進む」の順番で手続を行い、申し込み画面にて「氏名」、「住所」、「クーポンコード」等を入力すると、書籍代金が割引されます。 <a href="http://www.kyoto-up.or.jp/book.php?isbn=9784876987511">http://www.kyoto-up.or.jp/book.php?isbn=9784876987511</a> クーポンコード: T100765(有効期限 2013/5/31) なお、学内でのテキスト販	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
私語は認めない。講義の中で語られる重々しい歴史や患者さんの姿へ敬意を持ってぬ者には退席を求める。欠席は 3 回までしか認めない。ゲストスピーカーの都合で多少は計画が前後します。	

精神医学Ⅱ		担当教員	み わき やす お 三 脇 康 生
単 位	配当年次	開講形態	選択区分
2 単位	3 年後期	講義	選択
〈科目区分〉 人間学部心理学科専門科目 基幹科目 心理学専門			

<b>サブ テーマ</b>	
現代社会はどこがどのように歪んでいるのか？	
<b>授業の到達目標</b>	
精神医学Ⅰで学んだことを基に、現代社会で問題になっている症例などについて学ぶ。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
自他の理解能力、情報収集・探索能力、社会・職業理解能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
資料を配布する。同時にビデオ、DVDを大量に見る。	
<b>授業の計画</b>	
第1回： PTSD(アートセラピーの紹介を含む) 第2回： PTSD(アートセラピーの紹介を含む) 第3回： PTSD(アートセラピーの紹介を含む) 第4回： PTSD(アートセラピーの紹介を含む) 第5回： 解離と多重人格 第6回： 解離と多重人格 第7回： 人格障害 第8回： 人格障害 第9回： 社会的ひきこもり(摂食障害の説明も含む) 第10回： 社会的ひきこもり(摂食障害の説明も含む) 第11回： 社会的ひきこもり(摂食障害の説明も含む) 第12回： 社会的ひきこもり(摂食障害の説明も含む) 第13回： 社会的ひきこもり(摂食障害の説明も含む) 第14回： 性同一性障害 第15回： 今、個人でできることは何だろうか？ 第16回： 定期試験	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
インターネットで各疾患の情報を集めてみると良い。但し間違ったことも書かれているので注意する。	
<b>評価方法</b>	
レポート(40点)と筆記試験(60点)で行う。 レポートを出さない者は試験は受けられない。 精神医学Ⅱにおいても精神医学Ⅰの教科書(「医療環境を変える一制度を使った精神療法の実践と思想」)(京都大学学術出版会)をレポートとテストで用いる。かならず前期のうちから購入しておくこと。	
<b>テキスト</b>	
就労と教育システムに関して： 『学校教育を変える制度論』 三脇康生・岡田敬司 万葉舎 2003年 『自己愛化する仕事』大野正和 1労働調査会 2011年 (レポートを書くとき必ず必要) PTSD へのアートセラピーに関して： 『アート×セラピー潮流』 関則雄・三脇康生・井上リサ フィルムアート社 2002年	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
「精神医学Ⅰ」を合格した者しか受講できない。私語は認めない。講義の内で語られる重々しい歴史や患者さんの姿へ敬意を持ってぬ者には退席を求める。欠席は3回までしか認めない。ゲストスピーカーの都合で多少は計画が前後します。	

教育心理学		担当教員	すぎ しま いち ろう 杉 島 一 郎
単 位	配当年次	開講形態	選択区分
2 単位	3 年前期	講義	選択
＜科目区分＞ 人間学部心理学科専門科目 基幹科目 心理学専門			

<b>サブ テーマ</b>	
心理学の教育への応用を通じて、こころの発達とこころのありかたの問題点を探る	
<b>授業の到達目標</b>	
<p>教育心理学は、子どもの発達と自己形成の支援を行うものである「教育」について、心理学の視点から研究する学問である。そのため、発達や学習、人間関係に関する基礎理論をもとに、それぞれの子どもや教科に最適な教授法を考え、学校や社会での人との関わり方を促す方法を構築していく分野である。</p> <p>本講義は、発達や学習、障害に関する基本的な考え方を理解するとともに、それら心理学的知見の教育への応用を考えることを目的とする。さらに、現代の教育における問題点について、心理学がいかに貢献できるかを具体的に考えていく。この目標のため、これまで大学で学んできた心理学の知識を動員し、基礎理論を応用する力を身につけることを目指す。</p>	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
自他の理解能力、情報収集・探索能力、社会・職業理解能力、選択能力、課題解決能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
講義を中心に進めるが、毎時間講義内容について自分の意見をまとめたブリーフレポートを提出させる。	
<b>授業の計画</b>	
第 1 回： 教育心理学とは 第 2 回： 教育心理学の課題と研究方法 第 3 回： 発達Ⅰ－情緒的発達 第 4 回： 発達Ⅱ－社会的発達 第 5 回： 発達Ⅲ－認知的発達 第 6 回： 学習Ⅰ－学習理論 第 7 回： 学習Ⅱ－学習理論の応用 第 8 回： 教授法Ⅰ 第 9 回： 教授法Ⅱ 第 10 回： 教育評価 第 11 回： 知能 第 12 回： 適応と障害 第 13 回： 集団の理解 第 14 回： 現代の教育の問題 第 15 回： まとめ 第 16 回： 定期試験	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
授業の終わりに、次の授業までにしてほしいことを指示する。 授業内容に関する質問等がある場合は積極的に研究室に来て質問すること。 参考図書は授業において適宜紹介する。	
<b>評価方法</b>	
毎回行うブリーフレポート(20%)と定期試験(80%)による総合評価 また、出席に応じて加減点する	
<b>テキスト</b>	
テキストは使用せず適宜プリントを配布する。	
<b>その他(受講上の注意)</b>	

家 族 心 理 学		担当教員	あか ざわ じゅん こ 赤 澤 淳 子
単 位	配当年次	開講形態	選択区分
2 単位	3 年後期	講義	選択
＜科目区分＞ 人間学部心理学科専門科目 基幹科目 心理学専門			

<b>サブ テーマ</b>	
家庭内で展開されている様々な人間関係について学ぶ	
<b>授業の到達目標</b>	
現代社会においては、家族の意義が薄れ解体に向かっているとされている。また、伝統的な家族は減少し、家族の形態は多様化している。このような状況下、家族内の人間関係は複雑になり、家族が抱える問題も多くなっている。本講義では、家族内の人間関係が個人に及ぼす影響と、家族が抱える問題について理解することを目的とする。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
自他の理解能力、情報収集・探索能力、役割把握・認識能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
講義を中心として進めるが、必要に応じ視聴覚教材やディスカッションを導入する。	
<b>授業の計画</b>	
第 1 回： 家族とは 第 2 回： 家族の発達 第 3 回： 家族アセスメントの方法 第 4 回： 親子関係Ⅰ：母子関係 第 5 回： 親子関係Ⅱ：父子関係 第 6 回： 親子関係Ⅲ：子どもの成長と親子関係の変化 第 7 回： きょうだい関係 第 8 回： きょうだい関係 第 9 回： 夫婦関係 第 10 回： 夫婦関係 第 11 回： 三世代家族の人間関係 第 12 回： 高齢者家族の人間関係 第 13 回： 現代家族の諸問題 第 14 回： 現代家族の諸問題 第 15 回： まとめ	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
参考図書： (1)『家族の人間関係(Ⅰ)』 ブレーン出版 (2)『家族の人間関係(Ⅱ)』 ブレーン出版 (3)『家族心理学入門』 倍風館 (4)『ジェンダーの心理学ハンドブック』 ナカニシヤ出版	
<b>評価方法</b>	
授業内の小テスト 60%、出席率および授業態度 20%、レポートおよび講義時間中の応答 20%	
<b>テキスト</b>	
「よくわかる家族心理学」、柏木恵子編著、ミネルヴェ書房	
<b>その他(受講上の注意)</b>	

スポーツ心理学		担当教員	の だ ま さ ひ ろ 野 田 政 弘
単 位	配当年次	開講形態	選択区分
2 単位	3 年後期	講義	選択
〈科目区分〉 人間学部心理学科専門科目 基幹科目 心理学専門			

<b>サブ テ ー マ</b>	
スポーツ行動の心理学的探求	
<b>授業の到達目標</b>	
スポーツ心理学は応用科学としてスポーツ行動における心理学的事象を解明し、それらに合理的に対処できるようにすることを目指したものである。本講義ではスポーツ全般における心理学的な諸問題を取り上げ、今日までの研究成果について解説を行う予定である。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
自他の理解能力、計画実行能力、課題解決能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
講義を中心に進める。必要に応じて資料を配布、視聴覚教材を利用する。	
<b>授業の計画</b>	
第 1 回: スポーツ心理学とは 第 2 回: スポーツと発達 第 3 回: 運動の制御機構 第 4 回: 運動の制御機構 第 5 回: 運動の学習と指導 第 6 回: 運動の学習と指導 第 7 回: スポーツにおける動機付け 第 8 回: スポーツの社会心理 第 9 回: 運動による健康の増進 第 10 回: 競技心理 第 11 回: 競技心理 第 12 回: メンタルトレーニング 第 13 回: メンタルトレーニング 第 14 回: スポーツ臨床 第 15 回: スポーツ臨床 第 16 回: 定期試験	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
参考図書: 杉原隆他編著『スポーツ心理学の世界』(福村出版) 杉原隆著『運動指導の心理学』(大修館書店)	
<b>評価方法</b>	
定期試験、レポート、出席の総合評価。	
<b>テキスト</b>	
中込四郎、伊藤豊彦、山本裕二編「よくわかるスポーツ心理」ミネルヴァ書房、2012 年	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
新聞、テレビなど授業外でのスポーツに関する報道、情報に対して、積極的に興味関心をもつように。	



心理療法論 I		担当教員	もり とし ゆき 森 俊 之
単 位	配当年次	開講形態	選択区分
2 単位	3 年前期	講義	選択
〈科目区分〉 人間学部心理学科専門科目 応用科目 臨床系			

<b>サブ テーマ</b>	
心の健康を保つ方法を考える	
<b>授業の到達目標</b>	
心理療法は精神分析、来談者中心療法、行動療法などを基礎にしながら、さまざまな理論・方法が生まれ出され、現在では多岐にわたっている。この授業では、さまざまな心理療法の考え方について学ぶとともに、そうした考え方を参考に心の健康をめざすための方略について考察する。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
自他の理解能力、コミュニケーション能力、情報収集・探索能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
講義を中心とする。必要に応じて、体験や討論を交える。	
<b>授業の計画</b>	
第 1 回： オリエンテーション 第 2 回： さまざまな心理療法 第 3 回： 人間関係を考える① 第 4 回： 人間関係を考える② 第 5 回： 人間関係を考える③ 第 6 回： 不安や緊張を和らげる① 第 7 回： 不安や緊張を和らげる② 第 8 回： 不安や緊張を和らげる③ 第 9 回： 行動の変容を促す① 第 10 回： 行動の変容を促す② 第 11 回： 行動の変容を促す③ 第 12 回： 考え方の変容を促す① 第 13 回： 考え方の変容を促す② 第 14 回： 考え方の変容を促す③ 第 15 回： まとめ 第 16 回： 期末試験	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
前回の授業の終わりに、次の授業までにしてほしいことを指示する。 授業内容に関する質問等がある場合は積極的に研究室に来て質問すること。	
<b>評価方法</b>	
学期末に実施する試験(60%)と、授業中に何度か指示する課題(40%)の成績をもとに、( )内の割合に基づいて総合的に評価する。	
<b>テキスト</b>	
教科書は指定しない。適宜、補助資料を配付する。 参考書は授業中、随時、紹介する。	
<b>その他(受講上の注意)</b>	

心 理 療 法 論 II		担当教員	かま た みち ひこ 鎌 田 道 彦
単 位	配当年次	開講形態	選択区分
2 単位	3 年後期	講義	選択
＜科目区分＞ 人間学部心理学科専門科目 応用科目 臨床系			

<b>サブ テーマ</b>	
さまざまな心理療法、身体的アプローチと心理療法、セルフカウンセリングの方法について学ぶ	
<b>授業の到達目標</b>	
心の病を治療する方法を心理療法という。これらの心理療法はなぜ行うかという、近い将来、心理療法を受けなくてもいいようになることを目指して行う。その点からすると、最終的には自助努力によって、自分自身と付き合っていくことが重要と考えられる。これらの方法を精神的な養生法として位置付ける。近年、自然治癒力や自助努力を中心におくホリスティック医学の考え方が少しずつ広まりつつある。よって、この授業では、いくつかの心理療法の考え方と、自助努力としての精神的な養生法について学ぶ。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
自他の理解能力、コミュニケーション能力、課題解決能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
テキストを用いた講義とデモンストレーションを中心とする。必要に応じて、体験やビデオを交える。	
<b>授業の計画</b>	
第 1 回： オリエンテーション、ホリスティックな医療について	
第 2 回： ミルトンエリクソンの心理療法について	
第 3 回： ブリーフセラピー①:ソリューション・フォーカスト・アプローチ	
第 4 回： <テキスト>養生および自然治癒力について	
第 5 回： <テキスト>養生を行う際の指針について	
第 6 回： 心の整理法	
第 7 回： フォーカシング	
第 8 回： <テキスト>自分で整体、感覚受容性トレーニング	
第 9 回： 身体からのアプローチと心理療法	
第 10 回： グループ・アプローチ	
第 11 回： <テキスト>気と経絡、鍼灸	
第 12 回： <テキスト>フィードバック法、パッチフラワー療法	
第 13 回： <テキスト>アロマセラピー、冷え性予防	
第 14 回： <テキスト>漢方、サプリメント、電磁波予防	
第 15 回： <テキスト>症状への対処法	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
この授業の2つ目の目的としては、受講生が将来、自分自身の健康管理を上手に行っていくことができるようになることも狙いとして行っています。そのため、事前にテキストを読んおくこと、また授業後に養生法を試行してみることが役立ちます。	
<b>評価方法</b>	
学期末に実施するレポート(60%)と、授業中に何度か指示する課題(40%)の成績をもとに、( )内の割合に基づいて総合的に評価する。 また、授業への出席を重視し、欠席は1回につき5点減点する。	
<b>テキスト</b>	
「改訂:精神科養生のコツ」岩崎学術出版 神田橋條治著 生涯にわたって役立つ本であるため、必ず購入すること	
<b>その他(受講上の注意)</b>	

アイデンティティ心理学		担当教員	にし むら のり あき 西村 則昭
単位	配当年次	開講形態	選択区分
2単位	3年前期	講義	選択
＜科目区分＞ 人間学部心理学科専門科目 応用科目 臨床系			

<b>サブテマ</b>	
アイデンティティの心理学	
<b>授業の到達目標</b>	
<p>「私はひとりの他者なのです」(ランボー)。「私」の存在とは、もっとも分かりきったものようだが、実はもっとも謎めいたものではないだろうか。そんな問題意識から出発したい。アイデンティティとは、「これが私である」という実感を伴う自己認識であり、エリクソンによって提唱された概念である。それは心理臨床においてだけでなく、人間心理の理解において、重要な概念となっている。この講義では、思春期や青年期、異文化理解、精神病理、宗教など、さまざまな領域で問題となるアイデンティティについて、フロイト以来の深層心理学の立場から考えていきたい。そして自らのアイデンティティを模索し、社会において自らの特質を生かす生き方の確立を目指す。</p>	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
自他の理解能力、コミュニケーション能力、役割把握・認識能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
講義を中心とする。簡単な心理テストを体験的に学習してもらうこともある。	
<b>授業の計画</b>	
第1回: オリエンテーション 第2回: ラカンの鏡像段階 第3回: ラカンの現実界 第4回: 話す主体はどのように成立するか 第5回: 幻想 第6回: 欲望 第7回: 離人症 第8回: 解離性障害 第9回: 摂食障害(拒食) 第10回: 摂食障害(過食) 第11回: 境界性パーソナリティ障害 第12回: 本来的自己とは何か 第13回: 女性とは何か 第14回: 宗教的アイデンティティ 第15回: まとめ	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
予習・復習については、授業時に指示する。主に関連する文献・図書を指定するので読んでおくこと。質問・相談はメール(nisimura@jindai.ac.jp)にて受け付ける。 参考書は適宜、紹介する。	
<b>評価方法</b>	
授業が全部終わった後提出してもらうレポートで評価する。欠席多数の者には、当該授業の範囲内でのレポートを別途に課すこともある。	
<b>テキスト</b>	
テキストは使用しない。プリント資料を配布する。	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
人文科学的な心理学に興味がある人だけではなく、「私」が生きている不思議について考えてみたい人、ビジュアル文化に興味のある人、コミュニケーション学科の人、歓迎します。	

犯罪心理学		担当教員	ひろ い りょう いち 廣 井 亮 一
単 位	配当年次	開講形態	選択区分
2 単位	3 年前期	講義	選択
〈科目区分〉 人間学部心理学科専門科目 応用科目 臨床系			

<b>サブ テーマ</b>	
非行少年への「司法臨床」の実際	
<b>授業の到達目標</b>	
<p>少年非行をもとに講義を展開する。</p> <p>メディアを通して毎日のように「非行少年」のことが報じられているにもかかわらず、私たちは、「犯罪少年」と「非行少年」の相違すら知らず、「彼ら」を対象化して論じてはいないだろうか。少年非行は、その時代における青少年と家族・学校・社会との関係性の歪みを鋭く反映したものであり、同時代を生きる君たち自身の変容に他ならないのである。</p> <p>その観点から本講義では、家庭裁判所における「司法臨床」の実際を通して、人と人との関係性を修復するための基本的姿勢をとらえながら、非行少年への援助について考察する。</p>	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
自他の理解能力、コミュニケーション能力、課題解決能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
講義と並行して、ある非行少年と家裁調査官との関わりを描いたビデオをもとに解説していく。	
<b>授業の計画</b>	
第 1 回： 非行少年とは 第 2 回： 少年非行の現状 第 3 回： 少年非行の歴史的変遷 第 4 回： 非行形態の変化 第 5 回： 少年たち3－第一話「オヤジ狩り」/解説 第 6 回： 少年たち3－第二話「なぐられる人」/ミニレポート作成 第 7 回： 少年たち3－第三話「再逮捕」/ミニレポートをもとに解説 第 8 回： 少年たち3－第四話「父の記憶」/ミニレポート作成 第 9 回： 少年たち3－第五話「最終審判」/ミニレポートをもとに解説 第 10 回： 関係性の原点/信・望・愛 第 11 回： 非行少年への関わりについて－レポートをもとにした検討 第 12 回： 佐世保小6事件にみる現代の非行少年－その1 第 13 回： 佐世保小6事件にみる現代の非行少年－その2 第 14 回： 佐世保小6事件にみる現代の非行少年－その3 第 15 回： 検証テストとまとめ	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
予習復習はテキストの頁数で具体的に指示する。 参考図書：廣井亮一著『カウンセラーのための法と臨床-離婚・虐待・非行の問題解決に向けて』金子書房 2012 廣井亮一編著『加害者臨床』日本評論社 2012	
<b>評価方法</b>	
レポート40点、検証テスト60点、欠席は減点(1回につき8点)	
<b>テキスト</b>	
廣井亮一著『司法臨床入門[第2版]-家裁調査官のアプローチ』日本評論社 2012 *テキストは講義と検証テストに使用するので、各自必ず準備すること。	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
携帯・スマートフォンは鞆の中へ。私語厳禁。	

臨床心理演習		担当教員	もりとしゆき かたはたまゆみ くぼようこ 森俊之・片畑真由美・久保陽子
単位	配当年次	開講形態	選択区分
2単位	3年前期	演習	選択
＜科目区分＞ 人間学部心理学科専門科目 応用科目 臨床系			

<b>サブテーマ</b>	
体験を通してカウンセリングについて学ぶ	
<b>授業の到達目標</b>	
対話場面などを実際に体験しながら、カウンセリングにおける話の聴き方について学ぶ。 自分自身の話し方や話の聴き方の特徴について理解を深める。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
自他の理解能力、コミュニケーション能力、情報収集・探索能力、役割把握・認識能力、選択能力、課題解決能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
ペアもしくは少人数のグループを組み、いろいろな対話場면을体験してもらう。	
<b>授業の計画</b>	
第1回： オリエンテーション 第2回： 自他理解のためのグループ体験① 第3回： 自他理解のためのグループ体験② 第4回： 自他理解のためのグループ体験③ 第5回： 自他理解のための表現体験① 第6回： 自他理解のための表現体験② 第7回： 傾聴のための基本技法①：ノンバーバルな関わり 第8回： 傾聴のための基本技法②：言葉の繰り返し、言い換え、要約 第9回： 傾聴のための基本技法③：感情の明確化と反映 第10回： 傾聴のための基本技法④：質問 第11回： 傾聴のための基本技法⑤：焦点化、その他の技法 第12回： 傾聴の実践：ロールプレイ 第13回： 傾聴の実践：ロールプレイ 第14回： 傾聴の実践：ロールプレイ 第15回： まとめ	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
授業時に、随時、次の授業までにしてきてほしい課題を指示する。 授業内容に関する質問等がある場合は積極的に研究室に来て質問すること。	
<b>評価方法</b>	
授業中に課す課題(60%)と授業時の参加の様子(40%)をもとに、( )内の割合で評価する。 なお、授業時の参加の様子については、意欲、話し方、話された内容をもとに総合的に評価する。 また、授業への出席をとくに重視し、欠席は厳しく減点する。	
<b>テキスト</b>	
授業時に資料を配付する。 そのほか、参考書については、授業時に随時、紹介する。	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
授業の中で、状況に応じて、自己開示(自分のことについて他者に話す)をしてもらうこともある。 授業は、3グループにわかれ、いずれかの教員の指導のもと、演習を行う。	

比較心理学		担当教員	よし だ かず のり 吉田和典
単位	配当年次	開講形態	選択区分
2単位	3年後期	講義	選択
＜科目区分＞ 人間学部心理学科専門科目 応用科目 行動・支援系			

<b>サブテマ</b>	
動物の行動と認知	
<b>授業の到達目標</b>	
ヒトの知性や行動形態は何十億年にもわたる進化の産物であり、これらの系統発生を明らかにする行動科学として比較心理学(最近では比較認知科学)という分野があります。この授業では、ヒトを含めた種々の動物の行動や認知機能を比較分析したこの分野の最近のトピックスを紹介し、心の進化や動物研究の重要性に関する理解を深めることを目標としています。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
自他の理解能力、情報収集・探索能力、選択能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
講義中心に行う。	
<b>授業の計画</b>	
第1回: イントロダクション 第2回: 比較心理学とは 第3回: 比較心理学の研究方法 第4回: 比較心理学の歴史 第5回: 動物の学習について 第6回: 動物の学習について 第7回: 動物の学習について 第8回: 動物の感覚・知覚について 第9回: 動物の感覚・知覚について 第10回: 動物の記憶について 第11回: 動物の記憶について 第12回: 動物の推理・思考について 第13回: 動物の概念形成について 第14回: 動物の言語習得について 第15回: 動物の社会的知性について 第16回: 定期試験	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
参考図書 (1)『比較認知科学への招待～こころの進化学～』藤田和生著 ナカニシヤ出版 (2)『動物のこころを探る』鈴木光太郎・小林哲生訳 新曜社 (3)『心の発生と進化』長谷川寿一・鈴木光太郎訳 新曜社	
<b>評価方法</b>	
定期試験と出席状況による総合評価	
<b>テキスト</b>	
テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配布する。	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
特になし	

神経心理学		担当教員	もり もと ふみ ひと 森 本 文 人
単 位	配当年次	開講形態	選択区分
2 単位	3 年後期	講義	選択
〈科目区分〉 人間学部心理学科専門科目 応用科目 行動・支援系			

<b>サブ テーマ</b>	
神経系から見るヒトの心。	
<b>授業の到達目標</b>	
心のはたらきや日々の行動を生み出している神経系のはたらきについて学び、自己について、あるいはそこに生まれる個性についての理解をすすめる。臨床場面で見られる症状、身近な知覚・認知の例(錯覚など)、あるいは近年発展し続けている脳機能測定の見聞に触れることで、より具体的に神経系のはたらきを理解・イメージ出来ることを目指す。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
自他の理解能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
主にスライドを使つての講義となる。質疑応答や簡単な体験も行う。	
<b>授業の計画</b>	
第 1 回: オリエンテーション 第 2 回: 全体論と局在論 第 3 回: 脳神経科学の研究法 第 4 回: 神経系・脳・ニューロン 第 5 回: 視覚神経系① 第 6 回: 視覚神経系② 第 7 回: 半側空間無視 第 8 回: 順応と残光 第 9 回: 錯覚と神経系① 第 10 回: 錯覚と神経系② 第 11 回: 錯覚と神経系③ 第 12 回: 事象関連電位① 第 13 回: 事象関連電位② 第 14 回: 言語障害 第 15 回: 失行・記憶障害 第 16 回: 定期試験	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
講義で紹介するような事例は、日常にも溢れている。これらの身近な心理学的事象に、普段から気づいて考えることで、講義に対する理解も深まる。資料・参考図書については、授業内で適宜紹介する。	
<b>評価方法</b>	
出席および受講態度(30%)と定期試験(70%)による総合評価。	
<b>テキスト</b>	
テキストは使用しない。	
<b>その他(受講上の注意)</b>	

心理学特殊実験Ⅰ		担当教員	おおもりやすこ ずたとしろう 大森慈子・水田敏郎	
単位	配当年次	開講形態	選択区分	
2単位	3年前期	実験	選択	
〈科目区分〉 人間学部心理学科専門科目 応用科目 行動・支援系				

<b>サブテーマ</b>	
心理学実験の基礎と応用	
<b>授業の到達目標</b>	
心理学における実験的研究の全過程について実習を行う。実験に関連した文献研究、実験の計画や統制、実験の準備と実験室の設定、実験の実施、結果の処理と考察および論議、すべてができるようになることを目標としている。その中で、脳波、心拍や眼球運動などの生理反応の測定や、映像や音といった各種刺激の作成も体験する。さらに、レポートや抄録(論文要旨)の作成(または研究発表会等)を通して、研究報告のしかたも学習する。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
情報収集・探索能力、役割把握・認識能力、課題解決能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
実習形式。8～11週間で1つの研究課題を実施し、レポートを提出する。	
<b>授業の計画</b>	
第1回: オリエンテーション 第2回: } 第3回: } 心理学実験および生理心理学実験総説 第4回: } 第5回: } 第6回: } 第7回: } 第8回: } グループに分かれての実験実習 第9回: } テーマは以下のAまたはB 第10回: } A. 中枢系反応を用いたヒトの心的活動の捕捉 第11回: } B. 自律系反応を用いたヒトの心的活動の捕捉 第12回: } 第13回: } 第14回: } 第15回: まとめ(研究発表会または研究レポートの考察の議論)	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
実験準備や実施には長時間を要するため、正規の授業時間以外の活動が必要となる。また、実験はグループでの活動となるため、お互いの協力が不可欠である。実験に必要なテキスト・文献等は都度配布する予定であるが、実験に臨むまでに配布された資料の熟読が必要となる。 参考図書: (1)『新生理心理学』全3巻 宮田洋監修 北大路書房 (2)『心理学のための実験マニュアル』利島保・生和秀敏編著 北大路書房	
<b>評価方法</b>	
実習態度、レポート、出席状況、などによる総合評価	
<b>テキスト</b>	
テキストは使用しないが、実験実習マニュアルを配布する。	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
原則として「心理統計Ⅰ・Ⅱ」、「心理学基礎実験Ⅰ」、「心理学基礎実験Ⅱ」の単位を修得した者に限る。基本的に、遅刻、欠席は認めない。	



心理学特殊実験Ⅱ		担当教員	よしだかずのり もりもとふみひと 吉田和典・森本文人	
単位	配当年次	開講形態	選択区分	
2単位	3年後期	実験	選択	
〈科目区分〉 人間学部心理学科専門科目 応用科目 行動・支援系				

<b>サブテーマ</b>	
心理学実験の基礎と応用	
<b>授業の到達目標</b>	
「心理学特殊実験Ⅰ」と同様に、心理学における実験に関連した文献研究、実験の計画や統制、実験の準備と実験室の設定、実験の実施、結果の処理と考察及び論議など、実験的研究の全過程について全てができるようになることを目標としている。その中で特に、人の睡眠覚醒中の生体反応の測定や、動物(ラット)の学習行動習得の背景となる脳内過程を調べるための脳切片作製などを体験する。さらに研究レポートの作成などを通して、研究報告の仕方も学習する。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
情報収集・探索能力、計画実行能力、課題解決能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
実習形式。8～11週間で1つの研究課題を実施し、レポートを提出する。	
<b>授業の計画</b>	
第1回： オリエンテーション 第2回： 人での生理心理学実験総説 第3回： 動物での生理心理学実験総説 第4回： 第5回： 第6回： 第7回： } グループに分かれての実験実習 第8回： } テーマは以下のAまたはB 第9回： }     A. 人の様々な意識状態での脳波やその他の生体反応 第10回： }     B. 動物(ラット)の学習行動と脳内メカニズム 第11回： 第12回： 第13回： 第14回： 第15回： 研究レポートに関する質疑応答	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
実験は長時間に及ぶこともあるので、授業時間以外も各グループ毎に協力してデータ整理などを行い、時間を有効に利用する。また、参考図書なども熟読しておくこと。特に、脳に関する基礎的な生理学的・解剖学的知識を前もって学習しておくことが望ましい。 参考図書： 『新生理心理学』全3巻 宮田洋監修 北大路書房	
<b>評価方法</b>	
実習態度やレポート内容及び出席状況などによる総合評価	
<b>テキスト</b>	
テキストは使用しないが実験実習マニュアルを配布する。	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
「心理統計Ⅰ・Ⅱ」「生理心理学」「心理学基礎実験Ⅰ・Ⅱ」の単位を修得した者に限る。	

高 齢 者 心 理 学		担当教員	みず かみ き み こ 水 上 喜 美 子
単 位	配当年次	開講形態	選択区分
2 単位	3 年前期	講義	選択
<科目区分> 人間学部心理学科専門科目 応用科目 行動・支援系			

<b>サブ テーマ</b>	
高齢者の心理について学ぶ。	
<b>授業の到達目標</b>	
本講義では、高齢者の心理を理解するために、社会的側面や身体的機能などについても知識を深める。そして、高齢者を援助する立場に立つ上で、必要な知識を習得することを目的とする。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
自他の理解能力 情報収集・探索能力 社会・職業理解能力 役割把握・認識能力 課題解決能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
講義の中で、必要に応じてビデオなどの視聴覚教材を用いる。	
<b>授業の計画</b>	
第 1 回： オリエンテーション	
第 2 回： 高齢社会とエイジズム	
第 3 回： 生涯発達と高齢期	
第 4 回： 加齢による変化①身体機能	
第 5 回： 加齢による変化②記憶・知能・知恵	
第 6 回： 加齢による変化③人格	
第 7 回： 高齢期の人間関係①家族・きょうだい	
第 8 回： 高齢期の人間関係②友人・近隣	
第 9 回： 高齢期の心理的問題①死	
第 10 回： 高齢期の心理的問題②性	
第 11 回： 高齢期の心理的問題③うつ・不安	
第 12 回： 高齢期の心理的問題④認知症	
第 13 回： 高齢者に対する心理的援助①	
第 14 回： 高齢者に対する心理的援助②	
第 15 回： まとめ	
第 16 回： 定期試験	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
参考図書:授業中に紹介する本や論文など	
<b>評価方法</b>	
成績評価方法は、試験とレポート、出席状況などによる総合評価とする。	
<b>テキスト</b>	
テキストは特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
上記のスケジュールは予定である。授業の進行状況によって変更することもある。	

消費者心理学		担当教員	やまもとまさよ 山本雅代
単位	配当年次	開講形態	選択区分
2単位	3年前期	講義	選択
〈科目区分〉 人間学部心理学科専門科目 応用科目 産業・社会系			

<b>サブテーマ</b>	
消費者行動について	
<b>授業の到達目標</b>	
消費行動について社会心理学の観点から解説する。私達が日常で行っている消費行動はどのようなプロセスで行われているのか、個人の内的要因や社会、企業や環境とのかかわりの中で行われる消費行動について理解を深める。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
社会・職業理解能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
基本的に講義形式。より深い事象理解のためVTR、シミュレーションゲームを用いることがある。	
<b>授業の計画</b>	
第1回： 消費者心理について 第2回： 行動経済と心理学 第3回： 消費者の意志決定(1) 第4回： 消費者の意思決定(2) 第5回： 消費者の意思決定(3) 第6回： 消費者の意思決定(4) 第7回： 消費者の態度(1) 第8回： 消費者の態度(2) 第9回： 消費者の動機 第10回： ロコミと消費行動 第11回： インターネット上の消費行動 第12回： 企業戦略と悪徳商法 第13回： 広告と消費行動 第14回： 消費ゲーム 第15回： まとめ	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
資料を配布するので読んでおくこと。	
<b>評価方法</b>	
レポートの提出、ゲームへの参加、小テスト、授業態度、出席状況により総合的に評価する	
<b>テキスト</b>	
授業中に資料を配布する	
<b>その他(受講上の注意)</b>	

対人心理学		担当教員	おおもり やすこ 大森 慈子
単位	配当年次	開講形態	選択区分
2単位	3年後期	講義	選択
＜科目区分＞ 人間学部心理学科専門科目 応用科目 産業・社会系			

<b>サブテーマ</b>	
人間関係の心理学	
<b>授業の到達目標</b>	
社会動物であるヒトが生活していくうえで欠かせない人間関係における心理、すなわち、心の対人的な側面について学ぶ。対人認知、対人行動、他者存在といった主要なテーマに加え、発達過程や文化的な問題まで、さまざまな先行研究や実験例を概観しながら理解を深める。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
自他の理解能力、コミュニケーション能力、社会・職業理解能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
講義形式。必要に応じて視聴覚教材を使用する。	
<b>授業の計画</b>	
第1回： 対人心理学とは 第2回： 対人認知と印象形成(1) 第3回： 対人認知と印象形成(2) 第4回： コミュニケーションと対人行動(1) 第5回： コミュニケーションと対人行動(2) 第6回： コミュニケーションと対人行動(3) 第7回： 感情と表情(1) 第8回： 感情と表情(2) 第9回： 視線行動(1) 第10回： 視線行動(2) 第11回： 対人距離とタッチ(1) 第12回： 対人距離とタッチ(2) 第13回： 他者存在と自己呈示(1) 第14回： 他者存在と自己呈示(2) 第15回： まとめ	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
授業時に指示する	
<b>評価方法</b>	
期末のレポートと授業時のブリーフレポートによる総合評価	
<b>テキスト</b>	
使用しない	
<b>その他(受講上の注意)</b>	

多変量解析演習		担当教員	はやかわせいいち 早川清一
単位	配当年次	開講形態	選択区分
2単位	3年前期	演習	選択
<科目区分> 人間学部心理学科専門科目 応用科目 産業・社会系			

<b>サブテーマ</b>	
因子分析・重回帰分析を学ぶ。	
<b>授業の到達目標</b>	
この授業では、質問紙調査でよく使われる多変量解析(因子分析・重回帰分析)について学び、統計解析ソフト(SPSS)を用いて実際に分析が行えるようになることを目指す。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
情報収集・探索能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
講義形式の授業とデータ処理の演習を行う。	
<b>授業の計画</b>	
第1回: オリエンテーション「因子分析とは？」 第2回: 先行研究「介護肯定感がもつ負担軽減効果」の概要と把握. 解説資料も参考 第3回: 先行研究「日本版セクシャル・ハラスメント可能性尺度の検討」の概要と把握 第4回: 「セクシャル・ハラスメント可能性尺度」のデータ入力 第5回: 因子分析の説明1 第6回: 因子分析の説明2 第7回: 「日本版セクシャル・ハラスメント可能性尺度の検討」の説明1 第8回: 「日本版セクシャル・ハラスメント可能性尺度の検討」の説明2 第9回: 重回帰分析の説明 第10回: 重回帰分析部分の解析 第11回: 調査票作成 第12回: 調査票回答 第13回: データ入力・多変量解析 第14回: 報告書の作成 第15回: 報告書の提出	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
参考図書: (1)『誰も教えてくれなかった因子分析』松尾太加志・中村知靖編著 北大路書房 2002年 (2)『心理学のためのデータ解析テクニカルブック』森敏昭・吉田寿夫編著 北大路書房 1990年	
<b>評価方法</b>	
レポート、出席状況などによる総合評価	
<b>テキスト</b>	
必要に応じて資料を提示する。	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
受講には、2年次の「心理調査法」の単位を取得していることが必要です。2単位以上の内容になりますので、単位めあてでは、割に合いません。真に、多変量解析をマスターしたい学生のみ受講してください。	

産業カウンセリングⅠ		担当教員	くぼ ようこ 久保 陽子
単位	配当年次	開講形態	選択区分
2単位	3年前期	講義	選択
〈科目区分〉 人間学部心理学科専門科目 応用科目 産業・社会系			

<b>サブテーマ</b>	
産業分野で行われるカウンセリングについて理解する	
<b>授業の到達目標</b>	
社会における産業カウンセリングの役割を学び、カウンセリング技法について学習する。演習を通して自他を認識し、コミュニケーションについての理解を深める。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
自他の理解能力、コミュニケーション能力、社会・職業理解能力、役割把握・認識能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
講義中心。必要に応じてビデオを用いる。また、言語的・非言語的表現についてのカウンセリング演習を行う。	
<b>授業の計画</b>	
第1回： オリエンテーション 第2回： 産業カウンセラーの役割と活動 第3回： 産業カウンセラーの倫理 第4回： カウンセリングの理論① 第5回： カウンセリングの理論② 第6回： カウンセリングの理論③ 第7回： カウンセリング技法：傾聴 第8回： キャリア・カウンセリング 第9回： パーソナリティ理論① 第10回： パーソナリティ理論② 第11回： 心理アセスメント 第12回： 産業社会と職場 第13回： 職場のメンタルヘルス 第14回： 事例 第15回： まとめ	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
参考図書：授業中に紹介する本や論文など	
<b>評価方法</b>	
成績評価方法はレポート、出席状況などによる総合評価	
<b>テキスト</b>	
必要に応じて授業中に資料配布する。	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
カウンセリングは実践の学問です。主体的に学び、質問してください。	

産業カウンセリングⅡ		担当教員	くぼようこ 久保陽子
単位	配当年次	開講形態	選択区分
2単位	3年後期	講義	選択
〈科目区分〉 人間学部心理学科専門科目 応用科目 産業・社会系			

<b>サブテーマ</b>	
カウンセリングの基本的問題	
<b>授業の到達目標</b>	
社会における産業カウンセリングの役割を学び、カウンセリングを具体的に学ぶ。事例を通して自他を認識し、コミュニケーションについての理解を深める。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
自他の理解能力、コミュニケーション能力、社会・職業理解能力、役割把握・認識能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
講義中心。テキストに添って、産業領域での内容を補いつつ解説する。	
<b>授業の計画</b>	
第1回：オリエンテーション 第2回：カウンセリングの援助とは 第3回：カウンセリングの見立て 第4回：臨床心理学の理論 第5回：事例①：事例研究とは 第6回：因果的思考と非因果的思考 第7回：心の構造 第8回：事例②：心理テストの使用 第9回：カウンセリングにおけるアドバイス 第10回：家族への対応 第11回：事例③家族との関わり 第12回：カウンセリングにおける笑い 第13回：カウンセリングにおける怒り 第14回：事例④：カウンセリングの終結 第15回：まとめ	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
「産業カウンセリングⅠ」の内容を振り返っておくこと。	
<b>評価方法</b>	
成績評価方法はレポート、出席状況などによる総合評価	
<b>テキスト</b>	
「臨床心理学ノート」 河合隼雄 金剛出版	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
カウンセリングは実践の学問です。主体的に学び、質問してください。	

心理学特別演習 I		担当教員	赤澤・荒川・大森・杉島・西村・早川・水田・三脇・吉田・水上・森・山本・片畑・鎌田・久保	
単位	配当年次	開講形態	選択区分	
2単位	3年通年	演習	必修	
<科目区分> 人間学部心理学科専門科目 応用科目 特別演習・卒業研究				

<b>サブテーマ</b>	
専門性を深める	
<b>授業の到達目標</b>	
専門的なテーマに関して理解する。また、そのための研究方法を学ぶ。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
自他の理解能力、コミュニケーション能力、情報収集・探索能力、社会・職業理解能力、役割把握・認識能力、計画実行能力、選択能力、課題解決能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
文献研究や研究発表、ディスカッションなどさまざまな形式が含まれる。	
<b>授業の計画</b>	
第1回： 第2回： 第3回： 第4回： 第5回： 第6回： 第7回： 第8回： 第9回： 第10回： 第11回： 第12回： 第13回： 第14回： 第15回：	各ゼミの進め方に沿って 取り組んでいく
第16回： 第17回： 第18回： 第19回： 第20回： 第21回： 第22回： 第23回： 第24回： 第25回： 第26回： 第27回： 第28回： 第29回： 第30回：	各ゼミの進め方に沿って 取り組んでいく
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
授業時に適宜紹介される。	
<b>評価方法</b>	
出席および演習への参加状況やその内容などによる総合評価	
<b>テキスト</b>	
担当教員から指示される。	
<b>その他(受講上の注意)</b>	



ビジネスコミュニケーション研究		担当教員	とみ なが よし ふみ 富 永 良 史
単 位	配当年次	開講形態	選択区分
2 単位	3 年前期	講義	選択
＜科目区分＞ 人間学部コミュニケーション学科専門科目 基幹科目 人間関係・コミュニケーション系			

<b>サブ テーマ</b>	
自分を知り、他者を知り、世の中を考える対話の時間	
<b>授業の到達目標</b>	
世の中は対話（異なる個性／価値観を持つ人たちの相互作用）で動いている。ビジネスの成果も、世の中の暮らしやすさも、対話の方法と質に大きな影響を受けている。この授業では、異なる個性／価値観を持つ他者を理解し、受け入れ、それをきっかけに自己の理解を深めていける対話の作法を身につける。自分が知っているほど自分は浅くはないし、自分が感じているほど他者は同じではない。対話を通じてそれが理解できた時、社会やそれを動かす職業のあり方、そして自分の進路はきっと違って見えてくる。「誰かに何らかの貢献をして生きていく社会人」として巣立つための心の準備になることを願う。その過程は脳味噌の筋肉痛を生み出すが、間違いなく楽しい。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
自他の理解能力、コミュニケーション能力、社会・職業理解能力	
<b>授業の概要（形態）</b>	
様々な組みあわせで小グループにわかれ、様々なテーマの対話に取り組んでいく。話すだけでなく協同作業（制作）も行う。アタマとカラダをフルに使って自己理解し、他者理解し、違いを超えて協働する対話のあり方を学んでいく。問題提起、刺激材料としての講義を加える。	
<b>授業の計画</b>	
第 1 回： 対話が世の中を動かしている、かもしれない 第 2 回： まずは、つながりを見つけなければならない 第 3 回： 自分のこれまでを受け入れる 第 4 回： 今、ここは、どこなのか、ここから何が見えるのか 第 5 回： 他者のことは、どれくらいわからないのか 第 6 回： 他者の集合としての世界を眺める 第 7 回： 違いから、嫌悪ではなく創造を生み出せるか 第 8 回： 仕事（ビジネス）を中心に世界を考える 第 9 回： 私にできることは思っているより多い／少ない 第 10 回： 時間は積み重なる、ただし希望通りとは限らない 第 11 回： 知識で社会を語る前に、感じる 第 12 回： 世界で起きていることを問いなおす 第 13 回： 楽しく生きるとは、何をしないことだろう 第 14 回： あなたの仕事は、誰に何をすることだろう 第 15 回： これまでとこれからをつなぐ	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
日常に起きることをありのままに見つめ、耳を澄ますことが最大の予習復習となる。何がどのように起きているのか、自分はどう受けとめたのか、自分の言葉で語れるようになって欲しい。	
<b>評価方法</b>	
「意欲（対話）」と「学び（レポート）」の総合評価。レポートは毎回時間中に作成するミニレポートと、期末レポートの2種がある。試験は課さない。	
<b>テキスト</b>	
必要に応じてレジュメを配布する。	
<b>その他（受講上の注意）</b>	
対話に対して真剣であって欲しい。自分をごまかさないこと、他者を否定しないこと、対話の煩わしさから逃げないこと、深めていく好奇心を持つことを歓迎したい。対話という「生もの」を扱う授業であるため、参加者の理解度、興味に応じて柔軟に内容を更新していく。	

日本文化論		担当教員	おおかわ はるみ 大河晴美
単位	配当年次	開講形態	選択区分
2単位	3年前期	講義	選択
〈科目区分〉 人間学部コミュニケーション学科専門科目 基幹科目 社会・文化系			

<b>サブテーマ</b>	
文学で考える〈日本〉	
<b>授業の到達目標</b>	
近代以降に日本語で書かれた短編小説・詩をもとに、〈日本〉について考える。 近代国家構築のプロセスや風景の発見、戦前・戦後の〈日本〉の姿、現在の〈日本〉の多様性などへの理解を通して、〈日本〉の言語や文化を批評的に捉える眼を養う。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
自他の理解能力、情報収集・探索能力、課題解決能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
講義形式。 授業で使用する PowerPoint の資料を配付するので、気づいたこと、考えたことをノート欄に記入すること。 各作品の終了後、復習課題を出す。	
<b>授業の計画</b>	
第1回： オリエンテーション 第2回： 森鷗外「普請中」 第3回： 国木田独歩「武蔵野」 第4回： 太宰治「十二月八日」 第5回： 中島敦「マリヤン」 第6回： 牛島春子「祝という男」 第7回： 金鍾漢「幼年」「辻詩海」「合唱について」「くらいまつくす」 第8回： 野坂昭如「火垂るの墓」 第9回： 小島信夫「アメリカン・スクール」 第10回： 小島信夫「アメリカン・スクール」 第11回： 目取真俊「水滴」 第12回： 目取真俊「水滴」 第13回： 鳩沢佐美夫「証しの空文」 第14回： 鳩沢佐美夫「証しの空文」 第15回： まとめ	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
テキストの該当部分を読んで授業に臨むこと。 その作品の表現・内容と発表された時代の社会・文化の状況を考え、復習課題を行うこと。 参考図書は適宜紹介する。	
<b>評価方法</b>	
復習課題 50%、期末レポート 50%の割合で評価する。欠席は減点対象とする。	
<b>テキスト</b>	
『文学で考える〈日本〉とは何か』 飯田祐子・日高佳紀・日比嘉高編 双文社出版 2007年	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
復習課題は決められた期限内に提出すること。	

企画開発研究 a		担当教員	たに まさ のり 谷 雅 徳
単 位	配当年次	開講形態	選択区分
2 単位	3 年前期	演習	選択
＜科目区分＞ 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 企画・表現系			

<b>サブ テーマ</b>	
教えてくれるのは先生だけじゃない。	
<b>授業の到達目標</b>	
学生のキャンパスライフは、同じ大学の同じ年代の人間の集合体である。社会はもっと複雑で様々な価値観が存在する。この演習ではキャンパスを離れ、武生駅前仁愛大学サテライトを拠点に実際に街に繰り出し、街で暮らしている年齢や考え方の違う人達と、自らの意志で直接対話する事で、柔軟な思考やコミュニケーション力を養いながら、そこから得たものを一つの形に落とし込む事を目的とする。大学の中で学んできた事を実際に試す実践の機会でもある。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
自他の理解能力、コミュニケーション能力、情報収集・探索能力、社会・職業理解能力、課題解決能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
隔週2コマ連続の演習になります。「越前人物図鑑」なるものを作る為に実際に武生の街に繰り出し、そこに住む人達と直接対話し、取材します。後半の企画開発研究 b ではその情報を基にデスクトップ上でデジタル編集して最終的には一つの冊子にまとめます。	
<b>授業の計画</b>	
第1回： ガイダンス 「越前人物図鑑」とは？何故「放りっぱなし授業」なのか？その謎に迫る。 第2回： とりあえず3人グループでグダグダしながら街を歩きながら面白そうな人を探す。 第3回： とりあえず3人グループでグダグダしながら街を歩きながら面白そうな人を探す。 第4回： 3人グループで「人物」を取材。3人ピックアップ 第5回： 3人グループで「人物」を取材。3人ピックアップ 第6回： 3人グループで「人物」を取材。3人ピックアップ 第7回： 3人グループで「人物」を取材。3人ピックアップ 第8回： 中間発表 各自意見だし 互いに学び合う 第9回： 中間発表 各自意見だし 互いに学び合う 第10回： 一人が1人担当して最終取材 第11回： 一人が1人担当して最終取材 第12回： なんとか発表出来るようにまとめる 第13回： なんとか発表出来るようにまとめる 第14回： 発表と意見交換 第15回： 発表と意見交換	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
ほぼ放りっぱなしの授業になります。講師は基本的には何も教えるつもりはありません。自分の意志で街に出て、出会う人達に様々な事を教えて貰って下さい。知らない人といきなり喋る事になるので、尊敬語や丁寧語など敬語をもう一度復習しておいて下さい。普段から目上の人と喋る時にも意識しておいて下さい。	
<b>評価方法</b>	
毎回提出してもらうブリーフレポート、及び課題に取り組む姿勢及び発表内容等の総合評価	
<b>テキスト</b>	
特になし	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
隔週、2コマ連続、駅前サテライト、という三拍子揃った特殊性の為、気をつけないと一度休むと一気についていけなくなる可能性があるため、休まず受講して下さい。2回目からの受講は認めないので必ず、初回から受講する事。受講生の人数は最大30名に制限します。	

企画開発研究 b		担当教員	きん だ あき ひこ 金 田 明 彦
単 位	配当年次	開講形態	選択区分
2 単位	3 年後期	演習	選択
＜科目区分＞ 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 企画・表現系			

<b>サブ テーマ</b>	
地域の人々から直接得た情報の整理・編集とメディアコンテンツの作成	
<b>授業の到達目標</b>	
最終成果物を実際に地域社会に発信できること	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
コミュニケーション能力、情報収集・探索能力、社会・職業理解能力、計画実行能力、選択能力、課題解決能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
マッキントッシュ利用の情報編集デザイン作業および受講生相互の意見交換を推進する。進捗状況のプレゼンテーションを数回実施し、相互評価による「学び合い」により進行する。	
<b>授業の計画</b>	
第 1 回： オリエンテーションと課題テーマ確認、作業スケジュールリング	
第 2 回： I book Author 操作トレーニング	
第 3 回： I book Author 操作トレーニング	
第 4 回： I book Author 操作トレーニング	
第 5 回： 制作コンテンツ企画と編集計画	
第 6 回： 制作コンテンツ企画と編集計画	
第 7 回： 制作コンテンツ企画と編集計画	
第 8 回： 企画プレゼンテーション	
第 9 回： メディア・コンテンツの制作	
第 10 回： メディア・コンテンツの制作	
第 11 回： メディア・コンテンツの制作	
第 12 回： 中間プレゼンテーション	
第 13 回： i book および仁愛大学 HP (COM 学科ページ) へのアウトプット	
第 14 回： i book および仁愛大学 HP (COM 学科ページ) へのアウトプット	
第 15 回： 最終成果プレゼンテーション	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
参考図書等は必要に応じて随時紹介。	
<b>評価方法</b>	
各課題の進捗状況、最終的な課題の評価およびチームへの貢献度、出席率、レポートをもとに評価を行う。	
<b>テキスト</b>	
使用しない	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
「企画開発研究 a」履修者対象。未履修者は授業時とは別に各自で取材・データ収集をすることを受講条件とする。常に、よりクオリティを上げるための固い意志を持つこと。	

コミュニケーション技法Ⅱa		担当教員	そま たい ひで のり 柚谷 英紀
単位	配当年次	開講形態	選択区分
2単位	3年前期	演習	選択
＜科目区分＞ 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 企画・表現系			

<b>サブテーマ</b>	
創造をコミュニケーションする／コミュニケーションを創造する	
<b>授業の到達目標</b>	
言葉はコミュニケーションの道具であると同時に、思考・創造そのものの道具である。コミュニケーションと思考の道具が同じ言葉であると言うことは、コミュニケーションが創造の可能性を持っていることを示している。本講義では、言葉による創造の可能性を広げるスキルを身につける。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
自他の理解能力、情報収集・探索能力、計画実行能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
本講義では、さまざまなタイプの創作を実際に行う。それを受講生同士が互いに評価し合う。他者に繋がることで本当の創造が可能になるという立場からである。あわせて創作のために理論や批評の方法なども習得する。創作物を外部に投稿・応募することなども適宜行う。	
<b>授業の計画</b>	
第1回： オリエンテーション 言語による創作とは何か 第2回： ネーミング・コピー論(1) 第3回： ネーミング・コピー論(2) 第4回： 書評の書き方(1) 第5回： 書評の書き方(2) 第6回： 小説の二次創作(1) 第7回： 小説の二次創作(2) 第8回： 映画評論 第9回： 物語構造論 第10回： プロットとは何か(1) 第11回： プロットとは何か(2) 第12回： オリジナル散文(小説など)を書く(1) 第13回： オリジナル散文(小説など)を書く(2) 第14回： 相互批評 第15回： 総括(予備)	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
常日頃から、小説やテレビドラマ、映画などを作り手の立場から観ることを心がけて下さい。	
<b>評価方法</b>	
毎回の小レポートや創作作品の提出(出席点を含む) 70点 総決算としてのオリジナル散文(小説・評論・随筆など)の提出 30点 欠席は減点の対象とする。欠席者には当該授業のレポートなどの提出を課す。	
<b>テキスト</b>	
テキストは使用しないが、適宜プリントを配布する。	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
創作は一人でもできますが、他人の視点から批評される機会はなかなかありません。 学友に読んでもらえることこそが、飛躍のチャンスであり、この講義の最大のメリットです。 そのことを忘れないで下さい。	

コミュニケーション技法Ⅱb		担当教員	たに まさ のり 谷 雅 徳
単 位	配当年次	開講形態	選択区分
2 単位	3 年後期	演習	選択
＜科目区分＞ 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 企画・表現系			

<b>サブ テーマ</b>	
好き嫌いに関わらず、誰とでも喋れるようになる。	
<b>授業の到達目標</b>	
コミュニケーションに関しては実践あるのみです。同じ価値観の人達と喋っていても、刺激も無く、面白くもありません。ただその事は反対に個人としては、心地よく精神的にも楽です。しかし、人間的には進歩はありません。社会に出れば嫌でもいろんな人達と会話するの必要が出てきます。やはり違う価値観の人達と喋らなければ、人間は成長しません。取り敢えず、誰とでも普通に会話できるようになる。これが、本講座の目標です。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
自他の理解能力、コミュニケーション能力、役割把握・認識能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
対話式授業。2コマ連続の特性を活かしクラス全員と様々な対話方法を用いて会話をします。	
<b>授業の計画</b>	
第1回： 講座ガイダンス 「コミュニケーションってなんだろう」	
第2回～3回： グループに別れてとりあえず適当に会話してみる。自分の弱点を見つける。	
第4回～5回： コミュニケーションに関する映像を見て、技法を見つける。	
第6回～7回： ひたすらバレーボールをする。バトミントンをする。	
第8回～9回： 一対一で会話する。	
第10回～11回： 挫折弁論大会 何故挫折したのか？落ち込み方のあれこれ	
第12回～13回： 全員でフリーセッション	
第14回～15回： 教員との個別対話「将来何をやりたいのか」	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
2コマ連続で通常の授業よりは時間がありますが、やはり授業中は、仮に喋ったことのない人と喋れる機会があっても、なかなかゆっくりとは打ち解けられません。授業を通して新たに知り合いになった人達と、授業外で飲みに行くとか、カラオケに行くとかして交流を深めて下さい。授業より、そっちの方がよっぽど大事です。	
<b>評価方法</b>	
毎回提出してもらおうブリーフレポート、及び受講する最初と最後でどう変わったか(成長率)を評価します。いいかえれば、最初から、他者とうまく喋れる人はさらにステップアップしないと高評価は得られません。	
<b>テキスト</b>	
必要に応じて現場で配布します。	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
好きな人と、どうしても一緒にいるのが大学生活です。この授業では、あえて普段あまり喋らない人と喋る努力をして下さい。2コマ連続の講義となります一度休めば、いっきに2回欠席となります。気をつけて下さい。	

地域メディア論		担当教員	きん だ あき ひこ 金 田 明 彦
単 位	配当年次	開講形態	選択区分
2 単位	3 年前期	講義	選択
＜科目区分＞ 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 企画・表現系			

<b>サブ テーマ</b>	
コミュニティ FM、ケーブル・テレビ、タウン誌などの地域メディアに目を向け、耳を傾け、その有効性と可能性について探求する。	
<b>授業の到達目標</b>	
すでに身近に存在するローカルメディアの特性や有効性の把握と、地域に発信するための情報の編集をそれぞれのメディアに応じて企画・発信できるようにする。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
コミュニケーション能力、情報収集・探索能力、社会・職業理解能力、計画実行能力、選択能力、課題解決能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
90 分内にて、講義とワークショップ形式。並行してコンピュータ利用によるコンテンツ制作も行う。	
<b>授業の計画</b>	
第 1 回： オリエンテーションと課題テーマ説明および課題導入 第 2 回： 地域のメディアについての現況と特性の明確化 第 3 回： 各メディア対応の編集スキル 第 4 回： 「学生発」のコンテンツ企画プランニング 第 5 回： メディアやテーマ別のプロジェクト・チーム編成 第 6 回： チーム別企画ディスカッション 第 7 回： チーム単位の企画プレゼンテーション 第 8 回： プロジェクト単位による編集・企画ミーティング 第 9 回： プロジェクト単位による編集・企画ミーティング 第 10 回： 取材、編集作業および進捗状況報告 第 11 回： 取材、編集作業および進捗状況報告 第 12 回： デジタル・コンテンツの作成および制作マニュアルの作成 第 13 回： デジタル・コンテンツの作成および制作マニュアルの作成 第 14 回： デジタル・コンテンツの作成および制作マニュアルの作成 第 15 回： 成果物の発表および配信計画策定	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
参考図書等は必要に応じて随時紹介。	
<b>評価方法</b>	
各課題の進捗状況、最終的な課題の評価およびチームへの貢献度、出席率	
<b>テキスト</b>	
使用しない。	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
発信媒体やテーマ別にチームを編成し、グループワークをメインとする。プロジェクトの運営上、継続した授業への参加を求める。	

メディア・コミュニケーション論		担当教員	ます だ のり つぐ 升 田 法 継
単 位	配当年次	開講形態	選択区分
2 単位	3 年後期	講義	選択
〈科目区分〉 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 企画・表現系			

<b>サブ テーマ</b>	
メディアが齎すコミュニケーションや社会の変容について考える。	
<b>授業の到達目標</b>	
<p>情報社会と呼ばれる今日では、様々なメディアが私たちの生活に深く入り込み、日常のコミュニケーションを通じて、社会のあり様を大きく変えている。</p> <p>授業では、このようなメディアとコミュニケーションや社会の変容という側面から、社会の諸問題及び社会との関わりについて考察するとともに、社会と繋がっていくために必要なコミュニケーションのあり方を考えていく。情報が溢れかえる時代において、物事の本質を問う力、考える力、表現する力の向上を目指します。</p>	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
自他の理解能力、コミュニケーション能力、社会・職業理解能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
関連テーマ・トピックの解説に加え、学生同士の意見交換やブリーフレポート(授業内容に関するもの)の作成も行います。	
<b>授業の計画</b>	
第 1 回： オリエンテーション 第 2 回： コミュニケーションを考える① 第 3 回： コミュニケーションを考える② 第 4 回： メディアとは何か 第 5 回： メディアの軌跡① 第 6 回： メディアの軌跡② 第 7 回： メディアの軌跡③ 第 8 回： 現代社会におけるメディア コミュニケーション① 第 9 回： 現代社会におけるメディア コミュニケーション② 第 10 回： 現代社会におけるメディア コミュニケーション③ 第 11 回： メディア リテラシー 第 12 回： 集団・組織におけるコミュニケーション① 第 13 回： 集団・組織におけるコミュニケーション② 第 14 回： 集団・組織におけるコミュニケーション③ 第 15 回： まとめ	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
必要に応じて、随時アドバイス・紹介します。	
<b>評価方法</b>	
課題への取り組み状況(意欲)・レポート・出席状況を踏まえ、総合的に評価します。	
<b>テキスト</b>	
使用しません。	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
<p>明るく、前向きな姿勢での参加を望みます。</p> <p>なお、第1回授業にて、本紙に記した内容の詳細について説明するので、必ず出席するようにして下さい。</p> <p>また、学生の皆さんの反応・理解度に応じて、(前記の)「授業の計画」を変更する場合があります。</p>	



メディア制作 a		担当教員	ふな やま とし かつ 船 山 俊 克
単 位	配当年次	開講形態	選択区分
2 単位	3 年前期	演習	選択
＜科目区分＞ 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 企画・表現系			

<b>サブ テーマ</b>	
マルチメディアの基礎	
<b>授業の到達目標</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・マルチメディアの基礎的知識の獲得。</li> <li>・メディア制作 a, b を合わせて受講することで、マルチメディア検定ベーシックを受験可能相当の能力を獲得。</li> </ul>	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
コミュニケーション能力、情報収集・探索能力、社会・職業理解能力、計画実行能力、選択能力、課題解決能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
約 30 分:レクチャー+約 30 分:実習(チェックを含む)+約 30 分:トピックス(内容に応じて流動的)	
<b>授業の計画</b>	
第 1 回: ガイダンス:マルチメディアとは 第 2 回: インタラクティブなインターフェイス:基礎 第 3 回: インタラクティブなインターフェイス:応用 第 4 回: パーソナルコンピュータ:基礎 第 5 回: パーソナルコンピュータ:OS と周辺機器 第 6 回: コンテンツ:制作について 第 7 回: コンテンツ:画像と映像 第 8 回: ウェブサイト:基礎 第 9 回: インターネット:基礎 第 10 回: インターネット:応用 第 11 回: インターネット:提供されるサービス 第 12 回: インターネット:SNS 第 13 回: インターネット: ネットビジネス 第 14 回: インターネット: 広告・マーケティング 第 15 回: まとめ 第 16 回: 定期試験	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
参考図書は必要に応じて授業内で挙げます。	
<b>評価方法</b>	
「出席」・「課題提出」・「課題内容」・「期末テスト」から算出します。	
<b>テキスト</b>	
必要に応じて授業内で配布します。	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
後期に行われる「メディア制作 b」も合わせて受講することが望ましいです。 メディア制作 a, b を合わせて受講することで、 「マルチメディア検定ベーシック」を受験可能相当の能力獲得を目指します。 授業内容は進行速度に応じて前後することがあります。	

メディア制作 b		担当教員	ふな やま とし かつ 船 山 俊 克
単 位	配当年次	開講形態	選択区分
2 単位	3 年後期	演習	選択
〈科目区分〉 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 企画・表現系			

<b>サブ テーマ</b>	
マルチメディアの基礎から応用	
<b>授業の到達目標</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・マルチメディアの基礎的知識の獲得とそれを用いた応用実習。</li> <li>・メディア制作 a, b を合わせて受講することで、マルチメディア検定ベーシックを受験可能相当の能力を獲得。</li> </ul>	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
コミュニケーション能力、情報収集・探索能力、社会・職業理解能力、計画実行能力、選択能力、課題解決能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
約 30 分:レクチャー+約 30 分:実習(チェックを含む)+約 30 分:トピックス(内容に応じて流動的)	
<b>授業の計画</b>	
第 1 回: 携帯電話:基礎 第 2 回: 携帯電話:応用 第 3 回: 活用例:家庭におけるマルチメディア 第 4 回: 活用例:ゲームとロボティクス 第 5 回: 活用例:IC カード 第 6 回: 活用例:街角におけるマルチメディア 第 7 回: 活用例:医療と福祉・行政と政治 第 8 回: セキュリティと知的財産権 第 9 回: ウェブサイト:制作の基礎 第 10 回: ウェブサイト:レイアウト作成 第 11 回: ウェブサイト:グラフィック作成 第 12 回: ウェブサイト:制作 第 13 回: ウェブサイト:制作 第 14 回: ウェブサイト:制作 第 15 回: プレゼンテーション	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
参考図書は必要に応じて授業内で挙げます。	
<b>評価方法</b>	
「出席」・「課題提出」・「課題内容」・「プレゼンテーション」から算出します。	
<b>テキスト</b>	
必要に応じて授業内で配布します。	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
前期に行われた「メディア制作 a」を受講していることが望ましいです。 メディア制作 a, b を合わせて受講することで、 「マルチメディア検定ベーシック」を受験可能相当の能力獲得を目指します。 授業内容は進行速度に応じて前後することがあります。	

ビジュアル・コミュニケーション演習 a		担当教員	ふな やま とし かつ 船 山 俊 克
単 位	配当年次	開講形態	選択区分
2 単位	3 年前期	演習	選択
〈科目区分〉 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 企画・表現系			

<b>サブ テーマ</b>	
デザイナー教育(技術習得)を行います。	
<b>授業の到達目標</b>	
デザイナーとしての基礎的能力を学び、実務を行うための技術を習得してもらいます。 具体的な問題発見および問題解決を行える力を養います。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
自他の理解能力、情報収集・探索能力、社会・職業理解能力、計画実行能力、選択能力、課題解決能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
約 30 分:レクチャー+約 30 分:実習(チェックを含む)+約 30 分:トピックス(内容に応じて流動的)	
<b>授業の計画</b>	
第 1 回: ガイダンス(講義内容説明) 第 2 回: 基礎:「コンセプト」の意味・目的 第 3 回: 基礎:問題点抽出 第 4 回: 基礎:対象の明確化 第 5 回: 手法:アイデア展開・平面 第 6 回: 手法:アイデア展開・立体 第 7 回: 手法:形式と内容 第 8 回: プレゼンテーション・講評 第 9 回: 発展:企画と計画 第 10 回: 発展:形態論・身体論 第 11 回: 発展:かくれた次元 第 12 回: 発展:インタラクション 第 13 回: プレゼンテーション・講評 第 14 回: プレゼンテーション・講評 第 15 回: まとめ	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
参考図書は必要に応じて授業内で挙げます。	
<b>評価方法</b>	
「出席」・「課題提出」・「課題内容」・「プレゼンテーション」から算出します。 授業への積極的な参加を評価します。	
<b>テキスト</b>	
必要に応じて授業内で配布します。	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
「デジタル・デザイン a」「ビジュアル・コミュニケーション論 a・b」を受講していることが望ましいです。 授業内容は進行速度に応じて前後することがあります。	

ビジュアル・コミュニケーション演習b		担当教員	ふな やま とし かつ 船 山 俊 克
単 位	配当年次	開講形態	選択区分
2 単位	3 年後期	演習	選択
〈科目区分〉 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 企画・表現系			

<b>サブ テーマ</b>	
デザイナー教育(技術習得)を行います。	
<b>授業の到達目標</b>	
具体的な問題発見および問題解決を行える力を養います。 グループワークを通して、商品設計およびブランド構築を実施します。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
自他の理解能力、コミュニケーション能力、情報収集・探索能力、社会・職業理解能力、役割把握・認識能力、計画実行能力、選択能力、課題解決能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
約 30 分:レクチャー+約 30 分:実習(チェックを含む)+約 30 分:トピックス(内容に応じて流動的)	
<b>授業の計画</b>	
第 1 回: 前期のお復習・後期に向けて 第 2 回: 基礎:商品とブランドについて 第 3 回: 基礎:デザイン対象商品の明確化 第 4 回: 基礎:デザイン対象商品の問題抽出 第 5 回: 発展:性能・効能・機能に対する理解 第 6 回: 発展:価値について 第 7 回: 発展:企画書作成 第 8 回: プレゼンテーション・講評 第 9 回: 応用:知的財産権について 第 10 回: 制作 第 11 回: 制作 第 12 回: 制作 第 13 回: 制作 第 14 回: 完成・提出 第 15 回: プレゼンテーション・講評	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
参考図書は必要に応じて授業内で挙げます。	
<b>評価方法</b>	
「出席」・「課題提出」・「課題内容」・「プレゼンテーション」から算出します。 授業への積極的な参加を評価します。	
<b>テキスト</b>	
必要に応じて授業内で配布します。	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
「ビジュアル・コミュニケーション演習 a」を受講していることが望ましいです。 授業内容は進行速度に応じて前後することがあります。	

ビジネス能力論		担当教員	よしだしろう 吉田史朗
単位	配当年次	開講形態	選択区分
2単位	3年前期	講義	選択
＜科目区分＞ 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 企画・表現系			

<b>サブテーマ</b>	
「企画しよう」－マーケティング講座 基礎となる知識編	
<b>授業の到達目標</b>	
マーケティングの基礎的な考え方を身につけ、企画要素の整頓ができる力を身につける。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
コミュニケーション能力、課題解決能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
講義＋ワークショップ(5,6人のチームでの意見交換など)	
<b>授業の計画</b>	
第1回： 伝える技術 第2回： 「巻き込み力」がコミュニケーション力 第3回： 人脈作りはこの教室から 第4回： 「モノ」から「コト」へ ＝欲しいモノからやりたいコトへ 第5回： コーラを1000円で売る方法を考えよう 第6回： ポッキーが売れている理由はなに？ ＝お客様は誰だ？ 第7回： 自分を知ろう ＝SWOT分析 自分の強み弱み、チャンス、不安？ 第8回： 自分の位置を知ろう ＝ポジショニング 第9回： 化粧品ってどこを狙って企画するの？ 第10回： 「掃除ロボット」はなぜ売れるのか？ 第11回： 値段を決める ＝コストと価格 第12回： どこで売るといいのか？ どこで市場の情報を得るのか？ 第13回： マーケティングの基本を学ぼう ＝4つのP 第14回： 知ってもらう手段を考えよう ＝コミュニケーション戦略 第15回： デザインについて考えよう ＝デザインはコミュニケーションだ	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
都度指定。参考図書を推薦します。	
<b>評価方法</b>	
ワークショップでの発表回数＋レポート＋出席率	
<b>テキスト</b>	
オリジナルのマーケティングテキスト(プリント)を準備	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
ワークショップ形式も多いので、自分の意見を積極的に仲間に伝えましょう。正しいとか間違っているとかはありません。多様な意見を交換してみんなが気づきをえることが大切だと考えます。	

ビジネス能力研究		担当教員	よし だ し ろ う 吉 田 史 朗
単 位	配当年次	開講形態	選択区分
2 単位	3 年後期	講義	選択
〈科目区分〉 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 企画・表現系			

<b>サブ テーマ</b>	
「企画しよう」ーマーケティング力 応用できる知恵編	
<b>授業の到達目標</b>	
セルフ・ポートフォリオ(自分を企画する)の作成	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
自他の理解能力、計画実行能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
ワークショップ形式(5,6名一組でのチームディスカッション)がベース。	
<b>授業の計画</b>	
第1回: 世界一のブランドは何？ 第2回: 福井発のブランドが世界を駆け巡る 第3回: 「地球村」の時代 = 今皆はグローバル時代に生きている 第4回: 就職先は韓国企業？中国企業？ 第5回: 自分のプロファイリングを(前期のSWOT分析を応用しよう) 第6回: 得意に帆を揚げる = 得意技を自覚しブラッシュアップ 第7回: 「1:2.903」ロサダ・ライン = 成功が先か幸福が先か 第8回: 「3人の石切工」の話 = 理想は高く、仕事は楽しく 第9回: 「好奇心」旺盛に、「ネットワーク」を活かして = 成功の秘訣 第10回: 「人気の歯医者さん」をプロデュースしてみよう = ブルーオーシャンの話 第11回: お客様との関係づくりがマーケティング = 福井の企業はBtoBビジネスが多い 第12回: 夢をかなえるマーケティング = 野心のあるチャレンジを期待する 第13回: 自分を売り込む = 就活に学ぶマーケティングのポイント 第14回: ソフトバンク「しろ企画」 = 巻き込み力の天才たち 第15回: 成果 = 能力 × 情熱 × 考え方 = 「人生の方程式」	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
都度指示。指定図書の推薦など	
<b>評価方法</b>	
ワークショップでの発表回数+レポート+出席頻度	
<b>テキスト</b>	
オリジナルのマーケティングテキスト(プリント)を準備	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
ワークショップはチームワークなので、参加者全員が自由に意見を言い合ひましょう。たくさんの気づきを得ることができれば最高です。	

英語学研究Ⅱ（談話分析）		担当教員	やはしちえ 矢橋知枝
単位	配当年次	開講形態	選択区分
2単位	3年前期・4年前期	講義	選択
＜科目区分＞ 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 英語コミュニケーション系			

<b>サブテマ</b>	
英語における談話分析	
<b>授業の到達目標</b>	
英語の構造を談話分析的手法を用いて理解する。ひいては自らの談話形成能力の向上、すなわちコミュニケーション能力の向上につながることを期待する。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
自他の理解能力、コミュニケーション能力、情報収集・探索能力、役割把握・認識能力、計画実行能力、選択能力、課題解決能力	
<b>授業の概要（形態）</b>	
講義および演習	
<b>授業の計画</b>	
第1回：オリエンテーション 第2回：談話分析入門① 第3回：談話分析入門② 第4回：談話分析入門③ 第5回：談話分析入門④ 第6回：会話分析① 第7回：会話分析② 第8回：会話分析③ 第9回：会話分析④ 第10回：テキスト分析① 第11回：テキスト分析② 第12回：テキスト分析③ 第13回：テキスト分析④ 第14回：文学的談話分析① 第15回：文学的談話分析②	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
マルコム・クルタード(吉村昭市他訳)『談話分析を学ぶ人の為に』（世界思想社・1999）および 仁愛大学コミュニケーション学科編『コミュニケーションをデザインする』（行路社・2003）	
<b>評価方法</b>	
定期レポート50%、小レポート・授業発表・授業貢献35%、出席率15%	
<b>テキスト</b>	
テキストは使用せず、適宜ハンドアウトを配布する。	
<b>その他（受講上の注意）</b>	
出席・授業への貢献とともに、授業外での予習・復習を重視する。また、遅刻3回で欠席1回分とみなす。	

英語文章表現法 a		担当教員	こんどひろゆき 紺渡弘幸
単位	配当年次	開講形態	選択区分
2単位	3年前期	講義	選択
〈科目区分〉 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 英語コミュニケーション系			

<b>サブテーマ</b>	
書くプロセスを重視したコミュニケーション・ライティング	
<b>授業の到達目標</b>	
メッセージを効果的にわかりやすく読み手に伝えるライティングの力を養成する。書くプロセスを重視し、トピックの選択、ブレインストーミング、アウトライニング、初稿書き、推敲、最終稿書き、評価、フィードバックといった一連の流れによるプロセス・ライティングを訓練する。また、パラグラフの構成や多様なパラグラフの展開パターンを学習し、併せて正しい文章を書くための文法、基礎的な句読法も学習する。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
コミュニケーション能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
文章表現の基礎知識を理解した後、学習した内容に基づいて実際に英文を書く練習をする。	
<b>授業の計画</b>	
第1回: Introduction: Process Writing 第2回: Introduction: Process Writing 第3回: Pre-Writing: Getting Ready to Write 第4回: Pre-Writing: Getting Ready to Write 第5回: The Structure of a Paragraph 第6回: The Structure of a Paragraph 第7回: The Development of a Paragraph 第8回: The Development of a Paragraph 第9回: Descriptive and Process Paragraphs 第10回: Descriptive and Process Paragraphs 第11回: Descriptive and Process Paragraphs 第12回: Opinion Paragraphs 第13回: Opinion Paragraphs 第14回: Opinion Paragraphs 第15回: Consolidation 第16回: 定期試験	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
授業時に指示する。	
<b>評価方法</b>	
授業への積極的参加(30%)、課題および試験(70%)を総合して評価する。	
<b>テキスト</b>	
『Writing Essays』 Zemach, D. E. MACMILLAN LANGUAGEHOUSE 2011 他に随時プリントを使う。	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
出欠および授業への積極的な参加を重視する。主体的な学習を期待する	



英語文章表現法 b		担当教員	こんどひろゆき 紺渡弘幸
単位	配当年次	開講形態	選択区分
2単位	3年後期	講義	選択
＜科目区分＞ 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 英語コミュニケーション系			

<b>サブテーマ</b>	
書くプロセスを重視したコミュニケーション・ライティング	
<b>授業の到達目標</b>	
メッセージを効果的にわかりやすく読み手に伝えるライティングの力を養成する。書くプロセスを重視し、トピックの選択、ブレインストーミング、アウトライニング、初稿書き、推敲、最終稿書き、評価、フィードバックといった一連の流れによるライティングを訓練する。またエッセイの構成、Unity、Coherence や Cohesion、優れた Introduction 及び Conclusion の書き方も学習する。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
コミュニケーション能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
文章表現の基礎知識を理解した後、学習した内容に基づいて実際に英文を書く練習をする。	
<b>授業の計画</b>	
第1回: Comparison / Contrast Paragraphs 第2回: Comparison / Contrast Paragraphs 第3回: Problem / Solution Paragraphs 第4回: Problem / Solution Paragraphs 第5回: The Structure of an Essay 第6回: The Structure of an Essay 第7回: Outlining an Essay 第8回: Outlining an Essay 第9回: Introductions and Conclusions 第10回: Introductions and Conclusions 第11回: Unity and Coherence 第12回: Unity and Coherence 第13回: Essays for Examinations 第14回: Essays for Examinations 第15回: Consolidation 第16回: 定期試験	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
授業時に指示する。	
<b>評価方法</b>	
授業への積極的参加(30%)、課題および試験(70%)を総合して評価する。	
<b>テキスト</b>	
『Writing Essays』 Zemach、D. E. MACMILLAN LANGUAGEHOUSE 2011 他に随時プリントを使う。	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
出欠および授業への意欲的な参加を重視する。主体的な学習を期待する。	

メディア英語研究 a		担当教員	やはしちえ 矢橋知枝
単位	配当年次	開講形態	選択区分
2単位	3年前期	講義	選択
〈科目区分〉 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 英語コミュニケーション系			

<b>サブテーマ</b>	
メディアに関わる英語とその文化的背景	
<b>授業の到達目標</b>	
メディアに関わる英語の言語特徴とその文化的背景に親しみ、英語力も向上させる	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
自他の理解能力、コミュニケーション能力、情報収集・探索能力、社会・職業理解能力、役割把握・認識能力、課題解決能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
講義および演習	
<b>授業の計画</b>	
第1回: Media as Language Use 第2回: Register and Style 第3回: Mediated Communication 第4回: Media Rhetorics 第5回: Media Story Telling 第6回: Boundaries of Media Discourse 第7回: The Future of Media Language 第8回: Speech, Writing and Media 第9回: Different Styles of Media Language 第10回: Mediated Participation 第11回: Schema and Genre Theory 第12回: Persuasion and Power 第13回: Telling Stories 第14回: Coarseness and Incivility in Broadcast Talk 第15回: まとめ 第16回: 定期試験	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
授業時に指示する	
<b>評価方法</b>	
定期試験 (60%)、授業レポート・小テスト・授業態度 (40%)	
<b>テキスト</b>	
テキストは使用せず、適宜ハンドアウトを配布する	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
遅刻3回で欠席1回分とみなす 必ず英和辞書(電子辞書可)を持参すること	

メディア英語研究 b		担当教員	やはしちえ 矢橋知枝
単位	配当年次	開講形態	選択区分
2 単位	3 年後期	講義	選択
〈科目区分〉 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 英語コミュニケーション系			

<b>サブ テーマ</b>	
メディアに関わる英語とその文化的背景	
<b>授業の到達目標</b>	
メディアに関わる英語の言語特徴とその文化的背景に親しみ、英語力も向上させる	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
自他の理解能力、コミュニケーション能力、情報収集・探索能力、社会・職業理解能力、役割把握・認識能力、課題解決能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
講義および演習	
<b>授業の計画</b>	
第 1 回: Messages and Media 第 2 回: The Case of the Blog 第 3 回: Listening to Pop Lyrics 第 4 回: Comparing Studio Talk 第 5 回: Purposes of Persuasion 第 6 回: Media Fiction and Fact 第 7 回: Soundtrack and Multimodal Discourse 第 8 回: Media Language and Acceptability 第 9 回: Varieties of Media Language 第 10 回: Media and Modernity 第 11 回: News and Advertising Angles 第 12 回: Narrative Strategies 第 13 回: Media Trouble 第 14 回: Media Language and Social Change 第 15 回: まとめ 第 16 回: 定期試験	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
授業時に指示する	
<b>評価方法</b>	
定期試験 (60%)、授業レポート・授業貢献 (40%)	
<b>テキスト</b>	
テキストは使用せず、適宜ハンドアウトを配布する	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
遅刻 3 回で欠席 1 回分とみなす 必ず英和辞書(電子辞書可)を持参すること	

英米文学研究 a		担当教員	やはしちえ 矢橋知枝
単位	配当年次	開講形態	選択区分
2単位	3年後期	講義	選択
〈科目区分〉 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 英語コミュニケーション系			

<b>サブテーマ</b>	
英米文学作品の背景知識	
<b>授業の到達目標</b>	
英米文学史上で有名な作品群を取り上げ、それらの鑑賞を行なう。その際、個々の作品が生み出された文化的背景および特徴的な言語スタイルにも言及する	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
自他の理解能力、コミュニケーション能力、情報収集・探索能力、役割把握・認識能力、課題解決能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
講義および演習	
<b>授業の計画</b>	
第1回： オリエンテーション	
第2回： 古英語期	
第3回： Beowulf	
第4回： 中英語期	
第5回： G. Chaucer	
第6回： ルネッサンス期	
第7回： E. Spenser	
第8回： W. Shakespeare	
第9回： 清教主義	
第10回： J. Milton	
第11回： 王政復古	
第12回： 18世紀	
第13回： S. Johnson	
第14回： ロマン主義	
第15回： W. Wordsworth	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
授業時に指示する	
<b>評価方法</b>	
定期レポート (60%)、小レポート・授業発表・授業貢献 (40%)	
<b>テキスト</b>	
福田昇八 『イギリス・アメリカ文学史 作家のこころ』 (南雲堂)	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
遅刻3回で欠席1回分とみなす 必ず英和辞書(電子辞書可)を持参すること	

英語コミュニケーション a	担当教員	モーリス ルイス スプリチャル	
単位	配当年次	開講形態	選択区分
2 単位	3 年前期	講義	選択
〈科目区分〉 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 英語コミュニケーション系			

<b>サブ テーマ</b>	
Debate: Basic Skills for Supporting and Refuting Opinions	
<b>授業の到達目標</b>	
Debate techniques are indispensable in daily life as a tool for thinking about an issue from all sides. Furthermore, learning to debate gives you the ability to question sources of information. Do you believe everything you hear or read? Are all advertised products really that wonderful?	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
自他の理解能力、コミュニケーション能力、情報収集・探索能力、計画実行能力、選択能力、課題解決能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
Each unit covered in the text systematically offers guidance through practical exercises in order for participants to acquire the necessary skills for actively offering opinions and defending them, as well as questioning the validity of the opinions of ot	
<b>授業の計画</b>	
第 1 回: Agreeing or Disagreeing with an Opinion 第 2 回: Debate Resolutions 第 3 回: Reasons for Opinions 第 4 回: Brainstorming & Question-Making 第 5 回: Supporting Your Opinion 第 6 回: Organizing Your Opinion 第 7 回: Refuting Opinions 第 8 回: “Tennis Debates” & Critiquing 第 9 回: Challenging Supports 第 10 回: Organizing Refutations 第 11 回: Mini-Debates & Editorial Response 第 12 回: Flowing a Model Debate 第 13 回: Flowing a Complete Debate 第 14 回: Holding a Debate 第 15 回: Holding a Debate 第 16 回: Final Examination	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
Participants should have taken and passed ‘English I a & I b’, ‘English II a & II b’, ‘Oral Communication I a & I b’ and ‘Oral Communication II a & II b’.	
<b>評価方法</b>	
Attendance & Proactive Participation – 25% Periodic Homework Assignments, and In-class Debates (第 14 回 & 第 15 回) – 25% Final Examination (Listening & Writing) – 50%	
<b>テキスト</b>	
Discover Debate: Basic Skills for Supporting and Refuting Opinions. Michael Lubetsky, Charles LeBeau, and David Harrington. Language Solutions Incorporated. 2000	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
This course requires much preparation and active participation.	

英語コミュニケーション b		担当教員	モーリス ルイス スプリチャル	
単位	配当年次	開講形態	選択区分	
2 単位	3 年後期	講義	選択	
＜科目区分＞ 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 英語コミュニケーション系				

<b>サブ テーマ</b>	
Critical Thinking: Solving Dilemmas in Intercultural Communication	
<b>授業の到達目標</b>	
As people communicate, they anticipate and react to what others say and do. People do this unconsciously, based on their culture and past experiences. When communicating with a person from another culture, people often run into trouble.	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
自他の理解能力、コミュニケーション能力、情報収集・探索能力、計画実行能力、選択能力、課題解決能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
Students will read stories involving miscommunication between people of different cultures. Then, students will be asked to choose what they think is the best explanation for the people's actions, discuss the reasons for the misunderstanding, and think ab	
<b>授業の計画</b>	
第 1 回: Introductions 第 2 回: A Scare in the Market 第 3 回: A Scare in the Market 第 4 回: Mr. Yoshida's Deal 第 5 回: Mr. Yoshida's Deal 第 6 回: The Boyfriend's Visit 第 7 回: The Boyfriend's Visit 第 8 回: Relatives in Japan 第 9 回: Relatives in Japan 第 10 回: The Ripped Check 第 11 回: The Ripped Check 第 12 回: Official Japan 第 13 回: Official Japan 第 14 回: Flood of Emotions 第 15 回: Flood of Emotions 第 16 回: Final Examination	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
Participants should have taken and passed 'English I a & I b', 'English II a & II b', 'Oral Communication I a & I b', 'Oral Communication II a & II b', and 'English Communication I a'.	
<b>評価方法</b>	
Attendance & Proactive Participation - 25%、Writing Assignments - 25% and Final Examination - 50%	
<b>テキスト</b>	
Culture Riddles: International. Joseph Shaules and Haruko Katsura. Nan'un-do Publishing Co., Ltd. 1998	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
This course requires much preparation and active participation.	

英語聴解技法 a		担当教員	や はし ち え 矢 橋 知 枝
単 位	配当年次	開講形態	選択区分
2 単位	3 年前期	講義	選択
＜科目区分＞ 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 英語コミュニケーション系			

<b>サブ テーマ</b>	
通訳とコミュニケーションの総合演習	
<b>授業の到達目標</b>	
家族、学生生活など日常的な事柄からさまざまな話題を取り上げ、高度な英語の聴解力、読解力、表現力を鍛える。初歩的な逐次の通訳の仕方も学ぶ。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
自他の理解能力、コミュニケーション能力、社会・職業理解能力、役割把握・認識能力、選択能力、課題解決能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
演習を主体とする	
<b>授業の計画</b>	
第 1 回： 実践演習 1 第 2 回： Unit 1 家族 第 3 回： Unit 1 家族 第 4 回： Unit 2 大学生活 第 5 回： Unit 2 大学生活 第 6 回： Unit 3 趣味(スポーツ) 第 7 回： Unit 3 趣味(スポーツ) 第 8 回： 実践演習 2 第 9 回： Unit 4 趣味(映画・音楽) 第 10 回： Unit 4 趣味(映画・音楽) 第 11 回： Unit 5 国際交流 1 第 12 回： Unit 5 国際交流 1 第 13 回： Unit 6 国際交流 2 第 14 回： Unit 6 国際交流 2 第 15 回： 実践演習 3 第 16 回： 定期試験	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
Net Academy(スタンダードコース)も学習する。	
<b>評価方法</b>	
定期試験 60%、授業発表・授業貢献等・受講態度 40%	
<b>テキスト</b>	
『Developing Interpreting Skills for Communication』 Saito, Minakawa and Potter. Nan'un-do. 1999	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
出席・授業への貢献とともに、授業外での予習・復習も重視する。また、遅刻 3 回で欠席 1 回分とみなす。	

英語聴解技法 b		担当教員	やはしちえ 矢橋知枝
単位	配当年次	開講形態	選択区分
2単位	3年後期	講義	選択
〈科目区分〉 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 英語コミュニケーション系			

<b>サブテーマ</b>	
通訳とコミュニケーションの総合演習	
<b>授業の到達目標</b>	
国際交流、高齢化・少子化などの社会問題を取り上げ、高度な英語の聴解力、読解力、表現力を鍛える。初歩的な逐次的通訳の仕方も学ぶ。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
自他の理解能力、コミュニケーション能力、社会・職業理解能力、役割把握・認識能力、選択能力、課題解決能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
演習を主体とする。	
<b>授業の計画</b>	
第1回： 実践演習 4 第2回： Unit 7 日本の文化 第3回： Unit 7 日本の文化 第4回： Unit 8 海外の文化 第5回： Unit 8 海外の文化 第6回： Unit 9 社会事情 1 第7回： Unit 9 社会事情 1 第8回： 実践練習 5 第9回： Unit 10 社会事情 2 第10回： Unit 10 社会事情 2 第11回： Unit 11 観光 第12回： Unit 11 観光 第13回： Unit 12 コミュニケーション 第14回： Unit 12 コミュニケーション 第15回： 実践演習 6 第16回： 定期試験	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
Net Academy(スタンダードコース)も学習する。	
<b>評価方法</b>	
定期試験 60%、授業発表・授業貢献等・受講態度 40%	
<b>テキスト</b>	
『Developing Interpreting Skills for Communication』 Saito, Minakawa and Potter. Nan'un-do. 1999	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
出席・授業への貢献とともに、授業外での予習・復習も重視する。また、遅刻 3 回で欠席 1 回分とみなす。	



ビジネス英語研究 a		担当教員	さわ ざき とし ふみ 澤 崎 敏 文
単 位	配当年次	開講形態	選択区分
2 単位	3 年後期	講義	選択
＜科目区分＞ 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 英語コミュニケーション系			

<b>サブ テーマ</b>	
Business Interactions / Doing Business in English	
<b>授業の到達目標</b>	
英語は、それを母国語とする国々だけでなく、国際的なビジネス共通語として欠かせない言語となっている。ビジネスにおける世界共通語としての英語を、英語 I、英語 II で学習してきた四技能を活用し、実際に躍進する日本企業のビジネスモデルを英語を通して知り、実践的なビジネス英語の基礎を学ぶことを目標とする。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
自他の理解能力、コミュニケーション能力、情報収集・探索能力、社会・職業理解能力、課題解決能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
ペア、グループなど多様な学習形態を取り入れて、ビジネス(経営、SWOT 分析、Positioning 分析、Marketing Mix 等のマーケティング)について英語で学ぶスタイルをとる。LMS やインターネット等を授業教材として活用し、学生主体の活動を中心に行う。	
<b>授業の計画</b>	
第 1 回: Introduction / Business English 第 2 回: Business Case 1: Analysis and discussion 第 3 回: Business Case 1: SWOT Analysis 第 4 回: Business Case 1: Short presentation 第 5 回: Business Case 2: Analysis and discussion 第 6 回: Business Case 2: Segmentation and Targeting / Positioning 第 7 回: Business Case 2: Short presentation 第 8 回: Review / Skills for Negotiation 第 9 回: Business Case 3: Analysis and discussion 第 10 回: Business Case 3: Marketing Mix / Four Ps. 第 11 回: Business Case 3: Short presentation 第 12 回: Review / Skills for Negotiation 第 13 回: Discussion for Business Presentation 第 14 回: Business Presentation 1 第 15 回: Business Presentation 2	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
必要に応じて授業内で指示します。	
<b>評価方法</b>	
授業への積極的参加および授業毎の発表内容 20% レポートおよび小テスト等の課題 50% 最終発表 30%	
<b>テキスト</b>	
『Moving ahead in the 21st Century: 12 Forward-looking Companies』 松柏社 2009 年	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
初回の授業時に、詳細なシラバスの配布、授業計画の説明を行う予定。	

英語プレゼンテーション技法 a		担当教員	やま だ はる み 山 田 晴 美
単 位	配当年次	開講形態	選択区分
2 単位	3 年前期	講義	選択
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 英語コミュニケーション系			

<b>サブ テーマ</b>	
Developing presentation skills in English	
<b>授業の到達目標</b>	
1. To learn how to use the physical message, the visual message, and the story message effectively to make effective presentations in English. 2. To integrate and develop the presentation skills through discussions, group work, researching and collecting information, and single and group presentations.	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
自他の理解能力、コミュニケーション能力、情報収集・探索能力、役割把握・認識能力、計画実行能力、選択能力、課題解決能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
1. You will learn how to make presentations effectively with a lot of speaking activities in pairs and in groups. You will be encouraged to express your opinions actively in class. 2. You will make several small presentations during the course. This is to	
<b>授業の計画</b>	
第 1 回: Introduction 第 2 回: The Three Messages in a Speech 第 3 回: Posture and Eye Contact 第 4 回: Informative Speech 1 第 5 回: Informative Speech 2 第 6 回: Gestures 第 7 回: Layout Speech 1 第 8 回: Layout Speech 2 第 9 回: Voice Inflection 第 10 回: Demonstration Speech 1 第 11 回: Demonstration Speech 2 第 12 回: The Visual Message 1 第 13 回: The Visual Message 2 第 14 回: The Visual Message 3 第 15 回: Performance of Country Comparison Speech	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
You don't need to prepare for lessons, but you will have to submit some assignments to prepare for your presentations. For further reading (You can find these books in the Jin-ai University Library.): Deane, P. & Reynolds, K. 著 (2002).『英語プレゼンテーションの基本スキル	
<b>評価方法</b>	
1. Class activities: 20 % 2. Presentations: 40% 3. Report: 40%	
<b>テキスト</b>	
『Speaking of Speech (New Edition)』 David Harrington & Charles LeBeau, MACMILLAN. 2009	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
1. Attendance and active participation are very important. 2. You have to bring your textbooks, your favourite dictionaries, and writing materials to class.	

英語プレゼンテーション技法b		担当教員	やま だ はる み 山 田 晴 美
単 位	配当年次	開講形態	選択区分
2 単位	3 年後期	講義	選択
〈科目区分〉 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 英語コミュニケーション系			

<b>サブ テーマ</b>	
Developing presentation skills in English	
<b>授業の到達目標</b>	
<p>1. To learn how to use the physical message, the visual message, and the story message effectively to make effective presentations in English.</p> <p>2. To integrate and develop the presentation skills through discussions, group work, researching and collecting information, and single and group presentations.</p>	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
<p>自他の理解能力、コミュニケーション能力、情報収集・探索能力、役割把握・認識能力、計画実行能力、選択能力、課題解決能力、</p>	
<b>授業の概要(形態)</b>	
<p>1. You will learn how to make presentations effectively with a lot of speaking activities in pairs and in groups. You will be encouraged to express your opinions actively in class.</p> <p>2. You will make several small presentations during the course. This is to</p>	
<b>授業の計画</b>	
<p>第1回: Introduction  第2回: The Story Message  第3回: The Introduction 1  第4回: The Introduction 2  第5回: The Body 1  第6回: The Body 2  第7回: The Body 3  第8回: The Conclusion 1  第9回: The Conclusion 2  第10回: The Conclusion 3  第11回: Putting it all together  第12回: Preparing a group presentation 1  第13回: Preparing a group presentation 2  第14回: Preparing a group presentation 3  第15回: Performance of group presentations</p>	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
<p>You don't need to prepare for lessons, but you will have to submit some assignments to prepare for your presentations.</p> <p>For further reading:  Deane, P. &amp; Reynolds, K. 著 (2002).『英語プレゼンテーションの基本スキル』朝日出版社  飯泉恵美子 &amp; T.J.Oba 著 (2003).『はじめての英語プレゼンテーション』The Japa</p>	
<b>評価方法</b>	
<p>1. Class participation and class activities: 20 %  2. Presentations: 40%  3. Report: 40%</p>	
<b>テキスト</b>	
<p>『Speaking of Speech (New Edition)』 David Harrington &amp; Charles LeBeau, MACMILLAN. 2009  Carmin Gallo 著 (2010) The Presentation Secrets of Steve jobs - How to Be Insanely Great in Front of Any Audience. McGraw Hill.</p>	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
<p>1. Attendance and active participation are very important.  2. Students are expected to be highly motivated to study English and English teaching methodologies so that they can be good English teachers in the future.</p>	

現代社会研究Ⅱ		担当教員	しま おか はじめ 島 岡 哉
単 位	配当年次	開講形態	選択区分
2 単位	3 年前期	講義	選択
〈科目区分〉 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 現代社会系			

<b>サブ テーマ</b>	
現代社会への文化人類学的アプローチ	
<b>授業の到達目標</b>	
本講義では、グローバルな視点から、日本社会およびそれぞれの地域社会をとらえる力を身につける。現代社会は、近代社会の社会編成の上に成り立っている。そこで、西洋近代の学としてのルーツを持っていた文化人類学の理論枠組みを用いて、世界史的(※西洋中心主義の歴史ではない)視野から物事を把握できる力の養成と、論理的思考のトレーニングを行う。なお、受講を通して、本学が立地する越前という地域が、グローバル化の中でどのように変容を遂げているのかについて、分析・考察を行えるようになってもらいたい。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
自他の理解能力、情報収集・探索能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
講義を主とする。各回の講義内容の理解度をはかるために、および双方向の講義を目指すために、リアクション・ペーパーを書いてもらう。ただし、登録者数が少なくゼミ形式が可能な場合は、形式を変更することもありうる。	
<b>授業の計画</b>	
第1回： 文化人類学とは？——「フクイ・シルク」から「西洋近代の相対化」まで 第2回： 本講義を理解するために①——西洋近代の二元論の確認 第3回： 本講義を理解するために②——基礎的な世界史の確認 第4回： 「グローバル」=「ユニバーサル」？——帝国から国民国家へ、そしてボーダレス化へ 第5回： 環境問題における「グローバル」とは？——身体の復権 第6回： ハイブリッド・モダニティ——言説が持つ権力性への「抵抗」と「流用」 第7回： 「ディアスポラ」という「共同体」——西洋近代との「交渉」 第8回： 「サバルタン」とは誰か？——語りえない位置におかれた人々 第9回： 英語帝国主義と格差社会 第10回： 情報戦争——監視社会の成立 第11回： 情報都市と世界都市——9・11 テロ以前／以後の世界 第12回： マクドナルド化する社会？——グローバル化とトランスナショナルカルチャーをめぐって 第13回： ヘリテージ・ツーリズムの現在——記憶の選択と忘却、メモリアリオン 第14回： オリエンタリズム 第15回： オクシデンタリズム 第16回： 定期試験	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
本講義は、日本語の訳書・著書だけでなく、英文の専門学術誌論文に依拠した内容が多く含まれるため、予習は難しい。(ただし、英語で、英文論文を用いて講義するという意味ではない。)そこで、復習に相当な時間を割いてもらいたい。たとえば、「ハイブリッド・モダニティ」や「コロナリズム」などの用語の意味を、自分の言葉で言い換えることができるような講義を行う。わかりやすく言い換えた板書・ノートを見てかならず復習しておくこと。	
<b>評価方法</b>	
リアクション・ペーパー記載の内容(出欠も兼ねる)が30%、定期試験70%の総合評価。	
<b>テキスト</b>	
特定のテキストは指定しない。文化人類学の文献の中から、日本語で読めて入手可能なもの、入門書の文体でわかりやすいものを、講義中に紹介する。	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
真摯に学ぼうとする受講生に迷惑をかける者には、単位を与えない。	

臨床社会学		担当教員	ほう げつ まこと 宝 月 誠
単 位	配当年次	開講形態	選択区分
2 単位	3 年前期	講義	選択
〈科目区分〉 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 現代社会系			

<b>サブ テーマ</b>	
逸脱に対する社会的コントロールの考え方	
<b>授業の到達目標</b>	
社会には種々の「逸脱・病理現象」が生じるが、それに対処するために規制や矯正・治療など「社会的コントロール」が行なわれている。逸脱と社会的コントロールについての代表的な考え方を紹介し、社会診断と治療・改善を目指す臨床社会学の視点を学ぶ。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
自他の理解能力、役割把握・認識能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
講義 80 分・質疑応答 10 分・レジメを配布・ビデオも使用	
<b>授業の計画</b>	
第 1 回: オリエンテーション:講義方針と計画 第 2 回: デュルケームの理論:臨床社会学の原点 第 3 回: 三つの基本的視点:構造論・相互作用論・行為者論 第 4 回: シカゴ学派・アノミー論 第 5 回: 差別的接触論・ラベソング論 第 6 回: 合理的選択論・社会的絆論 第 7 回: 逸脱の事例(1) 第 8 回: 逸脱の事例(2) 第 9 回: コントロールの考え方 第 10 回: コントロールの目的と手段 第 11 回: 介入・排除・包摂 第 12 回: 組織的なコントロール 第 13 回: インフォーマルなコントロール 第 14 回: 臨床社会学に必要な考え方と課題 第 15 回: まとめと討議	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
テキストまたは配付資料を読み質問事項を考えておくこと。議論に参加するためにこの点は重要。	
<b>評価方法</b>	
レポート 70 点(70 点×1 回) 小テスト 30 点(10 点×3 回)、集中講義 1 日目～3 日目に実施	
<b>テキスト</b>	
テキストを使用する場合は開講前に掲示する。	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
特になし	

データ解析法 b		担当教員	こばやし だい すけ 小林 大 祐
単 位	配当年次	開講形態	選択区分
2 単位	3 年前期	演習	選択
〈科目区分〉 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 現代社会系			

<b>サブ テーマ</b>	
量的データの分析方法を詳しく学ぶ	
<b>授業の到達目標</b>	
この講義では、社会学のデータ分析に用いられる多変量解析の手法について、その基本的な考え方を解説した上で、主要な分析手法について学ぶ。分散分析、重回帰分析を基本とするが、カテゴリカルなデータに対する分析手法や主成分分析・因子分析についてもとりあげる。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
選択能力、課題解決能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
講義とコンピュータをもちいた実習の形式によっておこなう。説明のため、適宜レジュメを配布する。また授業中にアンケートなどの小課題の提出を求めることがある(不定期)。	
<b>授業の計画</b>	
第 1 回： オリエンテーション 第 2 回： おさらい(1) 記述統計量 第 3 回： おさらい(2) 検定の考え方 第 4 回： 多変量解析の考え方:変数をコントロールするとは、どういうことか？ 第 5 回： 分散分析の理論と演習 第 6 回： 単回帰分析の理論と演習 第 7 回： 単回帰分析の理論と演習 第 8 回： 単回帰分析の理論と演習 第 9 回： カテゴリカル・データ間の連関を探る 第 10 回： カテゴリカル・データ間の連関を探る 第 11 回： 主成分分析・因子分析の考え方 第 12 回： 主成分分析の理論と演習 第 13 回： 因子分析の理論と演習 第 14 回： 因子分析の理論と演習 第 15 回： まとめ 第 16 回： 定期試験	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
授業時に指示する 参考図書： 『社会統計学』 ボーンシュテット・ノーキ ハーベスト社	
<b>評価方法</b>	
期末試験と複数回の小課題の提出による。	
<b>テキスト</b>	
一定のテキストは使用しない。	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
本科目は社会調査士資格標準カリキュラムの E に対応する科目であり、課題の提出などを厳しくチェックする。	

社会調査演習 a		担当教員	こばやしだいすけ しまおかはじめ やまなかちえ 小林大祐・島岡哉・山中千恵	
単位	配当年次	開講形態	選択区分	
2単位	3年前期	演習	選択	
〈科目区分〉 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 現代社会系				

<b>サブテーマ</b>	
社会調査の過程を実習によって学ぶ。	
<b>授業の到達目標</b>	
この実習では、質問紙調査、またはインタビュー調査をその設計から、仮説設定、質問紙・インタビュー項目の作成、実査、統計的・質的分析、報告書作成まで一通りおこなうことで、これまでのカリキュラムのなかで学んできた社会調査や統計学の知識とテクニックを実践のなかで、役立つものとして身につけてもらうことを目的としている。越前地域を対象とした調査演習テーマも設定する。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
情報収集・探索能力、社会・職業理解能力、計画実行能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
調査方法によりグループを分けて、それぞれの教員のもとで適宜、講義と実習をおこなっていく。	
<b>授業の計画</b>	
第1回： オリエンテーションとグループ決定 第2回： テーマについての話し合い 第3回： テーマについての話し合い 第4回： テーマについての文献レビュー 第5回： テーマについての文献レビュー 第6回： 仮説構成 第7回： 仮説構成 第8回： 質問作成 第9回： 質問作成 第10回： 質問作成 第11回： 質問紙・インタビュー項目作成 第12回： 質問紙・インタビュー項目作成 第13回： 質問紙・インタビュー項目作成 第14回： 実査準備 第15回： 実査準備	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
授業時に指示する	
<b>評価方法</b>	
受講態度と複数回の小課題の提出による	
<b>テキスト</b>	
授業開始時に各教員から指示がある。	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
本科目は社会調査士資格標準カリキュラムの G に対応する科目である。授業時間以外にも作業などで拘束されることがあるが、グループ単位での作業が求められるので基本的に全回出席が求められる(特に就職活動を行う者は注意すること)。なお社会調査士科目の単位を既に3科目以上取得していることが望ましい。	

社会調査演習 b		担当教員	こばやしだいすけ しまおかはじめ やまなかちえ 小林大祐・島岡哉・山中千恵	
単位	配当年次	開講形態	選択区分	
2 単位	3 年後期	演習	選択	
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 現代社会系				

<b>サブ テーマ</b>	
社会調査の過程を実習によって学ぶ。	
<b>授業の到達目標</b>	
この実習では、質問紙調査、またはインタビュー調査をその設計から、仮説設定、質問紙・インタビュー項目の作成、実査、統計的・質的分析、報告書作成まで一通りおこなうことで、これまでのカリキュラムのなかで学んできた社会調査や統計学の知識とテクニックを実践のなかで、役立つものとして身につけてもらうことを目的としている。越前地域を対象とした調査演習テーマも設定する。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
情報収集・探索能力、社会・職業理解能力、計画実行能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
調査方法によりグループを分けて、それぞれの教員のもとで適宜、講義と実習をおこなっていく。	
<b>授業の計画</b>	
第 1 回： 実査① 第 2 回： 実査② 第 3 回： コーディング・データ整理① 第 4 回： コーディング・データ整理② 第 5 回： コーディング・データ整理③ 第 6 回： データ分析① 第 7 回： データ分析② 第 8 回： データ分析③ 第 9 回： データ分析④ 第 10 回： データ分析⑤ 第 11 回： 報告書作成① 第 12 回： 報告書作成② 第 13 回： 報告書作成③ 第 14 回： 報告書作成④ 第 15 回： 報告書作成⑤	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
授業時に指示する。	
<b>評価方法</b>	
受講態度と各自が作成、提出した報告書によって評価する。	
<b>テキスト</b>	
授業開始時に各教員から指示がある。	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
本科目は社会調査士資格標準カリキュラムの G に対応する科目である。授業時間以外にも作業などで拘束されることがあるが、グループ単位での作業が求められるので基本的に全回出席が求められる(特に就職活動を行う者は注意すること)。なお同年前期の社会調査演習 a の単位を取得している者以外は受講できない。	



現代文化研究		担当教員	やまなかちえ 山中千恵
単位	配当年次	開講形態	選択区分
2単位	3年前期	講義	選択
〈科目区分〉 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 現代社会系			

<b>サブテーマ</b>	
「少女」向けポピュラー文化を手掛かりとした現代文化の分析。	
<b>授業の到達目標</b>	
ジェンダー・セクシュアリティという概念を理解し、それを用いて現代社会および自己について考えることができるようになる。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
自他の理解能力、コミュニケーション能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
講義。グループワークや発表の時間も設ける。	
<b>授業の計画</b>	
第1回: ガイダンス 第2回: メディアとジェンダー(1) 第3回: メディアとジェンダー(2) 第4回: メディアとジェンダー(3) 第5回: ロマンティックラブ・イデオロギーの成立とゆらぎ 第6回: ジェンダーとセクシュアリティ(1) 第7回: ジェンダーとセクシュアリティ(2) 第8回: 少女論の系譜(1) 第9回: 少女論の系譜(2) 第10回: 男同士の絆(1) 第11回: 男同士の絆(2) 第12回: 男同士の絆(3) 第13回: 女同士の絆?(1) 第14回: 女同士の絆?(2) 第15回: まとめと達成度確認	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
授業中に配布する文献リストに上げられた本や論文を読んでおくことが望ましい。	
<b>評価方法</b>	
レポート(筆記試験に変更の可能性もあり)、および授業中に課す課題や発表(不定期)による。	
<b>テキスト</b>	
適宜指示	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
私語等、講義を妨害する学生には退出してもらう。単位を与えない場合もある。受講生の理解度等によって、授業計画に変更を加える可能性があるので注意すること。	

比較文化研究		担当教員	やま なか ち え 山中千恵
単位	配当年次	開講形態	選択区分
2単位	3年後期	講義	選択
〈科目区分〉 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 現代社会系			

<b>サブテーマ</b>	
隣国(大韓民国)を通じて、グローバル化について考える	
<b>授業の到達目標</b>	
この授業では、知っていそうで知らない隣国(韓国)の歴史と、日本との関係について学ぶ。韓国についての知識を深めるとともに、グローバル化が進む状況下で、文化を本質的にとらえるような「比較文化」が、いかなる問題を抱えているのかについても考えていく。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
自他の理解能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
講義。グループワークや発表の時間も設ける。	
<b>授業の計画</b>	
第1回： 韓国の概要 第2回： 韓国の歴史を知る(1) 第3回： 韓国の歴史を知る(2) 第4回： 韓国の歴史を知る(3) 第5回： 韓国の歴史を知る(4) 第6回： 「集合的記憶」としての歴史 第7回： 韓国の文化政策(1) 第8回： 韓国の文化政策(2) 第9回： 韓国の文化政策(3) 第10回： 韓国の文化政策(4) 第11回： グローバル化とはなにか 第12回： グローバル化する日韓社会(1) 第13回： グローバル化する日韓社会(2) 第14回： グローバル化する日韓社会(3) 第15回： まとめと達成度の確認	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
授業中に配布する文献リストに上げられた本や論文を読んでおくことが望ましい。	
<b>評価方法</b>	
レポート試験(筆記試験に変更のこともある)、および授業中に課すミニレポートや発表(不定期)による。	
<b>テキスト</b>	
適宜指示	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
私語等、講義を妨害する学生には退出してもらう。単位を与えない場合もある。受講生の理解度等によって、授業計画に変更を加える可能性があるので注意すること。	

言語心理学		担当教員	すぎしま いち ろう 杉島 一郎
単位	配当年次	開講形態	選択区分
2単位	3年後期	講義	選択
〈科目区分〉 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 現代社会系			

<b>サブテーマ</b>	
人間がコミュニケーションや思考を行う際に用いる言語について心理学的観点から考察する。	
<b>授業の到達目標</b>	
我々は、コミュニケーションや記録のためだけでなく、思考や発想などさまざまな目的で言語を用いている。この言語というものを人間はどのように使い、受け取っているのだろうか。情報伝達という観点から、言語の利用を科学的にとらえていく。そのため、計量的・数量的に言葉をとらえたり、「理解」という観点から、あるいは記憶のしやすさといった認知的側面から言語を考えていく。この授業では、過去の知見を知識として得るのではなく、さまざまな研究例や方法論を手がかりに、現在の我々をとりまく言語について考えることを目標とする。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
自他の理解能力、情報収集・探索能力、選択能力、課題解決能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
各授業ごとに、最初にテーマに沿った質問の答えを筆記し、講義を行い、終わりに感想や質問等を筆記。	
<b>授業の計画</b>	
第1回： ことばとは何か？ 第2回： 「わかりやすさ」を考える 第3回： 言語の有契性・恣意性 第4回： 言語と記憶 第5回： 言語処理とワーキングメモリ1 第6回： 言語処理とワーキングメモリ2 第7回： 言語と思考 第8回： 言葉の習得(母語の獲得) 第9回： 言葉の習得(第2言語習得) 第10回： 言語理解 第11回： 「意味」とは何か 第12回： 意味理解のメカニズム 第13回： 言外の意味 第14回： ことばが失われた場合 第15回： まとめ 第16回： 定期試験	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
授業中に適宜次回の話題に関する資料を配布したり、参考文献等を示すので、受講前に予習しておくこと。また、小レポート等を課し、復習を進めていく。 参考図書:『現代心理学シリーズ5 言語と記憶』浮田潤・賀集寛 共編 培風館 1997年	
<b>評価方法</b>	
期末テスト(記述式、持ち込み不可)の成績(80%)と、授業中に何度か指示する課題(20%)の成績をもとに、( )内の割合に基づいて総合的に評価する。 また、授業への出席を重視し、欠席数に応じて加減点する。	
<b>テキスト</b>	
テキストは使用しない。適宜資料を配布する。	
<b>その他(受講上の注意)</b>	

コミュニケーション特別演習 I a		<b>担当教員</b>	金田・紺渡・スプリチャル・八木・大河・加藤・小林(大)・四戸・島岡・矢橋・山中・船山	
<b>単位</b>	<b>配当年次</b>	<b>開講形態</b>	<b>選択区分</b>	
2 単位	3 年前期	演習	必修	
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 特別演習・卒業研究				

<b>サブテーマ</b>	
「卒業研究」に向けて、論文や作品を自分で作成していく手順の基礎を習得する。	
<b>授業の到達目標</b>	
1. 最適なテーマを選定すること。 2. 演習での発表や討議を通じ、コミュニケーション能力を養う場とすること。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
他者の理解能力、コミュニケーション能力、情報収集・探索能力、社会・職業理解能力、役割把握・認識能力、計画実行能力、選択能力、課題解決能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
全 15 回をゼミ単位で行う。	
<b>授業の計画</b>	
第 1 回： 第 2 回： 第 3 回： 第 4 回： 第 5 回： 第 6 回： 第 7 回： 第 8 回： 第 9 回： 第 10 回： 第 11 回： 第 12 回： 第 13 回： 第 14 回： 第 15 回：	各ゼミごとに、進め方を決め、それに沿って取り組んでゆく。
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
授業時に指示する。	
<b>評価方法</b>	
基本的には、テーマ選定や進め方の巧拙、取り組み姿勢、構想の出来栄などを総合的に判断して決めるが、詳細については各ゼミが決定する。	
<b>テキスト</b>	
必要に応じて指示する。	
<b>その他(受講上の注意)</b>	

コミュニケーション特別演習 I b		<b>担当教員</b>	金田・紺渡・スプリチャル・八木・大河・加藤・小林(大)・四戸・島岡・矢橋・山中・船山	
<b>単位</b>	<b>配当年次</b>	<b>開講形態</b>	<b>選択区分</b>	
2 単位	3 年後期	演習	必修	
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 特別演習・卒業研究				

<b>サブテーマ</b>	
「卒業研究」の研究内容に関する全体の構想を描き終え、具体的な研究に着手する。	
<b>授業の到達目標</b>	
1. テーマ選定から論文・作品の完成までの方法論について理解し、具体的な研究に着手すること。 2. 演習での発表や討議を通じ、更なるコミュニケーション能力を向上させる場とすること。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
他者の理解能力、コミュニケーション能力、情報収集・探索能力、社会・職業理解能力、役割把握・認識能力、計画実行能力、選択能力、課題解決能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
全 15 回をゼミ単位で行う。	
<b>授業の計画</b>	
第 1 回： 第 2 回： 第 3 回： 第 4 回： 第 5 回： 第 6 回： 第 7 回： 第 8 回： 第 9 回： 第 10 回： 第 11 回： 第 12 回： 第 13 回： 第 14 回： 第 15 回：	各ゼミごとに、進め方を決め、それに沿って取り組んでゆく。
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
授業時に指示する。	
<b>評価方法</b>	
基本的には、テーマ選定や進め方の巧拙、取り組み姿勢、構想の出来栄などを総合的に判断して決めるが、詳細については各ゼミが決定する。	
<b>テキスト</b>	
必要に応じて指示する。	
<b>その他(受講上の注意)</b>	

## IV. 4年生

<学部共通科目>

<心理学科専門科目>

<コミュニケーション学科専門科目>

海外語学研修		担当教員	モーリス ルイス スプリチャル
単位	配当年次	開講形態	選択区分
4単位	2年～4年	演習	選択
＜科目区分＞ 人間学部学部共通科目 外国語科目			

<b>サブ テーマ</b>	
Eight-Week English Study Program at California State University, Fullerton	
<b>授業の到達目標</b>	
This course is designed to give participants a complete hands-on experience in all phases of planning and participating in an approximate eight-week English study program in the USA. Participants will be personally responsible for all procedures in securing the proper visa in order to study in the USA and for arranging their own transportation to the USA. Furthermore, they will arrange their own home-stay accommodations through the American Language Program (ALP) of California State University, Fullerton and be responsible for applying for admission to the intensive English study program of the ALP.	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
自他の理解能力、コミュニケーション能力、情報収集・探索能力、社会・職業理解能力、計画実行能力、選択能力、課題解決能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
This program is scheduled to take place from early August through late September with the planning stages taking place from April through July. After returning from the USA, participants must submit records of attendance and grades for their studies at the	
<b>授業の計画</b>	
第1回： } 第2回： } 第3回： } Introduction to Goals of the Program 第4回： } Report on Previous Program 第5回： } Eligibility Interviews 第6回： } Meetings to Prepare Documents 第7回： } (Jin-ai University) 第8回： } 第9回： } 第10回： } 第11回： } 第12回： } Participation in the Program 第13回： } (ALP、CSUF) 第14回： } 第15回： } 第16回： }	第17回： } 第18回： } 第19回： } 第20回： } 第21回： } 第22回： } Participation in the Program 第23回： } (ALP、CSUF) 第24回： } 第25回： } 第26回： } 第27回： } 第28回： } 第29回： Submission of ALP Attendance & Grade Reports (Jin-ai University) 第30回： Submission of Documents Requesting Credits (Jin-ai University)
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
Mandatory attendance at all meetings prior to departure to and after returning from the USA is required in order to successfully participate in the program.	
<b>評価方法</b>	
A grade will be assigned mainly based on evaluation by the American Language Program of California State University, Fullerton. Participation in the planning stages and post-study activities at Jin-ai University will also be taken into consideration.	
<b>テキスト</b>	
To be selected by the American Language Program of California State University, Fullerton.	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
All applicants will be required to undergo a personal interview, and records of attendance in classes at Jin-ai University will also be examined to determine eligibility. All costs for the program are the sole responsibility of the participants. Approxima	

フィールドワーク演習(ボランティア)		担当教員	きん だ あき ひこ 金 田 明 彦
単 位	配当年次	開講形態	選択区分
2 単位	1 年～4 年	演習	選択
＜科目区分＞ 人間学部学部共通科目 修学基礎・フィールドワーク科目			

<b>サブ テーマ</b>
学外でのフィールドワークを体験し、自己認識、自己啓発の機会とする
<b>授業の到達目標</b>
学外における自主的な活動や体験をとおして、通常の講義や演習で得られない視点や考察点を体得する。 本科目では、「ボランティア」、「イベント」、「コンペティション」の3分野への参画体験演習を行い、以後の学修・研究のための動機付けを得ること、また優れた社会人となるための自己認識、自己啓発の機会とすることを目的とする。
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>
自他の理解能力、コミュニケーション能力、情報収集・探索能力、社会・職業理解能力、役割把握・認識能力、計画実行能力、選択能力、課題解決能力
<b>授業の概要(形態)</b>
〔授業の形態・授業の計画〕 本プログラムには、学内外でのボランティア活動体験、社会的イベント・コンペティションなどへの参画体験が含まれる。教室や研究室で学習や研究をするのではなく、実際に社会での直接的体験を通して、優れた社会人となるための自己認識、自己啓発の機会とすることを目的とする。受講希望者は、担当教員に問い合わせること。 ※受講希望者には、「実施計画書」の提出および面談を行い、計画を認めたらうえで実施する。
<b>授業の計画</b>
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>
<b>評価方法</b>
計画への取り組み、事後のプレゼンテーションや報告書などを総合評価する。
<b>テキスト</b>
使用しない。
<b>その他(受講上の注意)</b>
本科目の履修登録については、それぞれの担当教員がガイダンスなどを実施し、各プログラムの参加者をもって受講者とするため、通常の実績登録手続きを要しない。



フィールドワーク演習(国際交流)		<b>担当教員</b>	モーリス ルイス スプリチャル・ 加藤優子
<b>単 位</b>	<b>配当年次</b>	<b>開講形態</b>	<b>選択区分</b>
2 単位	1 年～4 年	演習	選択
<科目区分> 人間学部学部共通科目 修学基礎・フィールドワーク科目			

<b>サブ テーマ</b>	
学外でのフィールドワークを体験し、自己認識、自己啓発の機会とする	
<b>授業の到達目標</b>	
学外における自主的な活動や体験をとおして、通常の講義や演習で得られない視点や考察点を体得する。 本科目では、原則として、カリフォルニア州立大学フラトン校における「仁愛大学海外短期研修(2 週間プログラム)」への参画体験演習を行い、以後の学修・研究のための動機付けを得ること、また優れた社会人となるための自己認識、自己啓発の機会とすることを目的とする。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
自他の理解能力、コミュニケーション能力、計画実行能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
〔授業の形態・授業の計画〕 本プログラムは、原則として、カリフォルニア州立大学フラトン校における「仁愛大学海外短期研修(2 週間プログラム)」の参加者を受講者として実施する。受講者への事前授業を 10 回程度行い、夏期休暇中に 2 週間の短期留学を実施する。フラトン校見学、フラトン校語学学校 American Language Program(ALP)における語学研修、現地学生との交流、観光などの企画実施を含み、以後の学修・研究のための動機付けを得ることを目指す。 なお、個人参加の海外留学および国内における外国人との国際交流などの企画体験等も対象とする場合があるので、受講希望者は、担当教員に問い合わせること。	
<b>授業の計画</b>	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
<b>評価方法</b>	
事前ガイダンスへの取り組み、現地評価、事後のプレゼンテーションや課題レポートなどを総合評価する。	
<b>テキスト</b>	
ALP より指示がある。	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
仁愛大学海外短期研修の最小催行人数は 6 名とする。よって受講生が少ない場合、非開講とすることがある。本科目の履修登録については、それぞれの担当教員がガイダンスなどを実施し、各プログラムの参加者をもって受講者とするため、通常の実務登録手続きを要しない。	

学校臨床心理学		担当教員	ひろ さわ あい こ 廣 澤 愛 子
単 位	配当年次	開講形態	選択区分
2 単位	4 年前期	講義	選択
〈科目区分〉 人間学部心理学科専門科目 応用科目 臨床系			

<b>サブ テーマ</b>	
学校現場における臨床心理学的支援の意義を考える。	
<b>授業の到達目標</b>	
学校現場において臨床心理学的支援を効果的に行うために必要な、①専門的知識の習得、②他職種とのコミュニケーションの在り方、③効果的に職務を果たすための計画性や課題設定の在り方、などを身に着ける。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
コミュニケーション能力・社会・職業理解能力・計画実行能力・課題解決能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
講義、小グループでのディスカッション、グループ単位でのプレゼンテーション、を行う。	
<b>授業の計画</b>	
第1回： 臨床心理学とは一理論的背景— 第2回： 学校臨床心理学とは一理論的背景— 第3回： 学校における臨床心理学的支援の実際その1—事例①を通して— 第4回： 事例①に関するグループディスカッション 第5回： 学校における臨床心理学的支援の実際その2—事例②を通して— 第6回： 事例②に関するグループディスカッション 第7回： グループごとのプレゼンテーション① 第8回： グループごとのプレゼンテーション② 第9回： 学校現場における支援の多様性—学校の現状と課題— 第10回： スクールカウンセラーの役割その1—事例③を通して— 第11回： 事例③に関するグループディスカッション 第12回： スクールカウンセラーの役割その2—事例④を通して— 第13回： 事例④に関するグループディスカッション 第14回： グループごとのプレゼンテーション③ 第15回： グループごとのプレゼンテーション④	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
予習・復習については、授業時に指示する。主に関連する文献・図書を指定するので読んでおくこと。質問・相談はメール(nisimura@jindai.ac.jp)にて受け付ける。 参考書は適宜、紹介する。	
<b>評価方法</b>	
グループディスカッション(30%)、プレゼンテーション(30%)、レポート(40%)	
<b>テキスト</b>	
テキストは使用せず、適宜、授業の中で紹介するか、講師がレジュメを配布する。	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
欠席をする際は、必ず事前に連絡すること。	

障 害 者 心 理 学		担当教員	みず た とし ろう 水 田 敏 郎
単 位	配当年次	開講形態	選択区分
2 単位	4 年前期	講義	選択
＜科目区分＞ 人間学部心理学科専門科目 応用科目 行動・支援系			

<b>サブ テーマ</b>	
知的障害者の心理学	
<b>授業の到達目標</b>	
発達障害のなかでも知的障害を中心に、その状態像に心理学的にアプローチする。人間の心的活動を、入力系、情報処理系、出力系に分けて個々にその機能と障害について解説する。さらに、知的発達や運動機能などについて、評価や指導の実際について紹介する。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
自他の理解能力、社会・職業理解能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
講義を中心とするが、障害像の理解や療育的かかわりなどの具体的イメージをつかむために、VTR を使用する。	
<b>授業の計画</b>	
第 1 回： ガイダンス 第 2 回： 知的障害の概要と定義 第 3 回： 知的障害のアセスメント① 第 4 回： 知的障害のアセスメント② 第 5 回： 感覚の発達と障害 第 6 回： 知覚の発達と障害① 第 7 回： 知覚の発達と障害② 第 8 回： 学習の発達と障害 第 9 回： 言語の発達と障害① 第 10 回： 言語の発達と障害② 第 11 回： 運動の発達と障害① 第 12 回： 運動の発達と障害② 第 13 回： 知的障害以外の発達障害 第 14 回： 障害と支援 第 15 回： まとめ 第 16 回： 定期試験	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
予習として、先に配布する資料の関連項目に目を通して頂くこと。また復習としては、各自のノートに授業内容をまとめておくこと。	
<b>評価方法</b>	
出席と定期テストによる総合評価。	
<b>テキスト</b>	
講義資料は適宜配布する	
<b>その他(受講上の注意)</b>	

社会福祉概論		担当教員	もとむらたえこ 元村 妙子
単 位	配当年次	開講形態	選択区分
2 単位	4 年前期	講義	選択
＜科目区分＞ 人間学部心理学科専門科目 応用科目 産業・社会系			

<b>サブ テーマ</b>	
社会福祉・社会保障の理念とその取り組みについて考える	
<b>授業の到達目標</b>	
社会福祉および社会保障は、現代社会において医療・教育とともに、人々のよりよい生活の実現に必要なものといえる。本講義では、福祉の理念とあゆみ、現在の動向も含めて仕組みと方法を解説し、社会福祉および社会保障の基礎的理解を深めることを目的とする。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
情報収集・探索能力、社会・職業理解能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
テキストを使用し、講義を主体とする。	
<b>授業の計画</b>	
第1回： オリエンテーション 福祉のことばを考える、学習の仕方の説明等	
第2回： 私たちのくらしと社会福祉・社会保障	
第3回： 社会福祉の原理と思想	
第4回： 福祉のあゆみ(1)	
第5回： 福祉のあゆみ(2)	
第6回： 社会福祉の成立と現代社会	
第7回： 日本の社会保障(1) 医療保険	
第8回： 日本の社会保障(2) 年金・労働保険	
第9回： 日本の社会保障(3) 介護保険・公的扶助・社会手当	
第10回： ソーシャルワークの理念と専門技術	
第11回： 社会福祉の援助方法と社会資源	
第12回： 高齢者に対する制度と施設・サービス	
第13回： 障がい者に対する制度と施設・サービス	
第14回： 子どもに対する制度と施設・サービス	
第15回： 世界の社会福祉の動向、まとめ	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
事前にテキストをよく読み授業に臨んでほしい。 参考図書等は、授業で適宜紹介する。	
<b>評価方法</b>	
授業中の意欲および小レポート 40%	
課題レポート 60%	
<b>テキスト</b>	
『社会福祉概論』 基礎からの社会福祉編集委員会編 ミネルヴァ書房 2005年	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
授業の進行順が変更になることもある 新聞、メディア等をとおして、日々変化する社会福祉の政策の動向、取り組みにも関心を持ってほしい。	

心理学特別演習Ⅱ		担当教員	赤澤・荒川・大森・杉島・西村・早川・水田・三脇・吉田・水上・森・山本・片畑・鎌田・久保	
単位	配当年次	開講形態	選択区分	
4単位	4年通年	演習	必修	
＜科目区分＞ 人間学部心理学科専門科目 応用科目 特別演習・卒業研究				

<b>サブテーマ</b>	
卒業研究につなげる	
<b>授業の到達目標</b>	
専門的知識をふまえて卒業研究を計画し、その意義を明確にする。また、成果をまとめることを学ぶ。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
自他の理解能力、コミュニケーション能力、情報収集・探索能力、社会・職業理解能力、役割把握・認識能力、計画実行能力、選択能力、課題解決能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
文献研究や研究発表、ディスカッションなど、さまざまな形式が含まれる。	
<b>授業の計画</b>	
第1回： 第2回： 第3回： 第4回： 第5回： 第6回： 第7回： 第8回： 第9回： 第10回： 第11回： 第12回： 第13回： 第14回： 第15回：	各ゼミの進め方に沿って 取り組んでいく
第16回： 第17回： 第18回： 第19回： 第20回： 第21回： 第22回： 第23回： 第24回： 第25回： 第26回： 第27回： 第28回： 第29回： 第30回：	各ゼミの進め方に沿って 取り組んでいく
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
授業時に適宜紹介される。	
<b>評価方法</b>	
出席および演習への参加状況やその内容などによる総合評価	
<b>テキスト</b>	
担当教員から指示される。	
<b>その他(受講上の注意)</b>	

卒業研究		担当教員	赤澤・荒川・大森・杉島・西村・早川・水田・三脇・吉田・水上・森・山本・片畑・鎌田・久保	
単位	配当年次	開講形態	選択区分	
6単位	4年通年	演習	必修	
＜科目区分＞ 人間学部心理学科専門科目 応用科目 特別演習・卒業研究				

<b>サブテーマ</b>	
研究を行って論文にまとめる	
<b>授業の到達目標</b>	
研究テーマを決め、担当教員の指導を受けながら、研究を進めて卒業論文を仕上げる。4年間の総まとめとして、全力で取り組む。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
自他の理解能力、コミュニケーション能力、情報収集・探索能力、社会・職業理解能力、役割把握・認識能力、計画実行能力、選択能力、課題解決能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
個別指導やゼミ形式など、指導形態は、担当教員によって異なる。	
<b>授業の計画</b>	
担当教員の指導に従って取り組んでいく	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
担当教員から適宜紹介される。	
<b>評価方法</b>	
卒業論文および口頭試問をもって行われる審査	
<b>テキスト</b>	
担当教員から指示される。	
<b>その他(受講上の注意)</b>	

デザイン運用論		担当教員	ふた ぐち せい いち ろう 二 口 誠 一 郎
単 位	配当年次	開講形態	選択区分
2 単位	4 年前期	演習	選択
〈科目区分〉 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 企画・表現系			

<b>サブ テーマ</b>	
これからの日本の企業や社会に求められるプロデュース力の基礎資質の養成	
<b>授業の到達目標</b>	
現在日本の企業や社会では、独自技術やアイデアを創出しイノベーションを誘発するブランド力・デザイン力の強化と、それを戦略的に運用するプロデュース力が重要な課題です。本講座は自己能力を活かしたプロデュース力で社会や地域に貢献するために必要な視点や考え方を身近なテーマや事例に基づき学習します。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
コミュニケーション能力、情報収集・探索能力、社会・職業理解能力、計画実行能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
事例(事例研究や企業訪問)をもとに、ディスカッションを中心に進行します。	
<b>授業の計画</b>	
第1回: 講座ガイダンス 「時代が求めるプロデュース能力とは」	
第2回: カワイイを考える 「カワイイとキレイの違いとは・・・」	
第3回: カッコいいを考える 「カッコいいものやカッコいい事とは・・・」	
第4回: 便利を考える 「便利なことと不便なことの功罪とは・・・」	
第5回: 仕事を考える 「仕事に就き働く意味とは・・・」	
第6回: 結婚を考える 「結婚しパートナーを得、家族をつくるとは・・・」	
第7回: 人生を考える 「30年後の自分を考える・・・」	
第8回: 暮らしを考える 「地域と自分の生き方や関わり方」	
第9回: ワークショップ 地域とこれからの暮らしや仕事のあり方を話そう	
第10回: 夢人生ピラミッド設計ガイダンス	
第11回: 夢人生航海図 設計演習1 「基礎レベル設計」	
第12回: 夢人生航海図 設計演習2 「実現レベル設計」	
第13回: 夢人生航海図 設計演習3 「結果レベル設計」	
第14回: 夢人生航海図 プレゼンテーションと講評	
第15回: 夢人生航海図 プレゼンテーションと講評	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
雑誌や書籍、インターネットで安易な情報に頼るのではなく、自分自身が自己能力や自分自身の本音に向き合い、自分で考え自らの言葉で語り、それを仲間と語り合い、知恵を出し合い課題を発見し、その解決方法を考え、その課題解決のための行動のスケジュール管理を学ぶことが、プロデュースの資質育成のための基本です。講座では全員が必ず意見や考えを述べることを事業の基本方針とするため、受講前に講義テーマに対する自分自身の考えを整理して事業に臨んで下さい。	
<b>評価方法</b>	
講義テーマに対する自己意見のオリジナル性、課題・講義の理解度と発表内容提出等の総合評価	
<b>テキスト</b>	
都度発表	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
自己の資質を高め、人生に挑戦したいという熱意のある学生の参加を期待します。	

英語学研究Ⅱ（談話分析）		担当教員	やはしちえ 矢橋知枝
単位	配当年次	開講形態	選択区分
2単位	3年前期・4年前期	講義	選択
＜科目区分＞ 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 英語コミュニケーション系			

<b>サブテマ</b>	
英語における談話分析	
<b>授業の到達目標</b>	
英語の構造を談話分析的手法を用いて理解する。ひいては自らの談話形成能力の向上、すなわちコミュニケーション能力の向上につながることを期待する。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
自他の理解能力、コミュニケーション能力、情報収集・探索能力、役割把握・認識能力、計画実行能力、選択能力、課題解決能力	
<b>授業の概要（形態）</b>	
講義および演習	
<b>授業の計画</b>	
第1回：オリエンテーション 第2回：談話分析入門① 第3回：談話分析入門② 第4回：談話分析入門③ 第5回：談話分析入門④ 第6回：会話分析① 第7回：会話分析② 第8回：会話分析③ 第9回：会話分析④ 第10回：テキスト分析① 第11回：テキスト分析② 第12回：テキスト分析③ 第13回：テキスト分析④ 第14回：文学的談話分析① 第15回：文学的談話分析②	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
マルコム・クルタード(吉村昭市他訳)『談話分析を学ぶ人の為に』(世界思想社・1999)および 仁愛大学コミュニケーション学科編『コミュニケーションをデザインする』(行路社・2003)	
<b>評価方法</b>	
定期レポート50%、小レポート・授業発表・授業貢献35%、出席率15%	
<b>テキスト</b>	
テキストは使用せず、適宜ハンドアウトを配布する。	
<b>その他（受講上の注意）</b>	
出席・授業への貢献とともに、授業外での予習・復習を重視する。また、遅刻3回で欠席1回分とみなす。	



英米文学研究 b		担当教員	はら ぐち おさむ 原 口 治
単 位	配当年次	開講形態	選択区分
2 単位	4 年前期	講義	選択
〈科目区分〉 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 英語コミュニケーション系			

<b>サブ テーマ</b>	
イギリス文学および文化の研究——「イギリスらしさ」の概念について考える	
<b>授業の到達目標</b>	
文学作品における登場人物等の研究を通して、自他の個性の多様性を理解する。また、この理解力をもとに、多様な集団・組織の中でのコミュニケーション能力の育成を目指す。さらに、課題作成や定期試験により、様々な情報の収集および選択能力の養成を図る。以上のプロセスにより、一定の自己成長を果たしていくことを本講義の到達目標とする。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
自他の理解能力、コミュニケーション能力、情報収集・探索能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
イギリス文学の著名な作品の原典(抜粋)を精読することで、英語文学の鑑賞を行なう。また、作品の政治、文化的背景等の知識を深めることで、イギリス文学および文化研究の基礎的能力を育成する。なお、DVD や VTR 等の視聴覚、音声教材等も出来る限り利用します。	
<b>授業の計画</b>	
第 1 回: テキストP1～P29 オリエンテーション・「古英語時代」—『ハリー・ポッター』や『ロード・オブ・ザ・リング』の源 第 2 回: テキストP1～P29 「中英語時代」—『カンタベリー物語』 第 3 回: テキストP217～P240 『嵐が丘』(ブロンテ)—風景のイギリス文学 第 4 回: テキストP217～P240 『自負と偏見』(オースティン)—19 世紀地主階級の結婚(≠恋愛)事情 第 5 回: テキストP95～P138 『欽定英訳聖書』—英語の中の英語 第 6 回: テキストP74～P94 『ハムレット』(シェイクスピア)—ロンドン演劇事情 第 7 回: テキストP195～P216 ワーズワス, キーツ—ロマン派詩人たちの生き様 第 8 回: テキストP161～P188 『幸福な王子』(ワイルド)—退廃と破滅の妖しい美学 第 9 回: テキストP161～P188 『クリスマス・キャロル』(ディキンズ)—ヴィクトリア朝ロンドンの光と影 第 10 回: テキストP270～P292 『ダロウェイ夫人』(ウルフ)—20 世紀初頭のロンドンが持つモダニティの魅力 第 11 回: テキストP270～P292 『虹』(ロレンス)—産業革命と人間性 第 12 回: テキストP270～P292 フォースター—戦間期のイギリス人像 第 13 回: テキストP258～P269 エリオット—20 世紀イギリス文学のモダニズム 第 14 回: テキストP293～P308 イギリス文学における「イギリスらしさ」とは何か—ケンブリッジ大学の講義を手掛りに 第 15 回: テキストP1～P343 本講義のまとめ 第 16 回: 定期試験	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
予習として、上記の「授業の計画」で指定したテキストの範囲を読み、あらかじめ疑問点等を各自のノートにまとめておくこと。また、復習としては、課題作成と定期試験準備に重点を置いて、各自のノートに講義内容をまとめておくこと。	
<b>評価方法</b>	
定期試験 55% 課題(計3回) 45(1課題につき15%)% 講義欠席は1回につき 10%の減点 講義遅刻は1回につき 5%の減点 以上を総合的に評価し、60%以上の評価の場合に限り、本講義履修単位の習得とする。	
<b>テキスト</b>	
秋篠 憲一(他)・『イギリス文学への招待』・朝日出版社・1999年	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
本講義の詳細(講義形態や評価方法等)は講義内に、改めて説明します。	

ビジネス英語研究 b		担当教員	さわ ざき とし ふみ 澤 崎 敏 文
単 位	配当年次	開講形態	選択区分
2 単位	4 年前期	講義	選択
〈科目区分〉 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 英語コミュニケーション系			

<b>サブ テーマ</b>	
Business Interactions / Doing Business in English	
<b>授業の到達目標</b>	
英語は、それを母国語とする国々だけでなく、国際的なビジネス共通語として欠かせない言語となっている。ビジネスにおける世界共通語としての英語を、英語 I、英語 II で学習してきた四技能を活用し、マーケティング、プレゼンテーション、ネゴシエーション等ビジネスの基礎を英語を通して学習することで、実践的なビジネス英語の基礎を学ぶことを目標とする。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
自他の理解能力、コミュニケーション能力、情報収集・探索能力、社会・職業理解能力、課題解決能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
ペア、グループなど多様な学習形態を取り入れて、ビジネス(経営、SWOT 分析、Positioning 分析、Marketing Mix 等のマーケティング)について英語で学ぶスタイルをとる。LMS やインターネット等を授業教材として活用し、学生主体の活動を中心に行う。	
<b>授業の計画</b>	
第 1 回: Introduction / Business English 第 2 回: Business Case 1: Analysis and discussion 第 3 回: Business Case 1: Value Chain / Basic of Accounting 第 4 回: Business Case 1: Short presentation 第 5 回: Business Case 2: Analysis and discussion 第 6 回: Business Case 2: Marketing Mix and Product Portfolio Management 第 7 回: Business Case 2: Short presentation 第 8 回: Review / Skills for Negotiation 第 9 回: Business Case 3: Analysis and discussion 第 10 回: Business Case 3: Strategy for a new emerging market 第 11 回: Business Case 3: Short presentation 第 12 回: Review / Skills for Negotiation 第 13 回: Discussion for Business Presentation 第 14 回: Business Presentation 1 第 15 回: Business Presentation 2	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
必要に応じて授業内で指示します。	
<b>評価方法</b>	
授業への積極的参加および授業毎の発表内容 20% レポートおよび小テスト等の課題 50% 最終発表 30%	
<b>テキスト</b>	
『Moving ahead in the 21st Century: 12 Forward-looking Companies』 松柏社 2009 年	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
初回の授業時に、詳細なシラバスの配布、授業計画の説明を行う予定。 4 年生対象。受講にあたり、「ビジネス英語研究 a」を受講している方が望ましいが、必須ではない。	

現代社会特論 I		担当教員	やぎ ひでお 八木 秀夫
単位	配当年次	開講形態	選択区分
2単位	4年前期	講義	選択
〈科目区分〉 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 現代社会系			

<b>サブテマ</b>	
世代と現代社会	
<b>授業の到達目標</b>	
<p>日本社会は、戦後の社会変革によって権威主義・軍国主義的国家から民主的平和国家に大きく変化した。その後全く異なる国家理念のもとで育った人たちが共存するという状態が長く続いてきた。急速な経済的発展のもとで、経済的社会的環境が全く異なる状況で育った人たちが共存してきた。さらには、現在、グローバル化と情報化社会の中で、それまでとは違った経済的社会的状況が生まれてきている。様々な経済的社会的文化的状況の中で育った世代が共存しているのが現代の状況である。戦後から現代における世代を研究することで、現代社会の特徴や問題点を探り、より客観的な社会認識を養うのがこの授業の目標である。</p>	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
自他の理解能力、社会・職業理解能力、役割把握・認識能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
講義形式で行うが、途中講義の理解度をチェックするために小試験やレポートを課す場合がある。	
<b>授業の計画</b>	
第1回： 世代論の特徴 第2回： 日本社会と世代論 第3回： 日本の戦前と戦後 敗戦と米国文化 第4回： 日本の戦前と戦後 戦後改革 第5回： 日本の戦前と戦後 家族システム変化 第6回： 日本の戦前と戦後 企業システムの変化 第7回： 米国の世代 GI ジェネレーション、サイレントジェネレーション 第8回： 米国の世代 ブーマー 第9回： 米国の世代 ジェネレーション X、 第10回： 米国の世代、ジェネレーション Y 第11回： 日本の世代 明治・大正・昭和ひとけた 第12回： 日本の世代 ベビーブーマー 第13回： 日本の世代 「新人類」 第14回： 日本の世代 デジタル世代 第15回： おわりに	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
参考図書は授業中に紹介する。なお、授業中に配布するプリントを読んでおくこと。	
<b>評価方法</b>	
出席と複数回のレポート	
<b>テキスト</b>	
使用しない	
<b>その他(受講上の注意)</b>	

現代社会特論Ⅱ		担当教員	しま おか はじめ 島 岡 哉
単 位	配当年次	開講形態	選択区分
2 単位	4 年後期	講義	選択
〈科目区分〉 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 現代社会系			

<b>サブ テーマ</b>	
論文作成のための実践的論理学	
<b>授業の到達目標</b>	
本学科の卒業論文執筆をにらみ、現代社会を分析、考察、記述するための論理的表現及び論理的思考力を、さまざまな事例をもとに検証する実践的な論理学講義である。論文作成の際には、着想は面白いがそれをどのように論証し、表現し、検証するのにかについては、教員の私でも常に悩む点である。そこで、多様な領域の論文(先行研究)を読み解きながら現代社会分析を深めるとともに、論文の構成にかかわる表現、論理、分析、データ解析の方法を、論理学に基づきながら学ぶ。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
役割把握・認識能力、計画実行能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
各回の講義において、論文を用い、論理の理解を確認する。次に、事例への適用を確かめる。これらは、リアクション・ペーパーを用いて講義中に実践的に行う。	
<b>授業の計画</b>	
第1回： 主体、客体、対象化 第2回： 目的と手段、因果関係 第3回： 上位一下位概念、価値判断排除 第4回： 意識と無意識、部分と全体 第5回： 接続関係と構造 第6回： 議論の組み立て 第7回： 論証の構造と評価 第8回： 演繹と推測、価値評価 第9回： 否定、条件構造 第10回： 推論の技術、包含関係 第11回： 論証構造及び表現のチェック 第12回： 先行研究の論理と自説の展開の整合性のチェック 第13回： 批判的に読む①——卒業論文口頭試問に向けて 第14回： 批判的に読む①——卒業論文口頭試問に向けて 第15回： 論理的思考を日常生活に生かすには——社会人としての第1歩を踏み出すにあたって	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
常に論文への応用を考えること。講義内容の復習→論文への応用可能性の検討→講義→さらに論文への応用可能性の検討。この作業の繰り返しにより、良質な論文を執筆できることを期待する。	
<b>評価方法</b>	
授業中に求めるリアクション・ペーパー60%、学期末レポート40%。	
<b>テキスト</b>	
なし。参考図書等は授業中に指示する。	
<b>その他(受講上の注意)</b>	

コミュニケーション特別演習Ⅱa		担当教員	金田・スプリチャル・八木・大河・ 加藤・小林(大)・四戸・島岡・ 矢橋・山田・山中・船山	
単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
2 単位	4 年前期	演習	必修	
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 特別演習・卒業研究				

<b>サブテーマ</b>	
卒業研究セミナー	
<b>授業の到達目標</b>	
コミュニケーション特別演習Ⅰにおける学習に基づき、各自が関心を持つテーマについて研究課題を設定し、研究計画を立て、研究を進める。研究課題はコミュニケーションについての理論的研究、実証的研究、開発的研究に関するものとする。この演習を通してコミュニケーションに関する研究方法を習得すると同時に、卒業研究へとつなげていく。以上の研究は、ゼミによりグループによるコラボレーションでもよいこととする。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
自他の理解能力、コミュニケーション能力、情報収集・探索能力、社会・職業理解能力、役割把握・認識能力、計画実行能力、選択能力、課題解決能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
指導教員の指導を受けながら、原則として学生が主体的に進める。研究の進捗状況を報告し、互いに批判・検討し合う。授業は原則として毎週決められた時間帯に行うが、随時、まとまった時間をとって集中的に行うこともある。	
<b>授業の計画</b>	
第1回： 第2回： 第3回： 第4回： 第5回： 第6回： 第7回： 第8回： 第9回： 第10回： 第11回： 第12回： 第13回： 第14回： 第15回：	年度当初に指導教員と協議の上、具体的な計画を立てる。
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
授業時に指示する	
<b>評価方法</b>	
研究への取り組み、グループ研究への貢献度、授業参加の状況、課題・提出物の出来具合などを総合して評価する	
<b>テキスト</b>	
指導教員と協議の上、決定する	
<b>その他(受講上の注意)</b>	

コミュニケーション特別演習Ⅱb		担当教員	金田・スプリチャル・八木・大河・ 加藤・小林(大)・四戸・島岡・ 矢橋・山田・山中・船山	
単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
2 単位	4 年後期	演習	必修	
＜科目区分＞ 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 特別演習・卒業研究				

<b>サブテーマ</b>	
卒業研究セミナー	
<b>授業の到達目標</b>	
コミュニケーション特別演習Ⅱaに引き続き、各自が設定した研究課題に関する研究を進める。研究課題はコミュニケーションについての理論的研究、実証的研究、開発的研究に関するものとする。この演習を通してコミュニケーションに関する研究方法を習得すると同時に、卒業研究へとつなげていく。以上の研究は、ゼミによりグループによるコラボレーションでもよいこととする。	
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>	
自他の理解能力、コミュニケーション能力、情報収集・探索能力、社会・職業理解能力、役割把握・認識能力、計画実行能力、選択能力、課題解決能力	
<b>授業の概要(形態)</b>	
指導教員の指導を受けながら、原則として学生が主体的に進める。研究の進捗状況を報告し、互いに批判・検討し合う。授業は原則として毎週決められた時間帯に行うが、随時、まとまった時間をとって集中的に行うこともある。	
<b>授業の計画</b>	
第1回： 第2回： 第3回： 第4回： 第5回： 第6回： 第7回： 第8回： 第9回： 第10回： 第11回： 第12回： 第13回： 第14回： 第15回：	学期当初に指導教員と協議の上、具体的な計画を立てる
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
授業時に指示する	
<b>評価方法</b>	
研究への取り組み、グループ研究への貢献度、授業参加の状況、課題・提出物の出来具合などを総合して評価する	
<b>テキスト</b>	
指導教員と協議の上、決定する	
<b>その他(受講上の注意)</b>	

卒業研究		担当教員	金田・スプリチャル・八木・大河・ 加藤・小林(大)・四戸・島岡・ 矢橋・山田・山中・船山
単位	配当年次	開講形態	選択区分
6単位	4年通年	演習	必修
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 特別演習・卒業研究			

<b>サブテーマ</b>
学生各自ないしグループごとに決めたテーマについて研究する。
<b>授業の到達目標</b>
3年生までにおける学修・研究の成果を踏まえ、4年時の当初に指導教員と協議の上、研究課題を選ぶ。課題はコミュニケーションについての理論的研究、実証的研究、開発的研究に関するものとする。コミュニケーション特別演習Ⅱなどを通して指導を受けながら研究を進め、指定の期日までに論文、企画書あるいは報告書を伴った作品、のいずれか提出する。以上の研究はゼミにより、グループによるコラボレーションでもよいこととする。ただし、研究成果については個人で取り組んだものを各自提出する。
<b>身につけることを目指す社会的・職業的能力</b>
自他の理解能力、コミュニケーション能力、情報収集・探索能力、社会・職業理解能力、役割把握・認識能力、計画実行能力、選択能力、課題解決能力
<b>授業の概要(形態)</b>
学生の主体的な活動であり、原則として定期的な授業は行わない。
<b>授業の計画</b>
年度当初に指導教員と協議の上、具体的な研究計画を立てる。随時進捗状況を報告し指導を受ける。なお、平成24年度における日程(予定)は以下の通り。  <ul style="list-style-type: none"> <li>・5月下旬「テーマ(題目)」および「研究計画」提出</li> <li>・12月下旬「論文・成果物(作品など)」提出</li> <li>・1月下旬「発表会または口頭試問」による審査</li> </ul>
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>
担当教員から適宜紹介される。
<b>評価方法</b>
規定に従って論文・作品の審査及び口頭試問を受ける。
<b>テキスト</b>
担当教員から適宜紹介される。
<b>その他(受講上の注意)</b>

## V. 特設科目

<教職に関する専門科目>

<日本語教員育成に関する科目>



教 職 論		担当教員	たかのひではる 高野秀晴
単 位	配当年次	開講形態	選択区分
2 単位	2 年前期	講義	選択
〈科目区分〉 人間学部特設科目 教職に関する専門科目			

### サブ テーマ

1、良い教師とは？ 2、教員を取り巻く制度について。

### 授業の到達目標

この授業の目標は三つある。一つ目は、教員とは、どのような役割を期待され、どのような環境で、どのような仕事をしているのかについて、主に法的、制度的な見地から理解を深めることである。二つ目は、今日、教員に期待される役割が、いかなる歴史の変遷を経て求められるようになったのかを概観することにより、現代における教職の社会的意義に対する自覚を深めることである。三つ目は、如上の理解と自覚をふまえ、受講生各自がよりよい教員になるためには、今、何をすべきかを全員で議論することにより、教職を目指す各自が、自身を反省的にとらえ直そうとする姿勢を身につけることである。

### 授業の概要(形態)

講義を主とするが、意見を書いてもらう機会やディスカッションの機会をできる限り取り入れる。

### 授業の計画

- 第 1 回： オリエンテーション
- 第 2 回： 教師はどのような仕事をしているのか
- 第 9 回： よい教師とはどのような教師なのか
- 第 4 回： 教師像の諸相—聖職者、労働者、専門家—
- 第 5 回： 教師の権力と権威
- 第 6 回： 教師の愛と暴力
- 第 7 回： どうすればよい教師になれるのか
- 第 8 回： 教員養成制度について
- 第 9 回： 教員養成の歴史
- 第 10 回： 教員に求められる専門性とは何か
- 第 11 回： 教員を取り巻く法律、制度(1)—身分について—
- 第 12 回： 教員を取り巻く法律、制度(2)—サービスについて—
- 第 13 回： 教員を取り巻く法律、制度(3)—任用について—
- 第 14 回： 教員を取り巻く法律、制度(4)—研修について—
- 第 15 回： まとめ
- 第 16 回： 定期試験

### 授業の予習復習のアドバイス・参考図書

「教職課程は何のためにあるのか？」という問いを常に抱きながら受講してもらえればと思います。  
参考図書は授業時に紹介します。

### 評価方法

試験 70% (授業の理解度を評価するとともに、論述形式問題において自分の意見を論理的かつ説得的に構成できているかどうかを評価する。)

平常点 30% (出席状況、および授業時の課題への取り組みをもとに評価する。)

### テキスト

プリントを配布する。

### その他(受講上の注意)

教育原理		担当教員	たかのひではる 高野秀晴
単位	配当年次	開講形態	選択区分
2単位	1年後期	講義	選択
〈科目区分〉 人間学部特設科目 教職に関する専門科目			

<b>サブテーマ</b>	
学校の歴史	
<b>授業の到達目標</b>	
教育の意義と目的、基礎的概念、歴史、制度、実践など、教育に関わる基礎的な事項について解説する。授業では、とりわけ歴史的視点を重視し、現代学校教育の成り立ちと変遷を理解することにより、受講生各自が教育についてより広い視点から考えていけるようになることを目指す。また、意見をまとめる時間、交換する時間を随時設けることにより、教育に関して批判的に思考する力を身につけることを目指す。	
<b>授業の概要(形態)</b>	
講義を主とするが、意見を書いてもらう機会やディスカッションの機会をできる限り取り入れる。	
<b>授業の計画</b>	
第1回： オリエンテーション 第2回： 先史時代の教育 第3回： 学校の起源 第4回： 日本における塾と学校の歴史 第5回： 日本における義務教育制度成立史 第6回： 資本主義と学校教育 第7回： 現代日本の義務教育制度 第8回： ヨーロッパにおける学校の歴史 第9回： すべての者に教育を コメニウスについて 第10回： 啓蒙と教育 第11回： 子どもの発見 ルソーについて 第12回： 自律という問題 ペスタロッチ、カント、ヘルバルトについて 第13回： 一斉教授成立史 モントリアル・システムについて 第14回： 教育における自由とは何か デューイについて 第15回： まとめ 第16回： 定期試験	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
授業時に紹介する参考文献を最低1冊は読破するつもりで臨んでいただければと思います。	
<b>評価方法</b>	
試験 70% (授業の理解度を評価するとともに、論述形式問題において自分の意見を論理的かつ説得的に構成できているかどうかを評価する。)	
平常点 30% (出席状況、および授業時の課題への取り組みをもとに評価する。)	
<b>テキスト</b>	
プリントを配布する。	
<b>その他(受講上の注意)</b>	

教育心理学		担当教員	おおのぎひろあき 大野木裕明
単位	配当年次	開講形態	選択区分
2単位	2年前期	講義	選択
＜科目区分＞ 人間学部特設科目 教職に関する専門科目			

## サブテマ

栄養教諭(健康栄養学科対象)と中・高校教諭(コミュニケーション学科対象)の教員免許取得に関する科目

## 授業の到達目標

教職科目としての教育心理学。学校教員としての立場から、子どもたちの発達と学習のみちすじ、学習指導法の原理と具体的な指導法、さらには近年の重要な諸問題について、教育心理学的な視点からの現状把握を行う。専門的知識の学修と諸問題に対する深い理解を目指す。大きくは、発達の心理、学習の理解と指導法、生徒理解と生徒指導の諸方法、教育相談の基礎となる知識等について扱う。

## 授業の概要(形態)

テキストに従って講義形式で行う。2回程度の小テストとレポート、3回の特論的な講義を含む。

## 授業の計画

- 第1回： 全体の授業計画と成績評価の説明、教育心理学の歴史(1)
- 第2回： 教育心理学の歴史(2)
- 第3回： 第1章 生涯発達の心理と方法
- 第4回： 第2章 発達の障害
- 第5回： 第3章 記憶・知能の理解
- 第6回： 第4章 学習指導と評価
- 第7回： ここまでの進度調整、および児童期以降の学力・知能研究の概説
- 第8回： 第5章 生徒理解
- 第9回： 第6章 生徒指導
- 第10回： 第7章 教育相談
- 第11回： 第8章 発達と教育の支援
- 第12回： 進度調整、および「特別活動」指導法の概説
- 第13回： 教育測定・教育表裏と指導要録
- 第14回： 教育心理学の研究法(1)
- 第15回： 教育心理学の研究法(2)

## 授業の予習復習のアドバイス・参考図書

参考書類は授業の中でその都度紹介する。

## 評価方法

授業期間中に指示する2本のレポート(20点×2本=40点)、小テスト(25点×2回=50点)、授業への積極的参加度10点の合計100点。

## テキスト

『ガイドライン 発達学習・教育相談・生徒指導』、二宮克美ほか(編)、ナカニシヤ出版、2007年。  
ISBN978-4-7795-01845

## その他(受講上の注意)

正確に専門用語を学習することと、ある教育的テーマについての多様な見解と自分なりの見識を総合的に構築することとを意識的に区別して学修すること。

教育経営論		担当教員	おく たに たかし 奥 谷 崇
単 位	配当年次	開講形態	選択区分
2 単位	3 年前期	講義	選択
＜科目区分＞ 人間学部特設科目 教職に関する専門科目			

### サブ テーマ

学級崩壊・いじめ・不登校・校内暴力など教育上の諸課題の解決を図る実践的な教育経営論を身につける。

### 授業の到達目標

教育が担う役割と責任の重さを、我が国における教育が過去どのように教育的課題を克服し、それぞれの時代をどのように築いてきたか、各々の様々な教育的課題を振り返り、現在の我が国の教育における諸課題について認識を深め、正しい教育経営論を身に付けることができるようにする。

### 授業の概要(形態)

授業課題を設定し、課題解決への意見交換・質疑応答・議論を通して共通理解を深め、さらなる疑問や課題を追究しながら授業を進めていく。

授業では小学校での社会科の授業を体験するイメージで、学生が各々自らの学習課題を設定し、お互いにどのように共同思考を深め、自己の考えや思いを深化し、課題を解決し、学び合う喜びを味わうことができる授業を展開していく。

### 授業の計画

- 第 1 回： 自分の追究課題を把握する。
- 第 2 回： わが国の教育の移り変わりと現在の課題(1) 時代の要請と教育の移り変わり
- 第 3 回： わが国の教育の移り変わりと現在の課題(2) 大日本帝国憲法下の教育と日本国憲法下の教育
- 第 4 回： わが国の教育の移り変わりと現在の課題(3) 現代の教育課題
- 第 5 回： 教育の理念と学習指導要領
- 第 6 回： 学校経営と学校の組織
- 第 7 回： 学級担任と学級経営と授業
- 第 8 回： 教師に求められるもの
- 第 9 回： 書く・読む・話す・聞くということ
- 第 10 回： 歩く・走る・泳ぐ・歌うということ
- 第 11 回： 現職教育と研究授業・研究発表会
- 第 12 回： 開かれた学校と学校評価
- 第 13 回： 学校教育と家庭教育と社会教育
- 第 14 回： 自己課題の解明と共通理解
- 第 15 回： まとめ

### 授業の予習復習のアドバイス・参考図書

- 参考書・参考資料等
- (1) 日本国憲法
  - (2) 教育基本法
- その他、適宜プリントを配付する。

### 評価方法

課題レポート、授業ワークシート、授業態度、出席状況等を総合的に判断して評価する。

### テキスト

「小学校学習指導要領解説(総則編)」文部科学省 東洋館出版社 2008 年

### その他(受講上の注意)

教育は先生と児童生徒、児童生徒同士の心と心が温かく触れ合い、心をついに努力し、共に育ち合い、熱い絆を育む感動的な営みである。お互いの良さを認め合い共に語り共に学ぶ。私語厳禁。

教育課程・特別活動論		担当教員	たかのひではる 高野秀晴
単 位	配当年次	開講形態	選択区分
2 単位	2 年後期	講義	選択
〈科目区分〉 人間学部特設科目 教職に関する専門科目			

## サブ テーマ

学習指導要領を読む。

## 授業の到達目標

教育課程とは、学習指導要領によって示される基準にもとづいて、各学校が編成する教育計画のことである。その計画には、各教科の授業計画だけではなく、教科外の活動(特別活動、総合的な学習の時間、など)の計画も含まれる。また、近年では、この計画をよりよいものにするべく、評価、改善していくプロセスも教育課程編成の一環とみなされつつある。以上をふまえて、この授業では、①学習指導要領について、②特別活動、総合的な学習の時間について、③様々な教育評価について、の三つのテーマを取り上げ、教育課程についての理解を深めることを目標とする。

## 授業の概要(形態)

主に講義形式で進めるが、必要に応じて、意見をまとめる機会も設ける。

## 授業の計画

- 第 1 回: オリエンテーション 教育課程とは何か
- 第 2 回: 学習指導要領とは何か
- 第 3 回: 学習指導要領を読む(1) 第一章「総則」前半
- 第 4 回: 学習指導要領を読む(2) 第一章「総則」後半
- 第 5 回: 学習指導要領の歴史の変遷(1) 1940 年代後半
- 第 6 回: 学習指導要領の歴史の変遷(2) 1950～60 年代
- 第 7 回: 学習指導要領の歴史の変遷(3) 1970～80 年代
- 第 8 回: 学習指導要領の歴史の変遷(4) 1990 年代以降
- 第 9 回: 学力とは何か
- 第 10 回: 教育評価について 何のための評価なのか
- 第 11 回: 学習指導要領を読む(3) 総合的な学習の時間、特別活動
- 第 12 回: 特別活動、総合的な学習の時間の意義と課題
- 第 13 回: 特別活動、総合的な学習の時間の実践例
- 第 14 回: 特別活動、総合的な学習の時間の評価について
- 第 15 回: まとめ
- 第 16 回: 定期試験

## 授業の予習復習のアドバイス・参考図書

学習指導要領を繰り返し読み直すようにしてください。

## 評価方法

定期試験 80%(授業の理解度を評価する。)  
平常点 20%(出席状況、および授業時の課題への取り組みをもとに評価する。)

## テキスト

プリントを配布する。

## その他(受講上の注意)

英語科教育法 I		担当教員	やま だ はる み 山 田 晴 美
単 位	配当年次	開講形態	選択区分
2 単位	2 年前期	講義	選択
<科目区分> 人間学部特設科目 教職に関する専門科目			

<b>サブ テ ー マ</b>	
Study of language acquisition theories and foreign language teaching methodologies	
<b>授業の到達目標</b>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. To study the purposes of English language teaching</li> <li>2. To study second language acquisition theories</li> <li>3. To study foreign language teaching methodologies and approaches</li> </ol>	
<b>授業の概要(形態)</b>	
There will be lectures and discussion. Students will be asked to speak about their own language learning experiences and express their opinions.	
<b>授業の計画</b>	
第 1 回: Introduction 第 2 回: Purposes of English Language Education 第 3 回: The Course of Study 第 4 回: The Components of Communication Abilities 1 第 5 回: The Components of Communication Abilities 2 第 6 回: Theories of Language Acquisition 1 第 7 回: Theories of Language Acquisition 2 第 8 回: Foreign Language Teaching Methodologies & Approaches 1 第 9 回: Foreign Language Teaching Methodologies & Approaches 2 第 10 回: Foreign Language Teaching Methodologies & Approaches 3 第 11 回: Autonomous learning 第 12 回: Psychological Aspects of Foreign Language Learning 第 13 回: Teaching Procedures 1 第 14 回: Teaching Procedures 2 第 15 回: Review	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Work on assignments seriously, so that you can think about and understand the issues involved in language acquisition and language learning more deeply.</li> <li>2. 参考図書:羽藤由美著『英語を学ぶ人・教える人のために』(世界思想社 2006)</li> </ol>	
<b>評価方法</b>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Classroom activities and assignments 40%</li> <li>2. Short tests 30%</li> <li>3. Report 30%</li> </ol>	
<b>テキスト</b>	
(1)『統一的英語科教育法』村野井仁他共著 成美堂 2012 年 (2)『改訂版英語教育用語辞典』白畑知彦他著 大修館書店 2011 年	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Attendance and active participation are very important.</li> <li>2. Students are expected to be highly motivated to study English and English teaching methodologies so that they can be good English teachers in the future.</li> </ol>	

英語科教育法Ⅱ		担当教員	やま だ はる み 山 田 晴 美
単 位	配当年次	開講形態	選択区分
2 単位	2 年後期	講義	選択
〈科目区分〉 人間学部特設科目 教職に関する専門科目			

<b>サブ テーマ</b>	
Studying how to teach, how to plan lessons, and how to develop as an English teacher	
<b>授業の到達目標</b>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. To learn how to plan lessons.</li> <li>2. To study about language assessment.</li> <li>3. To study about teacher development.</li> </ol>	
<b>授業の概要(形態)</b>	
There will be lectures and discussions. Students will develop language teaching materials and plan lessons based on the theories they learned in the English Teaching Methodology I.	
<b>授業の計画</b>	
第 1 回: Introduction 第 2 回: Teaching Plan 1 第 3 回: Teaching Plan 2 第 4 回: Teaching Plan 3 第 5 回: Teaching Plan 4 第 6 回: Assessment 1 第 7 回: Assessment 2 第 8 回: Assessment 3 第 9 回: Assessment 4 第 10 回: Foreign Language Activities in Elementary Schools 1 第 11 回: Foreign Language Activities in Elementary Schools 2 第 12 回: Cross-Cultural Education in English Classes 第 13 回: Teacher Training 第 14 回: Review 1 第 15 回: Review 2	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Work on assignments seriously, so that you can think about and understand the issues involved in language learning and teaching more deeply.</li> <li>2. 参考図書: 村野井仁 著 (2006).『第二言語習得研究から見た効果的な英語学習法・指導法』 大修館書店</li> </ol>	
<b>評価方法</b>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Classroom activities 30%</li> <li>2. Assignments and assessment essay 70%</li> </ol>	
<b>テキスト</b>	
(1)『統合的英語科教育法』 村野井仁 他 成美堂 2012 年 (2) "The Practice of English Language Teaching" Jeremy Harmer. Longman. 2007. (3)『改訂版英語教育用語辞典』 白畑知彦 他 大修館書店 2011 年	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Attendance and active participation are very important.</li> <li>2. Students are expected to be highly motivated to study English and English teaching methodologies so that they can be good English teachers in the future.</li> </ol>	

英語科教育法 III		担当教員	こん ど ひろ ゆき 紺 渡 弘 幸
単 位	配当年次	開講形態	選択区分
2 単位	3 年前期	講義	選択
＜科目区分＞ 人間学部特設科目 教職に関する専門科目			

### サブ テーマ

授業設計と教授スキルの習得

### 授業の到達目標

英語の授業を行う際によりどころとなる教授理論について理解を深めるとともに、具体的な指導事例の検討を通して効果的な指導法を学ぶ。さらに、個別に学習指導案を作成し、模擬授業を実施する機会を持つ。模擬授業の検討・評価を通して、実践的な指導力を身につけ、教育実習への準備とする。

### 授業の概要(形態)

講義形式を基本としながらも、模擬授業等の演習も取り入れて行う。

### 授業の計画

- 第 1 回： オリエンテーション、教育実習に臨んで、模擬授業の準備(1)
- 第 2 回： 授業準備、観察参加、模擬授業の準備(2)
- 第 3 回： 指導案の作成、模擬授業の準備(3)
- 第 4 回： 授業案(1) - 中学校編、模擬授業の準備(4)
- 第 5 回： 授業案(1) - 中学校編、模擬授業の準備(4)
- 第 6 回： 授業案(2) - 高等学校編、模擬授業の準備(5)
- 第 7 回： 授業案(2) - 高等学校編、模擬授業の準備(5)
- 第 8 回： 授業の工夫(1) - Warm-up と Review、模擬授業、検討と評価(1)
- 第 9 回： 授業の工夫(2) - 文法・文型の導入、模擬授業、検討と評価(2)
- 第 10 回： 授業の工夫(3) - 文法・文型の練習と発展活動、模擬授業、検討と評価(3)
- 第 11 回： 授業の工夫(4) - 語彙の導入と指導、模擬授業のまとめ(1)
- 第 12 回： 授業の工夫(5) - 本文の読解指導、模擬授業、検討と評価(4)
- 第 13 回： 教育機器等の活用、模擬授業、検討と評価(5)
- 第 14 回： 教室管理、Team Teaching、模擬授業、検討と評価(6)
- 第 15 回： 授業の評価と実習のまとめ、模擬授業のまとめ(2)
- 第 16 回： 定期試験

### 授業の予習復習のアドバイス・参考図書

参考図書：

『コミュニケーション・クラスのすすめ』 大下邦幸編著 東京書籍 2009 年

### 評価方法

授業への積極的参加、模擬授業、課題、試験などを総合して評価する。

### テキスト

- (1)『英語科教育実習ハンドブック(改訂版)』 米山朝二、杉山敏、多田茂著 大修館書店 2008 年
- (2)『英語教育用語事典』 白畑知彦他著 大修館書店 2011 年

### その他(受講上の注意)

出欠および授業への積極的な参加を重要視する。主体的な学習を通して、教師に必要な指導力を身につけることを期待する。



英語科教育法 IV		担当教員	こんどひろゆき 紺 渡 弘 幸
単 位	配当年次	開講形態	選択区分
2 単位	3 年後期	講義	選択
＜科目区分＞ 人間学部特設科目 教職に関する専門科目			

## サブ テーマ

コミュニケーション能力を高める授業の理論とスキルの習得

### 授業の到達目標

コミュニケーション能力を高める英語の授業を行うために必要な理論について理解を深めるとともに、具体的な指導事例の検討を通して効果的な指導法を学ぶ。さらに、個別に学習指導案を作成し、模擬授業を実施する機会を持つ。模擬授業の検討・評価を通して、実践的な指導力を身につけ、教育実習への準備とする。

### 授業の概要(形態)

講義形式を基本としながらも、模擬授業等の演習も取り入れて行う。

### 授業の計画

- 第 1 回： 日本の英語教育とコミュニケーション能力の養成、模擬授業の準備(1)
- 第 2 回： コミュニケーション能力の養成と問題点、模擬授業の準備(2)
- 第 3 回： コミュニケーション能力の養成と問題点、模擬授業の準備(2)
- 第 4 回： コミュニカティブクラスの提案、模擬授業の準備(3)
- 第 5 回： コミュニカティブクラスの提案、模擬授業の準備(3)
- 第 6 回： コミュニカティブクラスとメッセージ重視のアプローチ、模擬授業の準備(4)
- 第 7 回： コミュニカティブクラスとメッセージ重視のアプローチ、模擬授業の準備(4)
- 第 8 回： コミュニカティブクラスと生徒の主体性、模擬授業の準備(5)
- 第 9 回： 小学校・中学校・高等学校におけるコミュニケーションクラス、中間のまとめ
- 第 10 回： コミュニケーション能力を高める指導技術(1) 模擬授業、検討と評価(1)
- 第 11 回： コミュニケーション能力を高める指導技術(2) 模擬授業、検討と評価(2)
- 第 12 回： コミュニケーション能力を高める指導技術(3) 模擬授業、検討と評価(3)
- 第 13 回： コミュニケーション能力を高める指導技術(4) 模擬授業、検討と評価(4)
- 第 14 回： コミュニケーション能力を高める指導技術(5) 模擬授業、検討と評価(5)
- 第 15 回： 模擬授業、検討と評価(6)、まとめ
- 第 16 回： 定期試験

### 授業の予習復習のアドバイス・参考図書

参考図書：

『TEACHING BY PRINCIPLES』 H. Douglos Brown. Longman.

### 評価方法

授業への積極的参加、模擬授業、課題、試験などを総合して評価する。

### テキスト

- (1) 『コミュニケーション・クラスのすすめ』 大下邦幸編著 東京書籍 2009 年
- (2) 『英語教育用語事典』 白畑知彦他著 大修館書店 2011 年

### その他(受講上の注意)

出欠および授業への積極的な参加を重要視する。主体的な学習を通して、教師に必要な指導力を身につけることを期待する。

道徳教育の理論と方法		担当教員	たかのひではる 高野秀晴
単位	配当年次	開講形態	選択区分
2単位	3年後期	講義	選択
〈科目区分〉 人間学部特設科目 教職に関する専門科目			

## サブテーマ

「道徳を教える」とは？

### 授業の到達目標

この授業の目標は三つある。現在、学校においていかに道徳を取上げるかが大きな問題となっている。何が問題になっているのかについて理解を深めること。これが一つ目の目標である。だが、道徳教育をめぐる問題は、最近になって生じてきたものではない。したがって、歴史に目を向け、過去の道徳教育のあり方についても理解を深める必要がある。これが二つ目の目標である。以上を踏まえて、今日試みられている様々な道徳教育の指導法を検討し、よりよい指導法を模索すること。これが三つ目の目標である。

### 授業の概要(形態)

講義形式を主とするが、グループごとに模擬授業をしてもらう予定である。  
なお、模擬授業の実施状況に応じて、下記の「授業の計画」に若干の変更が生じる場合があるので、了解されたい。

### 授業の計画

- 第1回： オリエンテーション
- 第2回： 学習指導要領第1章「総則」を読む
- 第3回： 学習指導要領第3章「道徳」を読む
- 第4回： 教材研究(1) 『心のノート』を読む
- 第5回： 教材研究(2) 読み物教材をどう取り上げるか
- 第6回： 日本における道徳教育の歴史の変遷(1) 江戸時代～戦前
- 第7回： 日本における道徳教育の歴史の変遷(2) 戦後
- 第8回： 道徳教育の難しさ(1) 道徳は知識か行為か
- 第9回： 道徳教育の難しさ(2) 宗教と道徳
- 第10回： 指導法の見直し(1) インカルケーション
- 第11回： 指導法の見直し(2) ディベート
- 第12回： 指導法の見直し(3) モラルジレンマ
- 第13回： 指導法の見直し(4) ロールプレイ
- 第14回： 指導法の見直し(5) 構成的グループエンカウンター
- 第15回： まとめ
- 第16回： 定期試験

### 授業の予習復習のアドバイス・参考図書

模擬授業の準備に、かなりの手間と時間がかかることを覚悟しておいてください。  
参考図書は授業時に紹介します。

### 評価方法

定期試験 50% (授業の理解度を評価するとともに、論述形式問題において自分の意見を明確に構成できているかどうかを評価する。)

平常点 50% (出席状況、授業時の課題、模擬授業の指導案をもとに評価する。)

### テキスト

必要に応じてプリントを配布する。

### その他(受講上の注意)

教育の方法と技術		担当教員	みやがわ ゆういち 宮川 祐一
単位	配当年次	開講形態	選択区分
2単位	2年後期	講義	選択
〈科目区分〉 人間学部特設科目 教職に関する専門科目			

<b>サブテーマ</b>	
授業改善手法獲得のための教育工学的な基礎視点と分析力の習得	
<b>授業の到達目標</b>	
教育実践の現場においては、教育方法の改善に関する工夫が必要である。すなわち、メディアの教育利用、学習教材の開発など、教育工学の知識の活用が望まれる。この授業では、授業の設計・実施・評価等に関する知識、教材や教育メディアの選択・構成・活用等に関する力量を育成することを目標としている。	
<b>授業の概要(形態)</b>	
講義を主体とする。	
<b>授業の計画</b>	
第1回: 「教育の方法と技術」と「教育工学」 第2回: 視聴覚メディアの発達と視聴覚教育の意義 第3回: 教育史からみた教育方法とメディア利用 第4回: 視聴覚メディアの教育への活用・方法、放送教育 第5回: 教育メディアの選択と活用、メディアリテラシー、事例紹介 第6回: 教育におけるコンピュータ活用、事例紹介 第7回: テストの方法と学習評価 第8回: 成績処理の例 第9回: S-P表分析 第10回: 模擬授業の実施・分析と相互評価(1) 第11回: 模擬授業の実施・分析と相互評価(2) 第12回: 模擬授業の実施・分析と相互評価(3) 第13回: 授業評価と授業改善(学習目標とメディア活用の視点から) 第14回: 教育メディアを活用した模擬授業の実施と改善、相互評価(1) 第15回: 教育メディアを活用した模擬授業の実施と改善、相互評価(2) 第16回: 定期試験	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
模擬授業は、受講者一人当たり30分間を割り当てて実施の予定。十分な事前準備が必要であり、事後の評価分析については指定課題の位置づけとし、多角的詳細なレポートの提出を期待する。 参考図書: (1)『教職必修 教育の方法と技術』 山下省蔵 実教出版 2003年 (2)『新しい時代の教育方法』 田中耕治・鶴田清司ほか 有斐閣 2012年 (3)『新しい教育の方法と技術』 篠原正典・宮寺晃夫 ミネルヴァ書房 2012年 (4)『教育の方法と技術』 西之園晴夫・宮寺晃夫 ミネルヴァ書房 2004年 (5)『教育の方法と技術』 平田啓一・町田隆哉編 教育出版 1997年 (6)『視聴覚教育の新しい展開』 野津良夫 東信堂 1995年	
<b>評価方法</b>	
期末試験に約50%、および提出課題に約40%、授業への取り組み態度等に約10%の配点とした評価をする。遅刻者については、遅刻3回を欠席回数1回分として数え、遅刻回数1回につき-2点とする。欠席点は1回-6点。	
<b>テキスト</b>	
必要に応じて、資料を配付する。	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
積極的な参加態度を期待します。正当な理由のない連続欠席2回以上の者は受講を放棄したものとみなす。	

教育相談		担当教員	さ さ き まさ よ 佐 々 木 雅 代
単 位	配当年次	開講形態	選択区分
2 単位	4 年前期	講義	選択
＜科目区分＞ 人間学部特設科目 教職に関する専門科目			

### サブ テーマ

教育相談を効果的に進めるため必要な知識を得、心理学的援助技法、連携方法について習得する。

### 授業の到達目標

いじめ、不登校、非行への対応、発達障害児への支援は、教育現場において重要な課題である。児童生徒のみならず、保護者、教員や外部機関との協力を育む能力も求められている。現在実践されている工夫を知り、予防、早期及び継続的対応、連携の方法を学ぶ。

### 授業の概要(形態)

教育相談において重要な課題について、グループワークなど、体験的学習を行う。  
各回の終わりに質問を受け、次回授業の冒頭に答える。

### 授業の計画

- 第1回： 教育相談が生きる場
- 第2回： 教育相談に生かす心理学的理解:見立て
- 第3回： 教育相談に生かす心理学的理解:介入
- 第4回： 不登校の理解と対応1
- 第5回： 不登校の理解と対応2
- 第6回： いじめ・非行の理解と対応1
- 第7回： 特別支援教育(発達障害の理解と対応)1
- 第8回： 予防開発的アプローチSST1
- 第9回： 予防開発的アプローチSST2
- 第10回： 予防開発的アプローチ:アサーティブトレーニング1
- 第11回： 予防開発的アプローチ:アサーティブトレーニング2
- 第12回： 事件・事故・災害対応
- 第13回： 学齢期の精神科疾患について
- 第14回： リラクゼーション
- 第15回： ふりかえり

### 授業の予習復習のアドバイス・参考図書

- (1)「こころの子育てー誕生から思春期までの48章」河合隼雄・朝日新聞社・1999年
- (2) 学校心理学ハンドブック「学校の力」の発見 福沢周亮ら責任編集・教育出版・2004年

### 評価方法

授業で用いるワークシート、授業態度、出席状況を総合的に判断して評価する

### テキスト

「DVDで見る教育相談の実際」中野明德(編)・モジュール型コア教材開発研究会教育臨床編チーム・東洋館出版社・2009年

### その他(受講上の注意)

- ・予習・復習については、授業時に指示します。
- ・授業で行うグループワークに積極的に取り組んでください。
- ・腑に落ちないことは、そのままにせず質問してください。

教職実践演習		担当教員	こんどひろゆき やまだはるみ おくたにたかし 紺渡弘幸・山田晴美・奥谷崇	
単位	配当年次	開講形態	選択区分	
2単位	4年後期	演習	必修	
<科目区分> 人間学部特設科目 教職に関する専門科目				

<b>サブテーマ</b>	
基礎的指導技術修得の確認・強化及び実践的指導力の育成	
<b>授業の到達目標</b>	
<p>(1) 教員の意義と使命について自覚を深め、教職への意欲を高める。</p> <p>(2) 中学校・高等学校教諭(英語)に必要とされる基礎的指導技術を再確認し、不足していた事柄を補い、実践的指導力を培う。</p> <p>(3) 中学校・高等学校の英語授業におけるチーム・ティーチングを行う実践的指導力を向上させる。</p>	
<b>授業の概要(形態)</b>	
<p>本授業は、教員になるうえで自己にとって何が課題であるかを自覚し、不足している知識や技能などを補い、その定着と実践的指導力の育成を図ることにより、これまでの学びを集大成して、教職生活を円滑にスタートできることを目的とする。授業方法としては、ロールプレイングやグループ討論、事例研究、模擬授業などを取り入れることにより、社会性や対人関係能力を培いながら、生徒理解を深める機会とする。</p> <p>また、本授業の受講者には、これまでの教職課程の履修履歴を把握するための「履修カルテ」を作成し、これを踏まえたうえでの指導を行うも</p>	
<b>授業の計画</b>	
<p>奥谷崇担当分(5回)</p> <p>第1回: 教職の意義、教職員の職務と役割、生徒に対する使命と責任の重さについて事例研究・ロールプレイング・グループ討論</p> <p>第2回: 生徒理解と学級経営について事例研究・グループ討論</p> <p>第3回: 教科や生徒指導の方法についての事例研究・グループ討論</p> <p>第4回: 学校現場の調査研究とグループ討論</p> <p>第5回: 社会性や対人関係能力についての確認とまとめ</p> <p>紺渡弘幸担当分(5回)</p> <p>第6回: 基本的指導技術－Warm-up と Review とマクロストラテジー(1)</p> <p>第7回: 基本的指導技術－文法・文型の導入とマクロストラテジー(2)</p> <p>第8回: 基本的指導技術－文法・文型を用いた活動とマクロストラテジー(3)</p> <p>第9回: 基本的指導技術－語彙の導入と指導とマクロストラテジー(4)</p> <p>第10回: 基本的指導技術－教科書本文の読解指導とマクロストラテジー(5)</p> <p>山田晴美担当分(5回)</p> <p>第11回: チーム・ティーチング-意義と目的-</p> <p>第12回: チーム・ティーチング-現状と課題-</p> <p>第13回: チーム・ティーチング-目標設定・指導計画・ALT との話し合いの持ち方-</p> <p>第14回: チーム・ティーチング-授業実践①</p> <p>第15回: チーム・ティーチング-授業実践②・評価の仕方-</p>	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
適宜紹介する。	
<b>評価方法</b>	
レポート、グループ討論の様子、実技指導、事例研究などを総合し、中学校教諭及び高等学校教諭として必要な資質能力が身についているかを確認し、評価を行う。	
<b>テキスト</b>	
なし。	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
出欠および授業への積極的な参加を重要視する。主体的な学習を期待する。	

事前・事後指導		担当教員	こんどひろゆき やまだはるみ 紺渡弘幸・山田晴美
単位	配当年次	開講形態	選択区分
1単位	3年～4年	実習	選択
＜科目区分＞ 人間学部特設科目 教職に関する専門科目			

<b>サブテーマ</b>	
教育実習の事前指導・事後指導	
<b>授業の到達目標</b>	
「事前事後指導」では、教育実習のための事前指導および事後指導を行う。指導を通して中学校・高等学校の生徒たちを指導する教育者としての基本姿勢について理解する。また、実習終了後の報告と検討を行い教育実習履修のまとめを行う。	
<b>授業の概要(形態)</b>	
「事前事後指導」は、通常の授業時以外に「教職課程ガイダンス」として実施する。	
<b>授業の計画</b>	
<p>[教育実習の事前指導]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.教育実習のガイダンス</li> <li>2.中学校の観察実習</li> <li>3.高等学校の観察実習</li> <li>4.教育実習の心構え</li> <li>5.教育実習の記録のしかた(教育実習のノートの活用)</li> <li>6.教育実習の直前ガイダンス</li> </ol> <p>[教育実習の事後指導]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.教育実習報告会</li> <li>2.研究授業の検討と指導案のファイリング</li> <li>3.教育実習履修のまとめ</li> </ol>	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
「中学校学習指導要領」(文部科学省)、「中学校学習指導要領解説(外国語編)」(文部科学省) 「高等学校学習指導要領」(文部科学省)、「高等学校学習指導要領解説(外国語編)」(文部科学省)	
<b>評価方法</b>	
授業参加状況等によって評価を行う。	
<b>テキスト</b>	
仁愛大学教職課程委員会編「仁愛大学教育実習の手引」、「仁愛大学教育実習ノート(平成25年度版)」	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
「事前事後指導」は、教育実習受講者が履修する科目である。教育実習の受講に関する詳細については「教育実習Ⅰ」、「教育実習Ⅱ」のシラバスを参照すること。	

教育実習 I		担当教員	こんどひろゆき やまだはるみ 紺渡弘幸・山田晴美
単位	配当年次	開講形態	選択区分
2 単位	3 年(9 月)	実習	選択
〈科目区分〉 人間学部特設科目 教職に関する専門科目			

<b>サブ テーマ</b>
高等学校における 2 週間の教育実習(授業観察・実践、生徒指導観察、研究協議)
<b>授業の到達目標</b>
中学校・高等学校教諭の免許状を取得する学生が、学校教育の実際の場において、自ら教育活動を体験することを通して、教師として求められる資質能力の向上をはかり、教職における実践力を養う。
<b>授業の概要(形態)</b>
3 年次 9 月期に 2 週間(10 日間)の教育実習を高等学校において行う。 (学生の出身校等にかかわらず、原則として仁愛女子高等学校において実施する。)
<b>授業の計画</b>
教育実習校における実習 1.オリエンテーション(実習校の概要や特色、指導方針等の確認、指導教員との打ち合せ等) 2.教育実習(観察・参加・実習の諸活動。学習指導・生徒指導等の実習体験、研究授業の教材研究・学習指導案の作成等) 3.研究授業(実習生が行う教育実習の総仕上げの授業実践) 4.研究授業の反省会(研究授業後、実習校の教員等から指導を受けるなど)
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>
「高等学校学習指導要領」(文部科学省)、「高等学校学習指導要領解説(外国語編)」(文部科学省)
<b>評価方法</b>
教育実習校からの評価表と教育実習ノートを基に、目的達成の程度を総合して評価する。
<b>テキスト</b>
仁愛大学教職課程委員会編「仁愛大学教育実習の手引」、「仁愛大学教育実習ノート(平成 24 年度版)」、 指定教科書
<b>その他(受講上の注意)</b>
教育実習は、卒業後、教員として就職することを強く希望する人のために、実習校の教育的配慮・好意によって受け入れていただくものです。また、教育実習は、教育の現場に実際に参加し、実習生として責任ある立場で臨むべきものですから、受講資格については厳しい条件が要求されます。このため、「教育実習 I」の受講には、以下の基準を満たしたもので、教育実習に着手するのが適当であると人間学部実習指導委員会が認めた者とします。原則として、以下の各号をすべて満たした者について受講資格を認めます。 (1) 2 年次の学年末において、6

教育実習 II		担当教員	こんどひろゆき やまだはるみ 紺渡弘幸・山田晴美
単位	配当年次	開講形態	選択区分
2 単位	4 年(6 月)	実習	選択
<科目区分> 人間学部特設科目 教職に関する専門科目			

<b>サブテマ</b>
中学校における 2 週間の教育実習(授業観察・実践、生徒指導観察、研究協議)
<b>授業の到達目標</b>
中学校教諭の免許状を取得する学生が、学校教育の実際の場において、自ら教育活動を体験することを通して、教師として求められる資質能力の向上をはかり、教職における実践力を養う。
<b>授業の概要(形態)</b>
4 年次 6 月期に 2 週間(10 日間)の教育実習を中学校において行う。 (原則として、学生の出身校において実施する。)
<b>授業の計画</b>
教育実習校における実習 1.オリエンテーション(実習校の概要や特色、指導方針等の確認、指導教員との打ち合せ等) 2.教育実習(観察・参加・実習の諸活動。学習指導・生徒指導等の実習体験、研究授業の教材研究・学習指導案の作成等) 3.研究授業(実習生が行う教育実習の総仕上げの授業実践) 4.研究授業の反省会(研究授業後、実習校の教員等から指導を受けるなど)
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>
「中学校学習指導要領」(文部科学省)、「中学校学習指導要領解説(外国語編)」(文部科学省)
<b>評価方法</b>
教育実習校からの評価表と教育実習ノートを基に、目的達成の程度を総合して評価する。
<b>テキスト</b>
仁愛大学教職課程委員会編「仁愛大学教育実習の手引」、「仁愛大学教育実習ノート(平成 24 年度版)」、指定教科書
<b>その他(受講上の注意)</b>
教育実習は、卒業後、教員として就職することを強く希望する人のために、実習校の教育的配慮・好意によって受け入れていただくものです。また、教育実習は、教育の現場に実際に参加し、実習生として責任ある立場で臨むべきものですから、受講資格については厳しい条件が要求されます。このため、「教育実習 II」の受講には、以下の基準を満たしたもので、教育実習に着手するのが適当であると人間学部実習指導委員会が認めた者とします。原則として、以下の各号をすべて満たした者について受講資格を認めます。 (1) 3 年次末までに 100 単位以



日本語教授法 a		担当教員	おおかわ はるみ 大河晴美
単位	配当年次	開講形態	選択区分
2単位	3年前期	講義	選択
＜科目区分＞ 人間学部特設科目 日本語教員養成に関する科目			

<b>サブテーマ</b>	
外国語教育としての日本語教育の方法を学ぶ。	
<b>授業の到達目標</b>	
日本語を母語としていない学習者に対する日本語教育の方法について広く学習し、基本的な知識・技法を身につける。また、日本語教育の授業を扱ったDVDを視聴し、実際の教室活動について理解を深める。	
<b>授業の概要(形態)</b>	
テキストとDVDをもとにした講義。復習課題等の演習を含む。 授業で使用するPowerPointの資料を配付するので、気づいたこと、考えたことをノート欄に記入すること。	
<b>授業の計画</b>	
第1回： オリエンテーション 第2回： 日本語教師の役割 第3回： 日本語を教えるということ(1) 第4回： 日本語を教えるということ(2) 第5回： いろいろな外国語教授法(1) 第6回： いろいろな外国語教授法(2) 第7回： いろいろな外国語教授法(3) 第8回： いろいろな外国語教授法(4) 第9回： 言語としての日本語 第10回： 日本語の音声(1) 第11回： 日本語の音声(2) 第12回： 初級の教え方 発音/会話(1) 第13回： 初級の教え方 発音/会話(2) 第14回： 初級の教え方 発音/会話(3) 第15回： まとめ	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
テキストの該当部分を読み、要点の把握や疑問の発見に努めること。 参考図書は適宜紹介する。	
<b>評価方法</b>	
復習課題 50%、期末レポート試験 50%の割合で評価する。欠席は減点対象とする。	
<b>テキスト</b>	
『新・はじめての日本語教育 1 日本語教育の基礎知識』 高見澤孟/著 アスク 2004年 『新・はじめての日本語教育 2 日本語教授法入門』 高見澤孟/監修 アスク 2004年	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
授業で紹介する学外の日本語教室の見学や国際交流イベント等には積極的に参加してほしい。	

日本語教授法 b		担当教員	おおかわ はるみ 大河晴美
単位	配当年次	開講形態	選択区分
2 単位	3 年後期	講義	選択
＜科目区分＞ 人間学部特設科目 日本語教員養成に関する科目			

<b>サブ テーマ</b>	
外国語教育としての日本語教育の方法を学ぶ。	
<b>授業の到達目標</b>	
日本語を母語としていない学習者に対する日本語教育の方法について広く学習し、基本的な知識・技法を身につける。また、日本語教育の授業を扱った DVD を視聴し、実際の教室活動について理解を深める。	
<b>授業の概要(形態)</b>	
テキストと DVD をもとにした講義。復習課題等の演習を含む。 授業で使用する PowerPoint の資料を配付するので、気づいたこと、考えたことをノート欄に記入すること。	
<b>授業の計画</b>	
第 1 回： 日本語の文法(1) 第 2 回： 日本語の文法(2) 第 3 回： 日本語の文法(3) 第 4 回： 文字・表記(1) 第 5 回： 文字・表記(2) 第 6 回： 文字・表記(3) 第 7 回： 語彙 第 8 回： 初級の教え方 文字／読解(1) 第 9 回： 初級の教え方 文字／読解(2) 第 10 回： 初級の教え方 文字／読解(3) 第 11 回： 中上級の教え方 会話／聴解(1) 第 12 回： 中上級の教え方 会話／聴解(2) 第 13 回： 中上級の教え方 読解／情報収集 第 14 回： 中上級の教え方 その他のクラスの指導 第 15 回： まとめ	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
テキストの該当部分を読み、要点の把握や疑問の発見に努めること。 参考図書は適宜紹介する。	
<b>評価方法</b>	
復習課題 50%、期末レポート試験 50%の割合で評価する。欠席は減点対象とする。	
<b>テキスト</b>	
『新・はじめての日本語教育 1 日本語教育の基礎知識』 高見澤孟／著 アスク 2004 年 『新・はじめての日本語教育 2 日本語教授法入門』 高見澤孟／監修 アスク 2004 年	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
授業で紹介する学外の日本語教室の見学や国際交流イベント等には積極的に参加してほしい。	

日本語教育課程論		担当教員	ささ はら さち こ 笹原幸子
単位	配当年次	開講形態	選択区分
2単位	3年後期	講義	選択
〈科目区分〉 人間学部特設科目 日本語教員養成に関する科目			

<b>サブテーマ</b>	
日本語教育のコース・デザインを考える。	
<b>授業の到達目標</b>	
多様化する日本語学習者の現状を把握し、様々な学習者のニーズに応じてどのような日本語教育が提供できるかを探る。各学習者のニーズやレベルの把握、また、シラバスや教授法の選択、コミュニケーションを重視した教室活動の展開の仕方や評価の方法など、一つのコースをデザインするのに必要な事柄を具体的に学習する。	
<b>授業の概要(形態)</b>	
2回の小テストをコースの途中で実施する。教室活動では練習やタスク活動の方法を考えたり、実際に活動を体験したりする。	
<b>授業の計画</b>	
第1回：日本語教育における学習者の多様性／コース・デザイン概要 第2回：ニーズ分析と目標言語調査 第3回：レディネス分析 第4回：シラバスデザインー1 第5回：シラバスデザインー2 第6回：カリキュラムデザイン、教材の選択 第7回：教授法ー1 第8回：教授法ー2 第9回：初級の教室活動ー1 導入とドリルの方法 第10回：初級の教室活動ー2 コミュニケーションを重視した活動 第11回：中級の教室活動ー1 第12回：中級の教室活動ー2 第13回：テストの作成と評価の方法ー1 第14回：テストの作成と評価の方法ー2、コンサルティング 第15回：まとめ 第16回：定期試験	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
予習としては、テキストの該当課はよく読んで授業に臨むこと。授業では外国語教授法や日本語教育の文法の知識がある程度必要になるので、以下の文献を参考にすること。 参考図書： (1)『日本語教授法』石田敏子 大修館書店 1995年 (2)『はじめての人の日本語文法』野田尚史 くろしお出版 1991年 (3)『日本語教育機関におけるコース・デザイン』日本語教育学会編 凡人社 1991年	
<b>評価方法</b>	
定期テスト40%、小テスト20%(2回)、授業中の意欲および課題を40%の割合で評価する。欠席は減点の対象とする。課題は授業で指示する。	
<b>テキスト</b>	
田中望 『日本語教育の方法ーコース・デザインの実際ー』 大修館書店 1988年	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
授業には積極的な態度で参加してほしい。遅刻はしないように。	

日本語指導技法 a		担当教員	さき はら さち こ 笹原幸子	
単位	配当年次	開講形態	選択区分	
2単位	4年前期	演習	選択	
＜科目区分＞ 人間学部特設科目 日本語教員養成に関する科目				

<b>サブテーマ</b>	
日本語教育における実践的な指導の方法と教材・教具の効果的な使い方	
<b>授業の到達目標</b>	
初級レベルの日本語指導を中心に、指導項目についての知識と理解を深め、教材・教具を使った効果的な指導の方法を身につける。また授業をする際に必要な教案や視覚教材を作成する。提示されたモデル授業を見ることで具体的な教材の使い方や授業の進め方を学び、実際に受講学生が模擬授業をすることで実践的な力を養っていく。	
<b>授業の概要(形態)</b>	
講義、ワークショップ、モデル授業、模擬授業を組み合わせ形式で授業を進める。モデル授業、模擬授業ともに受講学生が生徒役になる。	
<b>授業の計画</b>	
第1回: 「みんなの日本語」の構成とシラバス、初級レベルと教材 第2回: 「みんなの日本語」と初級の文型-1 第3回: 「みんなの日本語」と初級の文型-2 第4回: 「みんなの日本語」を使った初級の授業の流れと教案作成の手順 第5回: モデル授業/模擬授業及び「みんなの日本語」の指導と教材・教具 (導入の方法) 第6回: モデル授業/模擬授業及び「みんなの日本語」の指導と教材・教具 (導入の方法) 第7回: 「みんなの日本語」と初級の文型-3 第8回: モデル授業/模擬授業及び「みんなの日本語」の指導と教材・教具 (ドリルの方法) 第9回: モデル授業/模擬授業及び「みんなの日本語」の指導と教材・教具 (ドリルの方法) 第10回: 「みんなの日本語」と初級の文型-4 第11回: モデル授業/模擬授業及び「みんなの日本語」の指導と教材・教具 (会話の指導) 第12回: モデル授業/模擬授業及び「みんなの日本語」の指導と教材・教具 (会話の指導) 第13回: 「みんなの日本語」と初級の文型-5 第14回: モデル授業/模擬授業及び「みんなの日本語」の指導と教材・教具 (聴解の指導) 第15回: まとめ 第16回: 定期試験	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
予習としては、テキスト該当課の文法項目を理解し、提出される語彙など把握しておくこと。また、自分なりに授業計画を作成してみよう。復習としては、授業中に分かったことをまとめておき、次回の模擬授業に生かせるようにしておくこと。 参考図書: (1)『日本語の教え方 ABC』 寺田和子、三上京子、山形美保子、和栗雅子 共著 アルク 2005年 (2)『みんなの日本語初級 I 教え方の手引き』 スリーエーネットワーク 2000年 (3)『みんなの日本語初級 I 翻訳文法解説 英語版』 スリーエーネットワーク 1998年	
<b>評価方法</b>	
定期試験 60%、授業中の意欲および発表内容(模擬授業)を 40%の割合で評価する。欠席は減点の対象とする。	
<b>テキスト</b>	
『みんなの日本語初級 I』・『みんなの日本語初級 II』 スリーエーネットワーク 1998年	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
授業には積極的な態度で参加してほしい。	

日本語指導技法 b		担当教員	ささ はら さち こ 笹原幸子
単位	配当年次	開講形態	選択区分
2単位	4年後期	演習	選択
＜科目区分＞ 人間学部特設科目 日本語教員養成に関する科目			

<b>サブテーマ</b>	
初級後半から中級レベルの日本語指導法を学ぶと同時に、日本語の発音と文字・文章表記について体系的に理解し、それらをどう日本語学習者の指導に生かせるかを学ぶ。	
<b>授業の到達目標</b>	
初級後半と中級レベルの日本語指導法を知る。 日本語教育の現場で、音声指導と文字指導がどのように行われるのかを把握する。	
<b>授業の概要(形態)</b>	
講義にワークショップを織り交ぜながら進める。	
<b>授業の計画</b>	
第1回： 初級後半の指導法1 第2回： 初級後半の指導法2 第3回： 初級後半の指導法3 第4回： 中級の指導法1 第5回： 中級の指導法2 第6回： 中級の指導法3 第7回： 中級の指導法3 第8回： 日本語の音声 1(音声のレベルと音韻) 第9回： 日本語の音声 2(単音レベル: 母音と子音) 第10回： 日本語の音声 3(音律レベル: リズム、アクセント、イントネーション、プロミネンス) 第11回： 音声教育の実際 第12回： 日本語の文字・表記 1(文字と文字体系、文字体系の種類) 第13回： 日本語の文字・表記 2(日本語の文字種と音節: 平仮名と片仮名) 第14回： 日本語の文字・表記 3(漢字の造字法と用字法)、日本語の正書法 第15回： まとめ 第16回： 定期試験	
<b>授業の予習復習のアドバイス・参考図書</b>	
あらかじめ授業で扱う範囲について、教科書や参考書を読んで概要をつかんでおくこと。参考図書は授業中に適宜紹介する。	
<b>評価方法</b>	
定期試験 60%、授業中の意欲および小テストの結果を 40%の割合で評価する。欠席は減点の対象とする。	
<b>テキスト</b>	
『改訂版日本語教師養成シリーズ'第3巻 音声、文字、表記』 監修 佐治圭三・真田信治 凡人社 2004年	
<b>その他(受講上の注意)</b>	
授業には積極的な態度で参加してほしい。	



JIN-AI UNIVERSITY  
2013 SYLLABUS

人間学部シラバス

---

2013年4月 発行

 **仁愛大学**

〒915-8586 福井県越前市大手町3-1-1

TEL.0778-27-2010 FAX.0778-27-1990

<http://www.jindai.ac.jp>

---

